

SQL Anywhere® Studio ヘルプ

パート番号: DC03972-01-0902-01 改訂: 2005 年 3 月

版権

Copyright © 2005 iAnywhere Solutions, Inc., Sybase, Inc. All rights reserved.

ここに記載されている内容を iAnywhere Solutions, Inc.、Sybase, Inc. またはその関連会社の書面による事前許可を得ず に電子的、機械的、手作業、光学的、またはその他のいかなる手段によっても複製、転載、翻訳することを禁じま す。

Sybase、SYBASE のロゴ、Adaptive Server、AnswerBase、Anywhere、EIP、Embedded SQL、Enterprise Connect、 Enterprise Portal、GainMomentum、iAnywhere、jConnect MASS DEPLOYMENT、Netimpact、ObjectConnect、 ObjectCycle、OmniConnect、Open ClientConnect、Open ServerConnect、PowerBuilder、PowerDynamo、Powersoft、 Quickstart Datamart、Replication Agent、Replication Driver、SQL Anywhere、SQL Central、SQL Remote、Support Plus、 SWAT、Sybase IQ、Sybase System 11、Sybase WAREHOUSE、SyBooks、XA-Library は米国法人 Sybase, Inc. の登録商標 です。Backup Server、Client-Library、jConnect for JDBC、MainframeConnect、Net-Gateway、Net-Library、Open Client、 Open Client/Server、S-Designor、SQL Advantage、SQL Debug、SQL Server、SQL Server Manager、Sybase Central、 Watcom、Web.SQL、XP Server は米国法人 Sybase, Inc. の商標です。

ここに記載されている上記以外の社名および製品名は、各社の商標または登録商標の場合があります。

	はじめに	vii
	SQL Anywhere Studio $\mathcal{O} \checkmark = \exists \mathcal{P} \mathcal{V}$	VIII
	表記の規則	XII
	Adaptive Server Anywhere サンフル・テータヘース	XV
	詳細情報の検索/フィードバックの提供	xvi
1	[接続] ダイアログのヘルプ	1
	[接続] ダイアログ:[ID] タブ	2
	[接続] ダイアログ : [データベース] タブ	5
	[接続]ダイアログ:[詳細]タブ	8
2	[ODBC 設定] ダイアログのヘルプ	11
	[ODBC 設定] ダイアログの使用	12
	[ODBC 設定] ダイアログ:[DBMLSync] タブ	13
	[ODBC 設定] ダイアログ:[ODBC] タブ	16
	[ODBC 設定] ダイアログ : [ログイン] タブ	20
	[ODBC 設定] ダイアログ : [データベース] タブ	22
	[ODBC 設定] ダイアログ:[ネットワーク] タブ	25
	[ODBC 設定] ダイアログ : [詳細] タブ	29
	[Certicom 暗号化オプション] ダイアログ	30
3	Adaptive Server Anywhere のヘルプ	
	プロパティ・シートの概要	32
	ダイアログ・ボックスの概要	156
	デバッガのヘルプ	198
	インデックス・コンサルタント	201
4	Interactive SQL のヘルプ	
	Interactive SQL について	204

	Interactive SQL のダイアログ・ボックスの概要	206
	Interactive SQL のウィザード	226
-		220
Ð	Mobile Link のヘルフ 概要	
	Mobile Link のプロパティ・シート	
	Mobile Link のダイアログ・ボックス	254
	Mobile Link のウィザード	257
6	Mobile Link モニタのヘルプ	271
	[Mobile Link サーバへの接続]ダイアログ	
	「ウォッチの編集]ダイアログ	276
	[移動]ダイアログ	277
	[新規ウォッチ]ダイアログ	278
	[データベースへのエクスポート]ダイアログ	279
	[オプション]ダイアログ	
	[セッション] プロパティ・シート	
	[同期]プロパティ・シート	
	[ウォッチ・マネージャ]ダイアログ	
7	クエリ・エディタのヘルプ	295
	クエリ・エディタの概要	
	[テーブル]タブ	
	[ジョイン]タブ	
	[カラム]タブ	
	[INTO] タブ	
	[WHERE] タブ	
	[GROUP BY] タブ	
	[HAVING] タブ	311
	[ORDER BY] タブ	
	式エディタ	314
	[結果]ウィンドウ枠	316
	[SQL] ウィンドウ枠	317
8	Adaptive Server Anywhere コンソール・ユーティリティのヘルプ	319
	Adaptive Server Anywhere コンソール・ユーティリティの使用法	320
	「オプション」ダイアログ	

9	SOL 言語のリンク	327
	SQL 構文のヘルプ	328
10	Ultra Light Schema Painter のヘルプ	341
	[Ultra Light Schema Painter オプション] ダイアログ	342
	[新しい Ultra Light スキーマ] ダイアログ	343
	[PDB ファイルへのスキーマの保存] ダイアログ	344
	[スキーマの展開]ダイアログ	345
	[データベース・スキーマ] プロパティ・シート	346
	[データベース・プロパティ・エディタ]ダイアログ	348
	[新しいテーブル]ダイアログ	349
	[新しいカラム]プロパティ・シート	350
	[プライマリ・キーの設定]ダイアログ	352
	[証明書の保存]ダイアログ	354
	[インデックスの設定]ダイアログ	355
		357
		358
		359
	「 「テーブル [」] プロパティ・シート	360
		361
	「 [Mobile Link 同期] プロパティ・シート	
	「統合データベースと Mobile Link スクリプトの生成]	
	ダイアログ	
	「スクリプトと統合データベースのテーブル定義のプレビュー」ダイアロ	グ369
	[Mobile Link のテーブル設定] ダイアログ	370
	 [Ultra Light データベースの作成]ダイアログ	371
11	Ultra Light Interactive SOL のヘルプ	373
	[古い Ultra Light データベースの検出]ダイアログ	375
	[コマンド履歴]ダイアログ	
	「テーブル名のルックアップ] ダイアログ	377
	[オプション]ダイアログ	378
	索引	379

はじめに

このマニュアルの内容 このマニュアルには、[接続]ダイアログ、クエリ・エディタ、 Mobile Link モニタ、Adaptive Server Anywhere コンソール・ユーティ リティ、インデックス・コンサルタント、Ultra Light Schema Painter の コンテキスト別のヘルプが収録されています。また、Sybase Central と Mobile Link のウィザードに含まれるすべてのプロパティ・シート とダイアログ・ボックスのコンテキスト別ヘルプも含まれます。

対象読者 このマニュアルは、SQL Anywhere Studio のすべてのユーザを対象と しています。

SQL Anywhere Studio のマニュアル

このマニュアルは、SQL Anywhere のマニュアル・セットの一部です。 この項では、マニュアル・セットに含まれる各マニュアルと使用法に ついて説明します。

SQL Anywhere Studio のマニュアル

- SQL Anywhere Studio のマニュアルは、各マニュアルを1つの大きな ヘルプ・ファイルにまとめたオンライン形式、マニュアル別の PDF ファイル、および有料の製本版マニュアルで提供されます。SQL Anywhere Studio のマニュアルは、次の分冊マニュアルで構成されて います。
 - 『SQL Anywhere Studio の紹介』 このマニュアルでは、SQL Anywhere Studio のデータベース管理と同期テクノロジの概要に ついて説明します。また、SQL Anywhere Studio を構成する各部 分について説明するチュートリアルも含まれています。
 - 『SQL Anywhere Studio 新機能ガイド』 このマニュアルは、 SQL Anywhere Studio のこれまでのリリースのユーザを対象としています。ここでは、製品の今回のリリースと以前のリリースで導入された新機能をリストし、アップグレード手順を説明しています。
 - 『Adaptive Server Anywhere データベース管理ガイド』 このマニュアルでは、データベースおよびデータベース・サーバの実行、管理、設定について説明しています。
- 『Adaptive Server Anywhere SQL ユーザーズ・ガイド』 このマニュアルでは、データベースの設計と作成の方法、データのインポート・エクスポート・変更の方法、データの検索方法、ストアド・プロシージャとトリガの構築方法について説明します。
- 『Adaptive Server Anywhere SQL リファレンス・マニュアル』 このマニュアルは、Adaptive Server Anywhere で使用する SQL 言 語の完全なリファレンスです。また、Adaptive Server Anywhere のシステム・テーブルとシステム・プロシージャについても説 明しています。
- 『Adaptive Server Anywhere プログラミング・ガイド』 このマニュアルでは、C、C++、Java プログラミング言語を使用してデータベース・アプリケーションを構築、配備する方法につい

て説明します。Visual Basic や PowerBuilder などのツールのユー ザは、それらのツールのプログラミング・インタフェースを使 用できます。また、Adaptive Server Anywhere ADO.NET データ・ プロバイダについても説明します。

- 『Adaptive Server Anywhere SNMP Extension Agent ユーザーズ・ ガイド』 このマニュアルでは、Adaptive Server Anywhere SNMP Extension Agent を SNMP 管理アプリケーションとともに使用で きるように設定して、Adaptive Server Anywhere データベースを 管理できるようにする方法を説明します。
- 『Adaptive Server Anywhere エラー・メッセージ』 このマニュ アルでは、Adaptive Server Anywhere エラー・メッセージの完全 なリストを、その診断情報とともに説明します。
- 『SQL Anywhere Studio セキュリティ・ガイド』 このマニュア ルでは、Adaptive Server Anywhere データベースのセキュリティ 機能について説明します。Adaptive Server Anywhere 7.0 は、米国 政府から TCSEC (Trusted Computer System Evaluation Criteria)の C2 セキュリティ評価を授与されています。このマニュアルに は、Adaptive Server Anywhere の現在のバージョンを、C2 基準を 満たした環境と同等の方法で実行することを望んでいるユーザ にとって役に立つ情報が含まれています。
- 『Mobile Link 管理ガイド』 このマニュアルでは、モバイル・ コンピューティング用の Mobile Link データ同期システムについ てあらゆる角度から説明します。このシステムによって、 Oracle、Sybase、Microsoft、IBM の単一データベースと、 Adaptive Server Anywhere や Ultra Light の複数データベースの間 でのデータ共有が可能になります。
- 『Mobile Link クライアント』 このマニュアルでは、Adaptive Server Anywhere リモート・データベースと Ultra Light リモー ト・データベースの設定を行い、これらを同期させる方法につ いて説明します。
- 『Mobile Link サーバ起動同期ユーザーズ・ガイド』 このマニュアルでは、Mobile Link のサーバによって開始される同期について説明します。サーバによって開始される同期とは、統合データベースから同期の開始を可能にする Mobile Link の機能です。

- 『Mobile Link チュートリアル』 このマニュアルには、Mobile Link アプリケーションの設定と実行を行う方法を説明する チュートリアルがいくつか用意されています。
- 『QAnywhere ユーザーズ・ガイド』 このマニュアルでは、 Mobile Link QAnywhere について説明します。Mobile Link QAnywhere は、従来のデスクトップ・クライアントやラップ トップ・クライアントだけでなく、モバイル・クライアントや 無線クライアント用のメッセージング・アプリケーションの開 発と展開を可能にするメッセージング・プラットフォームです。
- 『Mobile Link およびリモート・データ・アクセスの ODBC ドラ イバ』 このマニュアルでは、Mobile Link 同期サーバから、また は Adaptive Server Anywhere リモート・データ・アクセスによっ て、Adaptive Server Anywhere 以外の統合データベースにアクセ スするための ODBC ドライバの設定方法について説明します。
- 『SQL Remote ユーザーズ・ガイド』 このマニュアルでは、モバイル・コンピューティング用の SQL Remote データ・レプリケーション・システムについて、あらゆる角度から説明します。このシステムによって、Adaptive Server Anywhere またはAdaptive Server Enterpriseの単一データベースと Adaptive Server Anywhere の複数データベースの間で、電子メールやファイル転送などの間接的リンクを使用したデータ共有が可能になります。
- 『SQL Anywhere Studio ヘルプ』 このマニュアルには、Sybase Central や Interactive SQL、その他のグラフィカル・ツールに関 するコンテキスト別のヘルプが含まれています。これは、製本 版マニュアル・セットには含まれていません。
- 『Ultra Light データベース・ユーザーズ・ガイド』 このマニュ アルは、Ultra Light 開発者を対象としています。ここでは、Ultra Light データベース・システムの概要について説明します。ま た、すべての Ultra Light プログラミング・インタフェースに共 通する情報を提供します。
- Ultra Light のインタフェースに関するマニュアル 各 Ultra Light プログラミング・インタフェースには、それぞれに対応するマ ニュアルを用意しています。これらのインタフェースは、RAD(

ラピッド・アプリケーション開発)用の Ultra Light コンポーネン トとして提供されているものと、C、C++、Java 開発用の静的イ ンタフェースとして提供されているものがあります。

このマニュアル・セットの他に、PowerDesigner と InfoMaker には、独 自のオンライン・マニュアル (英語版)がそれぞれ用意されています。

マニュアルの形式 SQL Anywhere Studio のマニュアルは、次の形式で提供されています。

オンライン・マニュアル オンライン・マニュアルには、 SQL Anywhere Studio の完全なマニュアルがあり、 SQL Anywhere ツールに関する印刷マニュアルとコンテキスト 別のヘルプの両方が含まれています。オンライン・マニュアル は、製品のメンテナンス・リリースごとに更新されます。これ は、最新の情報を含む最も完全なマニュアルです。

Windows オペレーティング・システムでオンライン・マニュア ルにアクセスするには、[スタート]-[プログラム]-[SQL Anywhere 9]-[オンライン・マニュアル]を選択します。オンラ イン・マニュアルをナビゲートするには、左ウィンドウ枠で HTML ヘルプの目次、索引、検索機能を使用し、右ウィンドウ 枠でリンク情報とメニューを使用します。

UNIX オペレーティング・システムでオンライン・マニュアルに アクセスするには、SQL Anywhere のインストール・ディレクト リに保存されている HTML マニュアルを参照してください。

• **PDF版マニュアル** SQL Anywhere の各マニュアルは、Adobe Acrobat Reader で表示できる PDF ファイルで提供されています。

PDF 版マニュアルは、オンライン・マニュアルまたは Windows の[スタート]メニューから利用できます。

• **製本版マニュアル** 製本版マニュアルをご希望の方は、ご購入い ただいた販売代理店または弊社営業担当までご連絡ください。

表記の規則

この項では、このマニュアルで使用されている書体およびグラフィック表現の規則について説明します。

SQL 構文の表記規 SQL 構文の表記には、次の規則が適用されます。 **則**

• キーワード SQL キーワードはすべて次の例に示す ALTER TABLE のように大文字で表記します。

ALTER TABLE [owner.]table-name

 プレースホルダ 適切な識別子または式で置き換えられる項目 は、次の例に示す owner や table-name のように表記します。

ALTER TABLE [owner.]table-name

 繰り返し項目 繰り返し項目のリストは、次の例に示す columnconstraintのように、リストの要素の後ろに省略記号(ピリオド 3つ...)を付けて表します。

ADD column-definition [column-constraint, ...]

複数の要素を指定できます。複数の要素を指定する場合は、各 要素間をカンマで区切る必要があります。

• **オプション部分** 文のオプション部分は角カッコで囲みます。

RELEASE SAVEPOINT [savepoint-name]

この例では、角カッコで囲まれた savepoint-name がオプション 部分です。角カッコは入力しないでください。

 オプション 項目リストから1つだけ選択するか、何も選択しな くてもよい場合は、項目間を縦線で区切り、リスト全体を角 カッコで囲みます。

[ASC | DESC]

この例では、ASC と DESC のどちらか1 つを選択しても、どち らも選択しなくてもかまいません。角カッコは入力しないでく ださい。 • **選択肢** オプションの中の1つを必ず選択しなければならない場合は、選択肢を中カッコで囲み、縦棒で区切ります。

[QUOTES { ON | OFF }]

QUOTES オプションを使用する場合は、ON または OFF のどち らかを選択する必要があります。角カッコと中カッコは入力し ないでください。

- **グラフィック・アイ** このマニュアルでは、次のアイコンを使用します。 コン
 - クライアント・アプリケーション



• Sybase Adaptive Server Anywhere などのデータベース・サーバ



データベース。高度な図では、データベースとデータベースを 管理するデータ・サーバの両方をこのアイコンで表します。



レプリケーションまたは同期のミドルウェア。ソフトウェアのこれらの部分は、データベース間のデータ共有を支援します。たとえば、Mobile Link 同期サーバ、SQL Remote Message Agentなどがあげられます。



• プログラミング・インタフェース



Adaptive Server Anywhere サンプル・データベース

このマニュアルでは、多くの例で Adaptive Server Anywhere サンプル・ データベースが使用されています。

サンプル・データベースは、asademo.db という名前のファイルに保存 され、SQL Anywhere ディレクトリに置かれています。

サンプル・データベースは小規模の企業の例です。データベースに は、この企業の内部情報(従業員、部署、経理)とともに、製品情報 や販売情報(受注、顧客、連絡先)が入っています。データベースに 含まれる情報はすべて架空のものです。

次の図は、サンプル・データベース内のテーブルと各テーブル間の関係を示しています。



詳細情報の検索/フィードバックの提供

このマニュアルに関するご意見、ご提案、フィードバックをお寄せく ださい。

マニュアルおよびソフトウェアに関するフィードバックは、SQL Anywhere のテクノロジについて議論するニュースグループを介して お送りいただけます。ニュースグループは、ニュース・サーバ forums.sybase.com にあります (ニュースグループにおけるサービスは 英語でのみの提供となります)。

以下のニュースグループがあります。

- sybase.public.sqlanywhere.general
- sybase.public.sqlanywhere.linux
- sybase.public.sqlanywhere.mobilink
- sybase.public.sqlanywhere.product_futures_discussion
- sybase.public.sqlanywhere.replication
- sybase.public.sqlanywhere.ultralite
- ianywhere.public.sqlanywhere.qanywhere

ニュースグループに関するお断り

iAnywhere Solutions は、ニュースグループ上に解決策、情報、または 意見を提供する義務を負うものではありません。また、システム・オ ペレータ以外のスタッフにこのサービスを監視させて、操作状況や可 用性を保証する義務もありません。

iAnywhere Solutions のテクニカル・アドバイザとその他のスタッフ は、時間のある場合にかぎりニュースグループでの支援を行います。 こうした支援は基本的にボランティアで行われるため、解決策や情報 を定期的に提供できるとはかぎりません。支援できるかどうかは、ス タッフの仕事量に左右されます。 マニュアルに関するご意見、ご提案は、SQL Anywhere ドキュメン テーション・チームの iasdoc@ianywhere.com 宛てに電子メールでお寄 せください。このアドレスに送信された電子メールに返信する責任は 負いませんが、お寄せ頂いたご意見、ご提案は必ず読ませて頂きま す。

_{第1章} [接続]ダイアログのヘルプ

この章の内容 この章では、Sybase Central、Interactive SQL、Adaptive Server Anywhere コンソール・ユーティリティ (dbconsole) で使用される [接続]ダイアログについて説明します。

> このダイアログ内の設定は、Sybase Central、Interactive SQL、または Adaptive Server Anywhere コンソールのセッションのみに保存されま す。Sybase Central の接続設定は[接続プロファイル]を使って保存で きます。

[接続]ダイアログ:[ID]タブ

[接続]ダイアログの[ID]タブには、次の項目があります。

[ユーザ ID] 接続のユーザ ID を入力します。Adaptive Server Anywhere データベースのデフォルトのユーザ ID は、DBA です。デー タベースに接続するためのパーミッションを持つユーザ ID を指定し てください。

[パスワード] 接続時のパスワードを入力します。デフォルトユー ザ、DBA を使って接続する場合の Adaptive Server Anywhere データ ベースのデフォルトのパスワードは、SQL です。指定したユーザ ID に対する正しいパスワードを入力してください。

パスワードで使用される拡張文字は、データベースの設定に関係なく 大文字と小文字を区別します。

パスワードと大文字小文字の区別については、『ASA データベース管 理ガイド』>「初期化ユーティリティのオプション」を参照してくだ さい。

[統合化ログインの使用] Windows で統合化ログインを使用してデー タベースに接続するには、このオプションを選択します。

このオプションを選択すると、データベース・ユーザ ID とパスワードを指定する必要はありません。Windows のユーザ ID とパスワードが Adaptive Server Anywhere の統合化ログイン・メカニズムに渡されます。

統合化ログインを使用するには、ユーザに統合化ログインのパーミッションを付与するとともに、統合化ログインを受け入れるようにデー タベースサーバを設定する必要があります。また、iAnywhere JDBC ドライバを使用して接続してください ([統合化ログインの使用]オプ ションを選択すると、iAnywhere JDBC ドライバがデフォルトで選択 されます)。

統合化ログインの詳細については、『ASA データベース管理ガイド』> 「統合化ログインの使用方法」を参照してください。

[なし] ODBC データ・ソースを使用しない場合は、このオプション を選択して接続します。 [ODBC データ・ソース名] このオプションを選択して、データベー スに接続するためのデータ・ソース(格納されている一連の接続パラ メータ)を選択します。このフィールドは DSN 接続パラメータに相 当し、レジストリ内のデータ・ソースを参照しています。データ・ ソースのリストを表示するには、[参照]をクリックします。

また、最近使用した 『SQL Anywhere Studio の紹介』> 「ODBC デー タ・ソース」をドロップダウン・リストから選択することもできま す。

DSN 接続パラメータの詳細については、『ASA データベース管理ガイ ド』> 「DataSourceName 接続パラメータ [DSN]」を参照してください。

[ODBC Data Source Administrator を開く]ボタン [ODBC Data Source Administrator を開く]ボタンをクリックすると、
[ODBC アドミニストレータ]ダイアログが表示されます。このダイアログでは、利用できるデータ・ソースのリストから特定の ODBC データ・ソースを選択できます。特定のデータ・ソースを選択するには、そのデータ・ソースをリストから選択してから [OK] をクリックします。

また、新しいデータ・ソースを作成したり、既存のデータ・ ソースをこの接続用に設定したりすることもできます。

[ODBC アドミニストレータ]ダイアログの使用法について は、『ASA データベース管理ガイド』>「ODBC データ・ソー スの使用」を参照してください。

ヒント

ODBC データ・ソースを使用すると接続情報を格納できます。接続情報を ODBC データ・ソースに格納しておくと、[接続]ダイアログで同じ情報を繰り返して指定する必要がありません。たとえば、ODBC データ・ソースにユーザ ID がすでに含まれている場合は、[接続]ダイアログの[ユーザ ID] フィールドにユーザ ID を入力しないでください。

注意

ユーザ ID またはデータベース名など、[接続]ダイアログで入力した すべての情報は、ODBC データ・ソースまたは ODBC データ・ソー ス・ファイルに格納されているパラメータよりも優先されます。 [ODBC データ・ソース・ファイル] このオプションを選択して、接続で使用するデータ・ソース・ファイルを選択します。ファイルを検索するには、[参照]をクリックします。ODBC データ・ソース・ファイルは、UNIX システムでよく使用されます。

最近使用した ODBC データ・ソース・ファイルは、ドロップダウン・ リストで選択することもできます。

ファイル・データ・ソースは、レジストリに保管される ODBC デー タ・ソースと同じ情報を持ちます。

トラブルシューティング

ODBC データ・ソースを使用して接続に失敗した場合は、データ・ ソースをテストしてください。

ODBC データ・ソースをテストするには、[接続]ダイアログの [ID] タブにある [ODBC アドミニストレータを開く]ボタンをクリックす るか、[スタート]メニューから [プログラム] – [SQL Anywhere 9] – [Adaptive Server Anywhere] – [ODBC アドミニストレータ]を選択しま す。

[ODBC データ・ソース・アドミニストレータ]ダイアログの[ユーザ DSN] タブで、リストから ODBC データ・ソースを選択し、[構成]を クリックします。これで [Adaptive Server Anywhere 9 の ODBC 設定] ダイアログが表示されます。

[Adaptive Server Anywhere 9 の ODBC 設定]ダイアログの [ODBC] タブ で[テスト接続]をクリックします。ダイアログが表示され、接続が 成功したかどうかが知らされます。

ODBC データ ソースの詳細については、『ASA データベース管理ガイ ド』>「ODBC データ・ソースの使用」を参照してください。

- ◆ 『ASA データベース管理ガイド』>「簡単な接続の例」
- ◆ 『ASA データベース管理ガイド』> 「接続のトラブルシュー ティング」
- 『ASA データベース管理ガイド』>「サーバ起動時のトラブル シューティング」
- ◆ 『ASA データベース管理ガイド』>「ネットワーク通信のトラ ブルシューティング」

参照

[接続]ダイアログ:[データベース]タブ

[接続]ダイアログの[データベース]タブには、次の項目があります。

[サーバ名] Adaptive Server Anywhere の『SQL Anywhere Studio の紹介』>「パーソナル・サーバ」または『SQL Anywhere Studio の紹介』>「ネットワーク・サーバ」の名前を入力します。たとえば、asademo と指定します。ネットワーク・サーバに接続する場合には、サーバ名 を指定する必要があります。

デフォルトのローカル・パーソナル・サーバに接続する場合や、ロー カル・マシンのデータベース・ファイルから『SQL Anywhere Studio の紹介』>「データベース・サーバ」を起動する場合は、サーバ名を 入力しないでください。デフォルトのパーソナル・サーバが存在しな い場合、サーバ名を省略すると接続が失敗します。

最近使用したサーバ名をドロップダウン・リストで選択するか、[検 索]をクリックしてサーバを検索できます。[検索]をクリックする と、実行中のローカル・パーソナル・サーバとネットワーク・サーバ をリストするダイアログが表示されます。このダイアログからサーバ を選択するには、リストからサーバを選択して[OK]をクリックしま す。そのサーバ名が[データベース]タブの[サーバ名]フィールド に表示されます。

サーバ名の詳細については、『ASA データベース管理ガイド』>「サーバとデータベースの命名」を参照してください。

[開始行] 開始行はパーソナル・データベース・サーバまたはネット ワーク・サーバをユーザのマシンから起動するためのコマンドです。 現在実行していないローカル・データベース・サーバに接続するか、 独自の起動パラメータを設定する場合にのみ、開始行を入力します。 たとえば、パーソナル・データベース・サーバを起動するには、 c:\Program Files\Sybase\SQL Anywhere 9\win32\dbeng9.exe のように サーバのフル・パスを入力してください。または、最近使用した開始 行をドロップダウン・リストから選択できます。

[開始行]フィールドには、オプションも同時に入力できます。開始 行とオプションは次の場合に使用します。

高度なサーバ機能を配備する場合。

- プロトコルのオプションを制御する場合。
- 診断メッセージまたはトラブルシューティング・メッセージを 生成する場合。
- パーミッションを設定する場合。
- データベース・パラメータを設定する場合(暗号化を含む)。

[開始行]フィールドで指定できるオプションの詳細について は、『ASA データベース管理ガイド』>「一般的なオプション」 と『ASA データベース管理ガイド』>「データベース・サーバ」 を参照してください。

[ネットワーク上でデータベース・サーバを検索] ローカル・マシン 以外のマシンで稼働しているサーバに接続するときに選択します。 ローカル・マシンのデータベース・サーバに接続する場合は、このオ プションをクリアしてください。

[データベース名] サーバで実行している各データベースは、『SQL Anywhere Studio の紹介』>「データベース名」によって識別されま す。接続するデータベースの名前を入力します。

データベース名が必要になるのは、サーバで複数のデータベースを実行している場合のみです。データベースがまだサーバ上で実行されていない場合は、代わりにデータベース・ファイルを指定する必要があります。

また、最近使用したデータベース名をドロップダウン・リストから選択したり、[参照]をクリックしてデータベース・ファイルを検索したりすることもできます。

データベース名の詳細については、『ASA データベース管理ガイド』> 「サーバとデータベースの命名」と『ASA データベース管理ガイド』> 「DatabaseName 接続パラメータ [DBN]」を参照してください。

[データベース・ファイル] 接続先のデータベースがサーバ上で現在 実行されていない場合に、データベース・ファイルを指定します。 C:\sample.db のように、フル・パスとデータベース・ファイルの名前 を入力することをおすすめします。それ以外の場合、ファイルのパス は、データベース・サーバの作業ディレクトリの相対パスです。 また、最近使用したデータベース・ファイルをドロップダウン・リストから選択したり、[参照]をクリックして『SQL Anywhere Studioの 紹介』>「データベース・ファイル」を検索したりすることもできます。

注意

すでに実行されているデータベースへの接続時にデータベース名と データベース・ファイルの両方を指定した場合、データベース・ファ イルは無視されます。

• [暗号化キー]データベース・ファイルが暗号化されている場合は、データベース・サーバがデータベースを起動するたび にデータベース・サーバのキーを指定してください。

暗号化キーの詳細については、『ASA データベース管理ガイ ド』>「DatabaseKey 接続パラメータ [DBKEY]」を参照してく ださい。

[暗号化キー]フィールドが有効になるのは、[データベー ス・ファイル]フィールドを指定した場合のみです。 [開始行]フィールドには、暗号化オプションも入力できます。

[**データベースを自動起動**] このオプションを選択して、[データ ベース・ファイル]フィールドに指定したデータベースを起動してか ら接続します。

実行しているデータベースにのみ接続する場合は、[データベースを 自動起動]オプションをクリアしてください。

[最終切断後にデータベースを停止] このオプションを選択すると、 最後のユーザが切断した後で自動的にデータベースをシャットダウン します。

- ◆ 『ASA データベース管理ガイド』>「簡単な接続の例」
- ◆ 『ASA データベース管理ガイド』>「接続のトラブルシュー ティング」
- ◆ 『ASA データベース管理ガイド』>「サーバ起動時のトラブル シューティング」
- ◆ 『ASA データベース管理ガイド』>「ネットワーク通信のトラ ブルシューティング」

参照

[接続]ダイアログ:[詳細]タブ

[接続]ダイアログの[詳細]タブには、次の項目があります。

[接続名] このフィールドが表示されるのは、Interactive SQLから[接続]ダイアログを開いた場合だけです。この接続の識別名を入力し ます。接続名を指定すると、Interactive SQLのタイトル・バーに名前 が表示されます。

["name=value"の形式で、1行に1つの接続パラメータを入力] この フィールドにはその他の接続パラメータを入力します。1行に1つの 接続パラメータを指定します。次の接続パラメータを指定すると、接 続に関するデバッグ情報がログに記録されます。

DEBUG=YES LOG=connection.log

1行に1つの接続パラメータを入力するとき、パラメータ間にセミコ ロンを入力する必要はありません。

ヒント

このタブでは、ネットワーク・プロトコルを CommLinks 接続パラ メータとして設定できますが、設定されたプロトコルを使えるかどう かは選択するドライバによって異なります。jConnect では、自動的に TCP/IP プロトコルが使われます。

このフィールドに設定したパラメータは、このダイアログの他の部分 で設定したパラメータよりも優先されます。たとえば、[ID] タブで ユーザ ID として DBA を入力し、このフィールドに接続パラメータ "uid=bsmith" を設定すると、ユーザ ID bsmith を使用した接続が試行さ れます。

接続パラメータの詳細については、『ASA データベース管理ガイド』> 「接続パラメータ」と『ASA データベース管理ガイド』> 「接続パラ メータの働き」を参照してください。

[JDBC ドライバの選択] 接続に使用するドライバのタイプを選択し ます。データベースを使用中に実行される要求やコマンドはすべてこ のドライバを介します。次のいずれかを選択できます。 [iAnywhere JDBC ドライバ] このオプションを選択すると、 ODBC ドライバを使用して接続するときに iAnywhere JDBC ド ライバが使用されます。iAnywhere JDBC ドライバは、多くの 場合に推奨されるドライバです。これは、Interactive SQL と Sybase Central のデフォルト・ドライバです。

iAnywhere JDBC ドライバを選択し、特定の ODBC データ・ ソースを指定した場合、接続を確立するときに [ID] タブの項 目のみが使用されます。

iAnywhere JDBC ドライバの詳細については、『ASA プログラ ミング・ガイド』>「iAnywhere JDBC ドライバの使用」と 『ASA プログラミング・ガイド』>「JDBC ドライバの選択」 を参照してください。

ドライバの選択については、『ASA データベース管理ガイド』 > 「接続のドライバの指定」を参照してください。

- [jConnect 5] このオプションを選択すると、JDBC (Sybase 製品)に対し jConnect と呼ばれる JDBC ドライバを使用します。このドライバは、プラットフォームに依存しないうえ、ODBC データ・ソースの使用も含め、すべての接続機能をサポートしています。
- ◆ 『ASA データベース管理ガイド』>「簡単な接続の例」
- ◆ 『ASA データベース管理ガイド』> 「接続のトラブルシュー ティング」
- ◆ 『ASA データベース管理ガイド』>「サーバ起動時のトラブル シューティング」
- ◆ 『ASA データベース管理ガイド』>「ネットワーク通信のトラ ブルシューティング」

参照

第2章 [ODBC 設定] ダイアログのヘルプ

この章の内容 この章では、Adaptive Server Anywhere の [ODBC 設定] ダイアログと [Certicom 暗号化オプション] ダイアログについて説明します。

[ODBC 設定] ダイアログの使用

ODBC データベースに接続するには、ODBC データソースを使用しま す。[ODBC 設定] ダイアログを使用すると、一連の Adaptive Server Anywhere 接続パラメータを ODBC データ・ソースとして保存できま す。データ・ソースがあれば、接続文字列では使用するデータ・ソー スを次のように指定するだけで済みます。

DSN=my data source

Adaptive Server Anywhere では、ODBC インタフェースを使用する Windows アプリケーション以外でも ODBC データ・ソースを使用す ることができます。

- Adaptive Server Anywhere クライアント・アプリケーションは、 UNIX 上で ODBC データ・ソースを使用することも、複数の Windows オペレーティング・システム上で ODBC データ・ソー スを使用することもできます。
- OLE DB、ADO.NET、または Embedded SQL インタフェースを使用している Adaptive Server Anywhere クライアント・アプリケーションは、ODBC データ・ソースも、ODBC アプリケーションも使用できます。
- Interactive SQL と Sybase Central は、ODBC データ・ソースを使用できます。

[ODBC 設定] ダイアログ: [DBMLSync] タブ

このタブには、*dbmlsync* Adaptive Server Anywhere クライアント同期 ユーティリティに関するオプションがあります。

[ODBC 設定] ダイアログの [DBMLSync] タブには、次の項目がありま す。

[パブリケーション] 同期対象のパブリケーションの名前を入力しま す。

データベースにパブリケーションが1つしかない場合は、このフィー ルドに何も入力する必要はありません。

[MLパスワード] ユーザ認証用の Mobile Link パスワードを入力しま す。まだパスワードを入力していない場合は、ここで入力する必要が あります。パスワードの入力を要求されている場合は、他のフィール ドの入力が不要な場合がほとんどです。

[パスワードの変更] 同期時の Mobile Link パスワードを変更するに は、このオプションを選択します。Mobile Link パスワードを変更し ない場合は、チェック・ボックスを空白のままにします。

- [新規] Mobile Link パスワードを変更する場合は、新しいパ スワードを入力します。Mobile Link パスワードを変更しない 場合は、このフィールドを空白のままにします。
- 【検証】Mobile Link パスワードを変更する場合は、確認のために新しいパスワードをもう一度入力します。Mobile Link パスワードを変更しない場合は、このフィールドを空白のままにします。

拡張オプション 拡張オプションを入力して、同期をカスタマイズで きます。スケジュール指定、ストリーム圧縮値などの拡張オプション を入力できます。利用できる拡張オプションのリストを確認するに は、[拡張オプションのヘルプ]ボタンをクリックしてください。こ のフィールドはオプションです。

[サイト・スクリプト] 同期後に実行されるスクリプトの名前を入力 してください。このフィールドはオプションです。サイト・スクリプ トを見つけるには、[参照]ボタンをクリックします。 [リモート・プログレスに対してリトライする] 統合データベースと クライアント・データベースで最後の同期に関する情報が異なる場 合、このオプションを選択してアップロード操作をリトライできま す。

デフォルトでは、アップロードは統合データベースによって記録され たオフセットから継続されます。[リモート・プログレスに対してリ トライする]を選択すると、統合データベースに記録されたオフセッ トがクライアント・データベースに記録されたオフセットよりも前の 場合、アップロードはクライアント・データベースに記録されたオフ セットから継続されます。

また、[リモートのオフセットが前]を選択すると、クライアント・ データベースに記録されたオフセットが統合データベースに記録され たオフセットより前であっても、アップロードはクライアント・デー タベースに記録されたオフセットからリトライされます。このオプ ションの使用には十分注意してください。統合データベースを復元し た結果、オフセットが一致しなければ、記録された2つのオフセット の間にクライアント・データベース内で発生した変更が失われます。 最後に成功した同期の後にクライアント・データベースのトランザク ション・ログがトランケートされている場合は、[リモートのオフ セットが前]が役立つことがあります。

- [リモートのオフセットが後] 統合データベースのオフセット がクライアント・データベースのオフセットよりも前の場合 に、統合データベースのオフセットからアップロードをリト ライするには、[リモートのオフセットが後]を選択します。 このオプションを使用できるのは、[リモート・プログレス に対してリトライする]を選択した場合のみです。これはデ フォルト設定です。
- [リモートのオフセットが前] クライアント・データベースの オフセットが統合データベースに記録されたオフセットより 前であっても、クライアント・データベースに記録されたオ フセットからアップロードをリトライするには、[リモート のオフセットが前]を選択します。このオプションを使用で きるのは、[リモート・プログレスに対してリトライする]を 選択した場合のみです。このオプションの使用には十分注意 してください。

このオプションは、最後に成功した同期の後にクライアン ト・データベースのトランザクション・ログがトランケート され、同期定義が再作成された場合や、最後に成功した同期 と再作成間の変更をアップロードしたくない場合に役立つこ とがあります。

[**冗長オペレーション**] デバッグやその他の診断情報をログ・ファイ ルに記録するには、このオプションを選択します。このフィールドは オプションです。

[競合する接続の削除] 同期を実行するには、同期対象のテーブル上 のすべてのローにアクセスする必要があります。これらのテーブルを ロックしている接続を強制的に削除するには、このオプションを選択 します。このフィールドはオプションです。

[コマンドライン・ヘルプ] [DBMLSync] タブの各オプションには、 対応するコマンド・ライン・オプションがあります。[コマンドライ ン・ヘルプ]ボタンをクリックすると、スイッチのリストとその説明 が表示されます。

[拡張オプションのヘルプ] [拡張オプションのヘルプ]ボタンをク リックすると、使用可能な拡張オプションの名前、デフォルト値、説 明のリストが表示されます。これらのオプションを [拡張オプション]フィールドに入力して同期をカスタマイズできま す。

[ODBC 設定] ダイアログ:[ODBC] タブ

このタブは、ODBC データ・ソースを作成または変更するときのみ表示されます。

[ODBC 設定]ダイアログの [ODBC] タブには、次の項目があります。

[データ・ソース名] この ODBC データ・ソースを識別する名前を 入力します。データ・ソースに対して任意の記述名を使用できますが (スペースも可)、接続文字列に入力しなければならない場合があるの で、短い名前にしておくことをおすすめします。

詳細については、『ASA データベース管理ガイド』> 「DataSourceName 接続パラメータ [DSN]」を参照してください。

[説明] データ・ソースの説明を入力できます。この説明は、ユーザ 本人またはエンド・ユーザが、使用可能なデータ・ソース・リストか らこのデータ・ソースを識別するのに便利です。このフィールドはオ プションです。

独立性レベル 数値を入力して、このデータ・ソースの初期独立性レベルを指定します。

- 0これはコミットされない読み込み独立性レベルとも呼ばれます。これはデフォルトの独立性レベルです。これは最大レベルの同時実行性を提供しますが、結果セットにダーティ・リード、繰り返し不可能読み出し、幻ローが見受けられる場合があります。
- 1これはコミットされた読み込みレベルとも呼ばれます。レベル0よりも低い同時実行性を提供しますが、レベル0の結果セットに見られる不整合性が一部解消されます。繰り返し不可能読み出しや幻ローが発生することはありますが、ダーティ・リードは発生しません。
- 2これは繰り返し読み出しレベルとも呼ばれます。幻ローが 発生することがあります。ダーティ・リードと繰り返し不可 能ローは発生しません。

3これは、直列化可能レベルとも呼ばれます。これは最低レベルの同時実行性を提供する、もっとも厳しい独立性レベルです。ダーティ・リード、繰り返し不可能読み出し、幻ローは発生しません。

詳細については、『ASA SQL ユーザーズ・ガイド』>「独立性レベルの選択」を参照してください。

[Microsoft アプリケーション (SQLStatistics のキー)] SQLStatistics 関数によって外部キーが戻されるようにするには、このオプションを選択します。ODBC 仕様では、SQLStatistics によってプライマリ・キー と外部キーが戻されないように指定しています。しかし、一部の Microsoft アプリケーション (Visual Basic や Access など) では、 SQLStatistics によってプライマリ・キーと外部キーが戻されることを 前提にしています。

[Delphi アプリケーション] データ・ソースを生成するアプリケー ションの作成に Borland Delphi アプリケーション開発ツールを使用す る場合は、このオプションを選択します。

このオプションが選択されると、ブックマーク値が各ローに1つずつ 割り当てられます。オフのときは、2つずつ割り当てられます。この 場合、1つは前方をフェッチし、もう1つは後方をフェッチします。

Delphi では、1 ローにつき複数のブックマーク値を処理できません。 このオプションが解除されると、スクロール可能なカーソルのパ フォーマンスに影響を及ぼします。カーソルは常に、先頭から正しい ブックマーク値を得るために要求したローまでスクロールできなけれ ばなりません。

[フェッチ警告を表示しない] フェッチ時にデータベース・サーバか ら返される警告メッセージを表示しない場合は、このオプションを選 択します。

バージョン 8.0 以降のデータベース・サーバでは、それよりも前の バージョンのソフトウェアに比べて多様なフェッチ警告が返されま す。以前のバージョンのソフトウェアを使用して配備されたアプリ ケーションに対して、フェッチの警告を適切に処理するためにこのオ プションを選択できます。 [ドライバに起因するエラーを回避] Adaptive Server Anywhere ODBC ドライバは、修飾子をサポートしていないため「ドライバが動作しませ ん。」というエラーを返します。ODBC アプリケーションの中には、 このエラーを適切に処理しないものもあります。このようなアプリ ケーションでも作業できるように、このエラー・コードが返されない ようにするには、このオプションを選択します。

[文が完結するまでオートコミットしない] 文が完了するまでコミット・オペレーションを遅延させるには、このオプションを選択します。

[カーソル動作の記述] プロシージャが実行されたときにカーソルを 再記述する頻度を選択します。デフォルト設定は[要求に応じて]で す。

- [しない]カーソルの再記述が不要であることがわかっている 場合は、このオプションを選択します。カーソルの再記述は 負荷が高く、パフォーマンスを低下させる可能性があります。
- [要求に応じて]このオプションを選択すると、カーソルを再記述する必要があるかどうかを ODBC ドライバが決定します。プロシージャに RESULT 句があると、ODBC アプリケーションは、カーソルを開いた後結果セットを再記述できません。これはデフォルトです。
- [常に]カーソルを開くたびに再記述します。Transact-SQLプロシージャや、複数の結果セットを返すプロシージャを使用する場合は、カーソルを開くたびに再記述する必要があります。

[**トランスレータ**] トランスレータは、ANSI コード・ページと OEM コード・ページ間で文字を変換します。ODBC ドライバ・マネージャ がクライアントの文字セットとデータベースの文字セットを自動的に 変換してしまうため、ほとんどのデータベースではトランスレータが 不要です。データベースで ANSI コード・ページ (デフォルト)を使 用している場合は、[トランスレータ]を選択しないでください。

トランスレータが必要な場合は、[トランスレータを選択]ボタンを クリックし、インストールされているトランスレータのリストから必 要なトランスレータを選択します。
[トランスレータを選択][トランスレータを選択]をクリックして、インストールされているトランスレータのリストから必要な ODBCトランスレータを選択します。

[テスト接続] 指定した情報で正しく接続できるかどうかをテストします。テストを実行するには、ユーザ ID とパスワードを[ログイン] タブで指定しておく必要があります。

[ODBC 設定] ダイアログ : [ログイン] タブ

[ODBC 設定]ダイアログの[ログイン]タブには、次の項目がありま す。

[統合化ログインの使用] 統合化ログインを使用して接続するには、 このオプションを選択します。

このオプションを選択すると、ユーザ ID とパスワードを指定する必要はありません。オペレーティング・システムのユーザ ID とパス ワードが Adaptive Server Anywhere の統合化ログイン・メカニズムに 渡されます。

統合化ログインを使用するには、ユーザに統合化ログイン・パーミッションが付与され、接続しようとしているデータベースも統合化ログ インを受け入れるように設定されている必要があります。DBA アク セス権を持つユーザのみが統合化ログインのパーミッションを管理で きます。

詳細については、『ASA データベース管理ガイド』>「統合化ログインの使用方法」を参照してください。

[**ユーザ ID とパスワードの指定**] 接続のユーザ ID とパスワードを指 定する場合は、このオプションを選択します。

- [ユーザ ID] 接続のユーザ ID を入力します。データベースに 接続するためのパーミッションを持つユーザ ID を指定してく ださい。
- [パスワード] 接続時のパスワードを入力します。指定した ユーザ ID に対する正しいパスワードを入力してください。

パスワードで使用される拡張文字は、データベースの設定に 関係なく大文字と小文字を区別します。

パスワードと大文字小文字の区別については、『ASA データ ベース管理ガイド』>「初期化ユーティリティのオプション」 を参照してください。

 [パスワードの暗号化]パスワードを暗号化形式でプロ ファイルに保存するには、このオプションを選択します。 このオプションは、ODBC データ・ソースを作成すると きだけに表示されます。dbmlsync ユーティリティを使っ てこのダイアログにアクセスするときには表示されませ ん。

詳細については、『ASA データベース管理ガイド』> 「EncryptedPassword 接続パラメータ [ENP]」を参照してく ださい。

重大なセキュリティのリスクがあるため、データ・ソースにパスワー ドを含めないようにしてください。

[**データ・ソース名**] このオプションは、dbmlsync ユーティリティを 使ってこのダイアログを開いた場合にだけ表示されます。このオプ ションを選択して、データベースに接続するためのデータ・ソース(格納されている一連の接続パラメータ)を選択します。このフィール ドは DSN 接続パラメータに相当し、レジストリ内のデータ・ソース を参照しています。データ・ソースのリストを表示するには、 [参照]をクリックします。

[データ・ソース・ファイル] このオプションは、dbmlsync ユーティ リティを使ってこのダイアログを開いた場合にだけ表示されます。こ のオプションを選択して、接続で使用するデータ・ソース・ファイル を選択します。ファイルを検索するには、[参照]をクリックします。 ODBC データ・ソース・ファイルは、UNIX システムでよく使用され ます。ODBC データ・ソースを見つけるには、[参照]ボタンをク リックします。

[ODBC 設定] ダイアログ:[データベース]タブ

[ODBC 設定]ダイアログの[データベース]タブには、次の項目があ ります。

[サーバ名] Adaptive Server Anywhere の『SQL Anywhere Studio の紹介』> 「パーソナル・サーバ」または『SQL Anywhere Studio の紹介』> 「ネットワーク・サーバ」の名前を入力します。たとえば、asademo と指定します。ネットワーク・サーバに接続する場合には、サーバ名 を指定する必要があります。

デフォルトのローカル・パーソナル・サーバに接続する場合や、ロー カル・マシンのデータベース・ファイルから『SQL Anywhere Studio の紹介』>「データベース・サーバ」を起動する場合は、サーバ名を 入力しないでください。デフォルトのパーソナル・サーバが存在しな い場合、サーバ名を省略すると接続が失敗します。

サーバ名の詳細については、『ASA データベース管理ガイド』>「サーバとデータベースの命名」を参照してください。

詳細については、『ASA データベース管理ガイド』> 「EngineName 接 続パラメータ [ENG]」を参照してください。

[開始行] 開始行はパーソナル・データベース・サーバまたはネット ワーク・サーバをユーザのマシンから起動するためのコマンドです。 現在実行していないローカル・データベース・サーバに接続するか、 独自の起動パラメータを設定する場合にのみ、開始行を入力します。 たとえば、パーソナル・データベース・サーバを起動するには、 c:¥Program Files¥Sybase¥SQL Anywhere 9¥win32¥dbeng9.exe のよう にサーバのフル・パスを入力してください。

[開始行]フィールドには、オプションも同時に入力できます。開始 行とオプションは次の場合に使用します。

- 高度なサーバ機能を配備する場合。
- プロトコルのオプションを制御する場合。
- 診断メッセージまたはトラブルシューティング・メッセージを 生成する場合。

- パーミッションを設定する場合。
- データベース・パラメータを設定する場合(暗号化を含む)。

[開始行]フィールドで指定できるオプションの詳細について は、『ASA データベース管理ガイド』>「一般的なオプション」 と『ASA データベース管理ガイド』>「データベース・サーバ」 を参照してください。

詳細については、『ASA データベース管理ガイド』>「StartLine 接続パラメータ [START]」を参照してください。

[データベース名] サーバで実行している各データベースは、『SQL Anywhere Studio の紹介』>「データベース名」によって識別されま す。接続するデータベースの名前を入力します。

データベース名の詳細については、『ASA データベース管理ガイド』> 「サーバとデータベースの命名」と『ASA データベース管理ガイド』> 「DatabaseName 接続パラメータ [DBN]」を参照してください。

[データベース・ファイル] 接続先のデータベースがサーバ上で現在 実行されていない場合に、データベース・ファイルを指定します。 C:\sample.db のように、フル・パスとデータベース・ファイルの名前 を入力することをおすすめします。それ以外の場合、ファイルのパス は、データベース・サーバの作業ディレクトリの相対パスです。この オプションは、まだ実行していないデータベースを起動する場合にだ け必要です。ファイル・ディレクトリからデータベース・ファイルを 選択するには、[参照]ボタンをクリックします。

詳細については、『ASA データベース管理ガイド』> 「DatabaseFile 接 続パラメータ [DBF]」を参照してください。

[**暗号化キー**] データベース・ファイルが暗号化されている場合は、 データベース・サーバがデータベースを起動するたびにデータベー ス・サーバのキーを指定してください。

暗号化キーの詳細については、『ASA データベース管理ガイド』>「DatabaseKey 接続パラメータ [DBKEY]」を参照してください。

[**データベースを自動起動**] このオプションを選択して、[データ ベース・ファイル]フィールドに指定したデータベースを起動してか ら接続します。 実行しているデータベースにのみ接続する場合は、[データベースを 自動起動]オプションをクリアしてください。

[最終切断後にデータベースを停止] このオプションを選択すると、 最後のユーザが切断した後で自動的にデータベースをシャットダウン します。

詳細については、『ASA データベース管理ガイド』>「AutoStop 接続 パラメータ [ASTOP]」を参照してください。

[ODBC 設定] ダイアログ:[ネットワーク]タブ

[ODBC 設定]ダイアログの[ネットワーク]タブには、次の項目があ ります。

[TCP/IP] ネットワーク・パケットに ECC_TLS (旧称 Certicom) また は RSA_TLS の強力な暗号化を使用するには、TCP/IP プロトコルを選 択してネットワーク・データベース・サーバにアクセスする必要があ ります。隣接するフィールドに通信パラメータを入力する場合があり ます。この通信パラメータで、クライアント・アプリケーションから データベースへの接続を確立しチューニングします。

たとえば、ポートが 4436、マシンが server1 のデータベース・サーバ を検索するには、「HOST=server1;PORT=4436」と入力します。

使用すべきプロトコルが不明な場合は、ネットワーク管理者に問い合 わせてください。

[SPX] Novell NetWare ネットワークでは、SPX プロトコルを選択して データベースに接続できます。NetWare では TCP/IP プロトコルもサ ポートされています。隣接するフィールドに通信パラメータを入力す る場合があります。この通信パラメータで、クライアント・アプリ ケーションからデータベースへの接続を確立しチューニングします。

たとえば、通信パラメータを「HOST=0:0:0:0:0:1/ 4:236:121:215;PORT=2369」と入力して、SPX 接続を確立します。

使用すべきプロトコルが不明な場合は、ネットワーク管理者に問い合 わせてください。

[名前付きパイプ] 名前付きパイプ・プロトコルは、同一マシン上で クライアント/サーバ通信をするために使用されます。C2 基準を満 たした環境で実行する場合は、名前付きパイプ・プロトコルを使用で きます。これは Windows NT のみに用意されています。

使用すべきプロトコルが不明な場合は、ネットワーク管理者に問い合 わせてください。

[共有メモリ] 共有メモリ・プロトコルは、同一マシン上で同一のオペレーティング・システムを使用して実行されているクライアントとサーバの間で通信するために使用されます。

使用すべきプロトコルが不明な場合は、ネットワーク管理者に問い合 わせてください。

詳細については、『ASA データベース管理ガイド』> 「CommLinks 接 続パラメータ [LINKS]」と『ASA データベース管理ガイド』> 「ネッ トワーク・プロトコル・オプション」を参照してください。

[活性タイムアウト] 活性パケットは、接続が続いていることを確認 するために、クライアント/サーバ間で送信されます。活性パケット を検出することなく、指定した活性タイムアウト時間にわたってクラ イアントが実行されていると、通信は切断されます。このパラメータ は、ネットワーク・サーバで TCP/IP または IPX 通信プロトコルを使 用するときのみ有効です。

デフォルトの活性タイムアウトは120秒です。

詳細については、『ASA データベース管理ガイド』>「LivenessTimeout 接続パラメータ [LTO]」を参照してください。

[アイドル・タイムアウト] 接続を終了する前のクライアントのアイ ドル時間を設定します。クライアントが要求を送信しないままアイド ル・タイムアウト時間が経過すると、接続は切断されます。

デフォルトのクライアントのアイドル時間は、240分です。

詳細については、『ASA データベース管理ガイド』>「Idle 接続パラ メータ [IDLE]」を参照してください。

[バッファ・サイズ] 通信パケットの最大サイズをバイト単位で設定 します。ネットワーク・ソフトウェアは、ネットワーク経由で送信す る前に各バッファに情報を追加することがあるため、バッファ・サイ ズをネットワークで許可されているサイズより小さく設定してくださ い。

デフォルトのバッファ・サイズは1460バイトです。

詳細については、『ASA データベース管理ガイド』> 「CommBufferSize 接続パラメータ [CBSIZE]」を参照してください。 [ネットワーク・パケットを圧縮] 接続の圧縮を有効にするには、このオプションを選択します。接続で圧縮を行うと、環境によっては Adaptive Server Anywhere のパフォーマンスを大幅に向上させることが できます。

詳細については、『ASA データベース管理ガイド』>「Compress 接続 パラメータ [COMP]」を参照してください。

[ネットワーク・パケットの暗号化に使用する方法を選択します。]

ネットワークを介してクライアント・マシンから送信されるパケット を暗号化できます。

別途ライセンスを取得できるオプションが必要

トランスポート層のセキュリティには、別途ライセンスの SQL Anywhere Studio セキュリティ・オプションを入手する必要がありま す。このセキュリティ・オプションは輸出規制の対象となります。

このコンポーネントを注文するには、『SQL Anywhere Studio の紹介』>「別途ライセンスが入手可能なコンポーネント」を参照してください。

- [なし] クライアントから送信される通信パケットは暗号化されません。これはデフォルト設定です。
- 「単純」クライアントから送信される通信パケットは、単純な 暗号化を使用して暗号化されます。単純な暗号化は、すべて のプラットフォームでサポートされ、また、Adaptive Server Anywhere の以前のバージョンでもサポートされています。単 純な暗号化は ECC_TLS 暗号化や RSA_TLS 暗号化ほど強力で はありません。
- [ECC_TLS] ECC_TLS (以前の Certicom) 暗号化を有効にする には、このオプションを選択します。ECC_TLS 暗号化は、ク ライアントとサーバ間で送信されるネットワーク・パケット の機密性と整合性を保持します。これは TCP/IP プロトコルで のみ使用できます。

フィールドには、信頼できる証明書の値を入力してください。 [編集]ボタンをクリックしてもこの値を入力できます。 [RSA_TLS] RSA_TLS 暗号化を有効にするには、このオプションを選択します。RSA_TLS 暗号化は、クライアントとサーバ間で送信されるネットワーク・パケットの機密性と整合性を保持します。これは TCP/IP プロトコルでのみ使用できます。

フィールドには、信頼できる証明書の値を入力してください。 [編集]ボタンをクリックしてもこの値を入力できます。

 [RSA_TLS_FIPS] このオプションを選択すると、RSA_TLS 暗 号化が有効になります。このオプションを選択することによ り、データベース・サーバは FIPS 認定の RSA 暗号化技術を 使用して暗号化された通信パケットを受け入れます。 RSA_TLS_FIPS は RSA_TLS とは別の認定ライブラリを使用 しますが、Adaptive Server Anywhere 9.0.2 以降では、RSA_TLS を指定しているクライアントと互換性があります。このタイ プの暗号化を使用するには、これに対応している 32 ビット Windows オペレーティング・システムでサーバとクライアン トの両方が実行し、接続に TCP/IP ポートを使用していること が必要です。

フィールドには、信頼できる証明書の値を入力してください。 [編集]ボタンをクリックしてもこの値を入力できます。

• [編集][編集]ボタンをクリックして、「[Certicom 暗号化 オプション]ダイアログ」30ページで、信頼できる証明 書の暗号化の値、証明書に記載される会社、証明書に記 載される部署、証明書に記載される名前を入力します。

詳細については、『ASA データベース管理ガイド』> 「Encryption 接続パラメータ [ENC]」と 『SQL Anywhere Studio セキュリティ・ガイド』> 「FIPS 140-2 承認」を参照してくだ さい。

参照

◆ 「[Certicom 暗号化オプション]ダイアログ」30ページ

[ODBC 設定] ダイアログ : [詳細] タブ

[ODBC 設定] ダイアログの[詳細] タブには、次の項目があります。

[接続名] 接続を識別する名前を入力します。このフィールドはオプ ションです。

文字セット 文字セット名を入力します。デフォルトでは、クライア ントの ANSI 文字セットが使用されます。たとえば、英語システムで は cp1252 が使用されます。ANSI 文字セットの代わりに OEM 文字 セットを入力することもできます。

[複数のレコード・フェッチを許可] 複数のレコードを個別ではなく まとめて取り出してパフォーマンスを改善するには、このオプション を選択します。

[1 ログ・ファイルにデバッグ情報を表示] 通信リンクに関する診断 情報をログ・ファイルに記録するには、このオプションを選択しま す。

• [**ログ・ファイル**]デバッグ情報を保存するログ・ファイルの 名前を入力します。

[追加接続パラメータ] このフィールドには追加接続パラメータを入 力します。パラメータ間はセミコロンで区切ります。次に例を示しま す。

DEBUG=YES;LOG=connection.log

このフィールドに設定したパラメータは、このダイアログの他の部分 で設定したパラメータよりも優先されます。たとえば、[ID] タブで ユーザ ID として DBA を入力し、このフィールドに接続パラメータ "uid=bsmith" を設定すると、ユーザ ID bsmith を使用した接続が試行さ れます。

接続パラメータの詳細については、『ASA データベース管理ガイド』> 「接続パラメータ」と『ASA データベース管理ガイド』>「接続パラ メータの働き」を参照してください。

[Certicom 暗号化オプション] ダイアログ

このダイアログには、クライアントの Certicom 暗号化設定のフィー ルドが表示されます。

[Certicom 暗号化オプション]ダイアログには、次の項目があります。

[信頼できる証明書] クライアントがサーバを認証するために使用す る証明書ファイルの名前を入力します。[参照]をクリックして信頼 できる証明書をファイル・ディレクトリから選択することもできま す。このフィールドは必須です。

[証明書に記載される会社] 証明書を発行した認証局の名前を入力し ます。サーバ側とクライアント側の値を一致させる必要があります。 このフィールドはオプションです。

[証明書に記載される部門] 証明書に記載される部門を入力します。 これは組織単位とも呼ばれます。サーバ側とクライアント側の値を一 致させる必要があります。このフィールドはオプションです。

[証明書に記載される名前] 証明書の通称を入力します。サーバ側と クライアント側の値を一致させる必要があります。このフィールドは オプションです。 第3章

Adaptive Server Anywhere のヘルプ

この章の内容 この章では、Sybase Central の Adaptive Server Anywhere プラグインからからアクセスできるすべてのプロパティ・シートとダイアログについて説明します。

プロパティ・シートの概要

Adaptive Server Anywhere プラグインには、オブジェクトのプロパティ を設定するためのプロパティ・シートが各種用意されています。

次の項からは、Adaptive Server Anywhere プラグインのプロパティ・ シートについて詳しく説明します。各プロパティ・シートは、オブ ジェクトを選択すると、[ファイル]メニューのコマンドとして表示 されます。オブジェクトを右クリックして、ポップアップ・メニュー から表示することもできます。

[アーティクル]プロパティ・シート

[アーティクル]プロパティ・シートには、[一般]、[カラム]、 [WHERE 句]、[SUBSCRIBE BY 制限]の4つのタブがあります。

参照

◆ 『SQL Remote ユーザーズ・ガイド』> 「パブリケーションの設計 (Adaptive Server Anywhere)」

[アーティクル]プロパティ・シート:[一般]タブ

[アーティクル]プロパティ・シートの[一般]タブには、次の項目が あります。

[名前] 『SQL Anywhere Studio の紹介』>「アーティクル」の名前と アーティクルの所有者がカッコ内に表示されます。

[タイプ] オブジェクトのタイプが表示されます。

[パブリケーション] アーティクルが含まれるパブリケーションが表示されます。カッコ内にパブリケーションの所有者の名前が表示されます。

参照

- ◆ 「[テーブル]プロパティ・シート」132ページ
- ◆ 『SQL Remote ユーザーズ・ガイド』> 「パブリケーションの設計 (Adaptive Server Anywhere)」

[アーティクル]プロパティ・シート:[カラム]タブ

[アーティクル]プロパティ・シートの[カラム]タブには、次の項目 があります。

[**すべてのカラム**] このオプションを選択すると、テーブルのすべて のカラムがアーティクルに入ります。

[選択したカラム] このオプションを選択すると、テーブルの一部の カラムのみがアーティクルに入ります。このオプションを選択する と、[選択したカラム]リストのカラム名の横にあるチェックボック スが使用可能になります。このリストには、アーティクルの基になる テーブルのすべてのカラムが含まれています。

このオプションを選択するときは、少なくとも1つのカラムをアー ティクルに入れてください。カラムをアーティクルに含めるには、カ ラム名の横にあるチェックボックスを選択します。すると、チェッ ク・マークが表示されます。[すべて選択]をクリックすると、リス ト内のすべてのカラムをアーティクルに含めることができます。

- [すべて選択] このオプションを選択すると、テーブルのすべてのカラムがアーティクルに入ります。
- [すべてをクリア] このオプションを選択すると、[選択したカ ラム]リストのすべてのチェックボックスがクリアされます。

参照

◆ 『SQL Remote ユーザーズ・ガイド』> 「パブリケーションの設計 (Adaptive Server Anywhere)」

[アーティクル] プロパティ・シート : [WHERE 句] タブ

SQL Remote と Mobile Link のパブリケーション用に定義されたアー ティクルでは、WHERE 句を使うことによって、アーティクル内に テーブルのローのサブセットが含まれるように定義できます。Ultra Light アプリケーションでは、WHERE 句を指定することでロー・サ プセットを使用できます。ただし、HotSync 同期を管理する Ultra Light パブリケーション内のアーティクルでは、WHERE 句を使用で きません。

[アーティクル]プロパティ・シートの[WHERE 句] タブには、次の 項目があります。 [このアーティクルには次の WHERE 句があります。] ウィンドウで WHERE 句を編集して、アーティクルに含まれるテーブル・ローを制 限できます。

たとえば、次のように入力すると、給与が \$50000 を上回るローのみ が含まれます。

WHERE salary > 50000

- ◆ 『ASA SQL リファレンス・マニュアル』>「CREATE PUBLICATION 文」
- ◆ 『SQL Remote ユーザーズ・ガイド』> 「パブリケーションの設計 (Adaptive Server Anywhere)」
- ◆ 『ASA SQL ユーザーズ・ガイド』> 「WHERE 句:ローの指 定」

[アーティクル] プロパティ・シート: [SUBSCRIBE BY 制限] タブ

このタブは、SQL Remote アーティクルにだけ適用されます。

[アーティクル]プロパティ・シートの [SUBSCRIBE BY 制限] タブに は、次の項目があります。

[なし] SUBSCRIBE BY カラムまたは SUBSCRIBE BY 句を使用して ローを分割することのないように、アーティクルを設定します。

[カラム] カラム (SUBSCRIBE BY カラム)に基づいてテーブルの ローを分割するように、アーティクルを設定します。このオプション を選択した場合は、ドロップダウン・リストからカラムを選択してく ださい。

[式] 下のフィールドに入力した式に基づいてテーブルのローを分割 するように、アーティクルを設定します。

- ◆ 『SQL Remote ユーザーズ・ガイド』> 「パブリケーションの設計 (Adaptive Server Anywhere)」
- ◆ 『ASA SQL リファレンス・マニュアル』>「CREATE PUBLICATION 文」

参照

参照

[検査制約] プロパティ・シート

[検査制約]プロパティ・シートには、[一般]と[定義]の2つのタブがあります。

[検査制約]プロパティ・シート:[一般]タブ

[検査制約]プロパティ・シートの[一般]タブには、次の項目があり ます。

[名前] 選択されている検査制約の名前が表示されます。隣接する フィールドで検査制約の名前を編集できます。

[タイプ] オブジェクトのタイプが表示されます。

[**テーブル**] この検査制約が属するテーブルが表示されます。

[**カラム**] この検査制約が適用されるカラムが表示されます。この情報が表示されるのはカラム検査制約の場合だけです。テーブル検査制約の場合は表示されません。

- ◆ 『ASA SQL ユーザーズ・ガイド』> 「制約の選択」
- ◆ 『ASA SQL ユーザーズ・ガイド』>「テーブルに対する検査制 約の使い方」
- ◆ 『ASA SQL ユーザーズ・ガイド』>「カラムに対する検査制約 の使い方」

|検査制約|プロパティ・シート:|定義|タブ

[検査制約]プロパティ・シートの[定義]タブには、次の項目があり ます。

[この検査制約には次の定義が含まれています。] ここで検査制約を 入力できます。カラム検査制約では、指定された型を持つすべてのカ ラムの入力値が適切であることが保証されるのに対し、テーブル検査 制約では、特定のテーブル内のローが制約に違反していないことが保 証されます。

参照

◆ 『ASA SQL ユーザーズ・ガイド』> 「制約の選択」

- 『ASA SQL ユーザーズ・ガイド』>「カラムに対する検査制約 の使い方」
- ◆ 『ASA SQL ユーザーズ・ガイド』>「テーブルに対する検査制 約の使い方」

[カラム] プロパティ・シート

この[カラム]プロパティ・シートには、特定のテーブルに属するカ ラムに関する情報が表示されます。特定のビューに属するカラムのプ ロパティを表示する場合は、

「[カラム]プロパティ・シート(ビュー)」40ページを参照してくだ さい。

テーブル用の[カラム]プロパティ・シートには、[一般]、[データ型]、[値]、[制約]の4つのタブがあります。

参照

◆ 『ASA SQL ユーザーズ・ガイド』>「テーブルの編集」

[カラム]プロパティ・シート:[一般]タブ

[カラム]プロパティ・シートの[一般]タブには、次の項目がありま す。

[名前] カラムの名前。隣接するフィールドでカラム名を変更できま す。

[タイプ] オブジェクトのタイプが表示されます。

[**テーブル**] カラムが含まれるテーブルの名前の他に、テーブルの所 有者が表示されます。

[コメント] カラムの説明を入力します。たとえば、システムにおけ るそのカラムの目的を、この領域に記述できます。

参照

◆ 『ASA SQL ユーザーズ・ガイド』>「テーブルの編集」

[カラム]プロパティ・シート:[データ型]タブ

[カラム]プロパティ・シートの[データ型]タブには、次の項目があ ります。

[組み込みタイプ] このオプションを選択すると、カラムの定義済み 『SQL Anywhere Studio の紹介』>「データ型」をドロップダウン・リ ストから選択できます。定義済みデータ型の例には、整数、文字列、 日付などがあります。これらのデータ型の中には、サイズか位取りま たはその両方を指定できるものもあります。

• [サイズ] 文字列カラムの場合は長さ、または数値カラムの場合は10進法計算の結果における小数点の左右の合計桁数を指定します。数値カラムのサイズは PRECISION 値とも呼ばれます。

PRECISION 値の詳細については、『ASA データベース管理ガイ ド』>「PRECISION オプション [データベース]」を参照してく ださい。

 [位取り] 計算結果が最大 PRECISION 値にトランケートされる 場合の、小数点以下の最小桁数を指定します。

データ型の詳細については、『ASA SQL リファレンス・マニュアル』> 「SQL データ型」を参照してください。

[ドメイン] このオプションを選択すると、ドロップダウン・リスト からドメインを選択できます。ドメインとは、組み込みデータ型、デ フォルト値、CHECK 条件、NULL 値の許容を組み合わせて名前を付 けたものです。

[Java クラス] このオプションを選択すると、カラムの『SQL Anywhere Studio の紹介』>「Java クラス」をドロップダウン・リスト から選択できます。データベースで Java がサポートされていない場 合は、このオプションは有効になっていません。

参照

- ◆ 『ASA SQL ユーザーズ・ガイド』>「カラムのデータ型の選 択」
- ◆ 『ASA SQL ユーザーズ・ガイド』> 「ドメインの使い方」
- ◆ 『ASA SQL ユーザーズ・ガイド』>「データ整合性の確保」
- ◆ 『ASA プログラミング・ガイド』>「データベースにおける Java の使用」

◆ 『ASA SQL ユーザーズ・ガイド』>「テーブルの編集」

[カラム] プロパティ・シート:[値]タブ

[カラム]プロパティ・シートの[値]タブには、次の項目がありま す。

[**デフォルト値または計算値なし**] カラムの内容が計算値ではなく、 デフォルト値も設定しない場合は、このオプションを選択します。

[デフォルト値] カラムにデフォルト値を設定する場合は、このオプ ションを選択します。カラムがドメインに基づいている場合、この設 定はドメインのデフォルト値(存在する場合)を継承しますが、カラ ム用の値を優先させることもできます。[デフォルト値]オプション を選択すると、[ユーザ定義]オプションと[システム定義]オプショ ンが有効になります。

- 【ユーザ定義】 デフォルト値にユーザ定義の値(文字列、数字、 またはその他の式)を入力できます。カラムがドメインに基づ いている場合、ドメインのデフォルト値(存在する場合)を維持 するか、またはカラムの値を優先させることができます。
 - [リテラル文字列]カラムのデフォルト値をリテラル文 字列として扱うかどうかを指定します。このオプション は、文字カラムと文字ベース・タイプのドメインの場合 はデフォルトで選択されています。このオプションを選 択すると、デフォルトのテキストを一重引用符で囲んだ り、文字列に埋め込んだ引用符や円記号をエスケープす る必要はありません。

このオプションをクリアすると、引用符やエスケープの 自動処理がオフになり、指定したデフォルト値のテキス トがそのままサーバに渡されます。

• [システム定義] デフォルト値に定義済みの値

(現在の日付など)を選択できます。値はドロップダウン・リストから選択します。カラムがドメインに基づいている場合、ドメインのデフォルト値(存在する場合)を維持するか、またはカラムの値を優先させることができます。

[分割サイズ] システム定義値として[グローバル・オートインクリメント]を選択した場合は、分割サイズも指定できます。

グローバル・オートインクリメントでは、新しく作成され たローに、それまでのカラムの最大値に1を加えた値を割 り当てます。分割サイズを指定すると、グローバル・オー トインクリメントで使用できる最大値が制限されます。分 割サイズには任意の正の整数を入力できます。一般には、 増分が十分に行えるような値を選択してください。

詳細については、『ASA SQL ユーザーズ・ガイド』>「オー トインクリメント・デフォルト」と『ASA SQL リファレ ンス・マニュアル』>「CREATE TABLE 文」を参照してく ださい。

[計算値] このオプションは、カラムの計算値を定義するときに選択 します。計算カラムの値は、他のカラムの値から計算して得ることが できます。テキスト・ボックスに式を入力し、その式で他のカラムと の関係と計算カラムに表示される値を記述してください。

計算値の詳細については、『ASA SQL リファレンス・マニュアル』> 「ALTER TABLE 文」と『ASA SQL リファレンス・マニュアル』>「式 内のサブクエリ」を参照してください。

参照

- ◆ 『ASA SQL リファレンス・マニュアル』> 「SQL 関数」
- ◆ 『ASA SQL ユーザーズ・ガイド』>「カラム・デフォルトの使い方」
- ◆ 『ASA SQL ユーザーズ・ガイド』> 「計算カラムの使用」

[カラム]プロパティ・シート:[制約]タブ

[カラム]プロパティ・シートの[制約]タブには、次の項目があります。

[NULL 値を許可] カラムの値に NULL 値を許可する場合は、このオ プションを選択します。カラムがドメインに基づいている場合は、ド メインの NULL 値の許容を維持するか、またはカラムの値を優先させ ることができます。 [NULL **値を禁止**] このカラムで重複値を許容し、NULL 値を許容し ないときは、このオプションを選択します。

[NULL **値を禁止し、ユニークな値であること**] NULL 値を許容せ ず、カラムの値を必ずユニークにする場合は、このオプションを選択 します。

参照

- ◆ 『ASA SQL ユーザーズ・ガイド』> 「制約の選択」
- ◆ 『ASA SQL ユーザーズ・ガイド』>「データ整合性の確保」

[カラム]プロパティ・シート(ビュー)

この[カラム]プロパティ・シートには、特定のビューに属するカラムに関する情報が表示されます。特定のテーブルに属するカラムに関する情報を取得する場合は、「[カラム]プロパティ・シート」36ページを参照してください。

ビュー用の[カラム]プロパティ・シートには、[一般]タブだけがあ ります。

[カラム]プロパティ・シート(ビュー):[一般]タブ

[カラム]プロパティ・シートの[一般]タブには、次の項目があります。

[名前] 選択されているカラムの名前が表示されます。

[タイプ] オブジェクトのタイプが表示されます。

[ビュー] カラムが属するビューの名前が表示されます。また、カッ コ内にそのビューの所有者の名前が表示されます。

[**データ型**] 選択されているカラムのデータ型が表示されます。

[NULL 入力可] 選択されたカラムで NULL 値を許可するかどうかが 表示されます。

参照

- ◆ 『ASA SQL リファレンス・マニュアル』>「SQL データ型」
- ◆ 『ASA SQL ユーザーズ・ガイド』> 「制約の選択」

[接続されたユーザ]プロパティ・シート

[接続されたユーザ]プロパティ・シートには、[一般]と [詳細情報]の2つのタブがあります。

[接続されたユーザ]プロパティ・シート: [一般]タブ

[接続されたユーザ]プロパティ・シートの[一般]タブには、次の項 目があります。

[接続 ID] ユーザの接続 ID が表示されます。

ユーザがデータベースに接続すると、その接続にユニークな接続 ID が割り当てられます。以降、データベースに接続するたびに、接続 ID の値が1ずつ増えます。

[タイプ] オブジェクトのタイプが表示されます。

[**ユーザ**] データベース・ユーザ ID が表示されます。

[接続名] ユーザが接続しているデータベースの接続名が表示されま す。接続名を付けると、同じデータベースへの複数の接続や、同じま たは異なるデータベース・サーバへの複数の接続を簡単に識別できる ようになります。

[通信リンク] ユーザの接続に使用する通信リンクのタイプが表示されます。Adaptive Server Anywhere クライアントとネットワーク・サーバを接続する場合、リンク・タイプは、使用するネットワーク・プロトコルを表します。

[ノード・アドレス] ユーザの接続に使用する通信ポート ID が表示 されます。

[最終要求タイプ] 最終要求のタイプが表示されます。

[最終要求時刻] この接続に対する最終要求の開始時刻が表示されます。

[接続のブロック] 接続をブロックするかどうかが表示されます。現 在の接続が制限されていない場合は0。ブロックされている場合は、 ロック矛盾によってブロックされる接続の数。

参照

- 『ASA データベース管理ガイド』>「接続されたユーザの管理」
- ◆ 『ASA データベース管理ガイド』>「接続レベルのプロパ ティ」

[接続されたユーザ]プロパティ・シート:[詳細情報]タブ

[接続されたユーザ]プロパティ・シートの[詳細情報]タブには、次の項目があります。

[接続されたユーザのプロパティ]リスト 接続されたユーザのプロ パティの名前と値がリストされます。[再表示]をクリックすると値 が更新されます。[F5] キーを押しても、値を再表示できます。

• [**再表示**] クリックすると、[接続されたユーザのプ ロパティ] リストの値が更新されます。

[説明] 選択されたプロパティの説明が表示されます。

参照

- 『ASA データベース管理ガイド』>「接続されたユーザの管理」
- ◆ 『ASA データベース管理ガイド』> 「接続レベルのプロパ ティ」

[統合ユーザ]プロパティ・シート

[統合ユーザ] プロパティ・シートには、[一般]、[権限]、[パー ミッション]、[SQL Remote] の4つのタブがあります。

参照

- ◆ 『ASA データベース管理ガイド』>「ユーザ ID とパーミッ ションの管理」
- ◆ 『ASA データベース管理ガイド』>「REMOTE パーミッションの付与と取り消し」

[統合ユーザ]プロパティ・シート:[一般]タブ

[統合ユーザ]プロパティ・シートの[一般]タブには、次の項目があ ります。 **【名前】** 統合ユーザの名前が表示されます。

[タイプ] オブジェクトのタイプが表示されます。

[接続可] このオプションを選択すると、統合ユーザがデータベース に接続できます。統合ユーザが接続を許可されないと、パスワード (指定されている場合)はアカウントから削除されます。統合ユーザの 接続を許可するように後で変更する場合は、新しいパスワードを指定 する必要があります。このオプションをクリアすると、 [パスワード]オプションと[パスワードの確認]オプションが無効にな ります。

ユーザは、ほとんどの場合、接続を許可されます。

- [パスワード] 統合ユーザのパスワードを入力します。セキュ リティを強化するため、入力した文字はアスタリスクで表示さ れます。
- [パスワードの確認] [パスワード]テキスト・ボックスに入力 したパスワードをもう一度入力して確認します。2つのフィール ドの内容は、完全に一致している必要があります。

[コメント] 統合ユーザの説明を入力します。たとえば、システムに おけるその統合ユーザの目的を、この領域に記述できます。

参照

- ◆ 『ASA SQL リファレンス・マニュアル』>「GRANT CONSOLIDATE 文 [SQL Remote]」
- ◆ 『ASA データベース管理ガイド』>「REMOTE パーミッションの付与と取り消し」
- ◆ 『ASA データベース管理ガイド』>「ユーザ ID とパーミッ ションの管理」

[統合ユーザ]プロパティ・シート: |権限|タブ

[統合ユーザ]プロパティ・シートの[権限]タブには、次の項目があります。

[DBA] このオプションを選択すると、統合ユーザに DBA 権限が付 与されます。DBA 権限を持つユーザは、データベースを完全に管理 できます。 [**リソース**] このオプションを選択すると、統合ユーザに RESOURCE 権限が付与されます。RESOURCE 権限を持つユーザは、 データベース・オブジェクトを作成できます。

[リモート DBA] このオプションを選択すると、統合ユーザに REMOTE DBA 権限が付与されます。SQL Remote Message Agent で は、このタイプの権限を持つユーザ ID を使用して、セキュリティ・ ホールを作らずにアクションを確実に実行する必要があります。 Mobile Link クライアント・ユーティリティの dbmlsync でも REMOTE DBA 権限が必要です。

参照

◆ 『ASA データベース管理ガイド』>「ユーザ ID とパーミッ ションの管理」

[統合ユーザ]プロパティ・シート:[パーミッション]タブ

[統合ユーザ]プロパティ・シートの[パーミッション]タブには、次の項目があります。

[パーミッション] リスト 統合ユーザがパーミッションを持ってい るすべてのテーブルの他に、各テーブルを所有するユーザが表示され ます。各ユーザの横に表示されるフィールドをクリックすると、パー ミッションの付与または取り消しができます。フィールドをダブルク リックすると(チェック・マークと2つの+記号が表示される)、 ユーザにパーミッションの付与オプションを与えることができます。

[表示] [パーミッション]リストに表示するオブジェクトのタイプ を選択します。

- [テーブル] 統合ユーザがパーミッションを持っているすべて のテーブルが表示されます。
- **[ビュー]** 統合ユーザがパーミッションを持っているすべての ビューが表示されます。
- [プロシージャとファンクション] 統合ユーザがパーミッションを持っているプロシージャとファンクションがすべて表示されます。プロシージャとファンクションに対して付与できるのは EXECUTE パーミッションだけです。

参照 ● 『ASA データベース管理ガイド』>「ユーザ ID とパーミッションの管理」

[統合ユーザ]プロパティ・シート: [SQL Remote] タブ

[統合ユーザ]プロパティ・シートの [SQL Remote] タブには、次の項 目があります。

[メッセージ・タイプ] 『SQL Anywhere Studio の紹介』>「パブリッシャ」と通信するためのメッセージ・タイプを選択します。

[アドレス] レプリケーション・メッセージの送信先を入力します。 パブリッシャとリモート・ユーザは個別のアドレスを持っています。 選択したメッセージ・タイプに対して有効なアドレスを入力してくだ さい。たとえば、FTP メッセージ・タイプを選択した場合、有効なア ドレスはホスト (ftp.mycompany.com など)または IP アドレス (192.138.151.66 など)です。

[送信して閉じる] このオプションを選択すると、パブリッシャの エージェントが一度の実行で保留中のすべてのメッセージをこのリ モート・ユーザへ送信し、終了後停止するように、『SQL Anywhere Studio の紹介』>「レプリケーションの頻度」が設定されます。エー ジェントは、パブリッシャがメッセージを送信する前に毎回再起動す る必要があります。このオプションはリモート・サイト上で Message Agent を実行する場合にのみ有用です。

[次の間隔で送信] このオプションを選択すると、パブリッシャの エージェントの実行を継続し、このリモート・ユーザに指定の間隔で メッセージが送信されるようにレプリケーション頻度が設定されま す。このオプションは統合サイトでもリモート・サイトでも有用で す。

[毎日次の時刻に送信] このオプションを選択すると、パブリッシャ のエージェントの実行を継続し、このリモート・ユーザに毎日指定時 刻にメッセージが送信されるようにレプリケーション頻度が設定され ます。このオプションは特にリモート・サイトで有用です。

◆ 『ASA SQL リファレンス・マニュアル』>「GRANT REMOTE 文 [SQL Remote]」

[データベース] プロパティ・シート

[データベース]プロパティ・シートには、[一般]、[設定]、[詳細 情報]、[SQL Remote]、[プロファイリング]の5つのタブがありま す。

参照 ◆ 『ASA SQL ユーザーズ・ガイド』>「データベースの編集」

[データベース]プロパティ・シート:[一般]タブ

このタブにリストされるデータベースのプロパティは、データベース を再構築しないかぎり変更できません。

データベースの再構築の詳細については、『ASA SQL ユーザーズ・ガ イド』>「データベースの再構築」を参照してください。

[データベース]プロパティ・シートの[一般]タブには、次の項目が あります。

[名前] このデータベースの名前が表示されます。

[タイプ] オブジェクトのタイプが表示されます。

[ID] サーバで起動されたデータベースごとに割り当てられているユ ニークな番号が表示されます。この番号により、同じサーバ上で実行 している複数のデータベースを識別できます。

[機能 ID] データベースに対して有効な機能ビットが表示されます。 この値は、Adaptive Server Anywhere データベースのバージョン 8 以上 でのみ表示されます。

このデータベースで有効になっている機能のリストを表示するには、 [データベース]プロパティ・シートの[詳細情報]タブを開きます。

[Java JDK バージョン] インストール時のデータベースでサポート される JDK のバージョンが表示されます。データベースで Java がサ ポートされていない場合は、[なし]が表示されます。

[ページ・サイズ] データベースのページ・サイズがバイト単位で表示されます。

[**データベース・ファイル**] データベースのルート・データベース・ ファイルが表示されます。

[ログ・ファイル] データベースの『SQL Anywhere Studio の紹介』> 「トランザクション・ログ」・ファイルの名前とロケーションが表示されます。

[ミラー・ログ・ファイル] データベースの『SQL Anywhere Studio の紹介』>「トランザクション・ログ・ミラー」・ファイルの名前とロ ケーションが表示されます。

[**ユーザ**] このデータベースに接続しているユーザのユーザ ID が表示されます。

[接続 ID] Sybase Central からのデータベース接続の『SQL Anywhere Studio の紹介』> 「接続 ID」が表示されます。

[接続名] このデータベースに接続しているユーザの接続名が表示されます。接続名を付けると、同じデータベースへの複数の接続、あるいは同じまたは異なるデータベース・サーバへの複数の接続を、簡単に識別できます。

[通信リンク] ユーザの接続に使用する通信リンクのタイプが表示されます。Adaptive Server Anywhere クライアントとネットワーク・サーバを接続する場合、リンク・タイプは、使用するネットワーク・プロトコルを表します。

[総接続数] Sybase Central の接続も含めて、すべてのユーザについて、データベースへの現在の接続の合計数が表示されます。

参照

- ◆ 『ASA データベース管理ガイド』>「データベース・レベルの プロパティ」
- ◆ 『ASA SQL ユーザーズ・ガイド』>「データベースの編集」

|データベース|プロパティ・シート:|設定|タブ

このタブにリストされるデータベースのプロパティは、データベースを再構築しないかぎり変更できません。

データベースの再構築の詳細については、『ASA SQL ユーザーズ・ガ イド』>「データベースの再構築」を参照してください。 [データベース]プロパティ・シートの[設定]タブには、次の項目が あります。

[暗号化タイプ] データベースが暗号化されているかどうかと、暗号 化されている場合はそのタイプ([単純]、[AES]、[MDSR] のいずれか)が表示されます。データベースで暗号化がサポートされ ていない場合は、[なし]が表示されます。

Adaptive Server Anywhere でサポートされている暗号化タイプの詳細に ついては、『SQL Anywhere Studio セキュリティ・ガイド』>「データ ベースの暗号化」を参照してください。

[大文字と小文字を区別] データベースで大文字と小文字が区別され るかどうかを示します。このプロパティは、データベースのデータと パスワードに適用されます。テーブル名、カラム名、その他の識別子 には適用されません。

[後続ブランクを無視する] データベースで比較を行うとき、文字 データの後続ブランクを無視するかどうかを示します。

[**デフォルト照合**] データベースのデフォルトの照合が表示されま す。

[**チェックポイントの緊急度**] 最後に行ったチェックポイントから経 過した時間が、データベースのチェックポイント時間の設定に対する パーセンテージで表されます。[再表示]をクリックするか[F5]キー を押すと、[チェックポイントの緊急度]の値が更新されます。

[リカバリの緊急度] データベースをリカバリするために必要な時間 の見積もりが表示されます。[再表示]をクリックするか[F5]キーを 押すと、[リカバリの緊急度]の値が更新されます。

• **[再表示]** クリックすると、チェックポイントの緊急度とリカ バリの緊急度の値が更新されます。

[**データベースの機能**] データベースの機能がリストされます。デー タベースで有効になっている機能の横には、緑色のチェック・マーク が表示されます。データベースで無効になっている機能の横には、赤 色の X マークが表示されます。

参照

◆ 『ASA SQL ユーザーズ・ガイド』>「データベースの編集」

◆ 『ASA データベース管理ガイド』>「データベース・レベルの プロパティ」

[データベース]プロパティ・シート: [詳細情報]タブ

[データベース]プロパティ・シートの[詳細情報]タブには、次の項 目があります。

[**データベースのプロパティ]リスト** データベースのプロパティの 名前と値がリストされます。[再表示]をクリックすると値が更新さ れます。[F5] キーを押しても、値を再表示できます。

[再表示] クリックすると、[データベースのプロパティ]リストの値が更新されます。

[説明] 選択されたプロパティの説明が表示されます。

- ◆ 『ASA SQL ユーザーズ・ガイド』>「データベースの編集」
- ◆ 『ASA データベース管理ガイド』>「データベース・レベルの プロパティ」

[データベース] プロパティ・シート : [SQL Remote] タブ

[データベース]プロパティ・シートの[SQL Remote] タブには、次の 項目があります。

[このデータベースにパブリッシャが存在する] データベースのパブ リッシャの名前を指定するときは、このオプションを選択します。こ のオプションを選択すると、以下の[パブリッシャ]フィールドが有 効になります。

[パブリッシャ] データベースのパブリッシャの名前を入力します。[変更]をクリックすると、[パブリッシャの設定]ダイアログでパブリッシャを選択できます。

[このリモート・データベースに対応する統合データベースが存在す る] データベースがリモート・データベースとして動作している場 合は、このオプションを選択します。

参照

- [統合ユーザ] [変更]をクリックすると、[統合ユーザの設定] ダイアログの使用可能な候補リストから統合ユーザを選択でき ます。
- [メッセージ・タイプ] パブリッシャと通信するためのメッ セージ・タイプをドロップダウン・リストから選択します。

SQL Remote でサポートされているメッセージ・タイプの詳細に ついては、『SQL Remote ユーザーズ・ガイド』>「メッセージ・ タイプの使用」を参照してください。

- [アドレス] 統合ユーザのリモート・アドレスを入力できます。
 このアドレスは、ユーザに対してレプリケーション・メッセージを送信するときの宛先です。指定したメッセージ・タイプに応じた文字列を入力します。
 - [送信して閉じる] Message Agent が1回の実行で保留中の すべてのメッセージを送信した後で停止するように、 『SQL Anywhere Studioの紹介』>「レプリケーションの頻 度」が設定されます。パブリッシャがメッセージを送信す る前に毎回 Message Agent を再起動する必要があります。 このオプションはリモート・サイト上で Message Agent を 実行する場合にのみ有用です。

ほとんどのレプリケーション設定では、統合パブリッシャ からリモート・グループにパブリケーションを送信する場 合、このオプションは使用されません。

- [次の間隔で送信] このオプションを選択すると、 Message Agent の実行を継続し、この統合ユーザに指定の 間隔でメッセージが送信されるようにレプリケーション頻 度が設定されます。このオプションは統合サイトでもリ モート・サイトでも有用です。
- [毎日次の時刻に送信] このオプションを選択すると、
 Message Agent の実行を継続し、毎日指定時刻にメッセージが送信されるようにレプリケーションの頻度が設定されます。

[**サブスクライバ**] このデータベースのパブリケーションに対してサ ブスクリプションを作成するリモート・ユーザの数が表示されます。 [**サブスクリプション**] データベースのパブリケーションに対するサ ブスクリプション数が表示されます。

[開始サブスクリプション] このデータベースで開始されたサブスク リプションの数が表示されます。

参照

- ◆ 『SQL Remote ユーザーズ・ガイド』> 「パブリケーションとサ ブスクリプション」
- ◆ 「[パブリッシャの設定]ダイアログ」186ページ
- ◆ 「「統合ユーザの設定」ダイアログ」184ページ

[データベース]プロパティ・シート:[プロファイリング]タブ

[データベース]プロパティ・シートの[プロファイリング]タブに は、次の項目があります。

[このデータベースでプロファイリングを可能にする] Adaptive Server Anywhere で、ストアド・プロシージャ、関数、イベント、ト リガの実行回数をモニタリングする場合は、このオプションを選択し ます。データベースのプロファイリング情報を使用すると、データ ベース内でのパフォーマンスを向上させるために微調整できるプロ シージャを決定できます。プロファイリング情報は Sybase Central の [プロファイリング]タブに表示されます。

[**すぐにリセット**] データベースについて収集したすべてのプロファ イリング・データを削除します。データベースでは、プロシージャ、 関数、イベント、トリガに関する新しいプロファイリング情報の収集 が即座に開始されます。

[**すぐにクリア**] このオプションを選択すると、データベースについ て収集したすべてのプロファイリング・データが削除され、プロファ イリングが終了します。このボタンは、プロファイリングが開始され ている場合にだけ有効になります。

参照

◆ 『ASA SQL ユーザーズ・ガイド』>「データベース・プロシー ジャのプロファイリング」

|DB 領域 | プロパティ・シート

[DB 領域]プロパティ・シートには[一般]タブだけがあります。

|DB 領域| プロパティ・シート: | 一般 | タブ

[DB 領域] プロパティ・シートの[一般] タブには、次の項目があり ます。

[名前] DB 領域の名前が表示されます。

[タイプ] オブジェクトのタイプが表示されます。

[ファイル名]『SQL Anywhere Studio の紹介』> 「DB 領域」が示す データベース・ファイルの名前が表示されます。新しい領域の場合 は、新しいファイル名を入力します。

[領域を事前に割り付ける] [DB 領域の事前割り付け]ダイアログが 表示されます。このダイアログでは、ページを追加することで、DB 領域に記憶領域を事前に割り付けできます。ページを追加すると、バ ルク・ロードのパフォーマンスが向上します。

参照

- 『ASA データベース管理ガイド』>「データベース・ファイル 用領域の事前割り付け」
- ◆ 「[DB 領域の事前割り付け]ダイアログ」180ページ

[ドメイン]プロパティ・シート

[ドメイン]プロパティ・シートには、[一般]と[検査制約]の2つのタブがあります。

|ドメイン|プロパティ・シート:|一般|タブ

[ドメイン]プロパティ・シートの[一般]タブには、次の項目があり ます。

- [名前] ドメインの名前が表示されます。
- [タイプ] オブジェクトのタイプが表示されます。

[作成者] ドメインを作成して所有するデータベース・ユーザが表示 されます。

[ベース・タイプ] ドメインの定義済みデータ型が表示されます。定 義済みデータ型にフォーマットがある場合は、組み込みタイプ名の後 に示されます。

[NULL 入力可] ドメインに基づくカラムで NULL が許可されるかど うかが表示されます。

[デフォルト値] ドメインのデフォルト値が表示されます。ドメイン にデフォルト値がない場合は、何も表示されません。このドメインに 基づくカラムはデフォルト値を継承しますが、後で上書きすることも できます。

◆『ASA SQL リファレンス・マニュアル』>「ドメイン」

|ドメイン|プロパティ・シート:|検査制約|タブ

[ドメイン]プロパティ・シートの[検査制約]タブには、次の項目が あります。

[このドメインには次の検査制約があります。] 1 つのカラムまたは 一連のカラムに特定の条件を定義してテーブルの『SQL Anywhere Studio の紹介』>「検査制約」を設定し、カラムに入力できる値を制 限できます。

たとえば、次のように入力すると、従業員の勤務開始日が特定の範囲 内かどうかを検査できます。

CHECK (start_date BETWEEN '1983/06/27' AND CURRENT DATE)

検査制約の詳細については、『ASA SQL ユーザーズ・ガイド』>「カ ラムに対する検査制約の使い方」を参照してください。

◆ 『ASA SQL ユーザーズ・ガイド』> 「ドメインの使い方」

◆ 『ASA SQL ユーザーズ・ガイド』> 「制約の選択」

[イベント] プロパティ・シート

[イベント]プロパティ・シートには、[一般]と[条件]の2つのタ ブがあります。

|イベント|プロパティ・シート:|一般|タブ

[イベント]プロパティ・シートの[一般]タブには、次の項目があり ます。

[名前] イベントの名前が表示されます。

[タイプ] オブジェクトのタイプが表示されます。

[**作成者**] イベントを作成して所有しているデータベース・ユーザが 表示されます。

[**有効化**] このオプションを選択すると、スケジュールされた時刻またはトリガ条件が発生したときにイベントが実行されます。

Sybase Central から手動でイベントをトリガするには、イベントを有効にしてください。

[**実行**] 以下のどのロケーションでイベントが実行されるかが表示されます。

- [すべてのデータベース] すべてのリモート・ロケーションで イベントを実行します。
- [統合データベース] SQL Remote レプリケーションに関連する データベースでは、統合データベースのみでイベントを実行し、 リモート・ロケーションでは実行しません。
- [リモート・データベース] SQL Remote レプリケーションに関 連するデータベースでは、リモート・データベースのみでイベ ントを実行し、統合データベースでは実行しません。

[コメント] イベントの説明を入力します。たとえば、システムにお けるそのイベントの目的を、この領域に記述できます。

◆ 『ASA SQL リファレンス・マニュアル』>「CREATE EVENT 文」

参照
- 『ASA データベース管理ガイド』>「スケジュールとイベントの使用によるタスクの自動化」
- ◆ 「[イベントのトリガ]ダイアログ」188ページ

|イベント|プロパティ・シート:|条件|タブ

[イベント]プロパティ・シートの[条件]タブには、次の項目があり ます。

[手動] 手動でトリガした場合のみイベントを実行します。

[次のスケジュールに従う] 定義したスケジュールに従ってイベント を実行します。

- [新規] [スケジュールの作成]ダイアログが表示されます。このダイアログでは、イベントの新しいスケジュールを作成できます。
- [編集] [スケジュールの編集]ダイアログが表示されます。このダイアログでは、既存のスケジュールを変更できます。
- [**削除**] リストからスケジュールを削除して、イベントがその スケジュールに従って実行されないようにします。

[次のことが発生した場合]環境または条件が一致した場合にイベントを実行します。

[システム・イベント] イベントをトリガするために発生する
 必要のあるシステム・イベントを選択します。

システム・イベントの詳細については、『ASA データベース管理 ガイド』>「システム・イベントの選択」を参照してください。

[および次のトリガ条件に一致した場合] システム・イベントの他に、イベントをトリガするために満たす必要があるトリガ条件を設定します。

トリガ条件の詳細については、『ASA データベース管理ガイド』 > 「イベントのトリガ条件の定義」を参照してください。

- [新規] [トリガ条件の作成]ダイアログが表示されます。 このダイアログでは、イベントの新しいトリガ条件を作成 できます。
- [編集] [トリガ条件の編集]ダイアログが表示されます。 このダイアログでは、既存のトリガ条件を変更できます。
- [**削除**] リストからトリガ条件を削除して、イベントがそのトリガ条件に基づいて実行されないようにします。
- ◆ 『ASA SQL リファレンス・マニュアル』>「CREATE EVENT 文」
- 『ASA データベース管理ガイド』>「スケジュールとイベントの使用によるタスクの自動化」

|外部ログイン|プロパティ・シート

[外部ログイン]プロパティ・シートには、[一般]タブだけがありま す。

[外部ログイン] プロパティ・シート:[一般]タブ

[外部ログイン]プロパティ・シートの[一般]タブには、次の項目が あります。

[名前] 外部ログインの名前が表示されます。

[タイプ] オブジェクトのタイプが表示されます。

[**リモート・サーバ**] 外部ログインを使って通信するリモート・サー バの名前が表示されます。

[**ユーザ**] 外部ログインの対象データベース・ユーザの名前が表示されます。

[ログイン名] リモート・サーバ上のログイン名が表示されます。

参照

参照

- ◆ 『ASA SQL ユーザーズ・ガイド』> 「外部ログインの使用」
- ◆ 『ASA SQL リファレンス・マニュアル』>「CREATE EXTERNLOGIN 文」

[外部キー] プロパティ・シート

[外部キー]プロパティ・シートには、[一般]と[カラム]の2つの タブがあります。

参照 ◆ 『ASA SQL ユーザーズ・ガイド』> 「外部キーの管理」

[外部キー]プロパティ・シート:[一般]タブ

[外部キー]プロパティ・シートの[一般]タブには、次の項目があります。

[名前]『SQL Anywhere Studio の紹介』>「外部キー」の名前が表示 されます。このフィールドで外部キーの名前を変更できます。

[タイプ] オブジェクトのタイプが表示されます。

[**外部テーブル**] 外部キーが含まれるテーブルの名前の他に、テーブ ルの所有者が表示されます。

[**プライマリ・テーブル**] この外部キーに関連付けられたプライマ リ・キーを含むテーブルが表示されます。

[コミット時にチェック] データベースの COMMIT が完了するまで 待機してからこの外部キーの整合性をチェックし、

WAIT_FOR_COMMIT データベース・オプションの設定を上書きする ようにします。

[NULL 入力可] 外部キー・カラムに NULL 値を入力できるかどうか を決定します。このオプションを使用するには、すべての外部キー・ カラムの [NULL 入力可]を[はい]に設定してください。

[変更][設定の変更]ダイアログが表示されます。ここで、
 このプライマリ・キーの設定を変更できます。

[**更新アクション**] 次のいずれかの設定を使用して、ユーザがデータ を更新しようとしたときのテーブルの動作を定義します。

• [使用不可] 対応する外部キーがない場合は、関連するプライ マリ・テーブルのプライマリ・キーの値を更新できないように します。

- [カスケード] 関連するプライマリ・キーの新しい値と一致す るように、外部キーを更新します。
- [NULL に設定] 関連するプライマリ・テーブルの更新されたプ ライマリ・キーに対応する外部キー値を、すべて NULL に設定 します。

このオプションを使用するには、すべての外部キー・カラムの [NULL 入力可]を[はい]に設定してください。

 [デフォルトに設定] 更新または削除されたプライマリ・キー 値に一致する外部キーの値を、それぞれの外部キー・カラムの DEFAULT 句で指定した値に設定します。このオプションを使用 するには、すべての外部キー・カラムにデフォルト値を設定し てください。

[**削除アクション**] 次のいずれかの設定を使用して、ユーザがデータ を削除しようとしたときのテーブルの動作を定義します。

- [使用不可] テーブルに対応する外部キーがない場合は、関連 するプライマリ・テーブルのプライマリ・キーの値を削除でき ないようにします。
- [カスケード] 関連するプライマリ・テーブルで削除されたプ ライマリ・キーと一致するローをこのテーブルから削除します。
- [値を NULL に設定] 関連するプライマリ・テーブルで削除されたプライマリ・キーに対応するこのテーブルの外部キー値を すべて NULL に設定します。

このオプションを使用するには、すべての外部キー・カラムの [NULL 入力可]を[はい]に設定してください。

 [デフォルトに設定] 更新または削除されたプライマリ・キー 値に一致する外部キーの値を、それぞれの外部キー・カラムの DEFAULT 句で指定した値に設定します。このオプションを使用 するには、すべての外部キー・カラムにデフォルト値を設定し てください。 [クラスタード] プライマリ・テーブルまたは外部テーブルがクラス タード・インデックスを使用するかどうかが表示されます。クラス タード・インデックスは、バージョン 8.0.2 以降の Adaptive Server Anywhere データベースでサポートされます。

Adaptive Server Anywhere のクラスタード・インデックスには、対応す るインデックス内とほぼ同じ順番でテーブル・ローが格納されます。 クラスタード・インデックスを使用するとパフォーマンスが向上する 可能性がありますが、これは、各ページのメモリへの読み込み回数が 少なくてすむためです。特定のテーブル上のインデックスのうち、ク ラスタード・インデックスにできるのは1つだけです。

クラスタード・インデックスの詳細については、『ASA SQL リファレ ンス・マニュアル』>「CREATE INDEX 文」を参照してください。

[すぐにクラスタード・インデックスを設定][クラスタード・インデックスの設定]ダイアログが開きます。このダイアログでは、プライマリ・テーブルまたは外部テーブル上の特定のインデックスをクラスタード・インデックスとして指定できます。

[インデックス・タイプ] テーブルに含まれるインデックスのタイプ が表示されます。

インデックスの詳細については、『ASA SQL ユーザーズ・ガイド』> 「インデックス」を参照してください。

[最大ハッシュ・サイズ] この情報は、Adaptive Server Anywhere 7 以 前で作成されたデータベースに対してのみ表示されます。ハッシュ・ サイズは、インデックスに値が格納されるときに使われるバイト数で す。

Adaptive Server Anywhere バージョン 6、7 のデータベースは、ハッ シュ・サイズ 10 の標準 B ツリー・インデックスを使用します。

[**コメント**] 外部キーの説明を入力します。たとえば、システムにお けるその外部キーの目的を、この領域に記述できます。

- ◆ 『ASA SQL ユーザーズ・ガイド』>「外部キーの管理」
- ◆ 『ASA SQL ユーザーズ・ガイド』> 「データ整合性の確保」
- ◆「[クラスタード・インデックスの設定]ダイアログ」184ページ

参照

◆ 「[設定の変更]ダイアログ」163ページ

[外部キー] プロパティ・シート:[カラム]タブ

[外部キー]プロパティ・シートの[カラム]タブには、次の項目があ ります。

[**外部カラム**] リスト プライマリ・キーを参照している外部テーブ ル内のカラムが表示されます。

[プライマリ・カラム]リスト 外部キーが参照している『SQL Anywhere Studio の紹介』>「プライマリ・キー」を含むカラムが表示 されます。

- [詳細][カラムの詳細]ダイアログが表示され、選択された カラムのプロパティの概要が表示されます。
- 参照 ◆ 『ASA SQL ユーザーズ・ガイド』> 「外部キーの管理」

[ファンクション]プロパティ・シート

[ファンクション]プロパティ・シートには、[一般]、 [パラメータ]、[パーミッション]の3つのタブがあります。ほとんど の場合、プロシージャという語は、ユーザ定義プロシージャとユーザ 定義ファンクションの*両方*を意味します。

[ファンクション]プロパティ・シート:[一般]タブ

[ファンクション]プロパティ・シートの[一般]タブには、次の項目 があります。

- **|名前|** ファンクションの名前が表示されます。
- [タイプ] オブジェクトのタイプが表示されます。

[**所有者**] ファンクションを作成して所有するデータベース・ユーザの名前が表示されます。

[構文] 最後に保存されたコードの SQL 構文が表示されます。構文 は Watcom-SQL または Transact-SQL のどちらかです。

[コメント] ファンクションの説明を入力します。たとえば、システムにおけるそのファンクションの目的を、この領域に記述できます。

◆ 『ASA SQL リファレンス・マニュアル』> 「関数のタイプ」

◆ 『ASA SQL リファレンス・マニュアル』>「CREATE PROCEDURE 文」

|ファンクション|プロパティ・シート:|パラメータ|タブ

[ファンクション]プロパティ・シートの[パラメータ]タブには、次 の項目があります。

[パラメータ]リスト ファンクションのパラメータの名前、データ型、パラメータ・タイプ、モードが表示されます。モードの値は次の いずれかです。

- [入力] このパラメータは、ファンクションに値を与える式です。
- [出力] このパラメータは、ファンクションから値を受け取る ことがある変数です。
- [入出力] このパラメータは、ファンクションに値を与え、 ファンクションから新しい値を受け取ることがある変数です。

参照

参照

- ◆ 『ASA SQL ユーザーズ・ガイド』>「プロシージャ・パラメー タの宣言」
- ◆ 『ASA SQL ユーザーズ・ガイド』> 「プロシージャ、トリガ、 バッチの使用」
- ◆ 『ASA SQL リファレンス・マニュアル』>「CREATE PROCEDURE 文」

|ファンクション|プロパティ・シート:|パーミッション|タブ

[ファンクション]プロパティ・シートの[パーミッション]タブに は、次の項目があります。 [ユーザ]リスト このファンクションに対するパーミッションを持 つユーザがリストされます。リストにユーザを追加する場合は、[付 与]をクリックします。ユーザのパーミッションを削除するには、 ユーザを選択して、[取り消し]をクリックします。[Shift]キーを押 したままでクリックすると複数のユーザを選択できます。

各ユーザの横にある[実行]フィールドをクリックすると、パーミッションの付与または取り消しができます。

- [付与] [パーミッション付与]ダイアログが表示されます。このダイアログでは、他のユーザまたはグループにファンクションのパーミッションを付与できます。
- [取り消し] ユーザまたはグループからファンクションのパー ミッションを取り消し、[ユーザ]リストからそのユーザを削除 します。
- 参照 ◆ 『ASA データベース管理ガイド』>「プロシージャに対する パーミッションの付与」
 - ◆「[パーミッション付与]ダイアログ」175ページ

[グループ] プロパティ・シート

[グループ]プロパティ・シートには、[一般]、[権限]、[パーミッション]の3つのタブがあります。

参照

- ◆ 『ASA データベース管理ガイド』>「ユーザ ID とパーミッ ションの管理」
- ◆ 『ASA データベース管理ガイド』>「REMOTE パーミッションの付与と取り消し」

[グループ]プロパティ・シート:[一般]タブ

[グループ]プロパティ・シートの[一般]タブには、次の項目があります。

[名前] グループの名前が表示されます。

[[]タイプ] オブジェクトのタイプが表示されます。

[接続可] このオプションを選択すると、グループがデータベースに 接続できます。グループが接続を許可されないと、パスワード(指定 されている場合)はアカウントから削除されます。グループの接続を 許可するように後で変更する場合は、新しいパスワードを指定する必 要があります。このオプションをクリアすると、[パスワード]オプ ションと[パスワードの確認]オプションが無効になります。

ユーザは、ほとんどの場合、接続を許可されます。グループの場合 は、このオプションをオフにすると、グループ・アカウントを使って データベースに接続できなくなります。

- [パスワード] グループのパスワードを入力します。セキュリ ティを強化するため、入力した文字はアスタリスクで表示され ます。
- [パスワードの確認] [パスワード] テキスト・ボックスに入力 したパスワードをもう一度入力して確認します。2つのフィール ドの内容は、完全に一致している必要があります。

[コメント] グループの説明を入力します。たとえば、システムにお けるそのグループの目的を、この領域に記述できます。

参照

- ◆ 『ASA データベース管理ガイド』> 「グループの作成」
- ◆ 『ASA データベース管理ガイド』>「ユーザ ID とパーミッ ションの管理」

[グループ]プロパティ・シート:[権限]タブ

[グループ]プロパティ・シートの[権限]タブには、次の項目があります。

[DBA] グループに DBA 権限を付与します。DBA 権限を持つグルー プは、データベースを完全に管理できます。

[リソース] グループに RESOURCE 権限を付与します。RESOURCE 権限を持つグループは、データベース・オブジェクトを作成できます。

[リモート DBA] グループに REMOTE DBA 権限を付与します。この タイプの権限を持つユーザ ID を使用して、セキュリティ・ホールを 作らずにアクションを確実に実行できるように SQL Remote Message Agent を実行する必要があります。Mobile Link クライアント・ユー ティリティの dbmlsync でも REMOTE DBA 権限が必要です。

参照

◆ 『ASA データベース管理ガイド』>「グループのパーミッショ ン」

[グループ]プロパティ・シート:[パーミッション]タブ

[グループ]プロパティ・シートの[パーミッション]タブには、次の 項目があります。

[パーミッション] リスト グループがパーミッションを持っている すべてのテーブルの他に、各テーブルを所有するユーザが表示されま す。各グループの横に表示されるフィールドをクリックすると、パー ミッションの付与または取り消しができます。フィールドをダブルク リックすると(チェック・マークと2つの+記号が表示される)、グ ループにパーミッションの付与オプションを与えることができます。

[表示] [パーミッション]リストに表示するオブジェクトのタイプ を選択します。

[**テーブル**] グループがパーミッションを持っているすべてのテーブ ル。

[ビュー] グループがパーミッションを持っているすべてのビュー。

[プロシージャとファンクション] グループがパーミッションを持っ ているすべてのプロシージャとファンクション。プロシージャとファ ンクションに対して付与できるのは EXECUTE パーミッションだけで す。

参照

◆ 『ASA データベース管理ガイド』>「グループの作成」

|インデックス|プロパティ・シート

[インデックス]プロパティ・シートには、[一般]と[カラム]の2 つのタブがあります。

|インデックス|プロパティ・シート:|一般|タブ

[インデックス]プロパティ・シートの[一般]タブには、次の項目が あります。

[名前] インデックスの名前が表示されます。

[タイプ] オブジェクトのタイプが表示されます。

[**テーブル**] インデックスが関連付けられているテーブルの名前と所 有者が表示されます。

[DB 領域] 『SQL Anywhere Studio の紹介』>「DB 領域」が格納され ているデータベース・ファイルまたは『SQL Anywhere Studio の紹介』 >「インデックス」が表示されます。

[**ユニーク**] インデックスの値がユニークである必要があるかどうか が示されます。新しいインデックスを作成すると、ユニークな値が設 定されます。

[**クラスタード**] このインデックスがクラスタード・インデックスで あるかどうかが表示されます。クラスタード・インデックスは、バー ジョン 8.0.2 以降の Adaptive Server Anywhere データベースでサポート されます。

Adaptive Server Anywhere のクラスタード・インデックスには、対応するインデックス内とほぼ同じ順番でテーブル・ローが格納されます。 クラスタード・インデックスを使用するとパフォーマンスが向上する可能性がありますが、これは、各ページのメモリへの読み込み回数が少なくてすむためです。特定のテーブル上のインデックスのうち、クラスタード・インデックスにできるのは1つだけです。

クラスタード・インデックスの詳細については、『ASA SQL リファレ ンス・マニュアル』>「CREATE INDEX 文」を参照してください。

[すぐにクラスタード・インデックスを設定][クラスタード・インデックスの設定]ダイアログが開きます。このダイアログでは、このインデックスをクラスタード・インデックスとして指定できます。

[インデックス・タイプ] テーブルに含まれるインデックスのタイプ が表示されます。 [最大ハッシュ・サイズ] この情報は、Adaptive Server Anywhere 7 以 前で作成されたデータベースに対してのみ表示されます。ハッシュ・ サイズは、インデックスに値が格納されるときに使われるバイト数で す。

インデックスの詳細については、『ASA SQL ユーザーズ・ガイド』> 「インデックス」を参照してください。

Adaptive Server Anywhere バージョン 6、7 のデータベースは、ハッ シュ・サイズ 10 の標準 B ツリー・インデックスを使用します。

[コメント] インデックスの説明を入力します。たとえば、システム におけるそのインデックスの目的を、この領域に記述できます。

参照

- ◆ 『ASA SQL ユーザーズ・ガイド』> 「インデックス」
- ◆ 『ASA SQL リファレンス・マニュアル』>「CREATE INDEX 文」

|インデックス|プロパティ・シート:|カラム|タブ

[インデックス]プロパティ・シートの[カラム]タブには、次の項目 があります。

[カラム]リスト インデックスのすべてのカラムの他に、その順序 (昇順または降順)が表示されます。順序は、新しいインデックスを作 成するときに設定します。

カラムは、0から始まるユニークな数値の順にソートされます。数値 の順序がインデックス内のカラムの相対的な位置を決定します。

- [詳細] [カラムの詳細]ダイアログが表示され、選択されたカ ラムのプロパティの概要が表示されます。
 - ◆ 『ASA SQL ユーザーズ・ガイド』> 「インデックス」
 - ◆ 『ASA SQL ユーザーズ・ガイド』>「インデックスの編集」
 - ◆ 『ASA SQL リファレンス・マニュアル』>「CREATE INDEX 文」

参照

[統合化ログイン] プロパティ・シート

[統合化ログイン]プロパティ・シートには、[一般]タブだけがあり ます。

[統合化ログイン]プロパティ・シート:[一般]タブ

[統合化ログイン]プロパティ・シートの[一般]タブには、次の項目 があります。

|名前| 統合化ログインの名前が表示されます。

[タイプ] オブジェクトのタイプが表示されます。

[**データベース・ユーザ**] この統合化ログインが対象とするデータ ベース・ユーザが表示されます。

[コメント] この統合化ログインの説明を入力します。たとえば、シ ステムにおけるその統合化ログインの目的を、この領域に記述できま す。

◆ 『ASA データベース管理ガイド』>「統合化ログインの使用方法」

[JAR ファイル] プロパティ・シート

[JAR ファイル] プロパティ・シートには、[一般] タブだけがありま す。

[JAR ファイル] プロパティ・シート:[一般]タブ

[JAR ファイル] プロパティ・シートの[一般] タブには、次の項目が あります。

[名前] JAR ファイルの名前が表示されます。

[タイプ] オブジェクトのタイプが表示されます。

[作成者] JAR ファイルを作成して所有しているデータベース・ユー ザが表示されます。

[作成日付] JAR ファイルが作成された日付が表示されます。

[修正日付] JAR ファイルが最後に変更された日付が表示されます。

[**コメント**] JAR ファイルの説明を入力します。たとえば、システム におけるその JAR ファイルの目的を、この領域に記述できます。

[**すぐに更新**] [JAR ファイルの更新]ダイアログが表示されます。こ のダイアログでは、JAR ファイルを更新できます。

Java クラスの更新の詳細については、『ASA プログラミング・ガイ ド』>「クラスと Jar の更新」を参照してください。

[Java クラス] プロパティ・シート

[Java クラス] プロパティ・シートには[一般] タブだけがあります。

[Java クラス] プロパティ・シート: [一般] タブ

[Java クラス] プロパティ・シートの [一般] タブには、次の項目があ ります。

[名前] Java クラスの名前が表示されます。

[タイプ] オブジェクトのタイプが表示されます。

[作成者] Java クラスを作成したデータベース・ユーザが表示されま す。

[JAR ファイル] Java クラスがある JAR ファイルの名前が表示され ます。Java クラスは JAR ファイル内に存在する必要はありません。

[作成日付] JAR ファイルが作成された日付が表示されます。

[修正日付] JAR ファイルが最後に変更された日付が表示されます。

[コメント] この Java クラスの説明を入力します。たとえば、シス テムにおけるその Java クラスの目的を、この領域に記述できます。

[**すぐに更新**] [Java クラスの更新]ダイアログが表示されます。この ダイアログでは、Java クラスを更新できます。

Java クラスの更新の詳細については、『ASA プログラミング・ガイ ド』> 「クラスと Jar の更新」を参照してください。

[メッセージ・タイプ]プロパティ・シート

[メッセージ・タイプ]プロパティ・シートには、[一般]と[SQL Remote ユーザ]の2つのタブがあります。

[メッセージ・タイプ] プロパティ・シート:[一般]タブ

[メッセージ・タイプ]プロパティ・シートの[一般]タブには、次の 項目があります。

[名前] メッセージ・タイプの名前が表示されます。

[**タイプ**] オブジェクトのタイプが表示されます。

[パブリッシャ・アドレス] 『SQL Anywhere Studio の紹介』>「パブ リッシャ」のアドレスを入力します。各『SQL Anywhere Studio の紹 介』>「リモート・データベース」は『SQL Anywhere Studio の紹介』> 「レプリケーション・メッセージ」をそのアドレスの『SQL Anywhere Studio の紹介』>「統合データベース」に送り返します。

[コメント] メッセージ・タイプの説明を入力します。たとえば、シ ステムにおけるそのメッセージ・タイプの目的を、この領域に記述で きます。

参照

◆ 『SQL Remote ユーザーズ・ガイド』> 「メッセージ・タイプの 使用」

[メッセージ・タイプ] プロパティ・シート : [SQL Remote ユーザ] タブ

[メッセージ・タイプ]プロパティ・シートの[SQL Remote ユーザ] タブには、次の項目があります。

[**リモート・ユーザ**]**リスト** この『SQL Anywhere Studioの紹介』> 「メッセージ・タイプ」を現在使用しているすべてのリモート・ユー ザの名前、アドレス、コメントをリストします。

[**プロパティ**] [リモート・ユーザ]リストで選択したリモート・ ユーザのプロパティ・シートが表示されます。

参照 ◆ 『SQL Remote ユーザーズ・ガイド』> 「メッセージ・タイプの 使用」

[Mobile Link ユーザ] プロパティ・シート

[Mobile Link ユーザ]プロパティ・シートには、[一般]、[接続]、 [拡張オプション]の3つのタブがあります。

[Mobile Link ユーザ] プロパティ・シート:[一般]タブ

[Mobile Link ユーザ] プロパティ・シートの [一般] タブには、次の項 目があります。

[名前] Mobile Link ユーザの名前が表示されます。

[タイプ] オブジェクトのタイプが表示されます。

参照

◆ 『Mobile Link クライアント』> 「Mobile Link ユーザの概要」

[Mobile Link ユーザ] プロパティ・シート:[接続]タブ

[Mobile Link ユーザ] プロパティ・シートの [接続] タブには、次の項 目があります。

[**プロトコル**] 同期に使用する通信プロトコルを指定します。デフォルトでは TCP/IP が使用されます。

[接続]タブで指定できる設定は、使用する通信プロトコルによって 決まります。buffer_size などの追加パラメータは、[詳細]フィールド で設定できます。

パラメータの完全なリストについては、『ASA SQL リファレンス・マ ニュアル』>「CREATE SYNCHRONIZATION USER 文 [Mobile Link]」 または 『Mobile Link クライアント』>「CommunicationType (ctp) 拡張 オプション」を参照してください。

- [TCP/IP] このオプションを選択すると、同期に TCP/IP プロト コルを使用します。TCP/IP は、楕円曲線 (以前の Certicom) 暗号 化と RSA 暗号化の両方をサポートしています。
- [HTTP] このオプションを選択すると、同期に HTTP プロトコ ルを使用します。HTTP は、楕円曲線(以前の Certicom) 暗号化 と RSA 暗号化の両方をサポートしています。
- [HTTPS] このオプションを選択すると、同期に HTTPS プロト コルを使用します。HTTPS プロトコルでは、RSA 暗号化だけを 使用できます。
- [HTTPS FIPS] このオプションを選択すると、同期に HTTPS_FIPS プロトコルを使用します。
- [ActiveSync] このオプションを選択すると、ActiveSync を使用 して ActiveSync 用 Mobile Link プロバイダとデータを交換しま す。このプロバイダは、デスクトップ・マシンに常駐していま す。ActiveSync パラメータでは、ActiveSync 用 Mobile Link プロ バイダと Mobile Link 同期サーバ間の通信を記述します。

詳細については、『Mobile Link クライアント』> 「ActiveSync プ ロバイダ・インストール・ユーティリティ」を参照してくださ い。

[**ホスト**] Mobile Link 同期サーバを実行するマシンの IP 番号または ホスト名。デフォルト値は localhost です。同期サーバがクライアント と同じマシンで稼働している場合は、localhost を使用できます。 Windows CE では、デフォルト値はレジストリ・フォルダ *Comm¥Tcpip¥Hosts¥ppp_peer*の*ipaddr*の値です。このため、Windows CE デバイスは、このデバイスのクレードルが接続されているデスク トップ・マシンで実行されている Mobile Link 同期サーバに接続でき ます。

Palm Computing Platform の場合は、localhost のデフォルト値がデバイ スを指します。ホスト名や IP アドレスを明示的に指定することをお すすめします。

【ポート】 Mobile Link 同期サーバは、特定のポートで通信を行います。デフォルトのポート番号は、TCP/IP では 2439、HTTPでは 80、HTTPSでは 443 です。異なる値を選択する場合、指定したポートで受信を行うように Mobile Link 同期サーバを設定してください。

[プロキシ・ホスト] プロキシ・サーバのホスト名または IP アドレ スを入力します。デフォルト値は localhost です。このオプションは、 HTTP 同期と HTTPS 同期でのみ使用できます。

[プロキシ・ポート] プロキシ・サーバのポート番号を入力します。デフォルト値は、HTTPの場合は80、HTTPSの場合は443です。このオプションは、HTTP同期とHTTPS同期でのみ使用できます。

[URL サフィックス] 各 HTTP 要求の1行目の URL に追加するサ フィックスを入力します。デフォルト値は MobiLink です。このオプ ションは、HTTP 同期と HTTPS 同期でのみ使用できます。

プロキシ・サーバを通じて同期するときは、Mobile Link 同期サーバ を見つけるためにサフィックスが必要な場合があります。

 [HTTP バージョン] 同期に使用する HTTP のバージョンを指定 する値を入力します。1.0 または 1.1 を選択できます。デフォル ト値は 1.1 です。

[自動接続] 以下のオプションを使用すると、Pocket PC 2002 または Windows デスクトップ・コンピュータで稼働している Mobile Link ク ライアントがダイヤルアップ・ネットワーク接続を介して接続できる ようになります。 スケジュールを使用している場合は、リモート・デバイスを自動的に 同期できます。スケジュールを使用していない場合は、接続を手動で ダイヤルすることなく dbmlsync を実行できます。

スケジュールの詳細については、『Mobile Link クライアント』>「同 期のスケジュール」を参照してください。

[ネットワーク名] ネットワーク名を指定して、Mobile Link の自動 ダイヤル機能を使用できるようにします。これによって、手動でダイ ヤルすることなく Pocket PC 2002 または Windows デスクトップ・コン ピュータから接続できます。この名前は、[設定]-[接続]-[接続](Pocket PC)または[ネットワークとダイヤルアップ接続] (Windows)のドロップダウン・リストで指定したネットワーク名にし てください。

[ネットワーク接続のタイムアウト] ネットワーク名を指定するとき に、ダイヤルアップに失敗した後のタイムアウトをオプションで指定 できます。この機能は、Pocket PC 2002 にのみ適用されます (Windows では、接続プロファイルを設定することによってこの機能を制御でき ます)。デフォルトは 120 秒です。

[**開いたままにする**] ネットワーク名を指定するときに、同期の完了 後に接続を開いたままにする (1) か、接続を閉じる (0) かをオプショ ンで指定できます。デフォルトでは、接続が閉じられます。

[セキュリティ] これらのオプションでは、暗号パッケージ・プログ ラムを使用して、この接続を介するすべての通信を暗号化できます。 楕円曲線暗号化と RSA 暗号化の両方に対して、サーバの認証に使用 する証明書についての情報を以下のフィールドに指定できます。

[Certicom セキュリティを有効にする] このオプションを選択する と、この接続を介するすべての通信が暗号化されます。楕円曲線暗号 化または RSA 暗号化を使用できます。デフォルトでは、楕円曲線が 使用されます。

別途ライセンスを取得できるオプションが必要

トランスポート層のセキュリティには、別途ライセンスの SQL Anywhere Studio セキュリティ・オプションを入手する必要がありま す。このセキュリティ・オプションは輸出規制の対象となります。 このコンポーネントを注文するには、『SQL Anywhere Studioの紹介』>「別途ライセンスが入手可能なコンポーネント」を参照してください。

セキュリティの詳細については、『Mobile Link 管理ガイド』>「Mobile Link トランスポート・レイヤ・セキュリティ」を参照してください。

- [楕円曲線暗号] 楕円曲線暗号化を使用して、接続を暗号化し ます。この暗号化を使用すると、TCP/IP 接続と HTTP 接続を暗 号化できます。この暗号化は、以前は Certicom 暗号化と呼ばれ ていました。
- [RSA] RSA 暗号化を使用して、すべての接続を暗号化します。
 この暗号化を使用すると、TCP/IP、HTTP、HTTPS の各接続を
 暗号化できます。
- [RSA FIPS] RSA FIPS 暗号化を使用して、すべての接続を暗号 化します。この暗号化を使用すると、TCP/IP プロトコルと HTTP FIPS プロトコルを介した通信を暗号化できます。
 - [証明書に記載される会社] 証明書を発行した認証局の名 前を入力します。サーバ側とクライアント側の値を一致さ せる必要があります。
 - [証明書に記載される部署] 証明書に記載されている部署 を入力します。これは組織単位とも呼ばれます。サーバ側 とクライアント側の値を一致させる必要があります。
 - [証明書に記載される名前] 証明書の通称を入力します。 サーバ側とクライアント側の値を一致させる必要がありま す。
 - [信頼できる証明書] クライアントがサーバを認証するために使用する証明書ファイルの名前を入力します。

[詳細] このフィールドには、パラメータ = 値の形式で追加の接続パ ラメータを入力します。複数のパラメータを入力する場合はセミコロ ンで区切ります。たとえば、内容が固定長であるメッセージの本文の 最大サイズを設定し、同期のすべての HTTP 要求に同じ TCP/IP 接続 を使用するようクライアントに指示するには、[詳細]フィールドに 次のように入力します。

buffer_size=58000;persistent=TRUE

このフィールドに入力できる接続パラメータの完全なリストについて は、『ASA SQL リファレンス・マニュアル』>「CREATE SYNCHRONIZATION USER 文 [Mobile Link]」を参照してください。

注意 同期の接続パラメータを設定する方法は複数あります。

競合するオプションを dbmlsync で解決する方法の詳細については、 『Mobile Link クライアント』> 「拡張オプションと接続パラメータの 優先順位」を参照してください。

[Mobile Link ユーザ]プロパティ・シートの[接続]タブの1つの フィールドが空白の場合、Mobile Link ユーザは同期サブスクリプ ションの接続パラメータ設定を継承することがあります。パブリケー ションの設定を上書きする場合にのみ、Mobile Link の[ユーザ]プロ パティ・シートの[接続]タブで接続パラメータを指定してください。

参照

- ◆ 『ASA SQL リファレンス・マニュアル』>「CREATE SYNCHRONIZATION USER 文 [Mobile Link]」
- ◆ 『ASA SQL リファレンス・マニュアル』>「ALTER SYNCHRONIZATION USER 文 [Mobile Link]」
- ◆ 『Mobile Link クライアント』> 「dbmlsync 拡張オプション」
- ◆ 『Mobile Link クライアント』> 「-eu オプション」
- ◆ 『Mobile Link クライアント』> 「CommunicationAddress (adr) 拡 張オプション」

[Mobile Link ユーザ] プロパティ・シート : [拡張オプション] タブ

[Mobile Link ユーザ]プロパティ・シートの[拡張オプション]タブに は、次の項目があります。

[この Mobile Link ユーザには次の拡張オプションがあります。] Mobile Link ユーザに対して設定されている拡張オプションとその値 がリストされます。Mobile Link ユーザの値を設定するには、オプ ション名の横にある[値]フィールドをクリックします。

同期で使用できるすべての拡張オプションを次の表に示します。

これらのオプションの詳細については、『Mobile Link クライアント』> 「dbmlsync 拡張オプション」を参照してください。

拡張オプション	デフォルト	説明
『Mobile Link クライアント』 > 「ConflictRetries (cr) 拡張 オプション」	-1 (無限に継 続)	競合のためにダウンロードが 失敗した場合のリトライの回 数を指定する。
『Mobile Link クライアント』 > 「ContinueDownload (cd) 拡張オプション」	OFF	再起動可能なダウンロードを 指定します。
『Mobile Link クライアント』 > 「DisablePolling (p) 拡張オ プション」	OFF	ログスキャンの自動ポーリン グを無効にする。
『Mobile Link クライアント』 > 「DownloadBufferSize (dbs) 拡張オプション」	Windows CE で は 32 K、その 他のオペレー ティング・シ ステムでは 1 M	ダウンロード・バッファのサ イズを指定する。 デフォルトでは、単位として バイトが使用される。キロバ イトまたはメガバイトの単位 を指定するには、それぞれサ フィックスk、mを使用する。
『Mobile Link クライアント』 > 「DownloadOnly (ds) 拡張 オプション」	OFF	ダウンロードのみが同期され るように指定する。
『Mobile Link クライアント』 > 「DownloadReadSize (drs) 拡張オプション」	32 K	再起動可能なダウンロードに ついて、通信障害の後、再送 する必要があるデータ量の最 大値を指定します。

拡張オプション	デフォルト	説明
『Mobile Link クライアント』 >「ErrorLogSendLimit (el) 拡張オプション」	32 K	同期時に dbmlsync からサーバ に送信するリモート・ログ・ ファイルのサイズを指定する。
		デフォルトでは、単位として バイトが使用される。キロバ イトまたはメガバイトの単位 を指定するには、それぞれサ フィックスk、mを使用する。 dbmlsyncの出力ログ・メッ セージを送信しない場合は、 この拡張オプションを値0に 設定する必要がある。
『Mobile Link クライアント』 > 「FireTriggers (ft) 拡張オプ ション」	ON	ダウンロードが適用されたと きにリモート・データベース でトリガがオンになるように 指定する。
『Mobile Link クライアント』 > 「HoverRescanThreshold (hrt) 拡張オプション」	1 M	これによって、スケジュール 使用時の、再スキャンの実行 までに累積可能な廃棄メモリ 量が制限される。
		デフォルトでは、単位として バイトが使用される。キロバ イトまたはメガバイトの単位 を指定するには、それぞれサ フィックス k、m を使用する。
『Mobile Link クライアント』 > 「IgnoreHookErrors (eh) 拡 張オプション」	OFF	フック関数内で発生したエ ラーを無視するように指定す る。
『Mobile Link クライアント』 > 「IgnoreScheduling (isc) 拡 張オプション」	OFF	スケジュール設定を無視する ように指定する。

拡張オプション	デフォルト	説明
『Mobile Link クライアント > 「Increment (inc) 拡張オ ジョン」	』 (無限) プ	インクリメンタル・アップ ロードのサイズを制御する。 デフォルトでは、単位として バイトが使用される。キロバ イトまたはメガバイトの単位 を指定するには、それぞれサ フィックスk、mを使用する。
『Mobile Link クライアント > 「LockTables (lt) 拡張オコ ション」	Ĵ ON プ	アーティクル(同期対象パブ リケーション内のテーブルま たはテーブルの一部)をロッ クしてから同期を実行するよ うに指定する。
『Mobile Link クライアント > 「Memory (mem) 拡張オ ション」	』 1 M	キャッシュ・サイズを指定す る。 デフォルトでは、単位として バイトが使用される。キロバ イトまたはメガバイトの単位 を指定するには、それぞれサ フィックスk、mを使用する。
『Mobile Link クライアント >「MirrorLogDirectory (mlo 拡張オプション」	」(なし) d)	古いミラー・ログ・ファイル を削除できるように、そのロ ケーションを指定する。
『Mobile Link クライアント > 「MobiLinkPwd (mp) 拡張 オプション」	』 NULL 長	Mobile Link パスワードを指定 する。
『Mobile Link クライアント > 「NewMobiLinkPwd (mn) 拡張オプション」) NULL	新しい Mobile Link パスワード を指定する。
『Mobile Link クライアント > 「OfflineDirectory (dir) 扐 張オプション」	J NULL	オフライン・トランザクショ ンのログを含むパスを指定す る。

拡張オプション	デフォルト	説明
『Mobile Link クライアント』 >「PollingPeriod (pp) 拡張オ	1分	ログスキャンのポーリング期 間を指定する。
ク <i>シ</i> ョン]		デフォルトでは、単位として 分が使用される。秒、分、時 間、日の各単位を指定するに は、それぞれサフィックス s、 m、h、d を使用する。
『Mobile Link クライアント』 > 「Schedule (sch) 拡張オプ ション」	スケジュール なし	同期のスケジュールを指定す る。
『Mobile Link クライアント』 > 「ScriptVersion (sv) 拡張オ プション」	DEFAULT	スクリプト・バージョンを指 定する。
『Mobile Link クライアント』 > 「SendColumnNames (scn) 拡張オプション」	OFF	アップロード時にカラム名が 送信されるように指定する。
『Mobile Link クライアント』 > 「SendDownloadACK (sa) 拡張オプション」	OFF	クライアントからサーバにダ ウンロード確認が送信される ように指定する。
『Mobile Link クライアント』 > 「SendTriggers (st) 拡張オ プション」	OFF	アップロード時にトリガの動 作が送信されるように指定す る。
『Mobile Link クライアント』 > 「TableOrder (tor) 拡張オ プション」	(なし)	アップロード・ストリームで のテーブルの順序を指定する。
『Mobile Link クライアント』 > 「UploadOnly (uo) 拡張オ プション」	OFF	アップロードだけが同期に含 まれるように指定する。
『Mobile Link クライアント』	OFF	完全冗長を指定する。
ション」		このオプションは dbmlsync - v+ と同じです。

拡張オプション	デフォルト	説明
『Mobile Link クライアント』 > 「VerboseHooks (vs) 拡張 オプション」	OFF	フック・スクリプトに関連す るメッセージがロギングされ るように指定する。
		このオプションは dbmlsync -vs と同じです。
『Mobile Link クライアント』 > 「VerboseMin (vm) 拡張オ プション」	OFF	最少量の情報がロギングされ るように指定する。
		このオプションは dbmlsync -v と同じです。
『Mobile Link クライアント』 > 「VerboseOptions (vo) 拡張 オプション」	OFF	ユーザが指定したコマンド・ ライン・オプション(拡張オ プションも含む)に関する情 報がロギングされるように指 定する。
		このオプションは dbmlsync -vo と同じです。
『Mobile Link クライアント』 > 「VerboseRowCounts (vn) 拡張オプション」	OFF	アップロードおよびダウン ロードされたローの数がロギ ングされるように指定する。
		このオプションは dbmlsync -vn と同じです。
『Mobile Link クライアント』 > 「VerboseRowValues (vr) 拡張オプション」	OFF	アップロードおよびダウン ロードされたローの値がロギ ングされるように指定する。
		このオプションは dbmlsync -vr と同じです。
『Mobile Link クライアント』 > 「VerboseUpload (vu) 拡張 オプション」	OFF	アップロード・ストリームに 関する情報がロギングされる ように指定する。
		このオプションは dbmlsync -vu と同じです。

注意 同期の接続パラメータを設定する方法は複数あります。

競合するオプションを dbmlsync で解決する方法の詳細については、 『Mobile Link クライアント』> 「拡張オプションと接続パラメータの 優先順位」を参照してください。

[パラメータ]プロパティ・シート

[パラメータ]プロパティ・シートには[一般]タブだけがあります。 ほとんどの場合、プロシージャという語は、ユーザ定義プロシージャ とユーザ定義ファンクションの*両方*を意味します。

[パラメータ]プロパティ・シート:[一般]タブ

[パラメータ]プロパティ・シートの[一般]タブには、次の項目があります。

[名前] 選択されているユーザの名前が表示されます。

[タイプ] オブジェクトのタイプが表示されます。

[プロシージャ] パラメータが属するプロシージャの名前が表示され ます。また、カッコ内にそのプロシージャの所有者の名前が表示され ます。

[**データ型**] パラメータのデータ型が表示されます。

有効なデータ型のリストについては、『ASA SQL リファレンス・マ ニュアル』>「SQL データ型」を参照してください。

[**パラメータ・タイプ**] パラメータのタイプが表示されます。パラ メータのタイプは次のいずれかです。

- [変数]通常のプロシージャ・パラメータ。
- [結果] プロシージャによって返された結果セット内の特定の カラム。
- [SQLSTATE] 特殊な SQLSTATE 出力パラメータ。このパラ メータは、プロシージャ終了時に SQLSTATE 値を出力する OUT パラメータです。

SQLSTATE パラメータの詳細については、『ASA SQL リファ レンス・マニュアル』>「CREATE PROCEDURE 文」を参照 してください。

 [SQLCODE] 特殊な SQLCODE 出力パラメータ。このパラメータは、プロシージャ終了時に SQLCODE 値を出力する OUT パラメータです。

SQLCODE パラメータの詳細については、『ASA SQL リファ レンス・マニュアル』>「CREATE PROCEDURE 文」を参照 してください。

• [**戻り値**] 戻り値。このパラメータ・タイプが使えるのは、関数の場合だけです。

[モード] パラメータのモードが表示されます。モードの値は次のい ずれかです。

- [入力]このパラメータは、ファンクションに値を与える式です。
- [出力] このパラメータは、ファンクションから値を受け取る ことがある変数です。
- [入出力]このパラメータは、ファンクションに値を与え、 ファンクションから新しい値を受け取ることがある変数です。
- ◆ 『ASA SQL リファレンス・マニュアル』>「CREATE PROCEDURE 文」

|プロシージャ|プロパティ・シート

[プロシージャ]プロパティ・シートには、[一般]、[パラメータ]、 [パーミッション]の3つのタブがあります。ほとんどの場合、プロ シージャという語は、ユーザ定義プロシージャとユーザ定義ファンク ションの*両方*を意味します。

[プロシージャ]プロパティ・シート:[一般]タブ

[プロシージャ]プロパティ・シートの[一般]タブには、次の項目が あります。

[名前] プロシージャの名前が表示されます。

[タイプ] オブジェクトのタイプが表示されます。

[**所有者**] プロシージャを作成して所有しているデータベース・ユー ザの名前が表示されます。

[構文] 最後に保存されたコードの SQL 構文が表示されます。構文 は Watcom-SQL または Transact-SQL のどちらかです。

[**コメント**] プロシージャの説明を入力します。たとえば、システム におけるそのプロシージャの目的を、この領域に記述できます。

参照

◆ 『ASA SQL リファレンス・マニュアル』>「CREATE PROCEDURE 文」

|プロシージャ|プロパティ・シート:|パラメータ|タブ

[プロシージャ]プロパティ・シートの[パラメータ]タブには、次の 項目があります。

[パラメータ]リスト プロシージャのパラメータの名前、データ型、 パラメータ・タイプ、モードが表示されます。モードの値は次のいず れかです。

- [入力] このパラメータは、プロシージャに値を与える式です。
- [出力] このパラメータは、プロシージャから値を受け取ることがある変数です。
- [入出力] パラメータはプロシージャに値を与え、プロシー ジャから新しい値を受け取ることがある変数です。

参照

- ◆ 『ASA SQL ユーザーズ・ガイド』>「プロシージャ・パラメー タの宣言」
- ◆ 『ASA SQL ユーザーズ・ガイド』>「プロシージャ、トリガ、 バッチの使用」

◆ 『ASA SQL リファレンス・マニュアル』>「CREATE PROCEDURE 文」

|プロシージャ|プロパティ・シート:|パーミッション|タブ

[プロシージャ]プロパティ・シートの[パーミッション]タブには、 次の項目があります。

[ユーザ]リスト このプロシージャに対するパーミッションを持つ ユーザがリストされます。リストにユーザを追加する場合は、 [付与]をクリックします。ユーザのパーミッションを削除するには、 ユーザを選択して、[取り消し]をクリックします。[Shift]キーを押 したままでクリックすると複数のユーザを選択できます。

各ユーザの横にある[実行]フィールドをクリックすると、パーミッションの付与または取り消しができます。

- [付与] [パーミッション付与]ダイアログが表示されます。このダイアログでは、他のユーザまたはグループにプロシージャのパーミッションを付与できます。
- [取り消し] ユーザまたはグループからプロシージャのパー ミッションを取り消し、[ユーザ]リストからそのユーザを削除 します。

参照

- 『ASA データベース管理ガイド』>「プロシージャに対する パーミッションの付与」
- ◆ 『ASA SQL リファレンス・マニュアル』>「CREATE PROCEDURE 文」

[プロキシ・テーブル]プロパティ・シート

[プロキシ・テーブル]プロパティ・シートには、[一般]、 [カラム]、[パーミッション]、[その他]の4つのタブがあります。

参照

◆ 『ASA SQL ユーザーズ・ガイド』> 「プロキシ・テーブルの編 集」

[プロキシ・テーブル]プロパティ・シート:[一般]タブ

[プロキシ・テーブル]プロパティ・シートの[一般]タブには、次の 項目があります。

[名前] プロキシ・テーブルの名前が表示されます。プロキシ・テーブルの名前は変更できません。

[タイプ] オブジェクトのタイプが表示されます。

[**所有者**] プロキシ・テーブルを作成して所有しているデータベー ス・ユーザの名前が表示されます。

[**リモート・ロケーション**] リモート・テーブルがあるリモート・ サーバの名前、リモート・データベース、リモート・テーブルを所有 するリモート・データベース・ユーザ、プロキシ・テーブルの基に なっているリモート・テーブルの名前が表示されます。

カラム このプロキシ・テーブルのプライマリ・キー・カラムが表示 されます。

[コメント] プロキシ・テーブルの説明を入力します。たとえば、シ ステムにおけるそのプロキシ・テーブルの目的を、この領域に記述で きます。

参照

◆ 『ASA SQL ユーザーズ・ガイド』>「プロキシ・テーブルの編 集」

|プロキシ・テーブル]プロパティ・シート:[カラム]タブ

[プロキシ・テーブル]プロパティ・シートの[カラム]タブには、次 の項目があります。

[**カラム**] **リスト** プロキシ・テーブルのすべてのカラムの他に、その型とコメントがリストされます。カラムをダブルクリックすると、 [カラムの詳細]ダイアログが表示されます。

[**詳細**] [カラムの詳細]ダイアログが表示され、選択したカラムの プロパティの一覧が表示されます。

参照

◆ 『ASA SQL ユーザーズ・ガイド』>「プロキシ・テーブルの編 集」

[プロキシ・テーブル]プロパティ・シート:[パーミッション]タブ

[プロキシ・テーブル]プロパティ・シートの[パーミッション]タブ には、次の項目があります。

[ユーザ]リスト プロキシ・テーブルに対するパーミッションを持 つユーザがリストされます。リストにユーザを追加する場合は、[付 与]をクリックします。ユーザのパーミッションを削除するには、 ユーザを選択して、[取り消し]をクリックします。[Shift]キーを押 したままでクリックすると複数のユーザを選択できます。

パーミッションの付与または取り消しを行うには、各ユーザの横にあるフィールドをクリックします。ダブルクリックすると(チェック・マークと2つの+記号が表示され)、ユーザに付与オプションが与えられます。

- [付与] [パーミッション付与]ダイアログが表示されます。このダイアログでは、他のユーザまたはグループにプロキシ・ テーブルのパーミッションを付与できます。
- [取り消し] ユーザまたはグループからプロキシ・テーブルの パーミッションを取り消し、[ユーザ]リストからそのユーザを 削除します。

[選択] このオプションを有効にするには、[ユーザ]リストから ユーザを選択します。ユーザの SELECT パーミッションが、すべての カラムまたはカラムのサブセットのいずれに適用されるかが表示され ます。[変更]をクリックすると、[カラムのパーミッション]ダイア ログが表示されます。このダイアログでは、カラムのサブセットに対 する SELECT パーミッションを付与できます。

[更新] このオプションを有効にするには、[ユーザ]リストから ユーザを選択します。ユーザの UPDATE パーミッションが、すべて のカラムに適用されるか、またはカラムのサブセットに適用されるか が表示されます。[変更]をクリックすると、[カラムのパーミッショ ン]ダイアログが表示されます。このダイアログでは、カラムのサブ セットに対する UPDATE パーミッションを付与できます。

[参照] このオプションを有効にするには、[ユーザ]リストから ユーザを選択します。ユーザの REFERENCE パーミッションが、す べてのカラムまたはカラムのサブセットのいずれに適用されるかが表 示されます。[変更]をクリックすると、[カラムのパーミッション] ダイアログが表示されます。このダイアログでは、カラムのサブセッ トに対する REFERENCE パーミッションを付与できます。

参照 ◆ 『ASA SQL ユーザーズ・ガイド』> 「プロキシ・テーブルの編 集」

[プロキシ・テーブル]プロパティ・シート:[その他]タブ

[プロキシ・テーブル]プロパティ・シートの[その他]タブには、次の項目があります。

[最大テーブル幅] プロキシ・テーブルの各ローに必要なバイト数が 表示されます。この数字は、文字列カラムでは長さ、数値カラムでは 精度、その他すべてのデータ型では格納のためのバイト数から計算さ れます。long binary カラムまたは long varchar カラムの幅の数値は取 得できません。プロキシ・テーブルに long binary カラムまたは long varchar カラムがある場合は、ローの幅を概算して取得します。

[**ローの数**] このオプションはプロキシ・テーブルでは使用できません。

- [計算] このボタンはプロキシ・テーブルに対しては有効になりません。
- ◆ 『ASA SQL ユーザーズ・ガイド』> 「プロキシ・テーブルの編 集」

[パブリケーション]プロパティ・シート

参照

[パブリケーション]プロパティ・シートには、[一般]、[アーティクル]、[接続]、[拡張オプション]の4つのタブがあります。

[パブリケーション]プロパティ・シート:[一般]タブ

[パブリケーション]プロパティ・シートの[一般]タブには、次の項 目があります。 [名前] パブリケーションの名前が表示されます。このテキスト・ ボックスでパブリケーションの名前を変更できます。

[タイプ] オブジェクトのタイプが表示されます。

[所有者] パブリケーションを作成して所有するデータベース・ユー ザの名前が表示されます。

[コメント] パブリケーションの説明を入力します。たとえば、シス テムにおけるそのパブリケーションの目的を、この領域に記述できま す。

◆ 『ASA SQL リファレンス・マニュアル』> 「CREATE 参照 PUBLICATION 文|

|パブリケーション|プロパティ・シート:|アーティクル|タブ

[パブリケーション]プロパティ・シートの[アーティクル]タブに は、次の項目があります。

- [テーブル]タブ [テーブル]タブを使用すると、クライアン • ト・データベースに入れるテーブルを選択できます。
- [カラム]タブ [カラム]タブを使用すると、クライアント・ • データベースに入れるテーブルのカラムを選択できます。
- [WHERE 句] タブ [WHERE 句] タブを使用すると、WHERE 句 • を入力することで、アーティクルに入れるローを制限できます。

SOL Remote と Mobile Link のパブリケーション用に定義された アーティクルでは、WHERE 句を使うことによって、アーティ クル内にテーブルのローのサブセットが含まれるように定義で きます。Ultra Light アプリケーションでは、WHERE 句を指定す ることでロー・サブセットを使用できます。ただし、HotSvnc 同 期を管理する Ultra Light パブリケーション内のアーティクルで は、WHERE 句を使用できません。

[SUBSCRIBE BY 制限] タブ [SUBSCRIBE BY 制限] タブを使 用すると、SUBSCRIBE BY 制限を入力することで、アーティク ルに入れるローのサブセットを定義できます。このタブは、 SOL Remote アーティクルにだけ適用されます。

各タブについては、以下で詳しく説明します。

- 参照 『ASA SQL リファレンス・マニュアル』>「CREATE PUBLICATION 文」
 - ◆ 『SQL Remote ユーザーズ・ガイド』> 「WHERE 句を使用して 一部のローだけをパブリッシュする」

[テーブル]タブ [テーブル]タブを使用すると、テーブルを選択して、クライアント・ データベースに入るアーティクルのリストに追加できます。

[使用可能なテーブル]リスト 現在接続しているデータベース内の すべての『SQL Anywhere Studio の紹介』>「ベース・テーブル」がリ ストされます。[選択したテーブル]リストにテーブルを追加するに は、[一致するテーブル]リストでテーブルを選択してから、[追加] をクリックします。

[選択したテーブル]リスト クライアント・データベースのアー ティクルに入れるすべてのテーブルがリストされます。[選択した テーブル]リストからテーブルを削除する場合は、テーブルを選択し て[削除]をクリックします。

[テーブル・パターン]と[所有者のパターン]のフィールドを使用して[一致するテーブル]リストに表示されるテーブルを制限することで、含めるテーブルを特定できます。

- [追加] [一致するテーブル]リストで選択したテーブルを[選択したテーブル]リストに追加すると、そのテーブルがアーティクルに入ります。
- [削除] [選択したテーブル]リストから選択したテーブルを削除すると、そのテーブルはアーティクルから除外されます。

[カラム]タブ [カラム]タブを使用すると、テーブルのカラムを選択して、クライ アント・データベースに入るアーティクルのリストに追加できます。

[使用可能なカラム]リスト [テーブル]タブで選択したテーブルが リストされます。リストのテーブルをダブルクリックすると、そのカ ラムが表示されます。[選択したカラム]リストにカラムを追加する には、[使用可能なカラム]リストでテーブルを選択してから、 [追加]をクリックします。 [選択したカラム]リスト クライアント・データベースのアーティ クルに入れるすべてのカラムがリストされます。[選択したカラム] リストからカラムを削除して、アーティクルからカラムを除外する場 合は、カラムを選択して[削除]をクリックします。

- [追加] [使用可能なカラム]リストで選択したカラムを[選択したカラム]リストに追加すると、そのカラムはクライアント・データベースのアーティクルに入ります。
- [**削除**] [選択したカラム]リストからカラムを削除すると、そのカラムはアーティクルから除外されます。

[WHERE 句] タブ SQL Remote と Mobile Link のパブリケーション用に定義されたアー ティクルでは、WHERE 句を使うことによって、アーティクル内に テーブルのローのサブセットが含まれるように定義できます。Ultra Light アプリケーションでは、WHERE 句を指定することでロー・サ ブセットを使用できます。ただし、HotSync 同期を管理する Ultra Light パブリケーション内のアーティクルでは、WHERE 句を使用で きません。

> [WHERE 句] タブを使用すると、WHERE 句を指定して、クライアン ト・データベースに入れるローを制限できます。

[アーティクル]リスト アーティクルに入っているテーブルのリス トからテーブルを選択します。

[選択したアーティクルには次の WHERE 句があります] アーティ クルに入れるローを制限するために、そのテーブルの WHERE 句をテ キスト・ボックスに入力します。

詳細については、『SQL Remote ユーザーズ・ガイド』> 「WHERE 句 を使用して一部のローだけをパブリッシュする」を参照してくださ い。

◆ 『ASA SQL ユーザーズ・ガイド』> 「WHERE 句: ローの指定」

[SUBSCRIBE BY 制 このタブは、SQL Remote アーティクルにだけ適用されます。

[SUBSCRIBE BY 制限]タブを使用すると、アーティクルに入れる テーブルのローのサブセットを定義できます。

限|タブ
[**アーティクル]リスト** アーティクルに入っているテーブルのリス トからテーブルを選択します。

[選択したアーティクルには次の SUBSCRIBE BY 制限があります] アーティクルの SUBSCRIBE BY 制限オプションとして、次のいずれ かを選択できます。

- [なし] アーティクルに SUBSCRIBE BY 制限を含めない場合 に、このオプションを選択します。
- [**カラム**] アーティクルに特定のカラムを含める場合に、この オプションを選択します。
- [式]アーティクルを含むパブリケーションに対して、別のサ ブスクリプションに別のロー・セットを入れるサブスクリプ ション式をテキスト・ボックスに入力します。

参照 ◆ 『SQL Remote ユーザーズ・ガイド』>「サブスクリプション式 を使用して一部のローだけをパブリッシュする」

[パブリケーション] プロパティ・シート:[接続]タブ

[パブリケーション]プロパティ・シートの[接続]タブには、次の項 目があります。

[**プロトコル**] 同期に使用する通信プロトコルを指定します。デフォルトでは TCP/IP が使用されます。

[接続]タブで指定できる設定は、使用する通信プロトコルによって 決まります。buffer_size などの追加パラメータは、[詳細]フィールド で設定できます。

パラメータの完全なリストについては、『ASA SQL リファレンス・マ ニュアル』>「CREATE SYNCHRONIZATION USER 文 [Mobile Link]」 または『Mobile Link クライアント』>「CommunicationType (ctp) 拡張 オプション」を参照してください。

[TCP/IP] このオプションを選択すると、同期に TCP/IP プロトコルを使用します。TCP/IP は、楕円曲線 (以前の Certicom) 暗号化と RSA 暗号化の両方をサポートしています。

- [HTTP] このオプションを選択すると、同期に HTTP プロトコ ルを使用します。HTTP は、楕円曲線 (以前の Certicom) 暗号化 と RSA 暗号化の両方をサポートしています。
- [HTTPS] このオプションを選択すると、同期にHTTPS プロト コルを使用します。HTTPS プロトコルで使用できるのは、RSA 暗号化だけです。
- [HTTPS FIPS] このオプションを選択すると、同期に HTTPS_FIPS プロトコルを使用します。
- [ActiveSync] このオプションを選択すると、ActiveSync を使用 して ActiveSync 用 Mobile Link プロバイダとデータを交換しま す。このプロバイダは、デスクトップ・マシンに常駐していま す。ActiveSync パラメータでは、ActiveSync 用 Mobile Link プロ バイダと Mobile Link 同期サーバ間の通信を記述します。

詳細については、『Mobile Link クライアント』> 「ActiveSync プ ロバイダ・インストール・ユーティリティ」を参照してくださ い。

[ホスト] Mobile Link 同期サーバを実行するマシンの IP 番号または ホスト名。デフォルト値は localhost です。同期サーバがクライアン トと同じマシンで稼働している場合は、localhost を使用できます。

Windows CE では、デフォルト値はレジストリ・フォルダ Comm¥Tcpip¥Hosts¥ppp_peerの ipaddr の値です。このため、Windows CE デバイスは、このデバイスのクレードルが接続されているデスク トップ・マシンで実行されている Mobile Link 同期サーバに接続でき ます。

Palm Computing Platform の場合は、localhost のデフォルト値がデバイ スを指します。ホスト名や IP アドレスを明示的に指定することをお すすめします。

【ポート】 Mobile Link 同期サーバは、特定のポートで通信を行います。デフォルトのポート番号は、TCP/IP では 2439、HTTPでは 80、HTTPSでは 443 です。異なる値を選択する場合、指定したポートで受信を行うように Mobile Link 同期サーバを設定してください。

[プロキシ・ホスト] プロキシ・サーバのホスト名または IP アドレ スを入力します。デフォルト値は localhost です。このオプションは、 HTTP 同期と HTTPS 同期でのみ使用できます。

[プロキシ・ポート] プロキシ・サーバのポート番号を入力します。デフォルト値は、HTTPの場合は80、HTTPSの場合は443です。このオプションは、HTTP同期とHTTPS同期でのみ使用できます。

[URL サフィックス] 各 HTTP 要求の1行目のURL に追加するサ フィックスを入力します。デフォルト値は MobiLink です。このオプ ションは、HTTP 同期と HTTPS 同期でのみ使用できます。

プロキシ・サーバを通じて同期するときは、Mobile Link 同期サーバ を見つけるためにサフィックスが必要な場合があります。

 [HTTP バージョン] 同期に使用する HTTP のバージョンを指定 する値を入力します。1.0 または 1.1 を選択できます。デフォル ト値は 1.1 です。

[自動接続] 以下のオプションを使用すると、Pocket PC 2002 または Windows デスクトップ・コンピュータで稼働している Mobile Link ク ライアントがダイヤルアップ・ネットワーク接続を介して接続できる ようになります。

スケジュールを使用している場合は、リモート・デバイスを自動的に 同期できます。スケジュールを使用していない場合は、接続を手動で ダイヤルすることなく dbmlsync を実行できます。

スケジュールの詳細については、『Mobile Link クライアント』>「同 期のスケジュール」を参照してください。

 [ネットワーク名] ネットワーク名を指定して、Mobile Linkの 自動ダイヤル機能を使用できるようにします。これによって、 手動でダイヤルすることなく Pocket PC 2002 または Windows デ スクトップ・コンピュータから接続できます。この名前は、[設 定]-[接続]-[接続](Pocket PC)または[ネットワークとダ イヤルアップ接続](Windows)のドロップダウン・リストで指定 したネットワーク名にしてください。

- [ネットワーク接続のタイムアウト] ネットワーク名を指定す るときに、ダイヤルアップに失敗した後のタイムアウトをオプ ションで指定できます。この機能は、Pocket PC 2002 にのみ適用 されます (Windows では、接続プロファイルを設定することに よってこの機能を制御できます)。デフォルトは 120 秒です。
- [開いたままにする] ネットワーク名を指定するときに、同期の完了後に接続を開いたままにする(1)か、接続を閉じる(0)かをオプションで指定できます。デフォルトでは、接続が閉じられます。

[Certicom セキュリティを有効にする] このオプションを選択する と、この接続を介するすべての通信が暗号化されます。楕円曲線暗号 化または RSA 暗号化を使用できます。デフォルトでは、楕円曲線が 使用されます。

別途ライセンスを取得できるオプションが必要

トランスポート層のセキュリティには、別途ライセンスの SQL Anywhere Studio セキュリティ・オプションを入手する必要がありま す。このセキュリティ・オプションは輸出規制の対象となります。

このコンポーネントを注文するには、『SQL Anywhere Studio の紹介』>「別途ライセンスが入手可能なコンポーネント」を参照してください。

セキュリティの詳細については、『Mobile Link 管理ガイド』>「Mobile Link トランスポート・レイヤ・セキュリティ」を参照してください。

- [楕円曲線暗号] 楕円曲線暗号化を使用して、接続を暗号化し ます。この暗号化を使用すると、TCP/IP 接続と HTTP 接続を暗 号化できます。この暗号化は、以前は Certicom 暗号化と呼ばれ ていました。
- [RSA] RSA 暗号化を使用して、すべての接続を暗号化します。
 この暗号化を使用すると、TCP/IP、HTTP、HTTPS の各接続を
 暗号化できます。
- [RSA FIPS] RSA FIPS 暗号化を使用して、すべての接続を暗号 化します。この暗号化を使用すると、TCP/IP プロトコルと HTTP FIPS プロトコルを介した通信を暗号化できます。

- [証明書に記載される会社] 証明書を発行した認証局の名 前を入力します。サーバ側とクライアント側の値を一致さ せる必要があります。
- [証明書に記載される部署] 証明書に記載されている部署 を入力します。これは組織単位とも呼ばれます。サーバ側 とクライアント側の値を一致させる必要があります。
- [証明書に記載される名前] 証明書の通称を入力します。 サーバ側とクライアント側の値を一致させる必要がありま す。
- [信頼できる証明書] クライアントがサーバを認証するために使用する証明書ファイルの名前を入力します。

[詳細] このフィールドには、パラメータ=値の形式で追加の接続パ ラメータを入力します。複数のパラメータを入力する場合はセミコロ ンで区切ります。たとえば、内容が固定長であるメッセージの本文の 最大サイズを設定し、同期のすべての HTTP 要求に同じ TCP/IP 接続 を使用するようクライアントに指示するには、[詳細]フィールドに 次のように入力します。

buffer_size=58000;persistent=TRUE

このフィールドに入力できる接続パラメータの完全なリストについて は、『ASA SQL リファレンス・マニュアル』>「CREATE SYNCHRONIZATION USER 文 [Mobile Link]」を参照してください。

説明 同期の接続パラメータを設定する方法は複数あります。

競合するオプションを dbmlsync で解決する方法の詳細については、 『Mobile Link クライアント』> 「拡張オプションと接続パラメータの 優先順位」を参照してください。

[パブリケーション] プロパティ・シートの[接続] タブの1つの フィールドが空白の場合、パブリケーションは、同期サブスクリプ ションまたは Mobile Link ユーザの接続パラメータ設定を継承するこ とがあります。

参照

◆ 『ASA SQL リファレンス・マニュアル』>「CREATE SYNCHRONIZATION USER 文 [Mobile Link]」

- ◆ 『ASA SQL リファレンス・マニュアル』>「ALTER SYNCHRONIZATION USER 文 [Mobile Link]」
- ◆ 『ASA SQL リファレンス・マニュアル』>「CREATE PUBLICATION 文」
- ◆ 『ASA SQL リファレンス・マニュアル』>「ALTER PUBLICATION 文」
- $[Mobile Link <math> / \neg / r > | > | -x \pi^2$
- ◆ 『Mobile Link クライアント』> 「CommunicationAddress (adr) 拡 張オプション」

[パブリケーション] プロパティ・シート:[拡張オプション]タブ

[パブリケーション]プロパティ・シートの[拡張オプション]タブに は、次の項目があります。

[このパブリケーションには次の拡張同期オプションがあります。] パブリケーションに対して設定されている拡張オプションとその値が リストされます。パブリケーションの値を設定するには、オプション 名の横にある[値]フィールドをクリックします。

同期で使用できるすべての拡張オプションを次の表に示します。

これらのオプションの詳細については、『Mobile Link クライアント』> 「dbmlsync 拡張オプション」を参照してください。

拡張オプション	デフォルト	説明
『Mobile Link クライアント』 >「ConflictRetries (cr) 拡張 オプション」	-1 (無限に継 続)	競合のためにダウンロードが 失敗した場合のリトライの回 数を指定する。
『Mobile Link クライアント』 > 「ContinueDownload (cd) 拡張オプション」	OFF	再起動可能なダウンロードを 指定する。
『Mobile Link クライアント』 > 「DisablePolling (p) 拡張オ プション」	OFF	ログスキャンの自動ポーリン グを無効にする。

拡張オプション	デフォルト	説明
『Mobile Link クライアント』 > 「DownloadBufferSize (dbs) 拡張オプション」	Windows CE で は 32 K、その 他のオペレー ティング・シ ステムでは 1 M	ダウンロード・バッファのサ イズを指定する。 デフォルトでは、単位として バイトが使用される。キロバ イトまたはメガバイトの単位 を指定するには、それぞれサ フィックスk、mを使用する。
『Mobile Link クライアント』 > 「DownloadOnly (ds) 拡張 オプション」	OFF	ダウンロードのみが同期され るように指定する。
『Mobile Link クライアント』 > 「DownloadReadSize (drs) 拡張オプション」	32 K	再起動可能なダウンロードに ついて、通信障害の後、再送 する必要があるデータ量の最 大値を指定する。
『Mobile Link クライアント』 > 「ErrorLogSendLimit (el) 拡張オプション」	32 K	同期時に dbmlsync からサーバ に送信するリモート・ログ・ ファイルのサイズを指定する。
		デフォルトでは、単位として バイトが使用される。キロバ イトまたはメガバイトの単位 を指定するには、それぞれサ フィックスk、mを使用する。 dbmlsyncの出力ログ・メッ セージを送信しない場合は、 この拡張オプションを値0に 設定する必要がある。
『Mobile Link クライアント』 > 「FireTriggers (ft) 拡張オプ ション」	ON	ダウンロードが適用されたと きにリモート・データベース でトリガがオンになるように 指定する。

拡張オプション	デフォルト	説明
『Mobile Link クライアント』 > 「HoverRescanThreshold (hrt) 拡張オプション」	1 M	これによって、スケジュール 使用時の、再スキャンの実行 までに累積可能な廃棄メモリ 量が制限される。
		デフォルトでは、単位として バイトが使用される。キロバ イトまたはメガバイトの単位 を指定するには、それぞれサ フィックス k、m を使用する。
『Mobile Link クライアント』 > 「IgnoreHookErrors (eh) 拡 張オプション」	OFF	フック関数内で発生したエ ラーを無視するように指定す る。
『Mobile Link クライアント』 > 「IgnoreScheduling (isc) 拡 張オプション」	OFF	スケジュール設定を無視する ように指定する。
『Mobile Link クライアント』 > 「Increment (inc) 拡張オプ ション」	(無限)	インクリメンタル・アップ ロードのサイズを制御する。 デフォルトでは、単位として バイトが使用される。キロバ イトまたはメガバイトの単位 を指定するには、それぞれサ フィックスk、mを使用する。
『Mobile Link クライアント』 > 「LockTables (lt) 拡張オプ ション」	ON	アーティクル (同期対象パブ リケーション内のテーブルま たはテーブルの一部) をロッ クしてから同期を実行するよ うに指定する。
『Mobile Link クライアント』 > 「Memory (mem) 拡張オプ ション」	1 M	キャッシュ・サイズを指定す る。 デフォルトでは、単位として バイトが使用される。キロバ イトまたはメガバイトの単位 を指定するには、それぞれサ フィックスk、mを使用する。

拡張オプション	デフォルト	説明
『Mobile Link クライアント』 >「MirrorLogDirectory (mld) 拡張オプション」	(なし)	古いミラー・ログ・ファイル を削除できるように、そのロ ケーションを指定する。
『Mobile Link クライアント』 > 「MobiLinkPwd (mp) 拡張 オプション」	NULL	Mobile Link パスワードを指定 する。
『Mobile Link クライアント』 > 「NewMobiLinkPwd (mn) 拡張オプション」	NULL	新しい Mobile Link パスワード を指定する。
『Mobile Link クライアント』 > 「OfflineDirectory (dir) 拡 張オプション」	NULL	オフライン・トランザクショ ンのログを含むパスを指定す る。
『Mobile Link クライアント』 > 「PollingPeriod (pp) 拡張オ	1分	ログスキャンのポーリング期 間を指定する。
		デフォルトでは、単位として 分が使用される。秒、分、時 間、日の各単位を指定するに は、それぞれサフィックス s、 m、h、d を使用する。
『Mobile Link クライアント』 > 「Schedule (sch) 拡張オプ ション」	スケジュール なし	同期のスケジュールを指定す る。
『Mobile Link クライアント』 > 「ScriptVersion (sv) 拡張オ プション」	DEFAULT	スクリプト・バージョンを指 定する。
『Mobile Link クライアント』 > 「SendColumnNames (scn) 拡張オプション」	OFF	アップロード時にカラム名が 送信されるように指定する。
『Mobile Link クライアント』 > 「SendDownloadACK (sa) 拡張オプション」	OFF	クライアントからサーバにダ ウンロード確認が送信される ように指定する。

拡張オプション	デフォルト	説明
『Mobile Link クライアント』 > 「SendTriggers (st) 拡張オ プション」	OFF	アップロード時にトリガの動 作が送信されるように指定す る。
『Mobile Link クライアント』 > 「TableOrder (tor) 拡張オ プション」	(なし)	アップロード・ストリームで のテーブルの順序を指定する。
『Mobile Link クライアント』 > 「UploadOnly (uo) 拡張オ プション」	OFF	アップロードだけが同期に含 まれるように指定する。
『Mobile Link クライアント』 > 「Verbose (v) 拡張オプ ション」	OFF	完全冗長を指定する。 このオプションは dbmlsync - v+ と同じです。
『Mobile Link クライアント』 > 「VerboseHooks (vs) 拡張 オプション」	OFF	フック・スクリプトに関連す るメッセージがロギングされ るように指定する。
		-vs と同じです。
『Mobile Link クライアント』 > 「VerboseMin (vm) 拡張オ プション」	OFF	最少量の情報がロギングされ るように指定する。
		このオプションは dbmlsync -v と同じです。
『Mobile Link クライアント』 > 「VerboseOptions (vo) 拡張 オプション」	OFF	ユーザが指定したコマンド・ ライン・オプション(拡張オ プションも含む)に関する情 報がロギングされるように指 定する。
		このオプションは dbmlsync -vo と同じです。

拡張オプション	デフォルト	説明
『Mobile Link クライアント』 > 「VerboseRowCounts (vn) 拡張オプション」	OFF	アップロードおよびダウン ロードされたローの数がロギ ングされるように指定する。
		このオプションは dbmlsync -vn と同じです。
『Mobile Link クライアント』 > 「VerboseRowValues (vr) 拡張オプション」	OFF	アップロードおよびダウン ロードされたローの値がロギ ングされるように指定する。
		このオプションは dbmlsync -vr と同じです。
『Mobile Link クライアント』 > 「VerboseUpload (vu) 拡張 オプション」	OFF	アップロード・ストリームに 関する情報がロギングされる ように指定する。
		このオプションは dbmlsync -vu と同じです。

注意

同期の接続パラメータを設定する方法は複数あります。

競合するオプションを dbmlsync で解決する方法の詳細については、 『Mobile Link クライアント』> 「拡張オプションと接続パラメータの 優先順位」を参照してください。

[パブリッシャ]プロパティ・シート

[パブリッシャ]プロパティ・シートには、[一般]、[権限]、[パー ミッション]の3つのタブがあります。

- ◆ 『ASA データベース管理ガイド』>「ユーザ ID とパーミッションの管理」
- ◆ 『ASA データベース管理ガイド』>「REMOTE パーミッションの付与と取り消し」

[パブリッシャ] プロパティ・シート:[一般]タブ

[パブリッシャ]プロパティ・シートの[一般]タブには、次の項目が あります。

- [名前] パブリッシャの名前が表示されます。
- [タイプ] オブジェクトのタイプが表示されます。

[接続可] このオプションを選択すると、パブリッシャがデータベー スに接続できます。パブリッシャの接続が許可されないと、パスワー ド(指定されている場合)はアカウントから削除されます。パブリッ シャの接続を許可するように後で変更する場合は、新しいパスワード を指定する必要があります。このオプションをクリアすると、[パス ワード]オプションと[パスワードの確認]オプションが無効になり ます。

ユーザは、ほとんどの場合、接続を許可されます。

- [パスワード] パブリッシャのパスワードを入力します。セ キュリティを強化するため、入力した文字はアスタリスクで表示されます。
- [パスワードの確認] [パスワード] テキスト・ボックスに入力 したパスワードをもう一度入力して確認します。2つのフィール ドの内容は、完全に一致している必要があります。

[**コメント**] パブリッシャの説明を入力します。たとえば、システム におけるそのパブリッシャの目的を、この領域に記述できます。

参照

- ◆ 『ASA データベース管理ガイド』>「REMOTE パーミッションの付与と取り消し」
- ◆ 『ASA データベース管理ガイド』>「ユーザ ID とパーミッションの管理」

[パブリッシャ]プロパティ・シート:[権限]タブ

[パブリッシャ]プロパティ・シートの[権限]タブには、次の項目が あります。 [DBA] このオプションを選択すると、パブリッシャに DBA 権限が 付与されます。DBA 権限を持つユーザは、データベースを完全に管 理できます。

[リソース] このオプションを選択すると、パブリッシャに RESOURCE 権限が付与されます。RESOURCE 権限を持つユーザは、 データベース・オブジェクトを作成できます。

[リモート DBA] このオプションを選択すると、パブリッシャに REMOTE DBA 権限が付与されます。SQL Remote Message Agent で は、このタイプの権限を持つユーザ ID を使用して、セキュリティ・ ホールを作らずにアクションを確実に実行する必要があります。 Mobile Link クライアント・ユーティリティの dbmlsync でも REMOTE DBA 権限が必要です。

参照

- ◆ 『ASA データベース管理ガイド』> 「REMOTE パーミッションの付与と取り消し」
- ◆ 『ASA データベース管理ガイド』>「ユーザ ID とパーミッ ションの管理」

[パブリッシャ]プロパティ・シート:[パーミッション]タブ

[パブリッシャ]プロパティ・シートの[パーミッション]タブには、 次の項目があります。

[パーミッション] リスト パブリッシャがパーミッションを持って いるすべてのテーブルの他に、各テーブルを所有するユーザが表示さ れます。各ユーザの横に表示されるフィールドをクリックすると、 パーミッションの付与または取り消しができます。フィールドをダブ ルクリックすると(チェック・マークと2つの+記号が表示される)、 ユーザにパーミッションの付与オプションを与えることができます。

[表示] [パーミッション]リストに表示するオブジェクトのタイプ を選択します。

- [テーブル] パブリッシャがパーミッションを持っているすべてのテーブル。
- [ビュー] パブリッシャがパーミッションを持っているすべてのビュー。

[プロシージャとファンクション] パブリッシャがパーミッションを持っているプロシージャとファンクションがすべて表示されます。プロシージャとファンクションに対して付与できるのは EXECUTE パーミッションだけです。

参照 ◆ 『ASA データベース管理ガイド』> 「REMOTE パーミッショ ンの付与と取り消し」

[リモート・プロシージャ]プロパティ・シート

[リモート・プロシージャ]プロパティ・シートには、[一般]、[パラ メータ]、[パーミッション]の3つのタブがあります。

[リモート・プロシージャ] プロパティ・シート: [一般] タブ

[リモート・プロシージャ]プロパティ・シートの[一般]タブには、 次の項目があります。

[名前] リモート・プロシージャの名前が表示されます。

[タイプ] オブジェクトのタイプが表示されます。

[所有者] リモート・プロシージャを作成して所有するデータベース・ユーザの名前が表示されます。

[構文] 最後に保存されたコードの SQL 構文が表示されます。構文 は Watcom-SQL または Transact-SQL のどちらかです。

[**リモート・サーバ**] このプロシージャを格納しているリモート・ データベース。

[コメント] リモート・プロシージャの説明を入力します。たとえ ば、システムにおけるそのリモート・プロシージャの目的を、この領 域に記述できます。

[リモート・プロシージャ]プロパティ・シート:[パラメータ]タブ

[リモート・プロシージャ]プロパティ・シートの[パラメータ]タブ には、次の項目があります。 [パラメータ]リスト リモート・プロシージャのパラメータの名前、 データ型、パラメータ・タイプ、モードが表示されます。モードの値 は次のいずれかです。

- [入力] このパラメータは、プロシージャに値を与える式です。
- [出力] このパラメータは、プロシージャから値を受け取ることがある変数です。
- [入出力] このパラメータは、リモート・プロシージャに値を 与え、リモート・プロシージャから新しい値を受け取ることが ある変数です。
 - ◆ 『ASA SQL ユーザーズ・ガイド』> 「プロシージャ、トリガ、 バッチの使用」
 - ◆ 『ASA SQL リファレンス・マニュアル』>「CREATE PROCEDURE 文」
 - ◆ 『ASA SQL ユーザーズ・ガイド』>「プロシージャ・パラメー タの宣言」

|リモート・プロシージャ|プロパティ・シート:|パーミッション|タブ

[リモート・プロシージャ]プロパティ・シートの[パーミッション] タブには、次の項目があります。

[ユーザ]リスト リモート・プロシージャに対するパーミッション を持つユーザがリストされます。リストにユーザを追加する場合は、 [付与]をクリックします。ユーザのパーミッションを削除するには、 ユーザを選択して、[取り消し]をクリックします。[Shift]キーを押 したままでクリックすると複数のユーザを選択できます。

各ユーザの横にある[実行]フィールドをクリックすると、パーミッションの付与または取り消しができます。

- [付与] [パーミッション付与]ダイアログが表示されます。このダイアログでは、他のユーザまたはグループにプロシージャのパーミッションを付与できます。
- [取り消し] ユーザまたはグループからリモート・プロシージャのパーミッションを取り消し、[ユーザ]リストからそのユーザを削除します。

 ◆ 『ASA データベース管理ガイド』>「プロシージャに対する パーミッションの付与」

[リモート・サーバ] プロパティ・シート

[リモート・サーバ]プロパティ・シートには[一般]タブだけがあり ます。

参照

- ◆ 『ASA SQL ユーザーズ・ガイド』>「リモート・サーバの使 用」
- ◆ 「[サーバ]プロパティ・シート」111ページ

[リモート・サーバ]プロパティ・シート:[一般]タブ

[リモート・サーバ]プロパティ・シートの[一般]タブには、次の項 目があります。

[名前] リモート・サーバの名前が表示されます。

[タイプ] オブジェクトのタイプが表示されます。

[読み込み専用] リモート・サーバが読み込み専用かどうかが表示されます。

[サーバ・タイプ] データベース・サーバのクラスまたはソフトウェ ア・プラットフォームが表示されます。ドロップダウン・リストから 別のソフトウェア・プラットフォームを選択して、サーバ・タイプを 変更できます。

選択するサーバ・タイプによって、選択できる接続のタイプが制限されます。たとえば、[サーバ・タイプ]ドロップダウン・リストから [一般的なサーバ]を選択すると、接続に使用できるのは ODBC のみに なります。

[接続タイプ] 接続プロトコルとして、『SQL Anywhere Studio の紹介』>「ODBC」または『SQL Anywhere Studio の紹介』>「JDBC」を 選択できます。

- [オープン・データベース・コネクティビティ (ODBC)] このオ プションを選択すると ODBC 接続プロトコルを使用できます。
 ODBC は[サーバ・タイプ]ドロップダウン・リストに表示され ているすべてのサーバで使用できます。
- [Java データベース・コネクティビティ (JDBC)] このオプションを選択すると JDBC 接続プロトコルを使用できます。次のサーバ・タイプで JDBC を使用できます。Sybase Adaptive Server Anywhere と Sybase Adaptive Server Enterprise です。使用しているデータベースが Java 実行可能でない場合は、[Java データベース・コネクティビティ (JDBC)] オプションは有効にはなりません。

接続プロトコル ODBC と JDBC の詳細については、『ASA プロ グラミング・ガイド』>「JDBC の概要」と『ASA SQL ユーザー ズ・ガイド』>「Sybase Central を使用したリモート・サーバの作 成」を参照してください。

[接続情報] サーバの名前やアドレスなどの起動接続パラメータを指 定できます。

データ・ソースが ODBC の場合は、データ・ソース名を入力します。 JDBC アクセスの場合は、マシン名または IP アドレスとポート番号を hostname: portnumber の形式で入力します。

[テスト接続] リモート・サーバの定義で指定した情報を使って正し く接続できるかどうかをテストします。

参照

- ◆ 『ASA SQL リファレンス・マニュアル』>「CREATE SERVER 文」
- ◆ 『ASA SQL ユーザーズ・ガイド』>「リモート・サーバの使 用」

[リモート・ユーザ] プロパティ・シート

[リモート・ユーザ] プロパティ・シートには、[一般]、[権限]、[パーミッション]、[SQL Remote] の4つのタブがあります。

参照

- ◆ 『ASA データベース管理ガイド』>「ユーザ ID とパーミッ ションの管理」
- ◆ 『ASA データベース管理ガイド』>「REMOTE パーミッションの付与と取り消し」

[リモート・ユーザ]プロパティ・シート:[一般]タブ

[リモート・ユーザ]プロパティ・シートの[一般]タブには、次の項目があります。

[名前] リモート・ユーザの名前が表示されます。

[タイプ] オブジェクトのタイプが表示されます。

[接続可] このオプションを選択すると、リモート・ユーザがデータ ベースに接続できます。リモート・ユーザが接続を許可されないと、 パスワード(指定されている場合)はアカウントから削除されます。 リモート・ユーザの接続を許可するように後で変更する場合は、新し いパスワードを指定する必要があります。このオプションをクリアす ると、[パスワード]オプションと[パスワードの確認]オプションが 無効になります。

ユーザは、ほとんどの場合、接続を許可されます。

- [パスワード] リモート・ユーザのパスワードを入力します。
 セキュリティを強化するため、入力した文字はアスタリスクで 表示されます。
- [パスワードの確認] [パスワード] テキスト・ボックスに入力 したパスワードをもう一度入力して確認します。2つのフィール ドの内容は、完全に一致している必要があります。

[コメント] リモート・ユーザの説明を入力します。たとえば、リ モート・ユーザがシステムを使用する目的などをここに記述できま す。

- ◆ 『ASA データベース管理ガイド』>「REMOTE パーミッションの付与と取り消し」
- ◆ 『ASA データベース管理ガイド』>「ユーザ ID とパーミッ ションの管理」

[リモート・ユーザ]プロパティ・シート:[権限]タブ

[リモート・ユーザ]プロパティ・シートの[権限]タブには、次の項 目があります。

[DBA] このオプションを選択すると、リモート・ユーザに DBA 権限が付与されます。DBA 権限を持つユーザは、データベースを完全に管理できます。

[リソース] このオプションを選択すると、リモート・ユーザに RESOURCE 権限が付与されます。RESOURCE 権限を持つユーザは、 データベース・オブジェクトを作成できます。

[リモート DBA] このオプションを選択すると、リモート・ユーザに REMOTE DBA 権限が付与されます。SQL Remote Message Agent で は、このタイプの権限を持つユーザ ID を使用して、セキュリティ・ ホールを作らずにアクションを確実に実行する必要があります。 Mobile Link クライアント・ユーティリティの dbmlsync でも REMOTE DBA 権限が必要です。

参照

- ◆ 『ASA データベース管理ガイド』> 「REMOTE パーミッションの付与と取り消し」
- ◆ 『ASA データベース管理ガイド』>「ユーザ ID とパーミッ ションの管理」

[リモート・ユーザ] プロパティ・シート : [パーミッション] タブ

[リモート・ユーザ]プロパティ・シートの[パーミッション]タブに は、次の項目があります。

[パーミッション] リスト リモート・ユーザがパーミッションを 持っているすべてのテーブルの他に、各テーブルを所有するユーザが 表示されます。各テーブルのフィールドをクリックすると、パーミッ ションの付与または取り消しができます。フィールドをダブルクリッ クすると(チェック・マークと2つの+記号が表示される)、ユーザ にパーミッションの付与オプションを与えることができます。

[表示] [パーミッション]リストに表示するオブジェクトのタイプ を選択します。

- [テーブル] リモート・ユーザがパーミッションを持っている すべてのテーブル。
- [ビュー] リモート・ユーザがパーミッションを持っているす べてのビュー。
- [プロシージャとファンクション] リモート・ユーザがパー ミッションを持っているすべてのプロシージャとファンクション。プロシージャとファンクションに対して付与できるのは EXECUTE パーミッションだけです。

◆『ASA データベース管理ガイド』>「REMOTE パーミッションの付与と取り消し」

[リモート・ユーザ] プロパティ・シート : [SQL Remote] タブ

[リモート・ユーザ]プロパティ・シートの [SQL Remote] タブには、 次の項目があります。

[メッセージ・タイプ]『SQL Anywhere Studio の紹介』>「パブリッ シャ」と通信するための『SQL Anywhere Studio の紹介』>「メッセー ジ・タイプ」を選択できます。

[アドレス] リモート・ユーザのリモート・アドレスを入力できます。このアドレスは、ユーザに対してレプリケーション・メッセージを送信するときの宛先です。指定したメッセージ・タイプに応じた文字列を入力します。

特定のメッセージ・タイプに使用するアドレスの詳細については、 『SQL Remote ユーザーズ・ガイド』>「メッセージ・タイプの使用」 を参照してください。

 [送信して閉じる] パブリッシャのエージェントが1回の実行 で保留中のすべてのメッセージをリモート・グループに送信し た後で停止するように、『SQL Anywhere Studio の紹介』>「レプ リケーションの頻度」が設定されます。つまり、パブリッシャ がメッセージを送信する前に毎回エージェントを再起動する必 要があります。 ほとんどのレプリケーション設定では、統合パブリッシャから リモート・グループにパブリケーションを送信する場合、この オプションは使用されません。

- [次の間隔で送信] パブリッシャのエージェントの実行を継続
 し、リモート・グループに指定の間隔でメッセージが送信されるようにレプリケーションの頻度が設定されます。
- [毎日次の時刻に送信] パブリッシャのエージェントの実行を 継続し、リモート・グループに毎日指定時刻にメッセージが送 信されるようにレプリケーションの頻度が設定されます。

◆ 『ASA データベース管理ガイド』>「REMOTE パーミッションの付与と取り消し」

◆ 『ASA SQL リファレンス・マニュアル』>「CREATE SUBSCRIPTION 文 [SQL Remote]」

[サーバ] プロパティ・シート

[サーバ]プロパティ・シートには、[一般]、[詳細情報]、[オプ ション]の3つのタブがあります。

[サーバ] プロパティ・シート:[一般]タブ

[サーバ]プロパティ・シートの[一般]タブには、次の項目がありま す。

[名前] サーバの名前が表示されます。

[タイプ] オブジェクトのタイプが表示されます。

[製品] サーバの製品タイプが表示されます。たとえば、Sybase Adaptive Server Anywhere などです。

[**バージョン**] サーバのバージョン番号が表示されます。

[**コンピュータ**] データベース・サーバを実行しているコンピュータ の名前が表示されます。

[オペレーティング・システム] サーバを現在実行しているオペレー ティング・システムが表示されます。

[オペレーティング・システムのバージョン] サーバを現在実行して いるオペレーティング・システムのバージョンが表示されます。

参照 ◆ 『ASA データベース管理ガイド』>「サーバ・レベルのプロパ ティ」

[サーバ]プロパティ・シート: [詳細情報]タブ

[サーバ]プロパティ・シートの[詳細情報]タブには、次の項目があります。

[データベース・サーバのプロパティ]リスト サーバのプロパティ とその値の詳細なリストです。[再表示]をクリックすると値が更新 されます。[F5] キーを押しても、サーバ・プロパティの値を再表示で きます。

[再表示] クリックすると、[サーバのプロパティ]リストの値が更新されます。

[説明] リストからプロパティを選択すると、そのプロパティの説明 が[説明]ウィンドウに表示されます。

参照

◆ 『ASA データベース管理ガイド』>「サーバ・レベルのプロパ ティ」

[サーバ]プロパティ・シート:[オプション]タブ

このタブにあるデータベース・サーバ・オプションは、サーバのオプ ションに対応しており、これらはサーバが実行中でもリセットできま す。

詳細については、『ASA SQL リファレンス・マニュアル』> 「sa server option システム・プロシージャ」を参照してください。

[サーバ]プロパティ・シートの[オプション]タブには、次の項目が あります。 [現在の時刻] 現在の時刻が表示されます。[再表示]をクリックすると現在の時刻が更新されます。[F5] キーを押しても、現在の時刻を 更新できます。

[終了時間] データベース・サーバを停止する時刻を入力できます。 次に示す現在の時刻と同じフォーマットを使用します。

YYYY-MM-DD HH:NN:SS.SS

[新しい接続を禁止] このオプションを選択すると、他のユーザが データベースに接続できなくなります。このオプションは、保守作業 を行う場合に便利です。

[要求のロギングを可能にする] このオプションを選択すると、サー バが処理する要求がログ・ファイルに記録されます。このオプション は、主としてトラブルシューティングに使用されます。[要求のロギ ングを可能にする]を選択すると、次のオプションが有効になりま す。

- [すべての要求のログ] サーバが処理するすべての要求がログ・ ファイルに記録されます。
- [SQL 要求のみのログ] ログ・ファイルに記録される要求のタ イプが制限されます。

SQL 要求を選択した場合にログに記録される SQL 文のリストについては、『ASA SQL リファレンス・マニュアル』> 「sa_server_option システム・プロシージャ」を参照してください。

 [ログ・ファイル名] [要求のロギングを可能にする]を選 択した場合は、ログ・ファイル名を指定する必要がありま す。[参照]ボタンをクリックしてファイルの場所を探す こともできます。

要求のログの詳細については、『ASA データベース管理ガイド』 >「-zr サーバ・オプション」を参照してください。

[各接続で最後に実行された文を記憶] データベース・サーバに、 サーバ上の各データベース接続に関して最後に作成された SQL 文を 取得するように指示します。 詳細については、『ASA データベース管理ガイド』>「-zl サーバ・オ プション」を参照してください。

参照

◆ 『ASA データベース管理ガイド』>「サーバ・レベルのプロパ ティ」

[サービス] プロパティ・シート

[サービス]プロパティ・シートには、[一般]、[設定]、[アカウント]、[依存性]、[ポーリング]の5つのタブがあります。

参照

◆ 『ASA データベース管理ガイド』> 「サービスの管理」

[サービス] プロパティ・シート:[一般]タブ

[サービス]プロパティ・シートの[一般]タブには、次の項目があります。

[名前] サービスの名前が表示されます。『SQL Anywhere Studio の紹介』>「サービス」は、一連のオプションを使ってデータベース・ サーバやその他のアプリケーションを実行します。

[**タイプ**] オブジェクトのタイプが表示されます。

[サービス・タイプ] サービスのタイプ (Network、Standalone、 DBRemote、または Mobile Link) が表示されます。

[ステータス] サービスの状態が開始、停止、または一時停止のいず れであるかが表示されます。

サービス・ステータスの詳細については、『ASA データベース管理ガ イド』>「サービスの開始、停止、一時停止」を参照してください。

[起動タイプ] サービスの起動オプションとして次のいずれかを選択 できます。起動オプションは、次回 Windows NT を起動するときに適 用されます。

 [自動] このオプションを選択すると、オペレーティング・シ ステムの起動時にサービスが自動的に起動します。 [手動] サービスを手動で起動するときは、このオプションを 選択します。サービスを手動で起動する場合は、操作を行う ユーザが Administrator アクセス権を持っている必要があります。

Administrator アクセス権については、Windows のマニュアルを 参照してください。

- [無効] サービスを無効にして起動しないようにするときは、
 このオプションを選択します。
 - ◆ 『ASA データベース管理ガイド』> 「サービスの管理」
 - ◆ 『ASA データベース管理ガイド』> 「Windows サービスの概 要」

|サービス|プロパティ・シート:|設定|タブ

[サービス]プロパティ・シートの[設定]タブには、次の項目があります。

[ファイル名] 実行ファイルのパスを入力します。たとえば、 f:**¥**Sybase**¥**ASA90**¥**win32**¥**dbeng9.exeのように入力します。

[参照]をクリックして、ファイルを検索することもできます。

[パラメータ] 実行ファイルの追加のパラメータ(ファイル名とオプ ション)をテキスト・ボックスに入力します。実行ファイルで使用す るのと同じオプションをサービスに対して使用できます。

たとえば、サンプルデータベースにユーザ ID DBA で接続して、SQL Remote Message Agent サービスを開始するには、次のように入力しま す。

-c "uid=DBA;pwd=SQL;dbn=asademo"

参照

- ◆ 『ASA データベース管理ガイド』> 「サービス作成ユーティリ ティ」
- ◆ 『ASA データベース管理ガイド』>「データベース・サーバ」

[サービス]プロパティ・シート:[アカウント]タブ

[サービス]プロパティ・シートの[アカウント]タブには、次の項目 があります。

[**ローカル・システム・アカウント**] このオプションを選択すると、 システムのローカル・アカウントでサービスが実行されます。

 [デスクトップとの対話をサービスに許可] このオプションを 使用できるのは、[ローカル・システム・アカウント]を選択し た場合だけです。デスクトップのアイコンをクリックしてサー バ・ウィンドウを表示する場合は、このオプションを選択しま す。

[その他のアカウント] このオプションを選択すると、ローカル・ア カウント以外のアカウントでサービスが実行されます。ユーザ ID は ドロップダウン・リストから選択します。このオプションを選択する と、[パスワード]フィールドと[パスワードの確認]フィールドが有 効になります。

- [パスワード] [その他のアカウント]を選択した場合はユーザ ID に対して適切なパスワードを指定してください。また、[パス ワードの確認]テキスト・ボックスでパスワードを確認してく ださい。
- [パスワードの確認] ユーザ ID のパスワードを再入力して正し く入力したことを確認します。
 - ◆ 『ASA データベース管理ガイド』>「サービスの管理」
 - ◆ 『ASA データベース管理ガイド』>「サービス作成ユーティリ ティ」

|サービス|プロパティ・シート:|依存性|タブ

[サービス]プロパティ・シートの[依存性]タブには、次の項目があ ります。

[このサービスはサービス・グループに所属] サービスをサービス・ グループのメンバに割り当てる場合は、このオプションを選択しま す。

 [サービス・グループ] サービスが属するサービス・グループ を指定できます。サービスが属するサービス・グループを変更 するには、[変更]をクリックします。[サービス・グループの 設定]ダイアログが表示されます。このダイアログでは、サー ビスのサービス・グループを指定できます。

[サービス]リスト このサービスの前に起動するサービスとサービ ス・グループすべてがリストされます。このリストには、サービスま たはサービス・グループのタイプも表示されます。

このリストにサービスまたはサービス・グループを追加するには、 [サービスの追加]または[サービス・グループの追加]をクリックしま す。サービスまたはサービス・グループを[サービス]リストから削 除する場合は、サービスまたはサービス・グループを選択して、[削 除]をクリックします。[Shift]キーを押したままでクリックすると複 数のサービスまたはサービス・グループを選択できます。

- 【サービスの追加】「[サービスの依存の追加]ダイアログ」162 ページが表示されます。このダイアログでは、すべてのサービスを表示して、[サービス]リストに追加するサービスを選択できます。
- [サービス・グループの追加]「[サービス・グループの依存の 追加]ダイアログ」162ページが表示されます。このダイアログ では、[サービス]リストに追加するサービス・グループを選択 できます。
- [削除] [サービス]リストからサービスまたはサービス・グ ループを削除します。削除したグループまたはサービスは、こ のサービスよりも前に起動されることはなくなります。
 - ◆ 『ASA データベース管理ガイド』>「サービスの依存」
 - ◆ 『ASA データベース管理ガイド』> 「サービスの管理」
 - ◆ 『ASA データベース管理ガイド』>「一度に複数のサービスを 実行する」

|サービス|プロパティ・シート:|ポーリング|タブ

このタブで行う設定は、現在選択しているサービスだけでなく、すべてのサービスに適用されます。

[サービス]プロパティ・シートの[ポーリング]タブには、次の項目 があります。

[ポーリングを可能にする] Sybase Central でサービスをポーリング してステータスの変更(開始、停止、一時停止、または削除)を確認 する場合は、このオプションを選択します。

[次の間隔でポーリング] [ポーリングを可能にする]を選択した場合は、Sybase Central がサービスをポーリングしてステータスの変更を確認する間隔を指定してください。デフォルトの間隔は10秒です。このウィンドウで設定したポーリング時間は、明示的に変更するまでそのまま使われます。

参照

- ◆ 『ASA データベース管理ガイド』>「サービスのポーリング頻 度の設定」
- ◆ 『ASA データベース管理ガイド』>「サービスの管理」

[SQL Remote サブスクリプション] プロパティ・シート

[SQL Remote サブスクリプション] プロパティ・シートには、[一般] と[詳細]の2つのタブがあります。

[SQL Remote サブスクリプション] プロパティ・シート:[一般]タブ

[SQL Remote サブスクリプション] プロパティ・シートの[一般]タ ブには、次の項目があります。

- [名前] SQL Remote サブスクリプションの名前が表示されます。
- [タイプ] オブジェクトのタイプが表示されます。

[パブリケーション] SQL Remote ユーザがサブスクライブするパブ リケーションが表示されます。

[サブスクライバ] このパブリケーションをサブスクライブする SQL Remote ユーザが表示されます。

[サブスクリプション値] SQL Remote サブスクリプションのサブス クリプション値が表示されます。サブスクリプション値は、パブリ ケーションのサブスクリプション式と比較される文字列です。サブス クライバは、サブスクリプション式がサブスクリプション値と一致す るすべてのローを受信します。

[SQL Remote サブスクリプション] プロパティ・シート:[詳細]タブ

[SQL Remote サブスクリプション]プロパティ・シートの[詳細]タ ブには、次の項目があります。

[サブスクリプションの開始] [すぐに開始]をクリックすると、サ ブスクリプションを手動で開始できます。ただし、なるべく抽出ユー ティリティを使ってサブスクリプションを自動的に開始することをお すすめします。

[サブスクリプションの停止][すぐに停止]をクリックすると、開始されたサブスクリプションを停止できます。

[サブスクリプションの同期化] [すぐに同期化]をクリックすると、 サブスクリプションを手動で同期できます。ただし、なるべく抽出 ユーティリティを使ってサブスクリプションを自動的に同期すること をおすすめします。

参照

◆ 『ASA SQL リファレンス・マニュアル』>「START SUBSCRIPTION 文 [SOL Remote]」

[統計情報] プロパティ・シート

[統計情報]プロパティ・シートには、[一般]タブだけがあります。

[統計情報]プロパティ・シート:[一般]タブ

[統計情報]プロパティ・シートの[一般]タブには、次の項目があり ます。

- [名前] 統計の名前が表示されます。
- [タイプ] オブジェクトのタイプが表示されます。

[説明] 統計についての簡単な説明が表示されます。

[パフォーマンス・モニタでこの統計情報をグラフ表示] 統計をパ フォーマンス・モニタに加えるには、このオプションを選択します。 パフォーマンス・モニタから統計を削除するには、チェック・ボック スをクリアします。

参照 ◆ 『ASA SQL ユーザーズ・ガイド』>「パフォーマンスのモニタ リングと改善」

[同期サブスクリプション]プロパティ・シート

[同期サブスクリプション]プロパティ・シートには、[一般]、 [接続]、[拡張オプション]の3つのタブがあります。

|同期サブスクリプション|プロパティ・シート:|一般|タブ

[同期サブスクリプション]プロパティ・シートの[一般]タブには、 次の項目があります。

[**名前**] 同期サブスクリプションの名前が表示されます。

[タイプ] オブジェクトのタイプが表示されます。

[パブリケーション] Mobile Link ユーザがサブスクライブするパブ リケーションが表示されます。

[サブスクライバ] このパブリケーションをサブスクライブする Mobile Link ユーザが表示されます。

[最終ダウンロード時刻] 最後にダウンロードされた時刻が表示され ます。

[最終アップロード時刻] 最後にアップロードされた時刻が表示され ます。

[世代番号] 同期サブスクリプションの世代番号が表示されます。

世代番号を使用すれば、リモート・データベースに、ファイルのダウ ンロード前にデータをアップロードさせることができます。データ ベース上の同期サブスクリプションごとに異なる世代番号が自動生成 されます。

世代番号の詳細については、『Mobile Link 管理ガイド』>「Mobile Link の世代番号」を参照してください。

参照 ◆ 『SQL Remote ユーザーズ・ガイド』> 「パブリケーションとサ ブスクリプション」

|同期サブスクリプション|プロパティ・シート:|接続|タブ

[同期サブスクリプション]プロパティ・シートの[接続]タブには、 次の項目があります。

[**プロトコル**] 同期に使用する通信プロトコルを指定します。デフォ ルトでは TCP/IP が使用されます。

[接続]タブで指定できる設定は、使用する通信プロトコルによって 決まります。buffer_size などの追加パラメータは、[詳細]フィールド で設定できます。

パラメータの完全なリストについては、『ASA SQL リファレンス・マ ニュアル』>「CREATE SYNCHRONIZATION USER 文 [Mobile Link]」 または 『Mobile Link クライアント』>「CommunicationType (ctp) 拡張 オプション」を参照してください。

- [TCP/IP] このオプションを選択すると、同期に TCP/IP プロトコルを使用します。TCP/IP は、楕円曲線 (以前の Certicom) 暗号化と RSA 暗号化の両方をサポートしています。
- [HTTP] このオプションを選択すると、同期に HTTP プロトコ ルを使用します。HTTP は、楕円曲線 (以前の Certicom) 暗号化 と RSA 暗号化の両方をサポートしています。
- [HTTPS] このオプションを選択すると、同期に HTTPS プロト コルを使用します。HTTPS プロトコルでは、RSA 暗号化だけを 使用できます。

- [HTTPS FIPS] このオプションを選択すると、同期に HTTPS_FIPS プロトコルを使用します。
- [ActiveSync] このオプションを選択すると、ActiveSync を使用 して ActiveSync 用 Mobile Link プロバイダとデータを交換しま す。このプロバイダは、デスクトップ・マシンに常駐していま す。ActiveSync パラメータでは、ActiveSync 用 Mobile Link プロ バイダと Mobile Link 同期サーバ間の通信を記述します。

詳細については、『Mobile Link クライアント』> 「ActiveSync プ ロバイダ・インストール・ユーティリティ」を参照してくださ い。

[ホスト] Mobile Link 同期サーバを実行するマシンの IP 番号または ホスト名。デフォルト値は localhost です。同期サーバがクライアン トと同じマシンで稼働している場合は、localhost を使用できます。

Windows CE では、デフォルト値はレジストリ・フォルダ Comm¥Tcpip¥Hosts¥ppp_peerの ipaddr の値です。このため、Windows CE デバイスは、このデバイスのクレードルが接続されているデスク トップ・マシンで実行されている Mobile Link 同期サーバに接続でき ます。

Palm Computing Platform の場合は、localhost のデフォルト値がデバイ スを指します。ホスト名や IP アドレスを明示的に指定することをお すすめします。

[ポート] Mobile Link 同期サーバは、特定のポートで通信を行います。デフォルトのポート番号は、TCP/IP では 2439、HTTPでは 80、HTTPSでは 443 です。異なる値を選択する場合、指定したポートで受信を行うように Mobile Link 同期サーバを設定してください。

[プロキシ・ホスト] プロキシ・サーバのホスト名または IP アドレ スを入力します。デフォルト値は localhost です。このオプションは、 HTTP 同期と HTTPS 同期でのみ使用できます。

[プロキシ・ポート] プロキシ・サーバのポート番号を入力します。デフォルト値は、HTTPの場合は80、HTTPSの場合は443です。このオプションは、HTTP同期とHTTPS同期でのみ使用できます。

[URL サフィックス] 各 HTTP 要求の1行目のURL に追加するサ フィックスを入力します。デフォルト値は MobiLink です。このオプ ションは、HTTP 同期と HTTPS 同期でのみ使用できます。

プロキシ・サーバを通じて同期するときは、Mobile Link 同期サーバ を見つけるためにサフィックスが必要な場合があります。

 [HTTP バージョン] 同期に使用する HTTP のバージョンを指定 する値を入力します。1.0 または 1.1 を選択できます。デフォル ト値は 1.1 です。

[自動接続] 以下のオプションを使用すると、Pocket PC 2002 または Windows デスクトップ・コンピュータで稼働している Mobile Link ク ライアントがダイヤルアップ・ネットワーク接続を介して接続できる ようになります。

スケジュールを使用している場合は、リモート・デバイスを自動的に 同期できます。スケジュールを使用していない場合は、接続を手動で ダイヤルすることなく dbmlsync を実行できます。

スケジュールの詳細については、『Mobile Link クライアント』>「同 期のスケジュール」を参照してください。

- [ネットワーク名] ネットワーク名を指定して、Mobile Linkの 自動ダイヤル機能を使用できるようにします。これによって、 手動でダイヤルすることなく Pocket PC 2002 または Windows デ スクトップ・コンピュータから接続できます。この名前は、[設 定]-[接続]-[接続](Pocket PC)または[ネットワークとダ イヤルアップ接続](Windows)のドロップダウン・リストで指定 したネットワーク名にしてください。
- [ネットワーク接続のタイムアウト] ネットワーク名を指定す るときに、ダイヤルアップに失敗した後のタイムアウトをオプ ションで指定できます。この機能は、Pocket PC 2002 にのみ適用 されます (Windows では、接続プロファイルを設定することに よってこの機能を制御できます)。デフォルトは 120 秒です。
- [開いたままにする] ネットワーク名を指定するときに、同期の完了後に接続を開いたままにする(1)か、接続を閉じる(0)かをオプションで指定できます。デフォルトでは、接続が閉じられます。

[Certicom セキュリティを有効にする] このオプションを選択する と、この接続を介するすべての通信が暗号化されます。楕円曲線暗号 化または RSA 暗号化を使用できます。デフォルトでは、楕円曲線が 使用されます。

別途ライセンスを取得できるオプションが必要

トランスポート層のセキュリティには、別途ライセンスの SQL Anywhere Studio セキュリティ・オプションを入手する必要がありま す。このセキュリティ・オプションは輸出規制の対象となります。

このコンポーネントを注文するには、『SQL Anywhere Studioの紹介』>「別途ライセンスが入手可能なコンポーネント」を参照してください。

セキュリティの詳細については、『Mobile Link 管理ガイド』>「Mobile Link トランスポート・レイヤ・セキュリティ」を参照してください。

- [楕円曲線暗号] 楕円曲線暗号化を使用して、接続を暗号化し ます。この暗号化を使用すると、TCP/IP 接続と HTTP 接続を暗 号化できます。この暗号化は、以前は Certicom 暗号化と呼ばれ ていました。
- [RSA] RSA 暗号化を使用して、すべての接続を暗号化します。
 この暗号化を使用すると、TCP/IP、HTTP、HTTPS の各接続を
 暗号化できます。
- [RSA FIPS] RSA FIPS 暗号化を使用して、すべての接続を暗号 化します。この暗号化を使用すると、TCP/IP プロトコルと HTTP FIPS プロトコルを介した通信を暗号化できます。
 - [証明書に記載される会社] 証明書を発行した認証局の名 前を入力します。サーバ側とクライアント側の値を一致さ せる必要があります。
 - [証明書に記載される部署] 証明書に記載されている部署 を入力します。これは組織単位とも呼ばれます。サーバ側 とクライアント側の値を一致させる必要があります。
 - [証明書に記載される名前] 証明書の通称を入力します。 サーバ側とクライアント側の値を一致させる必要がありま す。

• [信頼できる証明書] クライアントがサーバを認証するために使用する証明書ファイルの名前を入力します。

[詳細] このフィールドには、パラメータ=値の形式で追加の接続パ ラメータを入力します。複数のパラメータを入力する場合はセミコロ ンで区切ります。たとえば、内容が固定長であるメッセージの本文の 最大サイズを設定し、同期のすべての HTTP 要求に同じ TCP/IP 接続 を使用するようクライアントに指示するには、[詳細]フィールドに 次のように入力します。

buffer_size=58000;persistent=TRUE

このフィールドに入力できる接続パラメータの完全なリストについて は、『ASA SQL リファレンス・マニュアル』>「CREATE SYNCHRONIZATION USER 文 [Mobile Link]」を参照してください。

注意 同期の接続パラメータを設定する方法は複数あります。

競合するオプションを dbmlsync で解決する方法の詳細については、 『Mobile Link クライアント』> 「拡張オプションと接続パラメータの 優先順位」を参照してください。

- ◆ 『ASA SQL リファレンス・マニュアル』>「CREATE SYNCHRONIZATION USER 文 [Mobile Link]」
 - ◆ 『ASA SQL リファレンス・マニュアル』> 「ALTER SYNCHRONIZATION USER 文 [Mobile Link]」
 - ◆ 『Mobile Link クライアント』> 「-x オプション」
 - ◆ 『Mobile Link クライアント』> 「CommunicationAddress (adr) 拡 張オプション」

|同期サブスクリプション|プロパティ・シート:|拡張オプション|タブ

[同期サブスクリプション]プロパティ・シートの[拡張オプション] タブには、次の項目があります。

|このサブスクリプションには次の拡張オプションがあります。|

Mobile Link ユーザに対して設定されている拡張オプションとその値 がリストされます。Mobile Link ユーザの値を設定するには、オプ ション名の横にある [値] フィールドをクリックします。

同期で使用できるすべての拡張オプションを次の表に示します。

これらのオプションの詳細については、『Mobile Link クライアント』> 「dbmlsync 拡張オプション」を参照してください。

拡張オプション	デフォルト	説明
『Mobile Link クライアント』 >「ConflictRetries (cr) 拡張 オプション」	-1 (無限に継 続)	競合のためにダウンロードが 失敗した場合のリトライの回 数を指定する。
『Mobile Link クライアント』 > 「ContinueDownload (cd) 拡張オプション」	OFF	再起動可能なダウンロードを 指定する。
『Mobile Link クライアント』 > 「DisablePolling (p) 拡張オ プション」	OFF	ログスキャンの自動ポーリン グを無効にする。
『Mobile Link クライアント』 > 「DownloadBufferSize (dbs) 拡張オプション」	Windows CE で は 32 K、その 他のオペレー ティング・シ ステムでは 1 M	ダウンロード・バッファのサ イズを指定する。 デフォルトでは、単位として バイトが使用される。キロバ イトまたはメガバイトの単位 を指定するには、それぞれサ フィックス k、mを使用する。
『Mobile Link クライアント』 > 「DownloadOnly (ds) 拡張 オプション」	OFF	ダウンロードのみが同期され るように指定する。
『Mobile Link クライアント』 > 「DownloadReadSize (drs) 拡張オプション」	32 K	再起動可能なダウンロードに ついて、通信障害の後、再送 する必要があるデータ量の最 大値を指定する。
拡張オプション	デフォルト	説明
---	-------	--
『Mobile Link クライアント』 >「ErrorLogSendLimit (el) 拡張オプション」	32 K	同期時に dbmlsync からサーバ に送信するリモート・ログ・ ファイルのサイズを指定する。
		デフォルトでは、単位として バイトが使用される。キロバ イトまたはメガバイトの単位 を指定するには、それぞれサ フィックスk、mを使用する。 dbmlsyncの出力ログ・メッ セージを送信しない場合は、 この拡張オプションを値0に 設定する必要がある。
『Mobile Link クライアント』 > 「FireTriggers (ft) 拡張オプ ション」	ON	ダウンロードが適用されたと きにリモート・データベース でトリガがオンになるように 指定する。
『Mobile Link クライアント』 > 「HoverRescanThreshold (hrt) 拡張オプション」	1 M	これによって、スケジュール 使用時の、再スキャンの実行 までに累積可能な廃棄メモリ 量が制限される。
		デフォルトでは、単位として バイトが使用される。キロバ イトまたはメガバイトの単位 を指定するには、それぞれサ フィックス k、m を使用する。
『Mobile Link クライアント』 > 「IgnoreHookErrors (eh) 拡 張オプション」	OFF	フック関数内で発生したエ ラーを無視するように指定す る。
『Mobile Link クライアント』 > 「IgnoreScheduling (isc) 拡 張オプション」	OFF	スケジュール設定を無視する ように指定する。

拡張オプション	デフォルト	説明
『Mobile Link クライアント』 > 「Increment (inc) 拡張オプ ション」	(無限)	インクリメンタル・アップ ロードのサイズを制御する。
		デフォルトでは、単位として バイトが使用される。キロバ イトまたはメガバイトの単位 を指定するには、それぞれサ フィックス k、mを使用する。
『Mobile Link クライアント』 > 「LockTables (lt) 拡張オプ ション」	ON	アーティクル(同期対象パブ リケーション内のテーブルま たはテーブルの一部)をロッ クしてから同期を実行するよ うに指定する。
『Mobile Link クライアント』 > 「Memory (mem) 拡張オプ	1 M	キャッシュ・サイズを指定す る。
ション」		デフォルトでは、単位として バイトが使用される。キロバ イトまたはメガバイトの単位 を指定するには、それぞれサ フィックス k、m を使用する。
『Mobile Link クライアント』 >「MirrorLogDirectory (mld) 拡張オプション」	(なし)	古いミラー・ログ・ファイル を削除できるように、そのロ ケーションを指定する。
『Mobile Link クライアント』 > 「MobiLinkPwd (mp) 拡張 オプション」	NULL	Mobile Link パスワードを指定 する。
『Mobile Link クライアント』 > 「NewMobiLinkPwd (mn) 拡張オプション」	NULL	新しい Mobile Link パスワード を指定する。
『Mobile Link クライアント』 > 「OfflineDirectory (dir) 拡 張オプション」	NULL	オフライン・トランザクショ ンのログを含むパスを指定す る。

拡張オプション	デフォルト	説明
『Mobile Link クライアント』 >「PollingPeriod (pp) 拡張オ	1分	ログスキャンのポーリング期 間を指定する。
7997]		デフォルトでは、単位として 分が使用される。秒、分、時 間、日の各単位を指定するに は、それぞれサフィックス s、 m、h、d を使用する。
『Mobile Link クライアント』 > 「Schedule (sch) 拡張オプ ション」	スケジュール なし	同期のスケジュールを指定す る。
『Mobile Link クライアント』 > 「ScriptVersion (sv) 拡張オ プション」	DEFAULT	スクリプト・バージョンを指 定する。
『Mobile Link クライアント』 > 「SendColumnNames (scn) 拡張オプション」	OFF	アップロード時にカラム名が 送信されるように指定する。
『Mobile Link クライアント』 > 「SendDownloadACK (sa) 拡張オプション」	OFF	クライアントからサーバにダ ウンロード確認が送信される ように指定する。
『Mobile Link クライアント』 > 「SendTriggers (st) 拡張オ プション」	OFF	アップロード時にトリガの動 作が送信されるように指定す る。
『Mobile Link クライアント』 > 「TableOrder (tor) 拡張オ プション」	(なし)	アップロード・ストリームで のテーブルの順序を指定する。
『Mobile Link クライアント』 > 「UploadOnly (uo) 拡張オ プション」	OFF	アップロードだけが同期に含 まれるように指定する。
『Mobile Link クライアント』 > 「Verbose (v) 拡張オプ ション」	OFF	完全冗長を指定する。 このオプションは dbmlsync - v+ と同じです。

拡張オプション	デフォルト	説明
『Mobile Link クライアント』 > 「VerboseHooks (vs) 拡張 オプション」	OFF	フック・スクリプトに関連す るメッセージがロギングされ るように指定する。
		このオプションは dbmlsync - vs と同じです。
『Mobile Link クライアント』 >「VerboseMin (vm) 拡張オ	OFF	最少量の情報がロギングされ るように指定する。
プション」		このオプションは dbmlsync - v と同じです。
『Mobile Link クライアント』 > 「VerboseOptions (vo) 拡張 オプション」	OFF	ユーザが指定したコマンド・ ライン・オプション(拡張オ プションも含む)に関する情 報がロギングされるように指 定する。
		このオプションは dbmlsync - vo と同じです。
『Mobile Link クライアント』 > 「VerboseRowCounts (vn) 拡張オプション」	OFF	アップロードおよびダウン ロードされたローの数がロギ ングされるように指定する。
		このオプションは dbmlsync - vn と同じです。
『Mobile Link クライアント』 > 「VerboseRowValues (vr) 拡張オプション」	OFF	アップロードおよびダウン ロードされたローの値がロギ ングされるように指定する。
		このオプションは dbmlsync - vr と同じです。
『Mobile Link クライアント』 > 「VerboseUpload (vu) 拡張 オプション」	OFF	アップロード・ストリームに 関する情報がロギングされる ように指定する。
		このオプションは dbmlsync - vu と同じです。

注意 同期の接続パラメータを設定する方法は複数あります。

競合するオプションを dbmlsync で解決する方法の詳細については、 『Mobile Link クライアント』> 「拡張オプションと接続パラメータの 優先順位」を参照してください。

[システム・トリガ]プロパティ・シート

[システム・トリガ]プロパティ・シートには[一般]タブだけがあり ます。

[システム・トリガ]プロパティ・シート:[一般]タブ

[システム・トリガ]プロパティ・シートの[一般]タブには、次の項 目があります。

[名前] システム・トリガの名前が表示されます。

[タイプ] オブジェクトのタイプが表示されます。

[**外部テーブル**] 外部キーがあるテーブルが表示されます。

[**プライマリ・テーブル**] 外部キーに関連付けられたプライマリ・ キーを含むテーブルが表示されます。

[イベント] システム・トリガを実行させるイベント(挿入、削除、 更新、カラムの更新)が表示されます。

[タイミング] トリガをイベントの前に実行するかイベントの後に実行するかが表示されます。

[アクション] プライマリ・キーの更新または削除時に、利用できる 参照整合性アクションのいずれを使用するかが表示されます。

- [RESTRICT] 参照されているプライマリ・キーの値をユーザ が変更しようとした場合、エラーを生成してその変更を防止 します。これがデフォルトの参照整合性アクションです。
- [NULL に設定] 変更されたプライマリ・キーを参照している すべての外部キーを NULL に設定します。

- [SET DEFAULT] 変更されたプライマリ・キーを参照しているすべての外部キーを、そのカラムのデフォルト値(テーブル定義で指定された値)に設定します。
- [値をカスケード] このアクションを ON UPDATE と併用した場合、更新されたプライマリ・キーを参照しているすべての外部キーが、新しい値に更新されます。このアクションを ON DELETE と併用した場合、削除されたプライマリ・キー を参照している外部キーがあるすべてのローが削除されます。

◆ 『ASA SQL ユーザーズ・ガイド』>「参照整合性アクション」

[テーブル]プロパティ・シート

[テーブル]プロパティ・シートには、[一般]、[カラム]、[パー ミッション]、[その他]の4つのタブがあります。

参照

◆ 『ASA SQL ユーザーズ・ガイド』>「テーブルの編集」

[テーブル]プロパティ・シート:[一般]タブ

[テーブル]プロパティ・シートの[一般]タブには、次の項目があります。

[名前] テーブルの名前が表示されます。

[タイプ] オブジェクトのタイプが表示されます。

[**所有者**] テーブルを作成して所有しているデータベース・ユーザが 表示されます。

[DB 領域] テーブルが格納されているデータベース・ファイル(または『SQL Anywhere Studioの紹介』>「DB 領域」)が表示されます。

[名前] 選択されたテーブルのプライマリ・キーの名前が表示されま す。バージョン 9 以降の Adaptive Server Anywhere データベースの テーブルでは、プライマリ・キーに名前を付けることができます。 [すぐにプライマリ・キーを設定][プライマリ・キーの 設定]ダイアログが開きます。このダイアログでは、選択さ れたテーブルのプライマリ・キーを指定または変更できます。

[**カラム**] このテーブルのプライマリ・キー・カラムが表示されま す。

[**クラスタード**] このテーブルにクラスタード・インデックスがある かどうかが表示されます。クラスタード・インデックスは、バージョ ン 8.0.2 以降の Adaptive Server Anywhere データベースでサポートされ ます。

Adaptive Server Anywhere のクラスタード・インデックスには、対応す るインデックス内とほぼ同じ順序でテーブルのローが格納されます。 クラスタード・インデックスを使用するとパフォーマンスが向上する 可能性がありますが、これは、各ページのメモリへの読み込み回数が 少なくて済むためです。特定のテーブル上のインデックスのうち、ク ラスタード・インデックスにできるのは1つだけです。

クラスタード・インデックスの詳細については、『ASA SQL リファレ ンス・マニュアル』>「CREATE INDEX 文」を参照してください。

[すぐにクラスタード・インデックスを設定][クラスタード・インデックスの設定]ダイアログが開きます。このダイアログでは、このテーブル上の特定のインデックスをクラスタード・インデックスとして指定できます。

[インデックス・タイプ] テーブルに含まれるインデックスのタイプ が表示されます。

[最大ハッシュ・サイズ] この情報は、Adaptive Server Anywhere 7 以 前で作成されたデータベースに対してのみ表示されます。ハッシュ・ サイズは、インデックスに値が格納されるときに使われるバイト数で す。

インデックスの詳細については、『ASA SQL ユーザーズ・ガイド』> 「インデックス」を参照してください。

Adaptive Server Anywhere バージョン 6、7 のデータベースは、ハッ シュ・サイズ 10 の標準 B ツリー・インデックスを使用します。 [**コメント**] テーブルの説明を入力します。たとえば、システムにお けるそのテーブルの目的を、この領域に記述できます。

[コミット時] このコントロールは、テーブルが『SQL Anywhere Studio の紹介』>「グローバル・テンポラリ・テーブル」として作成 された場合にのみ表示されます。COMMIT が実行されるときにテー ブルのローが削除されるか保存されるかが示されます。

参照

◆ 『ASA SOL ユーザーズ・ガイド』> 「テーブルの編集」

[テーブル]プロパティ・シート:[カラム]タブ

[テーブル]プロパティ・シートの[カラム]タブには、次の項目があります。

[**カラム**] リスト テーブルのすべてのカラムの他に、その型とコメ ントがリストされます。

[詳細] [カラムの詳細]ダイアログが表示され、カラムのプロパ ティの一覧が表示されます。

参照

- 『ASA SQL ユーザーズ・ガイド』>「プライマリ・キーの管理 (Sybase Central の場合)」
- ◆ 『ASA SQL ユーザーズ・ガイド』>「テーブルの編集」

[テーブル]プロパティ・シート:[パーミッション]タブ

[テーブル]プロパティ・シートの[パーミッション]タブには、次の 項目があります。

[パーミッション]リスト テーブルに対するパーミッションを持つ ユーザがリストされます。リストにユーザを追加する場合は、 [付与]をクリックします。リストからユーザを削除するには、ユーザ を選択して、[取り消し]をクリックします。[Shift]キーを押しなが らクリックすると、複数のユーザを選択できます。

パーミッションの付与または取り消しを行うには、各ユーザの横にあるフィールドをクリックします。ダブルクリックすると(チェック・マークと2つの+記号が表示され)、ユーザに付与オプションが与えられます。

- [付与] [パーミッション付与]ダイアログが表示されます。このダイアログでは、他のユーザまたはグループにテーブルのパーミッションを付与できます。
- [取り消し] ユーザのパーミッションを取り消し、そのユーザ を[パーミッション]リストから削除します。

[選択] ユーザの SELECT パーミッションが、すべてのカラムまたは カラムのサブセットのいずれに適用されるかが表示されます。 [変更]をクリックすると、カラムのサブセットの SELECT パーミッ ションが付与されます。

[更新] ユーザの UPDATE パーミッションが、すべてのカラムまた はカラムのサブセットのいずれに適用されるかが表示されます。[変 更]をクリックすると、カラムのサブセットの UPDATE パーミッショ ンが付与されます。

[参照] ユーザの REFERENCE パーミッションが、すべてのカラム かカラムのサブセットのいずれに適用されるかが表示されます。[変 更]をクリックすると、カラムのサブセットの REFERENCE パーミッ ションが付与されます。

• [変更][変更]をクリックすると、カラムのサブセットの REFERENCE パーミッションが付与されます。

参照

- ◆ 『ASA データベース管理ガイド』>「テーブルおよびビューの パーミッションの概要」
- ◆ 『ASA SQL ユーザーズ・ガイド』>「テーブルの編集」

[テーブル]プロパティ・シート:[その他]タブ

[テーブル]プロパティ・シートの[その他]タブには、次の項目があります。

[最大テーブル幅] テーブルの各ローに必要なバイト数です。この数 字は、文字列カラムでは長さ、数値カラムでは精度、その他すべての データ型では格納のためのバイト数から計算されます。 long binary ま たは long varchar カラムの幅の数値は取得できません。テーブルに long binary または long varchar カラムがある場合、ローの幅を概算し て取得します。 [**ローの数**] テーブルのローの概数を示します。この値を更新するに は、[計算]をクリックします。

• [計算] テーブルのローの数を計算します。

[空き領域] 各テーブル・ページに確保する空き領域のサイズを指定 します。空き領域は、データが更新されたときにローのサイズが増え た場合に使用されます。テーブル・ページに空き領域がない場合は、 ページのローのサイズが増えるたびに、ローを複数のテーブル・ペー ジに分割することが必要になり、ローの断片化が発生します。また、 パフォーマンス低下の可能性があります。

詳細については、『ASA SQL リファレンス・マニュアル』>「ALTER TABLE 文」を参照してください。

- [デフォルト]このオプションを選択すると、ページごとに 200 バイトが予約されます。
- [パーセンテージ]このオプションを選択した場合、0~100 までの整数を指定します。0を指定すると、各ページに空き 領域は残らず、各ページが完全にパックされます。高い値に 設定すると、各ローは単独でページに挿入されます。

[テーブルがデータをレプリケート中] このテーブルを『SQL Anywhere Studio の紹介』>「レプリケーション」・プライマリ・サイ トに含めるには、このオプションを選択します。

レプリケーション・プライマリ・サイトの詳細については、『ASA データベース管理ガイド』>「プライマリ・サイトのコンポーネント」 を参照してください。

参照

◆ 『ASA SQL ユーザーズ・ガイド』>「テーブルの編集」

[テーブル]プロパティ・シート:[制約]タブ

このタブが表示されるのは、バージョン 8.x 以前の Adaptive Server Anywhere で作成されたデータベースに対してだけです。

[テーブル]プロパティ・シートの[制約]タブには、次の項目があります。

[一意性制約]リスト このテーブルに定義されているすべての一意 性制約がリストされます。

このテーブルの新しい一意性制約を作成するには、[新規]をクリックします。このテーブルの特定の一意性制約を削除するには、その一 意性制約をリストから選択した後、[削除]をクリックします。[Shift] キーを押したままでクリックすると、複数の一意性制約を選択できま す。

- [新規][一意性制約の作成]ダイアログが表示されます。ここで、このテーブルのカラムに対する新しい一意性制約を作成できます。
- [削除] 一意性制約をリストから削除します。

[検査制約] 単一のカラムや一連のカラムに関する条件を定義することで、テーブルの検査制約を作成できます。検査制約を使用すると、 特定のカラム(複数可)に入力可能な値を制約できます。

たとえば、次のように入力すると、従業員の勤務開始日が特定の範囲 内かどうかを検査できます。

CHECK (start_date BETWEEN '1983/06/27' AND CURRENT DATE)

詳細については、『ASA SQL ユーザーズ・ガイド』>「カラムに対す る検査制約の使い方」を参照してください。

[テンプレート]プロパティ・シート、[定義]プロパティ・シート、 [サイト]プロパティ・シート

[テンプレート]プロパティ・シート、[定義]プロパティ・シート、 [サイト]プロパティ・シートには、[一般]、[アーティクル]、 [接続]、[拡張オプション]の4つのタブがあります。

注意 [テンプレート]、[定義]、[サイト]の各プロパティ・シートが使用 できるのは、バージョン 7.x 以前の Adaptive Server Anywhere で作成し たデータベースに対してだけです。

[テンプレート]、[定義]、[サイト]の各プロパティ・シート:[一般]タブ

[テンプレート]、[定義]、[サイト]の各プロパティ・シートの[一般]タブには、次の項目があります。

[名前] テンプレート、定義、またはサイトの名前が表示されます。

[タイプ] オブジェクトのタイプが表示されます。

[作成者] テンプレート、定義、またはサイトを作成して所有してい るデータベース・ユーザが表示されます。

[**サイト**] このフィールドが表示されるのは、[定義]プロパティ・ シートだけです。Mobile Link 設定内のこのリモート・データベース をユニークに識別する名前が表示されます。隣接するフィールドでサ イト名を編集できます。

[テンプレート] このフィールドが表示されるのは、[サイト]プロ パティ・シートだけです。サイトによって使用されるテンプレートの 名前が表示されます。

[テンプレート]、[定義]の各プロパティ・シート:[アーティクル]タブ

[サイト]プロパティ・シートには[アーティクル]タブはありません。

[テンプレート]プロパティ・シートと[定義]プロパティ・シートの [アーティクル]タブには、次の項目があります。

[テーブル]タブ [テーブル]タブを使用すると、クライアント・ データベースに入れるテーブルを選択できます。

[カラム]タブ [カラム]タブを使用すると、クライアント・データ ベースに入れるテーブルのカラムを選択できます。

[WHERE 句] タブ [WHERE 句] タブを使用すると、WHERE 句を入 力することで、アーティクルに入れるローを制限できます。

各タブについては、以下で詳しく説明します。

参照

◆ 『ASA SQL リファレンス・マニュアル』>「CREATE PUBLICATION 文」

◆ 『SQL Remote ユーザーズ・ガイド』> 「WHERE 句を使用して 一部のローだけをパブリッシュする」

[テーブル]タブ [テーブル]タブを使用すると、テーブルを選択して、クライアント・ データベースに入るアーティクルのリストに追加できます。

> [使用可能なテーブル]リスト 現在接続しているデータベース内の すべての『SQL Anywhere Studio の紹介』>「ベース・テーブル」がリ ストされます。

[**選択したテーブル]リスト** クライアント・データベースのアー ティクルに入れるすべてのテーブルがリストされます。

- [追加] [一致するテーブル]リストのテーブルを[テーブル] リストに追加すると、そのテーブルがアーティクルに入ります。
- [削除] [テーブル]リストからテーブルを削除すると、その テーブルはアーティクルから除外されます。
- [カラム]タブ [カラム]タブを使用すると、テーブルのカラムを選択して、クライ アント・データベースに入るアーティクルのリストに追加できます。

[使用可能なカラム]リスト [テーブル]タブで選択したテーブルが リストされます。リストのテーブルをクリックすると、そのカラムが 表示されます。

[**選択したカラム]リスト** クライアント・データベースのアーティ クルに入れるすべてのカラムがリストされます。

- [追加][使用可能なカラム]リストで選択したカラムを[カ ラム]リストに追加すると、そのカラムはクライアント・ データベースに入るアーティクルに入ります。
- [削除][カラム]リストからカラムを削除すると、そのカラムはアーティクルから除外されます。
- [WHERE 句] タブ [WHERE 句] タブを使用すると、WHERE 句を指定して、クライアン ト・データベースに入れるローを制限できます。

[**アーティクル]リスト** アーティクルに入っているテーブルのリス トからテーブルを選択します。 [選択したアーティクルには次の WHERE 句があります] アーティ クルに入れるローを制限するために、そのテーブルの WHERE 句をテ キスト・ボックスに入力します。

詳細については、『SQL Remote ユーザーズ・ガイド』>「WHERE 句 を使用して一部のローだけをパブリッシュする」を参照してください。

参照

◆ 『ASA SQL ユーザーズ・ガイド』> 「WHERE 句:ローの指 定」

[テンプレート]、[定義]、[サイト]の各プロパティ・シート:[接続]タブ

[テンプレート]、[定義]、[サイト]の各プロパティ・シートの[接続]タブには、次の項目があります。

[**プロトコル**] 同期に使用する通信プロトコルを指定します。デフォ ルトでは TCP/IP が使用されます。

- [TCP/IP] このオプションを選択すると、同期に TCP/IP プロ トコルを使用します。TCP/IP は、楕円曲線(以前の Certicom) 暗号化をサポートしています。
- [HTTP] このオプションを選択すると、同期に HTTP プロト コルを使用します。HTTP は、楕円曲線 (以前の Certicom) 暗 号化をサポートしています。

[**ホスト**] Mobile Link 同期サーバを実行するマシンの IP 番号または 名前。ローカル・エリア・ネットワークでは、多くの場合、マシン名 が使用されます。デフォルト値は localhost です。同期サーバがクラ イアントと同じマシンで稼働している場合は、localhost を使用できま す。

 【ポート】Mobile Link 同期サーバは特定のポートを介して通信します。デフォルトでは、TCP/IP のポート番号は 2439、 HTTP のポート番号は 80 です。デフォルト以外の値を選択する場合、指定したポートで受信を行うように Mobile Link 同期 サーバを設定してください。 [プロキシ・ホスト] プロキシ・サーバのホスト名または IP アドレ スを入力します。デフォルト値は localhost です。このフィールドが 有効になるのは、HTTP プロトコルが選択された場合だけです。

[プロキシ・ポート]プロキシ・サーバのポート番号。デフォルト値は80です。このフィールドが有効になるのは、HTTPプロトコルが選択された場合だけです。

[URL サフィックス] 各 HTTP 要求の1行目の URL に追加するサフィックス。このパラメータを使用して、特定のクライアントが確実に目的のサーバへ接続するようにできます。このフィールドが有効になるのは、HTTP プロトコルが選択された場合だけです。

[HTTP バージョン] 使用する HTTP のバージョンを指定する文字 列。1.0 または 1.1 を選択できます。このフィールドが有効になるの は、HTTP プロトコルが選択された場合だけです。

[**セキュリティ**] この接続を介したすべての通信を暗号化するには、 楕円曲線(以前の Certicom)暗号化を使用します。

- [Certicom セキュリティを有効にする] 楕円曲線(以前の Certicom)暗号化を使用するには、このオプションを選択しま す。このオプションを選択すると、以下のフィールドが有効に なります。
- [証明書に記載される会社] 証明書を発行した認証局の名前を 入力します。サーバ側とクライアント側の値を一致させる必要 があります。
- [証明書に記載される部署] 証明書に記載されている部署を入 力します。これは組織単位とも呼ばれます。サーバ側とクライ アント側の値を一致させる必要があります。
- [証明書に記載される名前] 証明書の通称を入力します。サー バ側とクライアント側の値を一致させる必要があります。
- [信頼できる証明書] クライアントがサーバを認証するために 使用する証明書ファイルの名前を入力します。

参照

• 『Mobile Link クライアント』> 「-x オプション」

[テンプレート]、[定義]、[サイト]の各プロパティ・シート:[拡張オプション]タブ

[テンプレート]、[定義]、[サイト]の各プロパティ・シートの[拡張オプション]タブには、次の項目があります。

拡張オプション	デフォルト	説明
『Mobile Link クライア ント』> 「ConflictRetries (cr) 拡 張オプション」	-1 (無限に 継続)	競合のためにダウンロードが失敗し た場合のリトライの回数を指定す る。
『Mobile Link クライア ント』>「FireTriggers (ft) 拡張オプション」	ON	ダウンロードが適用されたときにリ モート・データベースでトリガがオ ンになるように指定する。
『Mobile Link クライア ント』>「Increment (inc) 拡張オプション」	(無限)	インクリメンタル・アップロードの サイズを制御する。 デフォルトでは、単位としてバイト が使用される。キロバイトまたはメ ガバイトの単位を指定するには、そ れぞれサフィックスk、mを使用す る。
『Mobile Link クライア ント』>「LockTables (lt) 拡張オプション」	ON	アーティクル(同期対象パブリケー ション内のテーブルまたはテーブル の一部)をロックしてから同期を実 行するように指定する。
『Mobile Link クライア ント』> 「Memory (mem) 拡張オプショ ン」	1 M	キャッシュ・サイズを指定する。 デフォルトでは、単位としてバイト が使用される。キロバイトまたはメ ガバイトの単位を指定するには、そ れぞれサフィックス k、m を使用す る。
『Mobile Link クライア ント』> 「OfflineDirectory (dir) 拡張オプション」	NULL	オフライン・トランザクションのロ グを含むパスを指定する。

拡張オプション	デフォルト	説明
『Mobile Link クライア ント』>「Schedule (sch) 拡張オプション」	スケジュール なし	同期のスケジュールを指定する。
『Mobile Link クライア ント』> 「ScriptVersion (sv) 拡 張オプション」	DEFAULT	スクリプト・バージョンを指定す る。
『Mobile Link クライア ント』> 「SendTriggers (st) 拡張 オプション」	OFF	アップロード時にトリガの動作が送 信されるように指定する。
『Mobile Link クライア ント』>「TableOrder (tor) 拡張オプション」	(なし)	アップロード・ストリームでのテー ブルの順序を指定する。
『Mobile Link クライア ント』>「Verbose (v) 拡張オプション」	OFF	完全冗長を指定する。

[トリガ]プロパティ・シート

[トリガ]プロパティ・シートには[一般]タブだけがあります。

[トリガ]プロパティ・シート:[一般]タブ

[トリガ]プロパティ・シートの[一般]タブには、次の項目があります。

[名前] トリガの名前が表示されます。

[タイプ] オブジェクトのタイプが表示されます。

[**テーブル**] このトリガが関連付けられているテーブルが表示されます。

[**構文**] 最後に保存されたコードの SQL 構文が表示されます。 Watcom-SQL または Transact-SQL です。

[イベント]『SQL Anywhere Studio の紹介』>「トリガ」を実行させるイベント(挿入、削除、更新、カラムの更新)が表示されます。

[タイミング] トリガをイベントの前に実行するかイベントの後に実 行するかが表示されます。ローレベル・トリガには、SQL Remote の 競合タイミングも設定できます。トリガが実行されてから、UPDATE または UPDATE OF カラムリスト・イベントが実行されます。

[レベル] このトリガが『SQL Anywhere Studio の紹介』>「ロー・レベルのトリガ」か『SQL Anywhere Studio の紹介』>「文レベルのトリガ」かが表示されます。

[**順序**] テーブルのトリガで、同じ種類のイベントに対して同じタイ ミングで実行されるものの起動順序を表す番号を指定します。

[コメント] トリガの説明を入力します。たとえば、システムにおけるそのトリガの目的を、この領域に記述できます。

参照

- ◆ 『ASA SQL ユーザーズ・ガイド』>「プロシージャとトリガの 概要」
- ◆ 『ASA SQL ユーザーズ・ガイド』>「プロシージャ、トリガ、 バッチの使用」

[Ultra Light プロジェクト] プロパティ・シート

[Ultra Light プロジェクト] プロパティ・シートには、[一般] タブだ けがあります。

[Ultra Light プロジェクト] プロパティ・シート:[一般]タブ

[Ultra Light プロジェクト] プロパティ・シートの[一般]タブには、 次の項目があります。

[名前] Ultra Light プロジェクトの名前が表示されます。

[タイプ] オブジェクトのタイプが表示されます。

参照

◆ 『Ultra Light データベース・ユーザーズ・ガイド』> 「Ultra Light プロジェクトの作成」

[Ultra Light 文] プロパティ・シート

[Ultra Light 文] プロパティ・シートには、[一般] と [SQL 文] の 2 つ のタブがあります。

[Ultra Light 文] プロパティ・シート:[一般]タブ

[Ultra Light 文] プロパティ・シートの [一般] タブには、次の項目が あります。

[名前] Ultra Light 文の名前が表示されます。

[タイプ] オブジェクトのタイプが表示されます。

[**プロジェクト**] この Ultra Light 文が属する Ultra Light プロジェクト の名前が表示されます。

[コード・セグメント] セグメント名を入力する必要があるのは、 Palm Computing Platform 対応のマルチセグメント・アプリケーション を開発しているときに Ultra Light のデフォルトの割り当てを上書きす る場合だけです。

Palm Computing Platform 用のアプリケーションを構築するときは、 コード・セグメント名を入力することで、Ultra Light 文が格納される 場所を指定する必要があります。ドロップダウン・リストからセグメ ント名を選択するか、新しくセグメント名を指定できます。この フィールドを空白にすると、Ultra Light 文はデフォルトのセグメント ULSEGDEF に保存されます。

[コード・セグメント名]には、先頭が文字の8文字以内の文字列を 指定してください。空白を含めることはできません。[コード・セグ メント名]には英数字とアンダースコアを使用できます。

コード・セグメントの詳細については、『Ultra Light データベース・ ユーザーズ・ガイド』>「Ultra Light データベース」を参照してくだ さい。

● 『Ultra Light C/C++ ユーザーズ・ガイド』>「プロジェクトに 文を追加する」

[Ultra Light 文] プロパティ・シート: [SQL 文] タブ

[Ultra Light 文] プロパティ・シートの [SQL 文] タブには、次の項目 があります。

[この Ultra Light 文には次の SQL 文が含まれています。] Ultra Light 文が表示されます。このウィンドウで SQL 文を編集できます。

参照

- ◆ 『Ultra Light データベース・ユーザーズ・ガイド』>「アプリ ケーションに SOL 文を定義する」
- ◆ 『Ultra Light C/C++ ユーザーズ・ガイド』> 「プロジェクトに 文を追加する」

[一意性制約]プロパティ・シート

[一意性制約]プロパティ・シートには、[一般]と[カラム]の2つのタブがあります。

|一意性制約|プロパティ・シート:|一般|タブ

[一意性制約]プロパティ・シートの[一般]タブには、次の項目があ ります。

[名前] 一意性制約の名前が表示されます。隣接するフィールドで一 意性制約の名前を変更できます。

[タイプ] オブジェクトのタイプが表示されます。

[**テーブル**] この一意性制約が属するテーブルが表示されます。

[クラスタード] この一意性制約を含むテーブルにクラスタード・インデックスがあるかどうかが表示されます。クラスタード・インデックスは、バージョン 8.0.2 以降の Adaptive Server Anywhere データベースでサポートされます。

Adaptive Server Anywhere のクラスタード・インデックスには、対応す るインデックス内とほぼ同じ順番でテーブル・ローが格納されます。 クラスタード・インデックスを使用するとパフォーマンスが向上する 可能性がありますが、これは、各ページのメモリへの読み込み回数が 少なくてすむためです。特定のテーブル上のインデックスのうち、ク ラスタード・インデックスにできるのは1つだけです。

クラスタード・インデックスの詳細については、『ASA SQL リファレ ンス・マニュアル』>「CREATE INDEX 文」を参照してください。

[すぐにクラスタード・インデックスを設定][クラスタード・インデックスの設定]ダイアログが開きます。このダイアログでは、このテーブル上の特定のインデックスをクラスタード・インデックスとして指定できます。

[インデックス・タイプ] テーブルに含まれるインデックスのタイプ が表示されます。

参照

◆ 『ASA SQL リファレンス・マニュアル』>「CREATE TABLE 文」

|一意性制約|プロパティ・シート:|カラム|タブ

[一意性制約]プロパティ・シートの[カラム]タブには、次の項目が あります。

[**カラム**] リスト 一意性制約内のすべてのカラムに加え、各カラム のデータ型とコメントが表示されます。

• [詳細][カラムの詳細]ダイアログが表示され、選択された カラムのプロパティの概要が表示されます。

参照

◆ 『ASA SQL リファレンス・マニュアル』>「CREATE TABLE 文」

[ユーザ]プロパティ・シート

[ユーザ]プロパティ・シートには、[一般]、[権限]、[パーミッション]の3つのタブがあります。

参照

- ◆ 『ASA データベース管理ガイド』>「ユーザ ID とパーミッ ションの管理」
- ◆ 『ASA データベース管理ガイド』>「REMOTE パーミッションの付与と取り消し」

[ユーザ]プロパティ・シート:[一般]タブ

[ユーザ]プロパティ・シートの[一般]タブには、次の項目がありま す。

[名前] ユーザの名前が表示されます。

[タイプ] オブジェクトのタイプが表示されます。

[接続可] このオプションを選択すると、ユーザがデータベースに接続できます。ユーザが接続を許可されないと、パスワード(指定されている場合)はアカウントから削除されます。ユーザの接続を許可するように後で変更する場合は、新しいパスワードを指定する必要があります。このオプションをクリアすると、[パスワード]オプションと[パスワードの確認]オプションが無効になります。

ユーザは、ほとんどの場合、接続を許可されます。

- [パスワード] ユーザのパスワードを入力します。セキュリ ティを強化するため、入力した文字はアスタリスクで表示され ます。
- [パスワードの確認] [パスワード] テキスト・ボックスに入力 したパスワードをもう一度入力して確認します。2つのフィール ドの内容は、完全に一致している必要があります。

[**コメント**] ユーザの説明を入力します。たとえば、リモート・ユー ザがシステムを使用する目的などをここに記述できます。

参照

- ◆ 『ASA データベース管理ガイド』>「REMOTE パーミッションの付与と取り消し」
- ◆ 『ASA データベース管理ガイド』>「ユーザ ID とパーミッ ションの管理」

[ユーザ]プロパティ・シート:[権限]タブ

[ユーザ]プロパティ・シートの[権限]タブには、次の項目があります。

[DBA] このオプションを選択すると、ユーザに DBA 権限が付与さ れます。DBA 権限を持つユーザは、データベースを完全に管理でき ます。

[リソース] このオプションを選択すると、ユーザに RESOURCE 権 限が付与されます。RESOURCE 権限を持つユーザは、データベー ス・オブジェクトを作成できます。

[リモート DBA] このオプションを選択すると、ユーザに REMOTE DBA 権限が付与されます。SQL Remote Message Agent では、このタ イプの権限を持つユーザ ID を使用して、セキュリティ・ホールを作 らずにアクションを確実に実行する必要があります。Mobile Link ク ライアント・ユーティリティの dbmlsync でも REMOTE DBA 権限が 必要です。

参照

- ◆ 『ASA データベース管理ガイド』>「ユーザ ID とパーミッ ションの管理」
- ◆ 『ASA SQL リファレンス・マニュアル』>「GRANT 文」

|ユーザ|プロパティ・シート:|パーミッション|タブ

[ユーザ]プロパティ・シートの[パーミッション]タブには、次の項 目があります。

[パーミッション] リスト ユーザがパーミッションを持っているす べてのテーブルの他に、各テーブルを所有するユーザが表示されま す。各テーブルのフィールドをクリックすると、パーミッションの付 与または取り消しができます。フィールドをダブルクリックすると (チェック・マークと2つの+記号が表示される)、ユーザにパーミッ ションの付与オプションを与えることができます。

[表示] [パーミッション]リストに表示するオブジェクトのタイプ を選択します。

• [**テーブル**] ユーザがパーミッションを持っているすべての テーブル。 参照

- [ビュー] ユーザがパーミッションを持っているすべての ビュー。
- [プロシージャとファンクション] ユーザがパーミッションを 持っているすべてのプロシージャとファンクション。プロシー ジャとファンクションに対して付与できるのは EXECUTE パー ミッションだけです。
- ◆ 『ASA データベース管理ガイド』> 「REMOTE パーミッショ ンの付与と取り消し」

[ビュー] プロパティ・シート

[ビュー]プロパティ・シートには、[一般]、[カラム]、[パーミッション]の3つのタブがあります。

|ビュー|プロパティ・シート:|一般|タブ

[ビュー]プロパティ・シートの[一般]タブには、次の項目があります。

- [名前] ビューの名前が表示されます。
- **[タイプ]** オブジェクトのタイプが表示されます。
- [所有者] ビューを作成して所有するデータベース・ユーザが表示されます。

[**コメント**] ビューの説明を入力します。たとえば、システムにおけるそのビューの目的を、この領域に記述できます。

◆ 『ASA SQL ユーザーズ・ガイド』> 「ビューの作成」
 ◆ 『ASA SOL ユーザーズ・ガイド』> 「ビューの編集」

[ビュー]プロパティ・シート:[カラム]タブ

[ビュー]プロパティ・シートの[カラム]タブには、次の項目があります。

[カラム]リスト ビューに含まれるカラムがリストされます。

参照 ◆ 『ASA SQL ユーザーズ・ガイド』> 「ビューの編集」

[ビュー]プロパティ・シート:[パーミッション]タブ

[ビュー]プロパティ・シートの[パーミッション]タブには、次の項 目があります。

[パーミッション]リスト ビューに対するパーミッションを持つ ユーザがリストされます。リストにユーザを追加する場合は、 [付与]をクリックします。リストからユーザを削除するには、ユーザ を選択して、[取り消し]をクリックします。[Shift]キーを押したま までクリックすると複数のユーザを選択できます。

特定のユーザのパーミッションの付与または取り消しを行うには、各 ユーザの横にあるフィールドをクリックします。ダブルクリックする と(チェック・マークと2つの+記号が表示され)、ユーザに付与オ プションが与えられます。

- 【付与】[パーミッション付与]ダイアログが表示されます。このダイアログでは、他のユーザまたはグループにテーブルのパーミッションを付与できます。
- [取り消し] ユーザのパーミッションを取り消し、そのユーザ を[パーミッション]リストから削除します。

参照

- 『ASA データベース管理ガイド』>「ビューに対するパーミッションの付与」
- ◆ 『ASA SQL ユーザーズ・ガイド』> 「ビューの編集」

|Web サービス | プロパティ・シート

[Web サービス] プロパティ・シートには、[一般]と[SQL 文]の2つ のタブがあります。

[Web サービス] プロパティ・シート:[一般]タブ

[Web サービス] プロパティ・シートの[一般] タブには、次の項目が あります。

[名前] 選択された Web サービスの名前が表示されます。

[タイプ] オブジェクトのタイプが表示されます。

[サービス・タイプ] 選択された Web サービスが、RAW、XML、 HTML、SOAP、DISH のいずれであるかが表示されます。サービス・ タイプを変更するには、ドロップダウン・リストから別のタイプを選 択します。

フォーマット このフィールドは、SOAP サービスと DISH サービス にのみ適用されます。

.NET、Java JAX-RPC などの各種 SOAP クライアントと互換性のある 出力フォーマットが生成されます。SOAP サービスのフォーマットを 指定しなければ、サービスの DISH サービス宣言からフォーマットが 継承されます。DISH サービスがフォーマットを宣言していない場合 は、.NET クライアントと互換性のある DNET がデフォルトになりま す。フォーマット・タイプの異なる複数の DISH サービスを定義する と、フォーマットを宣言していない SOAP サービスをさまざまな種類 の SOAP クライアントで使用できるようになります。

[サービス名プレフィックス] このフィールドは、DISH サービスに だけ適用されます。名前がこのプレフィックスで始まる SOAP サービ スだけが、DISH サービスによって処理されます。

[権限が必要] ユーザがこの Web サービスを使用するときに認証が 必要かどうかを示します。

ボックスにチェック・マークを付けた場合、認証が必要であることを 示します。認証が必要な場合、このサービスに接続するユーザは必 ず、ユーザ名とパスワードを入力する必要があります。[ユーザ] フィールドの横にチェック・マークが表示された場合は、指定された ユーザとして認証しないとこの Web サービスを使用できません。一 方、[ユーザ]フィールドの横にチェック・マークが表示されず、か つ認証が必要な場合、任意のデータベース・ユーザを使って認証すれ ば、この Web サービスを使用できます。 認証が必要でない場合、以下のドロップダウン・リストから特定の ユーザを選択する必要があります。すべての要求は、[ユーザ] フィールドに指定されたユーザのアカウントとパーミッションを使っ て実行されます。

[ユーザ] サービス要求の実行に使用されるユーザのアカウントが表示されます。サービスが認証を必要としない場合、このドロップダウン・リストから特定のユーザを選択する必要があります。すべての要求は、このユーザのアカウントとパーミッションを使って実行されます。

[セキュリティが必要] 非セキュアな接続を受け入れるかどうかが表示されます。ボックスにチェック・マークを付けた場合、Web サービスでセキュリティが必要であることを示します。Web サービスでセキュリティが必要である場合、HTTPS 接続だけが受け入れられます。 チェック・ボックスがクリアされた場合、HTTP 接続と HTTPS 接続の両方が受け入れられます。

[URLパス] URIパスを受け入れるかどうかを指定します。受け入れる場合はその処理方法も指定します。

URIの詳細については、『ASA データベース管理ガイド』>「URLの解釈方法」を参照してください。

 [オフ] URI パスの後半を許可しない場合は、このオプション を選択します。サービスの名前が通常のスラッシュ (/) で終わ る場合、[オフ]を選択します。たとえば、[オフ]を選択し てから次の URL パスを入力したとします。

http://<host-name>/<service-name>/aaa/bbb/ccc

この場合に許されるのは、http://<*host-name*>/<*service-name*> だけです。URI パスの後半 /<aaa/bbb/ccc は許可され ません。

[オン] URI パスの後半が許可され、その後半が単一のパラメータとして設定される場合に、このオプションを選択します。たとえば、次の URL パスを入力したとします。

http://<host-name>/<service-name>/aaa/bbb/ccc

この URI パスの後半は /aaa/bbb/ccc です。これは、単一のパラメータとして処理されます。

[要素] URL パスの後半が許可され、その後半が複数のパラメータとして設定される場合に、このオプションを選択します。たとえば、次の URL パスを入力したとします。

http://<host-name>/<service-name>/aaa/bbb/ccc

パスの各要素はそれぞれ、個別のパラメータとして処理され ます。たとえば、url1=aaa、url2=bbb、url3=cccのようになり ます。

[コメント] Web サービスの説明を入力します。たとえば、システム におけるその Web サービスの目的を、この領域に記述できます。

参照

- ◆ 『ASA データベース管理ガイド』> 「Web サービスの使用」
- ◆ 『ASA SQL リファレンス・マニュアル』>「CREATE SERVICE 文」

[Web サービス] プロパティ・シート: [SQL 文] タブ

[Web サービス] プロパティ・シートの [SQL 文] タブには、次の項目 があります。

[この Web サービスには次の SQL 文が含まれています。] Web サー ビスの SQL 文が表示されます(特定の SQL 文が指定されてい る場合)。このオプションを選択すると、以下のテキスト・ボックス が有効になります。ここで、Web サービスの SQL 文を入力できます。

この文はコマンド(通常はストアド・プロシージャ)であり、ユーザ がサービスにアクセスしたときに呼び出されます。特定の文を定義し た場合、それがこのサービスで実行可能な唯一の文となります。文を 持たないサービスでは、深刻なセキュリティ上の問題が発生します。 というのも、Web クライアントによる任意のコマンドの実行が可能と なるからです。そのようなサービスを作成した場合、認証を有効に し、有効なユーザ名とパスワードの入力をすべてのクライアントに要 求してください。その場合でも、運用システムでは、文が定義された サービスだけが実行されるようにしてください。 SQL 文は、SOAP サービスでは必須です。RAW サービス、XML サー ビス、HTML サービスではオプションであり、DISH サービスでは利 用できません。

- ◆ 『ASA データベース管理ガイド』> 「Web サービスの作成」
- ◆ 『ASA SQL リファレンス・マニュアル』>「CREATE SERVICE 文」

参照

ダイアログ・ボックスの概要

Adaptive Server Anywhere プラグインで変更可能な設定のほとんどは、 ダイアログ・ボックス上に表示されます。それらのダイアログには、 [ファイル]メニューまたは[ツール]メニューからアクセスできます。 Sybase Central に他のプラグインがインストールされていると、それ らのプラグインによる追加のメニュー項目が表示されることがありま す。

[ファイル]メニューには、Sybase Central のメイン・ウィンドウ内に 表示されるオブジェクトに関するコマンドがあります。表示されるメ ニュー項目は、選択されているオブジェクトによって変わります。た とえば、テーブルを選択すると、[ファイル]メニューにはテーブル に関するコマンドやオプションのメニュー項目が表示されます。同じ ように、カラムを選択すると、[ファイル]メニューにはカラムに関 するオプションのメニュー項目が表示されます。これらのメニュー項 目はすべて、オブジェクトを右クリックすると表示されるポップアッ プ・メニューからもアクセスできます。

[ツール]メニューには、接続、切断、プラグイン、Sybase Central の オプションに関するコマンドがあります。これらのメニュー項目は、 メイン・ウィンドウ内で選択されているオブジェクトに関係なく、常 に表示されます。

また、プロパティ・シートを使って Adaptive Server Anywhere の設定 を変更することもできます。これらのプロパティ・シートは、設定可 能なプロパティがあるオブジェクトを選択すると、[ファイル]メ ニュー(またはポップアップ・メニュー)に表示されます。

これらのプロパティ・シートの詳細については、「プロパティ・シートの概要」32ページを参照してください。

Adaptive Server Anywhere 9 [プラグインの環境設定] ダイアログ

[プラグインの環境設定]ダイアログには、[一般]、 [ユーティリティ]、[テーブル・データ]の3つのタブがあります。

[プラグインの環境設定]ダイアログ:[一般]タブ

[プラグインの環境設定]ダイアログの[一般]タブには、次の項目が あります。

[設定] [一般] タブのユーザ設定によって、Sybase Central 内でユー ザが特定のタスクを実行したときの Adaptive Server Anywhere の応答 方法が決定されます。

- [DBA 権限のないユーザ ID と接続したときに警告する] この設定を選択すると、DBA 権限のないユーザ ID と接続しようとしたときに、Adaptive Server Anywhere から警告メッセージが表示されます。
- 「デバッグ中にブレークポイントが検出されたときに通知する」 この設定を選択すると、デバッグ・モードでの作業中にブレー クポイントが検出されたときに、Adaptive Server Anywhere から 通知メッセージが表示されます。
- [デバッグ中に文がキャンセルされたときに通知する] このオ プションを選択すると、デバッグ・モードでの作業中に文が キャンセルされたときに、Adaptive Server Anywhere から通知 メッセージが表示されます。
- [クリップボードとドラッグ・アンド・ドロップ操作でパーミッションの付与を確認する] Sybase Central では、ドラッグ・アンド・ドロップ操作とコピー・アンド・ペースト操作を使用して、テーブル、ビュー、プロシージャ、関数のパーミッションをユーザまたはグループに付与することができます。

この設定を選択すると、テーブル、ビュー、プロシージャ、または関数にユーザまたはグループをドラッグする操作やコピー・アンド・ペーストする操作をした場合、パーミッションが付与される前に Sybase Central から確認プロンプトが表示されます。

 [クリップボードとドラッグ・アンド・ドロップ操作で SQL Remote サブスクリプションの作成を確認する] Sybase Central では、ドラッグ・アンド・ドロップ操作とコピー・アンド・ ペースト操作を使用して、リモート・ユーザと統合ユーザ用の SQL Remote サブスクリプションを作成できます。 この設定を選択すると、リモート・ユーザまたは統合ユーザを パブリケーションにドラッグする操作やコピー・アンド・ペー ストする操作をした場合、ユーザをパブリケーションにサブス クライブする前に、Sybase Central から確認プロンプトが表示さ れます。

[クリップボードとドラッグ・アンド・ドロップ操作で Moblie Link 同期サブスクリプションの作成を確認する] Sybase Central では、ドラッグ・アンド・ドロップ操作とコピー・アンド・ ペースト操作を使用して、Mobile Link ユーザ用の同期サブスク リプションを作成できます。

この設定を選択すると、Mobile Link ユーザをパブリケーション にドラッグする操作やコピー・アンド・ペーストする操作をし た場合、Mobile Link ユーザをパブリケーションにサブスクライ ブする前に、Sybase Central から確認プロンプトが表示されます。

- [テーブル・データ編集時に削除を確認する] この設定を選択 すると、Sybase Central の[データ]タブでデータを削除する前 に Adaptive Server Anywhere から確認プロンプトが表示されま す。
- [テーブル・データ編集時に更新を確認する] この設定を選択 すると、Sybase Central の[データ]タブでデータを更新する前 に Adaptive Server Anywhere から確認プロンプトが表示されま す。
- [テーブル・データ編集時に更新を明示的に確認する] Sybase Central で暗黙的な更新が実行される前に、ユーザにプロンプト を表示させたい場合に、この設定を選択します。暗黙的な更新 が実行されるのは、[データ]タブで特定のローを編集している ときに、Sybase Central 内のそのロー以外の場所をクリックした 場合です。
- [テーブル・データ編集時にキャンセルを確認する] この設定 を選択すると、Sybase Central の[データ]タブでテーブル・ データの変更をキャンセルする前に Sybase Central から確認プロ ンプトが表示されます。

[デフォルトに戻す][デフォルトに戻す]をクリックすると、この タブのユーザ設定がデフォルト値(選択または選択解除)に戻ります。 デフォルトでは、このタブのすべてのユーザ設定が選択されていま す。

[プラグインの環境設定]ダイアログ:[ユーティリティ]タブ

[プラグインの環境設定]ダイアログの[ユーティリティ]タブには、 次の項目があります。

[設定] [ユーティリティ]タブのユーザ設定によって、ウィザードの概要ページを表示するかどうかと、ウィザード完了後にウィザードのメッセージ・ウィンドウを閉じるかどうかが制御されます。

- [データベース作成ウィザードの概要ページを表示する] この 設定を選択すると、[データベースの作成]ウィザードを開いた ときにウィザードの概要ページが表示されます。
- [データベース・アップグレード・ウィザードの概要ページを表示する] この設定を選択すると、[データベースのアップグレード]ウィザードを開いたときにウィザードの概要ページが表示されます。
- [データベース・バックアップ・ウィザードの概要ページを表示 する] この設定を選択すると、[データベースのバックアップ] ウィザードを開いたときにウィザードの概要ページが表示され ます。
- [データベース・リストア・ウィザードの概要ページを表示する] この設定を選択すると、[データベースのリストア]ウィザードを開いたときにウィザードの概要ページが表示されます。
- [バックアップ・イメージ作成ウィザードの概要ページを表示する] この設定を選択すると、[イメージのバックアップ作成] ウィザードを開いたときにウィザードの概要ページが表示されます。

- [データベース・アンロード・ウィザードの概要ページを表示する] この設定を選択すると、[データベースのアンロード] ウィザードを開いたときにウィザードの概要ページが表示されます。
- [データベース抽出ウィザードの概要ページを表示する] この 設定を選択すると、[データベースの抽出]ウィザードを開いた ときにウィザードの概要ページが表示されます。
- [データベース検証ウィザードの概要ページを表示する] この 設定を選択すると、[データベースの検証]ウィザードを開いた ときにウィザードの概要ページが表示されます。
- [データベースの圧縮ウィザードの概要ページを表示する] この設定を選択すると、[データベースの圧縮]ウィザードを開いたときにウィザードの概要ページが表示されます。
- [データベース展開ウィザードの概要ページを表示する] この 設定を選択すると、[データベースの展開]ウィザードを開いた ときにウィザードの概要ページが表示されます。
- [ライト・ファイルの作成ウィザードの概要ページを表示する]
 この設定を選択すると、[ライト・ファイルの作成]ウィザード
 を開いたときにウィザードの概要ページが表示されます。
- [カスタム照合作成ウィザードの概要ページを表示する] この 設定を選択すると、[カスタム照合の作成]ウィザードを開いた ときにウィザードの概要ページが表示されます。
- [ログ・ファイル変換ウィザードの概要ページを表示する] この設定を選択すると、[ログ・ファイルの変換]ウィザードを開いたときにウィザードの概要ページが表示されます。
- [ログ・ファイル設定変更ウィザードの概要ページを表示する]
 この設定を選択すると、[ログ・ファイル設定の変更]ウィザードを開いたときにウィザードの概要ページが表示されます。
- [データベース消去ウィザードの概要ページを表示する] この 設定を選択すると、[データベースの消去]ウィザードを開いた ときにウィザードの概要ページが表示されます。

- [データベース移行ウィザードの概要ページを表示する] この 設定を選択すると、[データベースの移行]ウィザードを開いた ときにウィザードの概要ページが表示されます。
- [インデックス・コンサルタントの概要ページを表示する] この設定を選択すると、インデックス・コンサルタントを開いたときに概要ページが表示されます。
- [完了後にウィザードのメッセージ・ウィンドウを閉じる] この設定を選択すると、ウィザードを完了した後にメッセージ・ウィンドウを閉じます。デフォルトでは、この設定は選択されていません。

[デフォルトに戻す][デフォルトに戻す]をクリックすると、この タブのユーザ設定がデフォルト値(選択または選択解除)に戻ります。 デフォルトでは、[完了後にウィザードのメッセージ・ウィンドウを 閉じる]を除いてこのタブのすべてのユーザ設定が選択されていま す。

|プラグインの環境設定|ダイアログ:|テーブル・データ|タブ

[プラグインの環境設定]ダイアログの[テーブル]タブには、次の項目があります。

[このテーブル・データの表示に使用するフォントを指定してください。] 次のオプションのいずれかを選択することで、Sybase Central でテーブル・データを表示するときに[データ]タブのテーブル・データで使用するフォントを指定します。

- [システム]マシンの標準のテキスト・フォントを使用する場合は、このオプションを選択します。これはデフォルト設定です。
- [エディタ]コード・エディタと同じフォントを使用する場合は、このオプションを選択します。

コード・エディタの詳細については、「[フォーマット]タブ」 220ページを参照してください。 [カスタム]使用するフォント、フォント・スタイル、ポイント・サイズを指定する場合は、このオプションを選択します。
 [参照]をクリックすると、[フォント]ダイアログで目的の設定を選択できます。

[サービスの依存の追加]ダイアログ

[サービスの依存の追加]ダイアログには、次の項目があります。

[リストからサービスを1つ以上選択します。] システムのサービス がすべてリストされます。表示されたリストからサービスを選択して [OK]をクリックすると、そのサービスが、[サービス]プロパティ・ シートの[依存]タブにあるサービスとサービス・グループのリスト に追加されます。

[Shift] キーを押したままでクリックすると複数のサービスを選択でき ます。サービスをダブルクリックすると、選択したサービスが [依存] タブのリストに追加され、ダイアログが閉じます。

参照

- ◆ 『ASA データベース管理ガイド』>「サービスの依存」
- ◆ 『ASA データベース管理ガイド』>「一度に複数のサービスを 実行する」

[サービス・グループの依存の追加]ダイアログ

[サービス・グループの依存の追加]ダイアログには、次の項目があ ります。

[リストからサービス・グループを1つ以上選択します。] システム のサービス・グループがすべてリストされます。表示されたリストか らサービス・グループを選択して [OK] をクリックすると、そのサー ビス・グループが、[サービス]プロパティ・シートの[依存]タブに あるサービスとサービス・グループのリストに追加されます。

[Shift] キーを押したままでクリックすると複数のサービス・グループ を選択できます。ダブルクリックすると、選択したサービス・グルー プが [依存] タブのリストに追加され、ダイアログが閉じます。
参照

- ◆ 『ASA データベース管理ガイド』> 「サービス・グループの概 要」
- 『ASA データベース管理ガイド』>「一度に複数のサービスを 実行する」

|設定の変更|ダイアログ

このダイアログでは、コミット時のチェック、NULL 値を許可するか どうか、および更新/削除動作に関する外部キーの設定を変更できま す。

[設定の変更]ダイアログには、次の項目があります。

[コミット時のみにチェック] データベースの COMMIT が完了する まで待機してからこの外部キーの整合性をチェックし、 WAIT_FOR_COMMIT データベース・オプションの設定を上書きする ようにします。

[NULL **値の入力可**] 外部キー・カラムに NULL 値を入力できるかど うかを決定します。このオプションを使用するには、すべての外部 キー・カラムの [NULL 入力可]を[はい]に設定してください。

[**更新アクション**] 次のいずれかの設定を使用して、ユーザがデータ を更新しようとしたときのテーブルの動作を定義します。

- [使用不可]対応する外部キーがない場合は、関連するプライマリ・テーブルのプライマリ・キーの値を更新できないようにします。
- [値をカスケード] 関連するプライマリ・キーの新しい値と一 致するように、外部キーを更新します。
- [値を NULL に設定] 関連するプライマリ・テーブルの更新 されたプライマリ・キーに対応する外部キー値を、すべて NULL に設定します。
- [値をデフォルトに設定] 更新または削除されたプライマリ・ キー値に一致する外部キーの値を、それぞれの外部キー・カ ラムの DEFAULT 句で指定した値に設定します。このオプ ションを使用するには、すべての外部キー・カラムにデフォ ルト値を設定してください。

[**削除アクション**] 次のいずれかの設定を使用して、ユーザがデータ を削除しようとしたときのテーブルの動作を定義します。

- [使用不可]テーブルに対応する外部キーがない場合は、関連 するプライマリ・テーブルのプライマリ・キーの値を削除で きないようにします。
- [値をカスケード] 関連するプライマリ・テーブルで削除され たプライマリ・キーと一致するローをこのテーブルから削除 します。
- [値を NULL に設定] 関連するプライマリ・テーブルで削除 されたプライマリ・キーに対応するこのテーブルの外部キー 値をすべて NULL に設定します。このオプションを使用する には、すべての外部キー・カラムの [NULL 入力可]を [はい]に設定してください。
- [値をデフォルトに設定] 更新または削除されたプライマリ・ キー値に一致する外部キーの値を、それぞれの外部キー・カ ラムの DEFAULT 句で指定した値に設定します。このオプ ションを使用するには、すべての外部キー・カラムにデフォ ルト値を設定してください。

参照

- ◆ 「[外部キー]プロパティ・シート」57ページ
- ◆ 『ASA SQL ユーザーズ・ガイド』>「外部キーの管理」
- ◆ 『ASA SQL ユーザーズ・ガイド』>「データ整合性の確保」

[ユーザを統合ユーザに変更]ダイアログ

[ユーザを統合ユーザに変更]ダイアログには、次の項目があります。

[**ユーザ**] 選択されているユーザの名前が表示されます。

[メッセージ・タイプ] 『SQL Anywhere Studio の紹介』> 「パブリッ シャ」と通信するための『SQL Anywhere Studio の紹介』> 「メッセー ジ・タイプ」を選択します。

[アドレス] レプリケーション・メッセージの送信先を入力します。 パブリッシャと統合ユーザは個別のアドレスを持っています。選択し たメッセージ・タイプに対して有効なアドレスを入力してください。 たとえば、FTP メッセージ・タイプを選択した場合、有効なアドレス はホスト (ftp.mycompany.com など) または IP アドレス (192.138.151.66 など) です。

[送信頻度] 次のいずれかの値を選択することで、Message Agent の 実行頻度を指定します。

- 【送信して閉じる】 このオプションを選択すると、Message Agent が1回の実行で保留中のすべてのメッセージをこの統合 ユーザへ送信してから停止するように、『SQL Anywhere Studio の紹介』>「レプリケーションの頻度」が設定されます。パブ リッシャがメッセージを送信する前に毎回 Message Agent を再起 動する必要があります。このオプションはリモート・サイト上 で Message Agent を実行する場合にのみ有用です。
- [次の間隔で送信] このオプションを選択すると、Message Agent の実行を継続し、この統合ユーザに指定の間隔でメッセージが送信されるようにレプリケーション頻度が設定されます。 このオプションは統合サイトでもリモート・サイトでも有用です。
- 「毎日次の時刻に送信」このオプションを選択すると、Message Agentの実行を継続し、この統合ユーザに毎日指定時刻にメッ セージが送信されるようにレプリケーション頻度が設定されま す。このオプションは特にリモート・サイトで有用です。
 - ◆ 『ASA SQL リファレンス・マニュアル』>「GRANT CONSOLIDATE 文 [SQL Remote]」
 - ◆ 『SQL Remote ユーザーズ・ガイド』> 「メッセージ・タイプの 処理」
 - ◆ 『ASA データベース管理ガイド』> 「REMOTE パーミッションの付与と取り消し」
 - ◆ 『SQL Remote ユーザーズ・ガイド』> 「SQL Remote パーミッ ションの管理」

[ユーザをリモート・ユーザに変更]ダイアログ

[ユーザをリモート・ユーザに変更]ダイアログには、次の項目があ ります。

参照

[ユーザ] 選択されているユーザの名前が表示されます。

[メッセージ・タイプ] 『SQL Anywhere Studio の紹介』> 「パブリッ シャ」と通信するための『SQL Anywhere Studio の紹介』> 「メッセー ジ・タイプ」を選択します。

[アドレス] レプリケーション・メッセージの送信先を入力します。 パブリッシャとリモート・ユーザは個別のアドレスを持っています。 選択したメッセージ・タイプに対して有効なアドレスを入力してくだ さい。たとえば、FTP メッセージ・タイプを選択した場合、有効なア ドレスはホスト (ftp.mycompany.com など)または IP アドレス (192.138.151.66 など)です。

[送信頻度] 次のいずれかの値を選択することで、Message Agent の 実行頻度を指定します。

- 【送信して閉じる】 このオプションを選択すると、パブリッシャのエージェントが一度の実行で保留中のすべてのメッセージをこのリモート・ユーザへ送信し、終了後停止するように、 『SQL Anywhere Studio の紹介』>「レプリケーションの頻度」が設定されます。エージェントは、パブリッシャがメッセージを送信する前に毎回再起動する必要があります。このオプションはリモート・サイト上で Message Agent を実行する場合にのみ有用です。
- [次の間隔で送信] このオプションを選択すると、パブリッシャのエージェントの実行を継続し、このリモート・ユーザに指定の間隔でメッセージが送信されるようにレプリケーション頻度が設定されます。このオプションは統合サイトでもリモート・サイトでも有用です。
- [毎日次の時刻に送信] このオプションを選択すると、パブ リッシャのエージェントの実行を継続し、このリモート・ユー ザに毎日指定時刻にメッセージが送信されるようにレプリケー ション頻度が設定されます。このオプションは特にリモート・ サイトで有用です。
 - ◆ 『ASA SQL リファレンス・マニュアル』>「GRANT REMOTE 文 [SQL Remote]」
 - ◆ 『SQL Remote ユーザーズ・ガイド』>「メッセージ・タイプの 処理」

参照

- ◆ 『ASA データベース管理ガイド』> 「REMOTE パーミッションの付与と取り消し」
- ◆ 『SQL Remote ユーザーズ・ガイド』> 「SQL Remote パーミッ ションの管理」

[カラムのパーミッション]ダイアログ

[カラムのパーミッション]ダイアログには、次の項目があります。

[このユーザには次のカラム・パーミッションがあります。] 選択し たユーザがテーブルの各カラムに対して持っている、カラムとパー ミッションのタイプがリストされます。各カラムの横に表示される フィールドをクリックすると、パーミッションの付与または取り消し ができます。フィールドをダブルクリックすると(チェックマークと 2つの+記号が表示される)、ユーザにパーミッションの付与オプショ ンを与えることができます。

[**詳細**] 選択したカラムの[カラムの詳細]ダイアログが表示されま す。[カラムの詳細]ダイアログには、選択したカラムの名前、タイ プ、プライマリ・キー、一意性制約、NULLの可否、コメントが表示 されます。

参照

◆ 『ASA データベース管理ガイド』>「テーブルに対するパー ミッションの付与」

|統合ユーザのオプション|ダイアログ

[統合ユーザのオプション]ダイアログには、次の項目があります。

[統合ユーザ] 選択した統合ユーザの名前が表示されます。

[表示] オプション・タイプのリストが表示されます。たとえば、 [データベースのオプション]を選択すると、データベースに関連する オプションのみが[オプション]リストに表示されます。

[オプション]リスト [参照]リストで選択したオプションのタイプ に基づいて、オプションの設定とデフォルト値が表示されます。オプ ションの選択が済んだら、ダイアログの横にあるボタンが使用可能に なります。

- [新規] 統合ユーザのオプションを設定しているときは、この ボタンは有効になりません。新しいオプションを追加するには、 [データベースのオプション]ダイアログを開いてください。
- [すぐに削除] 統合ユーザのオプションを設定しているときは、
 このボタンは有効になりません。オプションを削除するには、
 [データベースのオプション]ダイアログを開いてください。
- [一時的な設定を行う] リモート・ユーザのオプション設定を 一時的に変更するには、[オプション]リストからオプションを 選択して、必要な設定を[値]フィールドに入力し、[一時的な 設定を行う]をクリックします。

一時的な設定値は、現在の Sybase Central セッションの間だけ有効です。

 [恒久的な設定を行う] 統合ユーザのオプション設定を永続的 に変更するには、[オプション]リストからオプションを選択し て、必要な設定を[値]フィールドに入力し、[恒久的な設定を 行う]をクリックします。

恒久的な値は、次に明示的に変更されるまでは、セッションが 変わっても有効です。

[値] [オプション] リストからオプションを選択して、必要な設定 を[値] フィールドに入力します。[一時的な設定を行う] または[恒 久的な設定を行う] のどちらかをクリックすると、設定を一時的また は恒久的にすることができます。ただし、オプションに PUBLIC グ ループが設定されていないと、個々のユーザ ID にそのオプション値 を設定することはできません。

注意 オプション設定を変更した場合、すぐに有効になる設定もあります が、それ以外の設定を有効にするためにはデータベースを再起動して ください。

特定のオプションの詳細については、『ASA データベース管理ガイ ド』>「アルファベット順のオプション・リスト」を参照してください。

参照

- ◆ 『ASA SQL リファレンス・マニュアル』>「SET OPTION 文」
- ◆ 『ASA SQL ユーザーズ・ガイド』>「データベースの編集」

◆ 『ASA データベース管理ガイド』>「ユーザ ID とパーミッ ションの管理」

[スケジュールの作成]ダイアログ

[スケジュールの作成]ダイアログには、[一般]と[再帰]の2つの タブがあります。

|スケジュールの作成|ダイアログ:|一般|タブ

[スケジュールの作成]ダイアログの[一般]タブには、次の項目があ ります。

[**スケジュール**] イベント・スケジュールの名前。隣接するテキス ト・ボックスに入力すると、スケジュールの名前を変更できます。

[**起動時刻**] 次のいずれかのオプションを選択して、イベントが発生 する時刻を指定します。

- [次の時刻に開始] このオプションを選択して、イベントをス ケジュールする日のスケジュール時刻を指定します。[開始日] を指定した場合、[起動時刻]は指定した日のその時刻を意味し ます。[開始日]を指定しない場合、[起動時刻]は、現在の日 付(時刻が経過していない場合)とそれ以降の毎日となります。
- [次の時間帯に開始] その日のうち、スケジュールされた時刻 が発生する範囲。[開始日]を指定した場合、指定の日まで開始 されません。

[開始日] イベントの実行開始をスケジュールする日付。デフォルト は現在の日付です。テキスト・ボックスに日付を入力するか、リスト から年、月、日を選択できます。

- ◆ 『ASA SQL リファレンス・マニュアル』> 「CREATE EVENT 文」
- 『ASA データベース管理ガイド』>「スケジュールとイベント の使用によるタスクの自動化」

参照

[スケジュールの作成]ダイアログ: [再帰]タブ

このタブのすべての設定はオプションです。

[スケジュールの作成]ダイアログの[再帰]タブには、次の項目があ ります。

[次の間隔で繰り返し] 連続してスケジュールするイベントの発生間 隔を選択します。

[次の条件でトリガ] 選択したイベントが発生する曜日か日付または その両方を選択します。以下の[曜日]と[日付]のオプションを有 効にするには、このチェックボックスを選択してください。

- [曜日] 希望の曜日の横のチェックボックスをクリックして、 選択したイベントが発生する曜日を選択します。
- [日付] 希望の日の横のチェックボックスをクリックして、選択したイベントが発生する日を選択します。
 - ◆ 『ASA SQL リファレンス・マニュアル』>「CREATE EVENT 文」
 - 『ASA データベース管理ガイド』>「スケジュールとイベントの使用によるタスクの自動化」

[トリガ条件の作成]ダイアログ

[トリガ条件の作成]ダイアログには、次の項目があります。

[条件] 事前設定されたトリガ条件をリストから選択します。この条件と値(以下で指定)が満たされると、選択したイベントがトリガされます。

[**演算子**] リストから演算子を選択します。比較演算子によって、トリガ条件の条件と値が比較されます。

[**値**] 条件の値を入力します。この値と条件(上記で指定)が満たされると、選択したイベントがトリガされます。

参照

参照

 ● 『ASA データベース管理ガイド』>「イベントのトリガ条件の 定義」

170

|データベースのオプション|ダイアログ

このダイアログで設定するすべてのオプションは、PUBLIC グループ に対して設定されます。PUBLIC グループのオプション値を変更する と、独自の数値を設定していない全ユーザのオプション値を変更する ことになります。ただし、オプションに PUBLIC グループが設定され ていないと、個々のユーザ ID にそのオプション値を設定することは できません。

[データベースのオプション]ダイアログには、次の項目があります。

[**データベース**] 選択されているデータベースの名前が表示されま す。

[表示] オプション・タイプのリストが表示されます。たとえば、 [データベースのオプション]を選択すると、データベースに関連する オプションのみが[オプション]リストに表示されます。

[オプション]リスト [参照]リストで選択したオプションのタイプ に基づいて、オプションの設定とデフォルト値が表示されます。オプ ションの選択が済んだら、ダイアログの横にあるボタンが使用可能に なります。

- [新規] [パブリック・オプションの作成]ダイアログが表示されます。このダイアログで、新しいオプションを定義して値を設定できます。
- [**すぐに削除**] 選択されているオプションをリストから削除し ます。
- [一時的な設定を行う] データベースのオプション設定を一時 的に変更するには、[オプション]リストからオプションを選択 して、必要な設定を[値]フィールドに入力し、[一時的な設定 を行う]をクリックします。

一時的な設定値は、現在の Sybase Central セッションの間だけ有効です。

 [恒久的な設定を行う] データベースのオプション設定を永続 的に変更するには、[オプション]リストからオプションを選択 して、必要な設定を[値]フィールドに入力し、[恒久的な設定 を行う]をクリックします。

恒久的な値は、次に明示的に変更されるまでは、セッションが 変わっても有効です。

[値] [オプション]リストからオプションを選択して、必要な設定 を[値]フィールドに入力します。[一時的な設定を行う]または[恒 久的な設定を行う]のどちらかをクリックすると、設定を一時的また は恒久的にすることができます。

注意 オプションを変更した場合、すぐに有効になる設定もありますが、それ以外の設定を有効にするためにはデータベースを再起動してください。

特定のオプションの詳細については、『ASA データベース管理ガイ ド』>「アルファベット順のオプション・リスト」を参照してください。

参照

- ◆ 『ASA SQL リファレンス・マニュアル』> 「SET OPTION 文」
- ◆ 『ASA SQL ユーザーズ・ガイド』>「データベースの編集」
- ◆ 『ASA データベース管理ガイド』>「ユーザ ID とパーミッ ションの管理」

|スケジュールの編集|ダイアログ

[スケジュールの編集]ダイアログには、[一般]と[再帰]の2つの タブがあります。

|スケジュールの編集|ダイアログ:|一般|タブ

[スケジュールの編集]ダイアログの[一般]タブには、次の項目があ ります。

[**スケジュール**] スケジュールの名前。スケジュールを編集するとき は、スケジュールの名前は変更できません。 [**起動時刻**] 次のいずれかのオプションを選択して、イベントが発生 する時刻を指定します。

- [次の時刻に開始] このオプションを選択して、イベントをス ケジュールする日のスケジュール時刻を指定します。[開始日] を指定した場合、[起動時刻]は指定した日のその時刻を意味し ます。[開始日]を指定しない場合、[起動時刻]は、現在の日 付(時刻が経過していない場合)とそれ以降の毎日となります。
- [次の時間帯に開始] その日のうち、スケジュールされた時刻 が発生する範囲。[開始日]を指定した場合、指定の日まで開始 されません。

[開始日] イベントの実行開始をスケジュールする日付。デフォルト は現在の日付です。テキスト・ボックスに日付を入力するか、リスト から年、月、日を選択できます。

参照

- ◆ 『ASA SQL リファレンス・マニュアル』> 「CREATE EVENT 文」
- 『ASA データベース管理ガイド』>「スケジュールとイベントの使用によるタスクの自動化」

[スケジュールの編集]ダイアログ:[再帰]タブ

このタブのすべての設定はオプションです。

[スケジュールの編集]ダイアログの[再帰]タブには、次の項目があ ります。

[次の間隔で繰り返し] 連続してスケジュールするイベントの発生間 隔を選択します。

[次の条件でトリガ] 選択したイベントが発生する曜日か日付または その両方を選択します。以下の[曜日]と[日付]のオプションを有 効にするには、このチェックボックスを選択してください。

- **[曜日]** 希望の曜日の横のチェックボックスをクリックして、 選択したイベントが発生する曜日を選択します。
- [日付] 希望の日の横のチェックボックスをクリックして、選択したイベントが発生する日を選択します。

参照

- ◆ 『ASA SQL リファレンス・マニュアル』> 「CREATE EVENT 文」
- 『ASA データベース管理ガイド』>「スケジュールとイベントの使用によるタスクの自動化」

[トリガ条件の編集]ダイアログ

[トリガ条件の編集]ダイアログには、次の項目があります。

条件 事前設定されたトリガ条件をリストから選択します。この条件 と値(以下で指定)が満たされると、選択したイベントがトリガされ ます。

[**演算子**] リストから演算子を選択します。比較演算子によって、ト リガ条件の条件と値が比較されます。

[**値**] 条件の値を入力します。この値と条件(上記で指定)が満たされると、選択したイベントがトリガされます。

参照

◆ 『ASA データベース管理ガイド』>「イベントのトリガ条件の 定義」

|所有者別にオブジェクトをフィルタ|ダイアログ

[所有者別にオブジェクトをフィルタ]ダイアログには、次の項目が あります。

[**データベース**] 選択されているデータベースの名前が表示されます。

[表示するオブジェクトを持つユーザとグループを選択します] デー タベースに接続しているすべてのユーザとグループの名前とコメント がリストされます。ユーザまたはグループの横のチェックボックスを 選択すると、オブジェクトが表示されます。

システム・テーブルはユーザ SYS が所有します。Mobile Link システム・テーブルなど、その他の組み込みテーブルは、ユーザ dbo が所有します。

[**すべて選択**] このオプションを選択すると、リストのすべてのユー ザに属するオブジェクトが表示されます。

[すべてをクリア] このオプションを選択すると、[ユーザ]リスト のすべてのチェックボックスがクリアされます。

[デフォルトに戻す] [デフォルトに戻す]をクリックすると、この タブのユーザのリストがデフォルト値(選択または選択解除)に戻り ます。

◆ 『ASA SQL ユーザーズ・ガイド』>「データベースの編集」

◆ 『ASA SQL ユーザーズ・ガイド』>「データベースのシステム・オブジェクトの表示」

[パーミッション付与]ダイアログ

[パーミッション付与]ダイアログには、次の項目があります。

[リストから1つ以上のユーザとグループを選択] パーミッションを 付与できるユーザまたはグループがリストされます。ユーザを選択し て[OK]をクリックすると、選択したテーブル、プロシージャ、関数、 またはビューのパーミッションがユーザまたはグループに付与されま す。ユーザまたはグループをダブルクリックすると、選択したデータ ベース・オブジェクトのパーミッションがユーザまたはグループに付 与され、ダイアログが閉じます。

[Shift] キーを押したままでユーザまたはグループの名前をクリックす ると、複数のユーザにパーミッションを付与できます。

参照

参照

- 『ASA データベース管理ガイド』>「テーブルに対するパー ミッションの付与」
- ◆ 『ASA SQL リファレンス・マニュアル』>「GRANT 文」

[グループのオプション]ダイアログ

[グループのオプション]ダイアログには、次の項目があります。

[グループ] 選択されているグループの名前が表示されます。

[表示] オプション・タイプのリストが表示されます。たとえば、 [データベースのオプション]を選択すると、データベースに関連する オプションのみが[オプション]リストに表示されます。

[オプション]リスト [参照]リストで選択したオプションのタイプ に基づいて、オプションの設定とデフォルト値が表示されます。オプ ションの選択が済んだら、ダイアログの横にあるボタンが使用可能に なります。

- [新規] グループのオプションを設定しているときは、このボ タンは有効になりません。[オプション]リストに新たにオプ ションを追加するには、[データベースのオプション]ダイアロ グを開いてください。
- [すぐに削除] グループのオプションを設定しているときは、 このボタンは有効になりません。[オプション]リスト内のオプ ションを削除するには、[データベースのオプション]ダイアロ グを開いてください。
- [一時的な設定を行う] グループのオプション設定を一時的に 変更するには、[オプション]リストからオプションを選択し て、必要な設定を[値]フィールドに入力し、[一時的な設定を 行う]をクリックします。

一時的な設定値は、現在の Sybase Central セッションの間だけ有効です。

 [恒久的な設定を行う] グループのオプション設定を永続的に 変更するには、[オプション]リストからオプションを選択し て、必要な設定を[値]フィールドに入力し、[恒久的な設定を 行う]をクリックします。

恒久的な値は、次に明示的に変更されるまでは、セッションが 変わっても有効です。

[値] [オプション] リストからオプションを選択して、必要な設定 を[値] フィールドに入力します。[一時的な設定を行う] または[恒 久的な設定を行う] のどちらかをクリックすると、設定を一時的また は恒久的にすることができます。ただし、オプションに PUBLIC グ ループが設定されていないと、グループにそのオプション値を設定す ることはできません。 **注意** オプションを変更した場合、すぐに有効になる設定もありますが、それ以外の設定を有効にするためにはデータベースを再起動してください。

特定のオプションの詳細については、『ASA データベース管理ガイ ド』>「アルファベット順のオプション・リスト」を参照してください。

参照

- ◆ 『ASA SQL リファレンス・マニュアル』> 「SET OPTION 文」
- ◆ 『ASA SOL ユーザーズ・ガイド』> 「データベースの編集」
- ◆ 『ASA データベース管理ガイド』>「ユーザ ID とパーミッ ションの管理」

[新しいメンバ]ダイアログ

[新しいメンバ]ダイアログには、次の項目があります。

[リストから1つ以上のユーザとグループを選択] 選択されたグルー プに追加可能なデータベース内のすべてのユーザとグループの、名前 とコメントがリストされます。

|新しいメンバシップ|ダイアログ

[新しいメンバシップ]ダイアログには、次の項目があります。

[リストから1つ以上のグループを選択] 選択されたグループを追加 可能なデータベース内のすべてのグループの、名前とコメントがリス トされます。

[オプション]ダイアログ

[オプション]ダイアログには、[更新のチェック]、[ロギング]の2 つのタブがあります。

[オプション]ダイアログ:[更新のチェック]タブ(このオプションは日本語版では提供 されていません)

このタブを使用すると、SQL Anywhere Studio にソフトウェアの更新 をチェックさせるかどうかを設定できます。チェックさせる場合はそ の実行頻度も設定できます。更新チェックは、アプリケーション起動 時に実行されます。

また、任意のタイミングで更新をチェックすることもできます。それ には、[スタート]メニューで[プログラム] – [SQL Anywhere 9] – [更新のチェック]を選択するか、Sybase Central、Interactive SQL、コ ンソール・ユーティリティの[ヘルプ]メニューを使用します。

Sybase Central の [オプション]ダイアログの [更新のチェック] タブ には、次の項目があります。

[更新をチェックする頻度を指定してください。] 次のオプションの いずれかを選択することで、SQL Anywhere Studio による更新チェッ クの実行頻度を指定します。デフォルトでは、[チェックしない]が 選択されています。

- [アプリケーションの起動時]このオプションを選択した場合、Sybase Central が起動されるたびに、SQL Anywhere Studioによって更新がチェックされます。
- [毎日]このオプションを選択した場合、日付が変わって初めて Sybase Central が起動されたときに、SQL Anywhere Studio によって更新がチェックされます。
- [週1回]このオプションを選択した場合、週が変わって初めて Sybase Central が起動されたときに、SQL Anywhere Studio によって更新がチェックされます。
- [月1回] このオプションを選択した場合、月が変わって初めて Sybase Central が起動されたときに、SQL Anywhere Studioによって更新がチェックされます。
- [チェックしない] このオプションを選択した場合、SQL Anywhere Studio によって更新はチェックされません。これは デフォルト設定です。

[**チェックする項目を指定してください。**] 次のオプションの任意の 組み合わせを選択することで、SQL Anywhere Studio にチェックさせ る更新の種類を指定します。デフォルトでは、次のオプションはすべ て選択されています。

 [Express Bug Fix] このオプションを選択した場合、SQL Anywhere Studio によって Express Bug Fix がチェックされま す。

Express Bug Fix は、1つ以上のバグ・フィックスが含まれる、 ソフトウェアのサブセットです。これらのバグ・フィックス は、更新のリリース・ノートにリストされます。バグ・ フィックス更新を適用できるのは、同じバージョン番号を持 つインストール済みのソフトウェアに対してだけです。この ソフトウェアについては、ある程度のテストが行われている とはいえ、完全なテストが行われたわけではありません。自 分自身でソフトウェアの妥当性を確かめるまでは、アプリ ケーションとともにこれらのファイルを配布しないでくださ い。

 [メンテナンス・リリース]このオプションを選択した場合、 SQL Anywhere Studio によってソフトウェアのメンテナンス・ リリースがチェックされます。

メンテナンス・リリースは、同じメジャー・バージョン番号 を持つ旧バージョンのインストール済みソフトウェアをアッ プグレードするための完全なソフトウェア・セットです (バージョン番号のフォーマットは、メジャー.マイナー. パッチ.ビルドです)。バグ・フィックスとその他の変更に ついては、アップグレードのリリース・ノートにリストされ ます。

 [その他の情報]このオプションを選択すると、その他の情報 (新製品のリリースや予定されているイベントなど)がチェッ クされます。

|オプション|ダイアログ:|ロギング|タブ

[オプション]ダイアログの[ロギング]タブには、次の項目がありま す。 [**ロギングを可能にする**] このオプションを選択すると、データベー スのロギングが有効になります。

• [日付と時刻を出力に追加] このオプションを選択すると、ロ グ・ウィンドウまたはログ・ファイルに各 SQL 文の発生した 日付と時刻が付加されます。

[テキストをラップ] [設計の詳細]ウィンドウ枠またはログ・ファ イルの各行の長さを指定します。1行の長さが設定された文字数にな ると自動的に次の行に折り返されます。デフォルトで、1行は80文 字です。

[保存] [保存]をクリックすると、ロギング情報がファイルに保存 されます。

[**クリア**] [設計の詳細]ウィンドウ枠の選択されたタブの内容がク リアされます。

|DB 領域の事前割り付け| ダイアログ

[DB 領域の事前割り付け]ダイアログには、次の項目があります。

[DB 領域に事前割り付けする領域のサイズを指定してください。] DB 領域に事前割り付けする領域のサイズを入力します。DB 領域に ディスク領域を事前割り付けすると、対応するデータベース・ファイ ルのサイズがその分だけ大きくなります。

データベースの「ページ・サイズ」は、データベース作成時に固定化 されるので、変更できません。

参照

- ◆ 『ASA SQL リファレンス・マニュアル』>「ALTER DBSPACE 文」
- 『ASA データベース管理ガイド』>「データベース・ファイル 用領域の事前割り付け」

[パブリッシャのオプション]ダイアログ

[パブリッシャのオプション]ダイアログには、次の項目があります。

[パブリッシャ] パブリッシャの名前が表示されます。

[表示] オプション・タイプのリストが表示されます。たとえば、 [データベースのオプション]を選択すると、データベースに関連する オプションのみが[オプション]リストに表示されます。

[オプション]リスト [参照]リストで選択したオプションのタイプ に基づいて、オプションの設定とデフォルト値が表示されます。オプ ションの選択が済んだら、ダイアログの横にあるボタンが使用可能に なります。

- [新規] パブリッシャのオプションを設定しているときは、このボタンは有効になりません。新しいオプションを追加するには、[データベースのオプション]ダイアログを開いてください。
- [すぐに削除] パブリッシャのオプションを設定しているとき は、このボタンは有効になりません。オプションを削除するに は、[データベースのオプション]ダイアログを開いてください。
- [一時的な設定を行う] パブリッシャのオプション設定を一時 的に変更するには、[オプション]リストからオプションを選択 して、必要な設定を[値]フィールドに入力し、[一時的な設定 を行う]をクリックします。

一時的な設定値は、現在の Sybase Central セッションの間だけ有効です。

 [恒久的な設定を行う] パブリッシャのオプション設定を永続 的に変更するには、[オプション]リストからオプションを選択 して、必要な設定を[値]フィールドに入力し、[恒久的な設定 を行う]をクリックします。

恒久的な値は、次に明示的に変更されるまでは、セッションが 変わっても有効です。

[値] [オプション]リストからオプションを選択して、必要な設定 を[値]フィールドに入力します。[一時的な設定を行う]または[恒 久的な設定を行う]のどちらかをクリックすると、設定を一時的また は恒久的にすることができます。ただし、オプションに PUBLIC グ ループが設定されていないと、個々のユーザ ID にそのオプション値 を設定することはできません。

注意 オプション設定を変更した場合、すぐに有効になる設定もあります が、それ以外の設定を有効にするためにはデータベースを再起動して ください。

> 特定のオプションの詳細については、『ASA データベース管理ガイ ド』>「アルファベット順のオプション・リスト」を参照してください。

参照

- ◆ 『ASA SQL リファレンス・マニュアル』>「SET OPTION 文」
- ◆ 『ASA SQL ユーザーズ・ガイド』>「データベースの編集」
- ◆ 『ASA データベース管理ガイド』>「ユーザ ID とパーミッ ションの管理」

[リモート・ユーザのオプション]ダイアログ

[リモート・ユーザのオプション]ダイアログには、次の項目があり ます。

[リモート・ユーザ] 選択したリモート・ユーザの名前が表示されま す。

[表示] オプション・タイプのリストが表示されます。たとえば、 [データベースのオプション]を選択すると、データベースに関連する オプションのみが[オプション]リストに表示されます。

[オプション]リスト [参照]リストで選択したオプションのタイプ に基づいて、オプションの設定とデフォルト値が表示されます。オプ ションの選択が済んだら、ダイアログの横にあるボタンが使用可能に なります。

 【新規】 リモート・ユーザのオプションを設定しているときは、 このボタンは有効になりません。新しいオプションを追加する には、[データベースのオプション]ダイアログを開いてください。

- [すぐに削除] リモート・ユーザのオプションを設定している ときは、このボタンは有効になりません。オプションを削除す るには、[データベースのオプション]ダイアログを開いてくだ さい。
- [一時的な設定を行う] リモート・ユーザのオプション設定を 一時的に変更するには、[オプション]リストからオプションを 選択して、必要な設定を[値]フィールドに入力し、[一時的な 設定を行う]をクリックします。

一時的な設定値は、現在の Sybase Central セッションの間だけ有効です。

 [恒久的な設定を行う] 統合ユーザのオプション設定を永続的 に変更するには、[オプション]リストからオプションを選択し て、必要な設定を[値]フィールドに入力し、[恒久的な設定を 行う]をクリックします。

恒久的な値は、次に明示的に変更されるまでは、セッションが 変わっても有効です。

[値] [オプション]リストからオプションを選択して、必要な設定 を[値]フィールドに入力します。[一時的な設定を行う]または[恒 久的な設定を行う]のどちらかをクリックすると、設定を一時的また は恒久的にすることができます。ただし、オプションに PUBLIC グ ループが設定されていないと、個々のユーザ ID にそのオプション値 を設定することはできません。

注意 オプション設定を変更した場合、すぐに有効になる設定もあります が、それ以外の設定を有効にするためにはデータベースを再起動して ください。

特定のオプションの詳細については、『ASA データベース管理ガイ ド』>「アルファベット順のオプション・リスト」を参照してください。

参照

- ◆ 『ASA SQL リファレンス・マニュアル』>「SET OPTION 文」
- ◆ 『ASA SQL ユーザーズ・ガイド』>「データベースの編集」
- ◆ 『ASA データベース管理ガイド』>「ユーザ ID とパーミッ ションの管理」

[統合ユーザの設定]ダイアログ

[統合ユーザの設定]ダイアログには、次の項目があります。

[リストから新しい統合ユーザを選択] データベースの統合ユーザを 選択できるユーザがリストされます。ユーザを選択して [OK] をク リックすると、選択したユーザに CONSOLIDATED パーミッションが 付与されます。ユーザをダブルクリックすると、CONSOLIDATE パー ミッションがそのユーザに付与され、ダイアログが閉じます。

1 つのデータベースで選択できる統合ユーザは1名のみです。統合 ユーザの名前は、[データベース]プロパティ・シートの [SQL Remote] タブに表示されます。

参照

- ◆ 『ASA SQL リファレンス・マニュアル』>「GRANT CONSOLIDATE 文 [SOL Remote]」
- ◆ 『SQL Remote ユーザーズ・ガイド』>「SQL Remote パーミッ ションの管理」

[クラスタード・インデックスの設定]ダイアログ

クラスタード・インデックスは、バージョン 8.0.2 以降の Adaptive Server Anywhere データベースでサポートされます。

[クラスタード・インデックスの設定]ダイアログには、次の項目が あります。

[**テーブル**] クラスタード・インデックス設定対象のテーブルの名前 が表示されます。

[このテーブルのクラスタ化するインデックスを指定します。] この オプションを選択すると、以下のインデックス・リストが有効になる ので、そこからクラスタ化するインデックスを選択します。

[インデックス] リスト このテーブルのすべてのインデックスが表示されます。クラスタード・インデックスを指定するには、リストから特定のインデックスを選択し、[OK] をクリックします。ただし、特定のテーブル上のインデックスのうち、クラスタード・インデックスにできるのは1つだけです。

参照

- ◆ 『ASA SQL リファレンス・マニュアル』>「CREATE INDEX 文」
- ◆ 『ASA SQL ユーザーズ・ガイド』>「クラスタード・インデッ クスの使用」

[プライマリ・キーの設定]ダイアログ

[プライマリ・キーの設定]ダイアログには、次の項目があります。

[テーブル] 選択されたテーブルの名前が表示されます。

[このテーブルのプライマリ・キーを指定します。] このオプション を選択すると、以下のオプションが有効になります。それらのオプ ションを使って、選択されたテーブルのプライマリ・キーの命名と選 択を行います。

[名前] プライマリ・キーの名前が表示されます。隣接するフィール ドで名前を編集できます。バージョン 9 以降の Adaptive Server Anywhere データベースのテーブルでは、プライマリ・キーに名前を 付けることができます。

[カラム]リスト このテーブルのすべてのカラムが表示されます。 カラム名の横にあるチェック・ボックスにチェック・マークを付ける と、そのカラムがプライマリ・キー・カラムになります。カラムをプ ライマリ・キーから削除するには、対応するチェック・ボックスをク リアしてください。

[クラスタード・プライマリ・キーの作成] このオプションを選択す ると、プライマリ・キーにクラスタード・インデックスが作成されま す。ただし、特定のテーブル上のインデックスのうち、クラスター ド・インデックスにできるのは1つだけです。

参照

- ◆ 『ASA SQL ユーザーズ・ガイド』>「プライマリ・キーの管理」
- ◆ 『ASA SQL ユーザーズ・ガイド』>「クラスタード・インデッ クスの使用」

[パブリッシャの設定]ダイアログ

[パブリッシャの設定]ダイアログには、次の項目があります。

[リストから新しいパブリッシャを選択] パブリッシャを選択できる ユーザがリストされます。ユーザを選択して [OK] をクリックすると、 選択したユーザに PUBLISH パーミッションが付与されます。ユーザ をダブルクリックすると、PUBLISH パーミッションがそのユーザに 付与され、ダイアログが閉じます。

1つのデータベースで選択できるパブリッシャは1つのみです。

参照

- ◆ 『ASA SQL リファレンス・マニュアル』>「GRANT PUBLISH 文 [SQL Remote]」
- ◆ 『SQL Remote ユーザーズ・ガイド』>「SQL Remote パーミッ ションの管理」

[サービス・グループの設定]ダイアログ

[サービス・グループの設定]ダイアログには、次の項目があります。

[新しいサービス・グループ] このオプションを選択すると、選択したサービスを割り当てる新しいサービス・グループが作成されます。

• **[サービス・グループ名]** 上記の[新しいサービス・グループ] を選択した場合は、新しいサービス・グループの名前を入力し ます。

[既存のサービス・グループ] このオプションを選択すると、選択したサービスが既存のサービス・グループのメンバに割り当てられます。

 [サービス・グループ]リスト 既存のサービス・グループがす べてリストされます。このリストが有効になるのは、[既存の サービス・グループ]オプションを選択した場合です。選択し たサービスをサービス・グループに割り当てるには、このリス トから既存のサービス・グループを選択して [OK] をクリックし ます。サービス・グループをダブルクリックすると、そのサー ビス・グループに対割り当てられ、ダイアログが閉じ ます。 ◆『ASA データベース管理ガイド』>「一度に複数のサービスを 実行する」

[データベースの開始]ダイアログ

[データベースの開始]ダイアログには、次の項目があります。

[サーバ] データベースが開始されるサーバ(選択したサーバ)の名前が表示されます。

[データベース・ファイル] サーバ・マシン上の Adaptive Server Anywhere データベース・ファイルまたはライト・ファイルのフル・ パスと名前を入力します。たとえば、サンプル・データベースを起動 するには、「C:\Program Files\Sybase\SQL Anywhere 9\asademo.db」と入 力します。

[参照]ボタンをクリックしてファイルの場所を探すこともできます。

[暗号化キー] 暗号化キーを入力して、データベースを開始します。 暗号化キーを指定して、高度に暗号化されたデータベースを開始しま す。このフィールドは、高度に暗号化されたデータベースに対しての み有効です。

詳細については、『SQL Anywhere Studio セキュリティ・ガイド』> 「データベースの暗号化」と『ASA データベース管理ガイド』> 「dbinit コマンド・ライン・ユーティリティを使用したデータベースの 作成」を参照してください。

[データベース名] 接続するデータベースの名前を入力します。ファ イル名の代わりに、クライアント・アプリケーションのユーザにとっ てさらにわかりやすい名前をデータベースに付けることができます。 複数のデータベースが同時にデータベース・サーバで実行できるた め、データベース名を指定することによって、同一サーバで実行して いるデータベースを区別できます。データベースが停止するまでは、 指定する名前によって識別されます。

データベース名はオプションです。データベース名を指定しないと、 データベース・ファイル名のルート(.db 拡張子を省いたファイル名) がデフォルトのデータベース名になります。たとえば、データベース sample.db がある場合、デフォルトのデータベース名は sample です。 [最終切断後にデータベースを停止] このオプションを選択すると、 最後の接続が終了したときにデータベースが停止します。

このオプションはサーバ・オプションの-gaとは違い、データベース・サーバ自体を自動的に停止します。

参照

- ◆ 『ASA データベース管理ガイド』>「データベース・サーバの 実行」
- ◆ 『ASA SQL ユーザーズ・ガイド』>「データベースの編集」

|イベントのトリガ|ダイアログ

[イベントのトリガ]ダイアログには、次の項目があります。

[イベント] イベントの名前と所有者が表示されます。

[パラメータ] このフィールドには name=value, name=value...の形式 でイベント・パラメータを入力します。

イベントでパラメータが不要な場合は、[OK] をクリックするとイベ ントがトリガされます。

このダイアログでは、イベント・ハンドラのコンテキストをシミュ レートするためにパラメータを明示的に指定できます。このダイアロ グを使用すると、ディスク領域の制限(ディスク領域の使用量が指定 の割合を超えたとき)などのトリガ条件、またはイベント・ハンドラ をトリガするために必要なその他のトリガ条件をテストできます。

たとえば、データベースに接続しているユーザ ID に応じて異なるア クションを実行するイベントを設定できます。これは、イベント・ハ ンドラでイベント・パラメータ ('User')を呼び出すことで実行でき ます。ユーザ P_Chin についてこのイベントのトリガをシミュレート するには、[パラメータ]テキスト・ボックスに次のように入力しま す。

"User"='P_Chin'

User という語は、SQL の予約語であるため二重引用符で囲んでくだ さい。

- 参照 ◆ 『ASA SQL リファレンス・マニュアル』>「TRIGGER EVENT 文」
 - ◆ 『ASA SQL リファレンス・マニュアル』> 「EVENT CONDITION 関数 [システム]」
 - ◆ 『ASA SQL リファレンス・マニュアル』> 「CREATE EVENT 文」
 - 『ASA データベース管理ガイド』>「スケジュールとイベントの使用によるタスクの自動化」

|データのアンロード|ダイアログ

[データのアンロード]ダイアログには、次の項目があります。

[UNLOAD 文を使用してサーバ・コンピュータにデータ・ファイルを 保存] このオプションは、サーバ・マシン上のファイルにデータを エクスポートする場合に選択します。このオプションを選択すると、 アンロード中、テーブル全体に排他ロックが配置されます。 UNLOAD 文の方が OUTPUT 文よりもパフォーマンスが向上します。 ファイル内のデータは1行に1ローずつエクスポートされ、値はカン マで区切られ、文字列は一重引用符で囲まれます。このオプションを 選択した場合、データベースが別のコンピュータで実行されている と、[参照]ボタンが無効になります。

[OUTPUT 文を使用してローカル・コンピュータにデータ・ファイル を保存] このオプションは、ローカル・コンピュータにデータ・ ファイルをエクスポートする場合に選択します。ファイル内のデータ は1行に1ローずつエクスポートされ、値はカンマで区切られ、文字 列は一重引用符で囲まれます。

[次のディレクトリにデータファイルを保存] データを保存する ディレクトリを入力します。データファイルをサーバ・コンピュー タに保存する場合、相対ファイル名はデータベース・サーバの開始 ディレクトリを基準にファイルを指定します。ファイルの保存先ディ レクトリを探すには、[参照]をクリックします。

[プライマリ・キーでデータを並べ替える] このオプションを選択す ると、エクスポートされたデータがプライマリ・キー値の順に並ぶた め、再ロードが速くなります。 [**ローカル・コンピュータ上の次のファイルに再ロード・ファイルを** 保存] データの再ロードに使用する *reload.sql* ファイルの名前とロ ケーションを入力します。

[LOAD 文を使用してサーバ・コンピュータからデータを再ロード] このオプションは、LOAD 文を使ってデータを再ロードする場合に使 用します。LOAD 文の方が INPUT 文よりもパフォーマンスが向上し ます。

詳細については、『ASA SQL ユーザーズ・ガイド』>「LOAD TABLE 文を使用したデータのインポート」を参照してください。

[INPUT 文を使用してローカル・コンピュータからデータを再 ロード] このオプションは、INPUT 文を使ってデータを再ロードす る場合に使用します。

参照

- ◆ 『ASA SQL リファレンス・マニュアル』> 「UNLOAD TABLE 文」
- ◆ 『ASA SQL リファレンス・マニュアル』>「OUTPUT 文 [Interactive SQL]」
- ◆ 『ASA SQL リファレンス・マニュアル』>「LOAD TABLE 文」
- ◆ 『ASA SQL リファレンス・マニュアル』> 「INPUT 文 [Interactive SQL]」

[JAR ファイルの更新] ダイアログ

[JAR ファイルの更新]ダイアログには、次の項目があります。

[更新する JAR ファイルの場所を指定してください] 更新する JAR ファイルのパスをテキスト・ボックスに入力します。パスがわからな い場合は、[参照]ボタンをクリックしてファイルを探すことができ ます。たとえば、C:¥ProgramFiles¥Sybase¥Shared¥java¥Silver.jar と入 力します。

[**すべてのクラスをインストール**] このオプションを選択すると、この JAR ファイルのすべてのクラスがインストールされます。

[選択したクラスをインストール] 選択した JAR ファイルから特定 のクラスを指定してインストールするときは、このオプションを選択 します。クラスの名前はカンマで区切って入力してください。 [選択]ボタンをクリックすると、選択した JAR ファイルのクラスのリ ストが表示されます。

- [すべて選択] JAR ファイルのリストに含まれるすべてのクラ スがインストールされます。
- [**すべてをクリア**] JAR ファイルのリストに含まれるすべての クラスがクリアされ、クラスはインストールされません。

参照 ◆ 『ASA プログラミング・ガイド』>「データベースにおける Java の使用」

|Java クラスの更新 | ダイアログ

[Java クラスの更新]ダイアログには、次の項目があります。

[更新する Java クラス・ファイルの場所を指定してください] 更新 する Java クラスの完全なパスを入力します。たとえば、C:¥my classes¥Utility.class と入力します。

または、[参照]ボタンをクリックすると、Java クラスを検索できます。

参照

- ◆ 『ASA プログラミング・ガイド』>「データベースにおける Java の使用」
- ◆ 『ASA プログラミング・ガイド』> 「クラスと Jar の更新」

[ユーザのオプション]ダイアログ

[ユーザのオプション]ダイアログには、次の項目があります。

[**ユーザ**] 選択されているユーザの名前が表示されます。

[表示] オプション・タイプのリストが表示されます。たとえば、 [データベースのオプション]を選択すると、データベースに関連する オプションのみが[オプション]リストに表示されます。 [オプション]リスト [参照]リストで選択したオプションのタイプ に基づいて、オプションの設定とデフォルト値が表示されます。オプ ションの選択が済んだら、ダイアログの横にあるボタンが使用可能に なります。

- 【新規】 ユーザのオプションを設定しているときは、このボタンは有効になりません。新しいオプションを追加するには、 「データベースのオプション」ダイアログを開いてください。
- [すぐに削除] ユーザのオプションを設定しているときは、このボタンは有効になりません。オプションを削除するには、 [データベースのオプション]ダイアログを開いてください。
- [一時的な設定を行う] ユーザのオプション設定を一時的に変 更するには、[オプション]リストからオプションを選択して、 必要な設定を[値]フィールドに入力し、 [一時的な設定を行う]をクリックします。

一時的な設定値は、現在の Sybase Central セッションの間だけ有効です。

 [恒久的な設定を行う] ユーザのオプション設定を永続的に変 更するには、[オプション]リストからオプションを選択して、 必要な設定を[値]フィールドに入力し、 [恒久的な設定を行う]をクリックします。

恒久的な値は、次に明示的に変更されるまでは、セッションが 変わっても有効です。

[値] [オプション]リストからオプションを選択して、必要な設定 を[値]フィールドに入力します。[一時的な設定を行う]または[恒 久的な設定を行う]のどちらかをクリックすると、設定を一時的また は恒久的にすることができます。ただし、オプションに PUBLIC グ ループが設定されていないと、個々のユーザ ID にそのオプション値 を設定することはできません。

注意 オプション設定を変更した場合、すぐに有効になる設定もあります が、それ以外の設定を有効にするためにはデータベースを再起動して ください。

特定のオプションの詳細については、『ASA データベース管理ガイ ド』>「アルファベット順のオプション・リスト」を参照してください。

- ◆ 『ASA SQL リファレンス・マニュアル』>「SET OPTION 文」
- ◆ 『ASA SQL ユーザーズ・ガイド』>「データベースの編集」
- ◆ 『ASA データベース管理ガイド』>「ユーザ ID とパーミッ ションの管理」

[Windows CE の SQL Remote 用メッセージ・タイプ] ダイアログ

[Windows CE の SQL Remote 用メッセージ・タイプ] ダイアログには、 次の項目があります。

[Windows CE デバイスに次のメッセージ・タイプがあります] この ウィンドウには、Windows CE デバイスで使用できるメッセージ・タ イプがリストされます。SQL Remote レプリケーションのためのメッ セージ・タイプを選択するには、リストからメッセージ・タイプを選 択して [OK] をクリックします。

 サポートされているメッセージ・タイプは、FILE、FTP、SMTP です。

[選択したメッセージ・タイプには次のパラメータがあります] この ウィンドウには、選択したメッセージ・タイプの各パラメータの名前 と値がリストされます。

- **[名前]** 選択したメッセージ・タイプのパラメータ名がリスト されます。
- [値] 選択したメッセージ・タイプのパラメータの値が表示されます。値を変更するには、フィールドをクリックして別の値を入力します。

次の表は、サポートされている各 SQL Remote メッセージ・タイプの パラメータを示します。

参照

FILE メッセージ制

御パラメータ

名前	値の範囲	デフォル ト	説明
Directory	文字列	1.1	メッセージが格納されるディレク トリを設定します。この設定は、 SQLREMOTE 環境変数の代替とな ります。
Debug	YES、NO	NO	YES を設定すると、FILE リンクが 行ったファイル・システム呼び出 しがすべて表示されます。
Unlink_delay	整数	初回の失 敗時は1 秒待機、2 回時は2 秒待機な ど。	ファイル削除に失敗した後、次に ファイルの削除を試みるまでの秒 数を設定します。

FILE メッセージ・システムの詳細については、『SQL Remote ユー ザーズ・ガイド』>「FILE メッセージ・システム」を参照してください。

FTP メッセージ制 御パラメータ

名前	値の範囲	デフォル ト	説明
Host	文字列	11	メッセージが格納されるコン ピュータのホスト名または IP ア ドレス。
User	文字列	11	ftp ホストにアクセスするための ユーザ名。
Password	文字列		ftp ホストにアクセスするための パスワード。
Root_Directory	文字列		メッセージが保存される、ftp ホ スト・サイトのルート・ディレ クトリ。

名前	値の範囲	デフォル ト	説明
Port	文字列	11	ftp の接続に使用される IP ポー ト番号。通常は不要です。
Debug	YES, NO	NO	デバッグ出力の表示を制御する パラメータ。
Active_Mode	YES, NO	NO	すべてのデータ転送接続をクラ イアントとサーバのどちらが開 始するかを制御するパラメー タ。
			このパラメータを NO (受動モー ド)に設定すると、クライアン トがすべてのデータ転送接続 (この場合はメッセージ・ リンク)を開始します。
			このパラメータを YES(アク ティブ・モード)に設定すると、 サーバがすべてのデータ接続を 開始します。
			FTP サーバが正しく設定されて いないファイアウォールの保護 を受けていると、デフォルトの 受動転送モードを使用できない 場合があります。
			このパラメータの詳細について は、『SQL Remote ユーザーズ・ ガイド』>「FTP 問題のトラブ ルシューティング」を参照して ください。

FTP メッセージ・システムの詳細については、『SQL Remote ユーザーズ・ガイド』>「FTP メッセージ・システム」を参照してください。

SMTP メッセージ

制御パラメータ

名前	値の範囲	デフォル ト	説明
Local_Host	文字列	11	ローカル・コンピュータの名 前。ローカル・ホスト名は、任 意の SMTP サーバとのセッショ ンを開始するのに必要です。ほ とんどのネットワーク環境で は、ローカル・ホスト名が自動 的に判断されるため、この値を 指定する必要はありません。
TOP_Supported	YES、NO	YES	受信メッセージを列挙するとき に、SQL Remote は TOP という POP3 コマンドを使用します。 TOP コマンドは、すべての POP サーバでサポートされているわ けではありません。
			この値を NO に設定すると、 RETR コマンドを使用します。 このコマンドは TOP よりも効率 は落ちますが、すべての POP サーバで動作します。
Smtp_Host	文字列		SMTP サーバが動作しているコ ンピュータの名前。SMTP/POP3 ログイン・ダイアログの SMTP ホスト・フィールドに対応して います。
Pop3_Host	文字列		POP ホストを実行しているコン ピュータの名前。SMTP/POP3 ログイン・ダイアログの POP3 ホスト・フィールドに対応して います。
Pop3_Userid	文字列	11	POP ユーザ ID は、SMTP/POP3 ログイン・ダイアログのユーザ ID フィールドに対応していま す。

名前	値の範囲	デフォル ト	説明
Pop3_password	文字列	11	POP パスワードは SMTP/POP3 ログイン・ダイアログのパス ワード・フィールドに対応して います。
Debug	YES、NO	NO	デバッグ情報の表示を制御する パラメータ。YES を設定する と、SMTP と POP3 のコマンド と応答が表示されます。

SMTP メッセージ・システムの詳細については、『SQL Remote ユー ザーズ・ガイド』>「SMTP メッセージ・システム」を参照してくだ さい。

- **参照** 『SQL Remote ユーザーズ・ガイド』>「メッセージ・タイプの 処理」
 - 『SQL Remote ユーザーズ・ガイド』>「メッセージ・タイプの 使用」

デバッガのヘルプ

以下の項では、Sybase デバッガで利用できるダイアログについて説明 します。

デバッガの使用の詳細については、『ASA SQL ユーザーズ・ガイド』> 「データベースでのデバッグ論理」を参照してください。

デバッガ [ウォッチの追加] ダイアログ

ウォッチ対象の SQL 式(ストアド・プロシージャの場合)または Java 式(Java クラスの場合)を入力します。入力した式は、Sybase Central でデバッグ・タスクが実行されるときに[ウォッチ]ウィンドウに表 示されます。

たとえば、ストアド・プロシージャのデバッグ時に SQLSTATE 値を 追跡するには、SQLSTATE とだけ入力します。

参照 ◆ 『ASA SQL リファレンス・マニュアル』>「式」

デバッガ | ブレークポイント | ダイアログ

[ブレークポイント]ダイアログには、次の項目があります。

[**すべてのブレークポイント**] 現在のデータベース内のすべてのブ レークポイントのリスト。

[閉じる] [ブレークポイント]ダイアログを閉じます。

[編集] 現在選択されているブレークポイントを編集します。たとえば、このブレークポイントによって実行が中断されるための条件を設定または変更できます。

[**コードの表示**] [ブレークポイント]ダイアログが閉じ、選択され たブレークポイントのコードが表示されます。

[**有効にする**] 選択されたブレークポイントが有効になり、実行が中 断されるようになります。コード・ウィンドウ内で、ブレークポイン トは赤色の円として表示されます。
[無効にする] 選択されたブレークポイントが無効になり、実行が中断されないようになります。コード・ウィンドウ内で、ブレークポイントは灰色の円として表示されます。

[削除] 選択されているブレークポイントをリストから削除します。

[新しいブレークポイント]新しいブレークポイントを作成します。

◆ 『ASA SQL ユーザーズ・ガイド』>「ブレークポイントの活 用」

デバッガ [ブレークポイントの編集] ダイアログ/ [新しいブレークポ イント | ダイアログ

[ブレークポイントの編集]および[新しいブレークポイント]ダイア ログには、次の項目があります。

[サーバ] このブレークポイントを適用するデータベース・サーバ。

[データベース] このブレークポイントを適用するデータベース。

[**プロシージャ**] SQL プロシージャの場合、このブレークポイントを 適用するストアド・プロシージャ。

[**クラス**] Java クラスの場合、このブレークポイントを適用するクラス。

[条件] 評価結果が真になるべき条件。これが真になった場合に、このブレークポイントによって実行が中断されます。

この条件は、プロシージャ内の変数に関するものでなくてもかまいま せん。たとえば、特定のユーザによって作成された接続に適用される ブレークポイントを設定できます。それには、次のような条件を入力 します。

CURRENT USER = 'User-name'

詳細については、『ASA SQL リファレンス・マニュアル』>「探索条件」を参照してください。

[**カウント**] このブレークポイントによって実行が中断されるまでの スキップ回数。0を指定した場合、常にブレークポイントによって実 行が停止されます。

[このブレークポイントを有効にする] このボックスにチェック・ マークを付けると、このブレークポイントによって実行が中断される ようになります。

◆ 『ASA SQL ユーザーズ・ガイド』>「ブレークポイント条件の 編集」

デバッガ [Java ソース] ダイアログ

[Java ソース]ダイアログには、次の項目があります。

[フォルダのリスト] フォルダまたは個々のファイルのリスト。デ バッガはこのリスト内で Java ソースを検索します。

[フォルダの参照] リストに追加するフォルダを参照します。

[ファイルの参照] リストに追加する個々のファイルを参照します。

◆ 『ASA プログラミング・ガイド』> 「クラスの作成」

参照

参照

インデックス・コンサルタント

インデックス・コンサルタントは、ユーザがデータベースのインデッ クスを適切に選択できるように支援します。インデックス・コンサル タントは、単一のクエリまたは一連のデータベース要求(負荷と呼ば れる)に対するインデックスの選択プロセスを支援します。インデッ クス・コンサルタントは、さまざまな仮想インデックス・セットを作 成します。インデックス・コンサルタントは、仮想インデックス・ セットごとに、インデックスが実際に存在するものと仮定してクエリ や要求を最適化します。インデックス・コンサルタントは、分析結果 に基づいて一連の推奨案を作成します。

参照

- ◆ 『ASA SQL ユーザーズ・ガイド』>「インデックス・コンサル タントの概要」
- ◆ 『ASA SQL ユーザーズ・ガイド』>「インデックス・コンサル タントの知識」
- ◆ 『ASA SQL ユーザーズ・ガイド』>「負荷の知識」
- ◆ 『ASA SQL ユーザーズ・ガイド』> 「分析の知識」
- ◆ 『ASA SQL ユーザーズ・ガイド』>「推奨内容の知識」
- ◆ 『ASA SQL ユーザーズ・ガイド』>「推奨内容の評価」
- ◆ 『ASA SQL ユーザーズ・ガイド』>「推奨内容の実装」

第4章 Interactive SQL のヘルプ

この章の内容 この章では、Interactive SQL で表示されるすべてのダイアログ・ボックスとウィザードについて説明します。

Interactive SQL について

次の表は、Interactive SQL の実行方法や使用方法に関する情報の参照 先をまとめたものです。

目的	参照先
Interactive SQL を起動する方法	『SQL Anywhere Studio の紹介』> 「レッスン2:Interactive SQL のイ ンタフェース」
データベースに接続する方法	『SQL Anywhere Studio の紹介』> 「サンプル・データベース」
Interactive SQL ツールバーを使用する 方法	『SQL Anywhere Studio の紹介』> 「Interactive SQL メイン・ウィンド ウの説明」
新しい Interactive SQL ウィンドウを開 く方法	『SQL Anywhere Studio の紹介』> 「複数のウィンドウを開く」
キーボード・ショートカット情報	『SQL Anywhere Studio の紹介』> 「Interactive SQL キーボード・ ショートカット」
データを表示する方法	『SQL Anywhere Studio の紹介』> 「レッスン 3 :Interactive SQL を使 用したデータの表示」
Interactive SQL で SQL コマンドを実行 する方法	『SQL Anywhere Studio の紹介』> 「レッスン4:SQL 文の使用」
データ選択に関する詳細情報	『SQL Anywhere Studio の紹介』> 「データベース・テーブルからの データの選択」
クエリ・エディタを使って SELECT 文 を作成する方法に関する情報	「クエリ・エディタの概要」 296 ページ
データのロードとアンロードに関する 詳細情報	『ASA SQL ユーザーズ・ガイド』> 「データベースとの間でのデータの 転送」
Interactive SQL オプションを設定する 方法	「[オプション]ダイアログ] 209 ページ

目的	参照先
共通のタスクを自動化する方法	『ASA SQL ユーザーズ・ガイド』> 「SQL コマンド・ファイルの使用」
JDBC エスケープ構文の使用方法	『ASA プログラミング・ガイド』> 「JDBC エスケープ構文の使用」
Interactive SQL から印刷する方法	『SQL Anywhere Studio の紹介』> 「SQL 文の印刷」
Interactive SQL からグラフィカルなプ ランを印刷する方法	『ASA SQL ユーザーズ・ガイド』> 「グラフィカルなプラン」
インデックス・コンサルタントを使用 してクエリを分析する方法	『ASA SQL ユーザーズ・ガイド』> 「インデックス・コンサルタントの 起動」

Interactive SQL のダイアログ・ボックスの概要

Interactive SQL のすべてのダイアログは、[ツール]メニューを使用 して表示できます。これらのダイアログを使用して、Interactive SQL の設定、クエリに挿入するテーブル名やプロシージャ名の検索、クエ リの編集が行えます。

[ツール]メニューから表示できるダイアログは次のとおりです。

[テーブル名のルックアップ]「[テーブル名のルックアップ]ダイア ログ」208ページでは、テーブル名やカラム名を検索して、それを [SQL 文]ウィンドウ枠に挿入できます。

[プロシージャ名のルックアップ] 「[プロシージャ名のルックアップ]]ダイアログ」207ページでは、プロシージャ名を検索して、それを [SQL 文]ウィンドウ枠に挿入できます。

[**クエリの編集**] クエリ・エディタによって、Interactive SQL で SELECT 文の作成と編集を行うもう1つの方法が提供されます。

詳細については、「クエリ・エディタの概要」 296 ページを参照してく ださい。

インデックス・コンサルタント インデックス・コンサルタントは、 ユーザがインデックスを適切に選択できるように支援します。イン デックス・コンサルタントを使えば、特定のクエリに対するさまざま なインデックスのメリットを分析できます。

詳細については、『ASA SQL ユーザーズ・ガイド』>「インデックス・ コンサルタントの起動」を参照してください。

[オプション] 「[オプション]ダイアログ」209 ページでは、 Interactive SQL でコマンド、外観、データのインポートとエクスポー ト、メッセージなどのオプションを設定できます。

[プロシージャ名のルックアップ]ダイアログ

[プロシージャ名のルックアップ]ダイアログを使用すると、データ ベースに格納されているプロシージャの名前を検索できます。検索し ているプロシージャが見つかったら、[SQL 文]ウィンドウ枠の現在 のカーソル位置に挿入できます。

[プロシージャ名のルックアップ]ダイアログには、次の項目があります。

[検索するプロシージャの最初の何文字かを入力してください。] テ キスト・ボックスにプロシージャ名の最初の数文字を入力すると、入 力したテキストで始まるプロシージャのみがリストされます。

[必要なプロシージャをクリックしてから、[OK] をクリックしてくだ さい。] リストからプロシージャを選択します。[OK] をクリックす ると、プロシージャ名が [SQL 文] ウィンドウ枠の現在のカーソル位 置に挿入されます。

[所有者名を表示] リストの各プロシージャ名に所有者であるデータ ベース・ユーザ名をプレフィクスとして付けるには、このオプション を選択します。

[システム・オブジェクトを表示] システムに用意されているストア ド・プロシージャをリストに表示する場合は、このオプションを選択 します。

ヒント

SQLのワイルドカード文字 '%'(パーセント記号)と'_'(アンダースコア)を使用すると、検索対象を絞り込むことができます。'%'は、0文字以上の任意の文字列を表し、'_'は、任意の1文字を表します。

たとえば、profile という語を含むすべてのプロシージャをリストする には、**%profile%** と入力します。

プロシージャ名に含まれるパーセント記号またはアンダースコアを検 索する場合は、パーセント記号またはアンダースコアの前にエスケー プ文字を付ける必要があります。エスケープ文字は、使用している JDBC ドライバによって異なります。jConnect を使用して接続している場合のエスケープ文字はい(円記号)、iAnywhere JDBC ドライバを使用している場合は'~'(チルダ)です。

[テーブル名のルックアップ]ダイアログ

[テーブル名のルックアップ]ダイアログを使用すると、現在接続しているデータベースに格納されているテーブルやカラムの名前を検索できます。検索しているテーブルやカラムの名前が見つかったら、 [SQL 文]ウィンドウ枠の現在のカーソル位置に挿入できます。

[テーブル名のルックアップ]ダイアログには、次の項目があります。

[検索するテーブルの最初の何文字かを入力してください。] テキス ト・ボックスにテーブル名の最初の数文字を入力すると、入力したテ キストで始まるテーブルだけがリストされます。

[対象テーブルをクリックしてから、[OK] または [カラムを表示]を クリックしてください] リストから必要なテーブルを選択し、[OK] をクリックすると、テーブル名が [SQL 文] ウィンドウ枠に挿入され ます。

次のオプションを使用すると、リストに表示されるテーブルを制限で きます。検索するテーブルのタイプがわかっている場合は、そのタイ プだけを選択することでリストを制限します。以下に列挙されたテー ブル・タイプの一部またはすべてを選択できます。また、テーブルの 所有者の名前をリスト内に表示することもできます。

- [テーブルを表示] 任意の所有者が所有する、システム・テー ブルでないすべての永久テーブル。テンポラリ・テーブルは テーブルのリストに表示されません。
- [システム・テーブルを表示] すべてのシステム・テーブル。
- **[ビューを表示]** すべてのビュー。
- [**所有者名を表示**] このオプションを選択すると、テーブルの 所有者がリストに入ります。

[**カラムを表示**] リストからテーブルを選択した後、

[カラムを表示]をクリックすると、選択したテーブルのすべてのカラ ムのリストが表示されます。[カラムの選択]ダイアログで[OK]をク リックすると、選択したカラム名が[SQL文]ウィンドウ枠の現在の カーソル位置に挿入されます。

ヒント

SQLのワイルドカード文字 '%'(パーセント記号)と'_'(アンダースコア)を使用すると、検索対象を絞り込むことができます。'%'は、0文字以上の任意の文字列を表し、'_'は、任意の1文字を表します。

たとえば、profile という語を含むすべてのテーブルをリストするに は、**%profile%** と入力します。

テーブル名に含まれるパーセント記号またはアンダースコアを検索す る場合は、パーセント記号またはアンダースコアの前にエスケープ文 字を付ける必要があります。エスケープ文字は、使用している JDBC ドライバによって異なります。jConnect を使用して接続している場合 のエスケープ文字はい(円記号)、iAnywhere JDBC ドライバを使用し ている場合はい(チルダ)です。

[オプション]ダイアログ

Interactive SQL を設定するには [オプション]ダイアログを使用しま す。このダイアログには、コマンド、外観、結果セット、インポート /エクスポート機能、メッセージ、クエリ最適化プランに関する設定 や、コード・エディタの設定が含まれます。

Interactive SQL の [オプション]ダイアログには、[一般]、[結果]、[インポート/エクスポート]、[メッセージ]、[プラン]、 [エディタ]、[クエリ・エディタ]の7つのタブがあります。

[オプション]ダイアログ:[一般]タブ

Interactive SQL の [オプション]ダイアログの [一般] タブには、次の 項目があります。

[コミット] 変更内容をデータベースにいつコミットするかを次のオ プションから選択できます。また、適切なときに手動で明示的に COMMIT コマンドを入力してもコミットを実行できます。

- [各コマンドの後] SQL 文を実行するたびに変更内容をデータ ベースにコミットするには、このオプションを選択します。
- 「終了時」 Interactive SQL セッションを終了するときに変更内容 をデータベースにコミットするには、このオプションを選択し ます。これはデフォルト設定です。

詳細については、『ASA データベース管理ガイド』> 「AUTO_COMMIT オプション [Interactive SQL]」を参照してくだ さい。

[コマンド・ファイル] 次のオプションは、コマンド・ファイル実行時の Interactive SQL の動作を制御します。

 [エラー発生時] オプションを1つ選択して、Interactive SQL が コマンド・ファイルの文を実行しているときにエラーを検出し た場合の対応を制御します。選択したオプションによって、 Interactive SQL はファイルの実行継続、ファイルの実行停止、ま たは終了のいずれかを行います。デフォルト設定は[プロンプ ト]です。

コマンド・ファイルから文を実行中に Interactive SQL がエラー に対処する方法の設定については、『ASA データベース管理ガイ ド』> 「ON_ERROR オプション [Interactive SQL]」を参照してく ださい。

• [コマンド・ファイルをログに出力] このオプションを選択す ると、Interactive SQL は、コマンド・ファイルから実行した SQL 文をログ・ファイルに記録します。

デフォルトではコマンド・ファイルがログにコピーされます。

詳細については、『ASA データベース管理ガイド』>「ECHO オ プション [Interactive SQL]」を参照してください。 [ファイル参照時のブラウザを起動する場所を指定してください。] 次のオプションのいずれかを選択することで、ファイル参照時に Interactive SQL が最初に使用するディレクトリを指定します。後続の Interactive SQL セッションでもこの設定を使用したい場合は、次のい ずれかのオプションを選択した後で、[設定]をクリックしてください。

- [最後に使用したフォルダ]このオプションを選択した場合、 ファイルブラウザを最後に使用したときのディレクトリが、 ブラウザの初期ディレクトリになります。これはデフォルト 設定です。
- [現在のフォルダ]このオプションを選択した場合、ブラウザ が使用する初期ディレクトリは、オペレーティング・システ ムによって定義されている現在のフォルダになります。

[高速ランチャ] 高速ランチャは、Interactive SQL の起動時間を短縮 するように設計されています。高速ランチャを有効にすると、ユーザ のログイン時に高速ランチャ・プロセス (Interactive SQL の *dbisqlg.exe*) が起動します。高速ランチャは Windows プラットフォー ムのみで使用可能です。高速ランチャの設定は Interactive SQL の [オ プション]ダイアログで変更できます (Interactive SQL で [ツール]ー [オプション]を選択)。

Sybase Central には独自の高速ランチャ・プロセス (*scjview.exe*) があ り、Interactive SQL の高速ランチャとは別にオン/オフにします。 Sybase Central の高速ランチャは Sybase Central の [オプション]ダイア ログから設定できます (Sybase Central で [ツール]ー[オプション]を 選択)。

高速ランチャ・プロセスには多大な量のメモリが必要であり、アプリ ケーションの起動時間に与える影響はシステムの設定に応じて異なる ことに注意してください。

 [高速ランチャを有効にする] このオプションを選択すると、 高速ランチャをオンにできます。高速ランチャは、デフォルト ではオンになっています。高速ランチャをオフにする場合は、 このチェックボックスをクリアしてください。これらの設定を 有効にするには、ログアウトしてから、もう一度ログインする 必要があります。 [設定] [DBISQL 高速ランチャを設定] ダイアログが表示され ます。このダイアログでは、高速ランチャが使用する TCP/IP ポートを設定したり、休止タイマを設定したりできます。

高速ランチャは、ユーザーのマシン上の TCP/IP ポートを使用し ます。別のプログラムがこのポートを使用している場合は、高 速ランチャによって使用されるポート番号をこのダイアログで 変更できます。

休止タイマに指定した時間の間に高速ランチャが使用されない 場合、高速ランチャは停止します。これにより、他のアプリ ケーション用のメモリが解放されます。デフォルトでは、休止 タイマは停止しないように設定されています。

[ファイルの関連付け] Windows プラットフォームでは、Interactive SQL を .SQL ファイルのデフォルト・エディタにすることができます。

 [DBISQL を.SQL ファイルのデフォルト・エディタにする] Windows 上でこのオプションを選択すると、Interactive SQL が .SQL ファイルのデフォルト・エディタになります。

Windows は、ユーザがファイルをダブルクリックしたときに、 そのファイルを Interactive SQL を使って自動的に開きます。た だし、Interactive SQL がそのファイルを自動的に実行することは ありません。

参照

◆ 『ASA SQL リファレンス・マニュアル』>「SET OPTION 文 [Interactive SQL]」

|オプション|ダイアログ:|結果|タブ

Interactive SQL の [オプション]ダイアログの [結果] タブには、次の 項目があります。

[NULL 値の表示形式] テーブル・カラムでの NULL の表示形式を指定します。この値には任意の文字列を使用できます。デフォルト値は (NULL)です。このフィールドを空白にしておくと、NULL 値は空文 字列として表示されます。

詳細については、『ASA データベース管理ガイド』> 「NULLS オプ ション [Interactive SQL]」を参照してください。

[表示できるローの最大数] [結果]ウィンドウ枠に表示されるローの最大数を指定します。デフォルトは 500 です。

[トランケーションの長さ][結果]ウィンドウ枠の各カラムに表示 される文字数を指定します。0を入力すると、カラムはトランケート されません。デフォルトは256です。

詳細については、『ASA データベース管理ガイド』> 「TRUNCATION_LENGTH オプション [Interactive SQL]」を参照してく ださい。

[複数の結果セットを表示] 複数の SELECT 文を返すプロシージャを 実行したときに複数の結果セットを[結果]ウィンドウ枠に表示する には、このオプションを選択します。各結果セットは[結果]ウィン ドウ枠の個別のタブに表示されます。デフォルトでは、 Interactive SQL には複数の結果セットは表示されません。

jConnect ドライバを使用しているときに [複数の結果セットを表示] オプションを選択すると、Interactive SQL では、結果セット全体が検 索された後、該当するローがあれば [結果]ウィンドウ枠に表示され ます。このため、大量の結果セットの処理には時間がかかることがあ ります。

[**ロー数の表示**] このオプションを選択すると、[結果]ウィンドウ 枠の結果の横にロー数が表示されます。このオプションはデフォルト でオンになっています。

[結果の自動再フェッチ] INSERT 文、UPDATE 文、または DELETE 文を実行した後で Interactive SQL で結果セットを自動的に再生成した い場合は、このオプションを選択します。デフォルトでは、 Interactive SQL は結果セットを再フェッチします。

詳細については、『ASA データベース管理ガイド』> 「AUTO_REFETCH オプション [Interactive SQL]」を参照してください。

[コンソール・モードで実行時に表示する結果セット] .SQL ファイ ル実行時に出力する結果セットを次のオプションから指定できます。 このオプションは、ウィンドウ・モードで実行している場合は無効で あり、マシンごとに設定されます。[設定]ボタンをクリックしない かぎり、このオプションは現在の Interactive SQL に対してだけ設定さ れます。

- 【最後】 ファイル内の最後の文の結果セットを出力します。
- **[すべて]** 結果セットを返すファイル内の各文の結果セットを 出力します。
- **[なし]** 結果セットを出力しません。

詳細については、『ASA データベース管理ガイド』> 「ISQL_PRINT_RESULT_SET オプション [Interactive SQL]」を参 照してください。

[結果の表示に使用するフォントを指定してください。] 次のいずれ かのオプションを選択することで、Interactive SQLの[結果]ウィン ドウ枠でテーブル・データに対して使用するフォントを指定します。

- [システム・フォント]マシンの標準のテキスト・フォントを 使用する場合は、このオプションを選択します。これはデ フォルト設定です。
- [エディタ・フォント] コード・エディタと同じフォントを使用する場合は、このオプションを選択します。

コード・エディタの詳細については、「[フォーマット]タブ」 220ページを参照してください。

- [カスタム・フォント]使用するフォント、フォント・スタイル、ポイント・サイズを指定する場合は、このオプションを選択します。[参照]をクリックすると、[フォント]ダイアログで目的の設定を選択できます。
- 参照 『ASA SQL リファレンス・マニュアル』>「SET OPTION 文 [Interactive SQL]」

|オプション|ダイアログ:|インポート/エクスポート|タブ

Interactive SQL の [オプション]ダイアログの [インポート/エクス ポート] タブには、次の項目があります。 [デフォルトのエクスポート・フォーマット] ファイルをエクスポートするフォーマットを選択するには、ドロップダウン・リストからファイル・フォーマットを選択します。デフォルトのエクスポート・フォーマットは ASCII です。

[デフォルトのインポート・フォーマット] ファイルをインポートす るフォーマットを選択するには、ドロップダウン・リストからファイ ル・フォーマットを選択します。デフォルトのインポート・フォー マットは ASCII です。

Interactive SQL でサポートされているインポートとエクスポートの ファイル・フォーマットの詳細については、『ASA SQL リファレン ス・マニュアル』>「INPUT 文 [Interactive SQL]」と『ASA SQL リ ファレンス・マニュアル』>「OUTPUT 文 [Interactive SQL]」を参照し てください。

[ASCII オプション] ASCII フォーマットのデータをインポートまた はエクスポートするとき、フィールドのセパレータ、引用符文字列、 エスケープ文字として使用するデフォルトのシンボルを指定します。

- [デフォルトのフィールド・セパレータ] ASCII ファイルで値を 区切るために使用されるシンボル。デフォルト値はカンマ(,)で す。
- [デフォルトの引用符] ASCII ファイルで文字列を囲むために使 用されるシンボル。デフォルト値は一重引用符 (') です。
- [デフォルトのエスケープ文字] ASCII ファイルで印刷不能な文字の代わりに使用されるシンボル。エスケープ文字には1バイト文字を1つ指定してください。デフォルト値は円記号(¥)です。
- [デフォルト・エンコード] ファイルのインポート時、エクス ポート時に使用されるエンコード。この値を変更した場合、そ の変更が適用されるのは、現在の Interactive SQL セッションに 対してだけです。新しい Interactive SQL セッションを開始する と、デフォルト値に戻ります。デフォルト値は、(デフォルト) です。(デフォルト)を選択した場合、次の順番でエンコードが 決定されます。

- INPUT 文、OUTPUT 文、または READ 文の ENCODING 句 に指定されたコード・ページ
- DEFAULT_ISQL_ENCODING オプションで指定されたコード・ページ(オプションが設定されている場合)
- Interactive SQL の起動時に -codepage コマンド・ライン・オ プションを使って指定されたコマンド・ページ
- Interactive SQL が動作しているコンピュータのデフォルトのコード・ページ
- ◆ 『ASA SQL ユーザーズ・ガイド』>「データのインポートとエ クスポート」
- ◆ 『ASA SQL リファレンス・マニュアル』>「SET OPTION 文 [Interactive SQL]」

[オプション]ダイアログ:[メッセージ]タブ

Interactive SQL の [オプション]ダイアログの [メッセージ] タブに は、次の項目があります。

[SQL 文の実行時間を計測] Interactive SQL が文の実行に要した時間 を計測する機能を有効にする場合は、このオプションを選択します。 時間は[メッセージ]タブに表示されます。デフォルトでは、このオ プションが選択されています。

[個別のメッセージ・ウィンドウ枠を表示] 実行時間などのデータ ベース・サーバの情報を、[結果]ウィンドウ枠の[メッセージ]タブ ではなく、[SQL 文]ウィンドウ枠と[結果]ウィンドウ枠の間の [メッセージ]ウィンドウ枠に表示する場合は、このオプションを選択 します。デフォルトでは、データベース・サーバの情報は[結果] ウィンドウ枠の[メッセージ]タブに表示されます。

[メッセージ・ウィンドウ枠のデフォルトの行数] [メッセージ] ウィンドウ枠に返される行数を入力します。デフォルトの数は7で す。[個別のメッセージ・ウィンドウ枠を表示]を選択した場合、こ の数値は[メッセージ]ウィンドウ枠の高さ(単位:行)としても使 用されます。

参照

参照 ● 『ASA SQL リファレンス・マニュアル』>「SET OPTION 文 [Interactive SQL]」

|オプション|ダイアログ:|プラン|タブ

Interactive SQL の [オプション]ダイアログの [プラン] タブには、次 の項目があります。

[実行プランのオプション] これらのオプションで、クエリの最適化 方法について Interactive SQL で提供される詳細なレベルを選択できま す。リストからプラン・タイプを選択します。プランの情報は、[結 果]ウィンドウ枠の[プラン]タブに表示されます。

- [グラフィカルなプラン] 実行プランが[プラン]タブにツリー 状の図として表示されます。このプラン図内の1つのノードを クリックすると、クエリのその部分の詳細を表示できます。こ のプランがデフォルトです。
- [統計情報付きのグラフィカルなプラン] 実行プランは
 [プラン]タブにツリー状の図として表示されます。1つのノードをクリックすると、クエリのその部分の詳細を表示できます。
 クエリの選択した部分で使用されているリソースを示す統計も表示されます。
- [短いプラン] 実行プランについての基本的な情報が[結果] ウィンドウ枠の[プラン]タブに1行で表示されます。この行に は、アクセスしたテーブルと、ローを順次読み出すか、イン デックスを使用してアクセスするかがリストされます。
- [長いプラン] 実行プランについての詳細な情報が[プラン]タ ブに複数行で表示されます。

各種実行プランの詳細については、『ASA SQL ユーザーズ・ガ イド』>「Interactive SQL を使用したプランへのアクセス」を参 照してください。

[読み込み専用のカーソルを想定] このオプションを選択すると、ク エリはクエリ・オプティマイザにより、読み込み専用カーソルに対し て実行されたクエリとして扱われます。デフォルトでは、このオプ ションは選択されていません。これは、オプティマイザが読み込み/ 書き込みカーソルのプランを取得することを示します。 詳細については、『ASA SQL リファレンス・マニュアル』> 「PLAN 関数 [その他]」を参照してください。

[次のカーソルを想定] 指定するカーソルのタイプに基づいてプラン を取得できます。クエリ・オプティマイザは、カーソルを Asensitive、 Insensitive、Sensitive、またはキーセット駆動型のいずれかとして想定 できます。デフォルトは Asensitive です。

詳細については、『ASA SQL リファレンス・マニュアル』>「PLAN 関数 [その他]」、『ASA プログラミング・ガイド』>「asensitive カー ソル」、『ASA プログラミング・ガイド』>「insensitive カーソル」、 『ASA プログラミング・ガイド』>「sensitive カーソル」、『ASA プロ グラミング・ガイド』>「Value-sensitive カーソル」を参照してくださ い。

[Ultra Light **プランを表示**] このオプションを選択すると、Ultra Light プランを Interactive SQL の [結果] ウィンドウ枠の異なるタブに 表示できます。

前述のタイプ ([グラフィカルなプラン]、[統計情報付きのグラフィ カルなプラン]、[短いプラン]、[長いプラン]) のうち1つを選択す ることによって、Ultra Light プラン・タイプを制御します。このオプ ションはデフォルトで選択されています。

詳細については、『ASA SQL リファレンス・マニュアル』> 「GRAPHICAL_ULPLAN 関数 [その他]」、『ASA SQL リファレンス・ マニュアル』>「LONG_ULPLAN 関数 [その他]」、『ASA SQL リファ レンス・マニュアル』>「SHORT_ULPLAN 関数 [その他]」を参照し てください。

参照

- ◆ 『ASA SQL ユーザーズ・ガイド』> 「Interactive SQL を使用し たプランへのアクセス」
- ◆ 『ASA SQL ユーザーズ・ガイド』>「アクセス・プランの解 釈」

[オプション]ダイアログ:[エディタ]タブ

このタブでは、[SQL 文]ウィンドウ枠に入力されたテキストの外観 を設定できます。Sybase Central でコード・エディタを使用する場合、 このタブで指定した設定はそのコード・エディタにも適用されること に注意してください。

Interactive SQL の [オプション]ダイアログの [エディタ]タブには、 [エディタ]、[タブ]、[フォーマット]、[印刷]の4つのタブがありま す。

[エディタ]タブ

[エディタ]タブには、次の項目があります。

[**垂直スクロール・バー**] ウィンドウが小さすぎてテキストを全部表示できない場合に、垂直スクロール・バーの表示/非表示を切り替えます。

[**水平スクロール・バー**] ウィンドウが小さすぎてテキストを全部表 示できない場合に、水平スクロール・バーの表示/非表示を切り替え ます。

[タブ]タブ

[タブ]タブには、次の項目があります。

[**タブ・サイズ**] スペースの数によって、タブのサイズを設定しま す。

[インデント・サイズ] スペースの数によって、インデントのサイズ を設定します。

[スペースの挿入] 1つのタブ文字を挿入する代わりに、[タブ]を押 すとn個のスペースが挿入されます。nの値は、1~インデント・サ イズのスペースの数です。この値は、カーソルを次のタブ停止位置ま で移動するのに必要なスペースの数によって決まります。

[タブの保持] [タブ]を押したときに、タブ文字をドキュメントに 挿入し、カーソルを次のタブ停止位置まで移動します。 [自動インデント] 自動インデント機能を設定します。次のオプションがあります。

- [なし]この機能を無効にします。
- [**デフォルト**] 設定されているタブ・サイズとインデント・サ イズを使用します。
- [スマート] コードの前の行を基準として、前後のカッコにイ ンデントを挿入します。
 - [左中カッコをインデント]このオプションを選択する と、左中カッコがインデントされます。このオプション は、[スマート]オプションを選択すると有効になりま す。
 - [右中カッコをインデント]このオプションを選択する と、右中カッコがインデントされます。このオプション は、[スマート]オプションを選択すると有効になりま す。

サンプル [サンプル]フィールドには、左カッコと右カッコのイン デント用に選択されたオプションに基づくコードのフォーマット例が 表示されます。

[フォーマット]タブ

[フォーマット]タブには、次の項目があります。

[テキストの強調表示] メイン編集ウィンドウにあるさまざまな種類 のテキストの色とスタイルを指定します。特定のテキスト・タイプを 選択し、そのテキスト・タイプのフォアグラウンド、バックグラウン ド、スタイルを設定します。

- [フォアグラウンド]フォアグラウンドとはテキストの色を指します。
- [バックグラウンド]バックグラウンドとはテキストの背景画 面の色を指します。
- [スタイル] 特定のテキスト・タイプのフォーマット・タイプ を指定します。次のいずれかを選択できます。

- [標準]
- [斜体]
- [太字]
- [斜体+太字]

[フォント・サイズ] [SQL 文] ウィンドウ枠内に表示されるテキス トのフォント・サイズ(ポイント)を指定します。

[脱字記号の色] 画面上で点滅するカーソル・インジケータの色を指 定します。

[サンプル] 上の設定に基づき、テキストのサンプルを更新して表示 します。

[**すべてリセット**] すべての設定をデフォルト値に戻します。

[印刷]タブ

[印刷]タブには、次の項目があります。

[**ヘッダ**] [SQL 文] ウィンドウ枠の内容を印刷するときにヘッダに 出力する情報とフォーマットを指定します。デフォルトでは、ヘッダ のテキストは左揃えです。使用可能なオプションのリストを表示する には、[>] ボタンをクリックします。

[フッタ] [SQL 文] ウィンドウ枠の内容を印刷するときにフッタに 出力する情報とフォーマットを指定します。デフォルトでは、フッタ のテキストは左揃えです。使用可能なオプションのリストを表示する には、[>] ボタンをクリックします。

- [>] ボタン [>] ボタンをクリックして、ヘッダまたはフッタの オプションを次の中から選択できます。
 - [ファイル名]
 - [ファイルの時刻]
 - [ファイルの日付]

- [ページ番号]
- [ページ数]
- [現在の時刻]
- [現在の日付]
- [左揃え]
- [中央揃え]
- [右揃え]

選択したすべての項目に同じ揃え方を指定する必要はありま せん。たとえば、ヘッダでファイル名を左揃えにし、日付を 右揃えにできます。デフォルトでは、ヘッダとフッタのテキ ストはすべて左揃えです。揃え方を指定してから、テキスト の種類を選択してください。たとえば、ファイル名をヘッダ の中央に出力する場合は、[ヘッダ]フィールドに &C&F と入 力するか、[>]ボタンを押して[中央揃え]オプションを選択 してから再び[>]ボタンを押して、[ファイル名]オプション を選択します。

これらのオプションの指定に加えて、[ヘッダ]と[フッタ] の各フィールドに、出力するテキストを入力できます。たと えば、[フッタ]フィールドに Page &P of &p と入力すると、 印刷されたマニュアルのフッタに「Page 1 of 1」と表示され ます。

[フォント・サイズ] 印刷テキストのフォント・ポイント・サイズを 選択します。

[オプション]ダイアログ:[クエリ・エディタ]タブ

このタブでは、クエリ・エディタを設定できます。

Interactive SQL の [オプション]ダイアログの [クエリ・エディタ]タ ブには、次の項目があります。 [完全修飾テーブル名と完全修飾カラム名] このオプションを選択す ると、クエリ・エディタでクエリを作成するときに、テーブル名とカ ラム名が所有者名で完全修飾されます。

テーブル名とカラム名を指定する方法については、『ASA SQL ユー ザーズ・ガイド』>「SQL クエリ」を参照してください。

[**引用符名**] このオプションを選択すると、クエリ・エディタでクエ リを作成するときに、識別子の名前が二重引用符で囲まれます。

識別子を引用符で囲む方法については、『ASA SQL リファレンス・マニュアル』> 「識別子」を参照してください。

[起動時にテーブルのリストを取得] クエリ・エディタを開くと同時 にそのテーブルのリストを移植する場合は、このオプションを選択し ます。このオプションはデフォルトで選択されています。テーブルが 多数あるデータベースに接続している場合や、通信リンクが低速の場 合は、このオプションをオフにすると、クエリ・エディタが速く開き ます。

|オプション|ダイアログ:|更新のチェック|タブ

このタブを使用すると、Adaptive Server Anywhere にソフトウェアの更 新をチェックさせるかどうかを設定できます。チェックさせる場合は その実行頻度も設定できます。更新チェックは、アプリケーション起 動時に実行されます。

また、任意のタイミングで更新をチェックすることもできます。それ には、[スタート]メニューで[プログラム] – [SQL Anywhere 9] – [更新のチェック]を選択するか、Sybase Central、Interactive SQL、コ ンソール・ユーティリティの[ヘルプ]メニューを使用します。

[オプション]ダイアログの[更新のチェック]タブには、次の項目が あります。

[更新をチェックする頻度を指定してください。] 次のオプションの いずれかを選択することで、Adaptive Server Anywhere による更新 チェックの実行頻度を指定します。デフォルトでは、[チェックしな い]が選択されています。

- [アプリケーションの起動時]このオプションを選択した場合、現在のアプリケーションが起動するたびに、Interactive SQLによって更新がチェックされます。
- [毎日] このオプションを選択した場合、日付が変わって初め て現在のアプリケーションが起動されたときに、Adaptive Server Anywhere によって更新がチェックされます。
- [週1回] このオプションを選択した場合、週が変わって初め て現在のアプリケーションが起動されたときに、Adaptive Server Anywhere によって更新がチェックされます。
- [月1回] このオプションを選択した場合、月が変わって初めて現在のアプリケーションが起動されたときに、Adaptive Server Anywhere によって更新がチェックされます。
- [チェックしない]このオプションを選択した場合、 Interactive SQL によって更新はチェックされません。これは デフォルト設定です。

[**チェックする項目を指定してください。**] 次のオプションの任意の 組み合わせを選択することで、Interactive SQL にチェックさせる更新 の種類を指定します。デフォルトでは、次のオプションはすべて選択 されています。

• **[Express Bug Fix]** このオプションを選択した場合、Interactive SQL によって Express Bug Fix がチェックされます。

Express Bug Fix は、1つ以上のバグ・フィックスが含まれる、 ソフトウェアのサブセットです。これらのバグ・フィックス は、更新のリリース・ノートにリストされます。バグ・ フィックス更新を適用できるのは、同じバージョン番号を持 つインストール済みのソフトウェアに対してだけです。この ソフトウェアについては、ある程度のテストが行われている とはいえ、完全なテストが行われたわけではありません。自 分自身でソフトウェアの妥当性を確かめるまでは、アプリ ケーションとともにこれらのファイルを配布しないでくださ い。 [メンテナンス・リリース]このオプションを選択した場合、 Interactive SQL によってソフトウェアのメンテナンス・リ リースがチェックされます。

メンテナンス・リリースは、同じメジャー・バージョン番号 を持つ旧バージョンのインストール済みソフトウェアをアッ プグレードするための完全なソフトウェア・セットです (バージョン番号のフォーマットは、メジャー.マイナー. パッチ.ビルドです)。バグ・フィックスとその他の変更に ついては、アップグレードのリリース・ノートにリストされ ます。

 [その他の情報]このオプションを選択すると、その他の情報 (新製品のリリースや予定されているイベントなど)がチェッ クされます。

Interactive SQL のウィザード

Interactive SQL には、結果セットのエクスポート処理を支援するための[エクスポート]ウィザードが用意されています。

[エクスポート] ウィザード

[エクスポート]ダイアログを使用すると、Interactive SQL で結果セットをファイルにエクスポートするときのオプションを設定できます。

[ファイル名] 結果セットのエクスポート先ファイルの名前を入力し ます。[参照]ボタンをクリックしてファイルの場所を探すこともで きます。

[フォーマット] 次のいずれかの出力フォーマットを選択します。

 [ASCII] 出力は、ファイルの1行に1つのローが格納された ASCII フォーマット・ファイルです。すべての値をカンマで 区切り、文字列をアポストロフィ(一重引用符)で囲みます。

他の3つの特別なシーケンスも使用できます。2つの文字 \n は改行文字を、¥¥ は単一の¥を、シーケンス ¥xDD は 16 進 コード DD に対応する文字を、それぞれ表します。これがデ フォルトの出力フォーマットになります。

- [dBase II] 出力は、ファイルの最上部にカラム定義がある dBASE II フォーマット・ファイルです。最大 32 カラムを出 力できることに注意してください。カラム名は 11 文字にトラ ンケートされ、各カラムのデータの各ローは 255 文字にトラ ンケートされます。
- [dBase III] 出力は、ファイルの最上部にカラム定義がある dBASE III フォーマット・ファイルです。最大 128 カラムを出 力できることに注意してください。カラム名は 11 文字にトラ ンケートされ、各カラムのデータの各ローは 255 文字にトラ ンケートされます。

- [Excel] この出力は Excel 2.1 のワークシートです。ワークシートの最初のローには、カラム・ラベル(または、ラベルが定義されていない場合はカラム名)があります。2 つ目以降のワークシート・ローには、実際のテーブル・データがあります。
- [Fixed] 出力は、それぞれのカラムが固定幅を持つ固定フォーマットです。それぞれのカラムの幅は COLUMN WIDTHS 句を使って指定できます。カラムの見出しはこのフォーマット中では出力されません。COLUMN WIDTHS 句を省略した場合、各カラムの幅はカラムのデータ型から計算され、そのデータ型の値を保持するのに十分な大きさになります。ただし、データ型 LONG VARCHAR と LONG BINARY だけは例外で、32 KB がデフォルトになります。
- [FoxPro] 出力は、ファイルの最上部にカラム定義がある FoxPro フォーマット・ファイルです (FoxPro メモ・フィール ドは dBASE メモ・フィールドとは異なります)。最大 128 カ ラムを出力できることに注意してください。カラム名は 11 文 字にトランケートされ、各カラムのデータの各ローは 255 文 字にトランケートされます。
- **[HTML]** この出力は HTML (Hyper Text Markup Language) フォーマットです。
- [Lotus 1-2-3] 出力は、Lotus WKS フォーマットのワークシー トです。カラム名をワークシートの最初のローとして入れま す。(Lotus 1-2-3 のような)他のソフトウェアがロードできる Lotus WKS フォーマット・ワークシートの最大サイズに、一 定の制限があることに注意してください。Interactive SQL の ファイル・サイズには制限はありません。
- [SQL 文] 出力は、テーブル内の情報を再作成するのに必要な Interactive SQL の INPUT 文です。
- [XML] この出力は、UTF-8 でコード化され、DTD が埋め込ま れた XML ファイルです。バイナリ値は、2 桁の 16 進数文字 列として表されるバイナリ・データとして CDATA ブロック 内にコード化されます。INPUT 文は、XML をファイル・ フォーマットとして受け入れません。

[エンコード] ファイルの書き込み時に使用するコード・ページを指 定します。このオプションを指定できるのは、ASCII フォーマットを 選択した場合だけです。使用するエンコードを指定することも、(デ フォルト)を選択することもできます。後者の場合、Interactive SQL が 動作しているマシン上のデフォルト・エンコードが使用されます。

[テキスト・データのエスケープ] このオプションを選択すると、エ スケープ文字の後に続く文字がデータベース・サーバで認識され、特 殊文字として解釈されます。デフォルトのエスケープ文字は円記号 (¥)です。改行文字は ¥n との組み合わせとしてインクルードされ、他 の文字はタブ文字の\x09のような 16 進の ASCII のコードとしてデー タにインクルードされます。2 つの円記号(¥)は1 つの円記号として 解釈されます。円記号(¥)の後に n、x、X、¥以外の文字がある場合、 それらは別々の文字と解釈されます。たとえば、¥q であれば、円記 号とg が挿入されます。

- [エスケープ文字]16 進コードとして保存されている文字の エスケープ文字を指定できます。デフォルトのエスケープ文 字は円記号(¥)です。
- ◆ 『ASA SQL リファレンス・マニュアル』>「OUTPUT 文 [Interactive SQL]」

参照

_{第5章} Mobile Link のヘルプ

この章の内容 この章では、Mobile Link プラグインで接続したときに使用できるす べてのプロパティ・シート、ダイアログ・ボックス、ウィザードにつ いて説明します。

概要

Mobile Link に接続すると、オブジェクトのプロパティを設定するためのプロパティ・シートが Sybase Central によって提供されます。ダイアログ・ボックスを使用すると、さまざまなオブジェクト設定の表示や変更ができ、また、ウィザードを使用すると、段階を踏んで一般的な管理タスクを実行できます。

- ◆ 「Mobile Link のプロパティ・シート」231 ページ
- ◆ 「Mobile Link のダイアログ・ボックス」 254 ページ
- ◆ 「Mobile Link のウィザード」 257 ページ

参照

Mobile Link のプロパティ・シート

この項では、オブジェクトのプロパティの表示や設定ができる Mobile Link のプロパティ・シートについて詳しく説明します。Mobile Link に接続しているときに、プロパティ・シートを表示するには、オブ ジェクトを選択した状態で Sybase Central の[ファイル]メニューを使 用するか、オブジェクトを右クリックして表示されるポップアップ・ メニューを使用します。

[Carrier] プロパティ・シート

[Carrier] プロパティ・シートには、[一般]、[ID]、[SMTP] の 3 つのタ ブがあります。

[Carrier] プロパティ・シート:[一般]タブ

プロパティは起動時に読み込まれます。プロパティを変更した場合、 Mobile Link 同期サーバを停止して再起動しないと、その変更が有効 になりません。

[Carrier] プロパティ・シートの [一般] タブには、次の項目がありま す。

[名前] Carrier の名前が表示されます。このフィールドで Carrier の 名前を変更できます。

[タイプ] オブジェクトのタイプが表示されます。

[**この Carrier を有効にする**] この Carrier を使用する場合に、このオ プションを選択します。複数の Carrier マッピングを定義および使用 できます。

詳細については、『Mobile Link サーバ起動同期ユーザーズ・ガイド』> 「enable プロパティ」を参照してください。

[説明] この Carrier の説明を入力します。

参照

◆ 『Mobile Link サーバ起動同期ユーザーズ・ガイド』>「プロパ ティの設定」 ◆ 『Mobile Link サーバ起動同期ユーザーズ・ガイド』> 「ゲート ウェイと Carrier の設定」

[Carrier] プロパティ・シート : [ID] タブ

プロパティは起動時に読み込まれます。プロパティを変更した場合、 Mobile Link 同期サーバを停止して再起動しないと、その変更が有効 になりません。

[Carrier] プロパティ・シートの [ID] タブには、次の項目があります。

[**ネットワーク・プロバイダ ID**] ネットワーク・プロバイダ ID を入力します。

詳細については、『Mobile Link サーバ起動同期ユーザーズ・ガイド』> 「network provider id プロパティ」を参照してください。

- ◆ 『Mobile Link サーバ起動同期ユーザーズ・ガイド』>「プロパ ティの設定」
- ◆ 『Mobile Link サーバ起動同期ユーザーズ・ガイド』> 「ゲート ウェイと Carrier の設定」

[Carrier] プロパティ・シート : [SMTP] タブ

プロパティは起動時に読み込まれます。プロパティを変更した場合、 Mobile Link 同期サーバを停止して再起動しないと、その変更が有効 になりません。

[Carrier] プロパティ・シートの [SMTP] タブには、次の項目がありま す。

[**ユーザ・プレフィックス**] 電子メール・アドレスで使用されるプレフィックスを入力します。

詳細については、『Mobile Link サーバ起動同期ユーザーズ・ガイド』> 「sms_email_user_prefix プロパティ」を参照してください。

[ドメイン] Carrier のドメインを入力します。

詳細については、『Mobile Link サーバ起動同期ユーザーズ・ガイド』> 「sms_email_domain プロパティ」を参照してください。

参照

- ◆ 『Mobile Link サーバ起動同期ユーザーズ・ガイド』>「プロパ ティの設定」
- ◆ 『Mobile Link サーバ起動同期ユーザーズ・ガイド』> 「ゲート ウェイと Carrier の設定」

[データベース]プロパティ・シート

データベース・プロパティ・シートでは、現在接続中のデータベース に関する情報を参照できます。

データベース・プロパティ・シートには[一般]タブ1つだけがあり ます。

|データベース|プロパティ・シート:|一般|タブ

[データベース]プロパティ・シートの[一般]タブには、次の項目が あります。

【名前】 選択されているデータベースの名前が表示されます。

[タイプ] データベースのタイプが表示されます。

[**バージョン**] 選択されているデータベースのバージョン番号が表示 されます。

[Device Tracker ゲートウェイ] プロパティ・シート

[Device Tracker ゲートウェイ] プロパティ・シートには、[一般]、 [ゲートウェイ]、[配信]の3つのタブがあります。

[Device Tracker ゲートウェイ] プロパティ・シート : [一般] タブ

プロパティは起動時に読み込まれます。プロパティを変更した場合、 Mobile Link 同期サーバを停止して再起動しないと、その変更が有効 になりません。 [Device Tracker ゲートウェイ] プロパティ・シートの[一般] タブに は、次の項目があります。

[**名前**] ゲートウェイの名前が表示されます。このフィールドでゲートウェイの名前を変更できます。

[タイプ] オブジェクトのタイプが表示されます。

[このゲートウェイを有効にする] このゲートウェイを使用する場合 に、このオプションを選択します。

詳細については、『Mobile Link サーバ起動同期ユーザーズ・ガイド』> 「enable プロパティ」を参照してください。

[説明] Device Tracker ゲートウェイの説明を入力します。

参照

- ◆ 『Mobile Link サーバ起動同期ユーザーズ・ガイド』>「デバイ ス・トラッカ・ゲートウェイ・プロパティ」
- ◆ 『Mobile Link サーバ起動同期ユーザーズ・ガイド』>「デバイ ス・トラッキング」

[Device Tracker ゲートウェイ] プロパティ・シート : [ゲートウェイ] タブ

プロパティは起動時に読み込まれます。プロパティを変更した場合、 Mobile Link 同期サーバを停止して再起動しないと、その変更が有効 になりません。

[Device Tracker ゲートウェイ] プロパティ・シートの[ゲートウェイ] タブには、次の項目があります。

[デバイスの追跡にこれらのゲートウェイを使用] 次のいずれかのオ プションを選択することで、デバイスの追跡に使用するゲートウェイ を指定します。

[UDP ゲートウェイのみ] Device Tracker が使用する UDP ゲートウェイを指定する場合に、このオプションを選択します。
 そのゲートウェイは有効になっていなければなりません。
 Device Tracker ゲートウェイが使用できる UDP ゲートウェイは、1 つだけです。
- [SMTP ゲートウェイのみ] Device Tracker が使用する SMTP ゲートウェイを指定する場合に、このオプションを選択しま す。そのゲートウェイは有効になっていなければなりません。 Device Tracker ゲートウェイが使用できる SMTP ゲートウェイ は、1 つだけです。
- [UDP ゲートウェイと SMTP ゲートウェイの両方] Device Tracker が使用する UDP ゲートウェイと SMTP ゲートウェイ を指定する場合に、このオプションを選択します。それらの ゲートウェイは有効になっていなければなりません。Device Tracker ゲートウェイが使用できる UDP ゲートウェイと SMTP ゲートウェイは、それぞれ1つずつだけです。

[UDP ゲートウェイ] Device Tracker が使用する UDP ゲートウェイを 選択します。デフォルトは Default-UDP です。このオプションが有効 になるのは、上記オプションのうち、[UDP ゲートウェイのみ]、 [UDP ゲートウェイと SMTP ゲートウェイの両方]のいずれかを選択 した場合だけです。

詳細については、『Mobile Link サーバ起動同期ユーザーズ・ガイド』> 「udp gateway プロパティ」を参照してください。

[SMTP ゲートウェイ] Device Tracker が使用する SMTP ゲートウェ イを選択します。デフォルトは Default-SMTP です。このオプション が有効になるのは、上記オプションのうち、[SMTP ゲートウェイの み]、[UDP ゲートウェイと SMTP ゲートウェイの両方]のいずれかを 選択した場合だけです。

詳細については、『Mobile Link サーバ起動同期ユーザーズ・ガイド』> 「smtp_gateway プロパティ」を参照してください。

- ◆ 『Mobile Link サーバ起動同期ユーザーズ・ガイド』> 「デバイ ス・トラッカ・ゲートウェイ・プロパティ」
 - ◆ 『Mobile Link サーバ起動同期ユーザーズ・ガイド』>「デバイ ス・トラッキング」

[Device Tracker ゲートウェイ] プロパティ・シート:[配信]タブ

[Device Tracker ゲートウェイ] プロパティ・シートの[配信]タブに は、次の項目があります。

[メッセージ配信の確認] このオプションを選択すると、Listener は、 メッセージを受信した旨の確認メッセージを統合データベースから受 信した後で、同期を開始します。接続情報を提供するには、Listener の起動時に-x オプションを指定してください。このオプションはデ フォルトでオンになっています。

◆ 『Mobile Link サーバ起動同期ユーザーズ・ガイド』> 「デバイ ス・トラッカ・ゲートウェイ・プロパティ」

- ◆ 『Mobile Link サーバ起動同期ユーザーズ・ガイド』>「デバイ ス・トラッキング」
- ◆ 『Mobile Link サーバ起動同期ユーザーズ・ガイド』> 「confirm delivery プロパティ」

[グローバル通知] プロパティ・シート

[グローバル通知]プロパティ・シートには[一般]タブだけがあります。

[グローバル通知] プロパティ・シート:[一般]タブ

プロパティは起動時に読み込まれます。プロパティを変更した場合、 Mobile Link 同期サーバを停止して再起動しないと、その変更が有効 になりません。

[グローバル通知]プロパティ・シートの[一般]タブには、次の項目 があります。

[**冗長性**] すべての Notifier、ゲートウェイ、Carrier に対する冗長レベルを指定します。次のいずれかのレベルを選択してください。

- [トレースなし(レベル 0)] トレースを使用しません。これは デフォルト設定です。
- [起動および停止のトレース (レベル1)] 起動、停止、プロパ ティのトレースを使用します。
- [通知の表示 (レベル 2)] 通知メッセージを表示します。
- [フル・トレース (レベル3) ポーリング・レベルのトレース を使用します。

参照

◆ 『Mobile Link サーバ起動同期ユーザーズ・ガイド』> 「verbosity プロパティ」

[Notifier] プロパティ・シート

[Notifier] プロパティ・シートには、[一般]、[接続]、[ポーリング]、 [論理]の4つのタブがあります。

[Notifier] プロパティ・シート:[一般]タブ

プロパティは起動時に読み込まれます。プロパティを変更した場合、 Mobile Link 同期サーバを停止して再起動しないと、その変更が有効 になりません。

[Notifier] プロパティ・シートの[一般]タブには、次の項目があります。

[名前] Notifier の名前が表示されます。このフィールドで Notifier の 名前を変更できます。

[**タイプ**] オブジェクトのタイプが表示されます。

[この Notifier を有効にする] このオプションを選択すると、この Notifier を使用できるようになります。

詳細については、『Mobile Link サーバ起動同期ユーザーズ・ガイド』> 「enable プロパティ」を参照してください。

[実行時にコントロール・ウィンドウを表示] Notifier が動作してい るコンピュータ上で [Notifier] ダイアログを表示するには、このオプ ションを選択します。このユーザ・インタフェースを使用すると、 ポーリング間隔を一時的に変更したり、すぐにポーリングを実行した りできます。また、Mobile Link 同期サーバを停止せずに Notifier を停 止するために使用することも可能です(一度停止すると、Mobile Link 同期サーバを停止して再度起動しないと、Notifier を再度起動できま せん)。このオプションはデフォルトで選択されています。

詳細については、『Mobile Link サーバ起動同期ユーザーズ・ガイド』> 「gui プロパティ」を参照してください。 [説明] Notifier の説明を入力します。

参照

◆ 『Mobile Link サーバ起動同期ユーザーズ・ガイド』> 「Mobile Link 通知プロパティ」

[Notifier] プロパティ・シート:[接続]タブ

プロパティは起動時に読み込まれます。プロパティを変更した場合、 Mobile Link 同期サーバを停止して再起動しないと、その変更が有効 になりません。

[Notifier] プロパティ・シートの [接続] タブには、次の項目があります。

[独立性レベル] 接続の独立性レベルを指定します。デフォルトの独 立性レベルは、[コミットされる読み出し(レベル1)]です。次のいず れかを選択してください。

- [コミットされない読み出し(レベル 0)]
- [コミットされる読み出し(レベル1)]
- [繰り返し可能読み出し(レベル2)]
- [直列可能(レベル3)]

詳細については、『Mobile Link サーバ起動同期ユーザーズ・ガイド』> 「isolation プロパティ」と『ASA SQL ユーザーズ・ガイド』>「独立性 レベルと一貫性」を参照してください。

[接続文字列] デフォルトの接続動作を変更する場合に、JDBC 接続 文字列を指定します。これはオプションの値です。

デフォルトでは、Notifier は ianywhere.ml.script.ServerContext を使用し て統合データベースに接続します。つまり、Notifier は現在の dbmlsrv9 セッションのコマンド・ラインで指定された接続文字列を使 用するということです。

このフィールドに接続文字列を指定するのは、通知の論理やデータを 同期データから分離する目的で別のデータベースに接続したい場合で す。 詳細については、『Mobile Link サーバ起動同期ユーザーズ・ガイド』> 「connect string プロパティ」を参照してください。

・ 『Mobile Link サーバ起動同期ユーザーズ・ガイド』> 「Mobile Link 通知プロパティ」

[Notifier] プロパティ・シート : [ポーリング] タブ

プロパティは起動時に読み込まれます。プロパティを変更した場合、 Mobile Link 同期サーバを停止して再起動しないと、その変更が有効 になりません。

[Notifier] プロパティ・シートの [ポーリング] タブには、次の項目が あります。

[次の間隔でポーリング] ドロップダウン・リストからポーリング間 隔を選択します。デフォルトは 30 秒です。

[次のポーリング間隔を使用] Notifier のポーリング間隔を指定します。

詳細については、『Mobile Link サーバ起動同期ユーザーズ・ガイド』> 「poll every プロパティ」を参照してください。

◆『Mobile Link サーバ起動同期ユーザーズ・ガイド』>「Mobile Link 通知プロパティ」

[Notifier] プロパティ・シート:[論理]タブ

プロパティは起動時に読み込まれます。プロパティを変更した場合、 Mobile Link 同期サーバを停止して再起動しないと、その変更が有効 になりません。

[Notifier] プロパティ・シートの[論理]タブには、次の項目があります。

[この Notifier イベントの発生時期] 次のいずれかの Notifier イベントを選択します。ここで選択したイベントが発生したときに、以下の SQL 文が実行されます。ドロップダウン・リストから特定のイベント を選択すると、下の SQL 文のウィンドウ枠の内容が、選択されたイ ベントに対する SQL 文に変わります。

[begin_connection] Notifier がデータベースに接続した後、最初のポーリングが実行されるまでの間に、独立したトランザクションとして SQL 文が実行されます。統合データベースへの接続が失われると、Notifier は再接続した直後に、このトランザクションを再度実行します。

詳細については、『Mobile Link サーバ起動同期ユーザーズ・ ガイド』> 「begin_connection プロパティ」を参照してください。

 [begin_poll] Notifier が各ポーリングを実行する前に、SQL 文 が実行されます。

詳細については、『Mobile Link サーバ起動同期ユーザーズ・ ガイド』>「begin_poll プロパティ」を参照してください。

 [end_connection] Notifier のデータベース接続が終了する直前 に、独立したトランザクションとして SQL 文が実行されま す。

詳細については、『Mobile Link サーバ起動同期ユーザーズ・ ガイド』> 「end_connection プロパティ」を参照してください。

• [end_poll] 各ポーリング後に SQL 文が実行されます。

詳細については、『Mobile Link サーバ起動同期ユーザーズ・ ガイド』> 「end_poll プロパティ」を参照してください。

 [request_cursor] Notifier が統合データベースから Push 要求を 収集するための SQL 文。このイベントに対する SQL 文を指 定してください。この文の結果セットには、5つのカラムが 含まれていなければなりません。また、必要に応じて、その 他の2つのカラムが含まれていることもあります。これらの カラムには名前を付けることもできますが、結果セットでは 次の順序になっている必要があります。

- request id
- gateway
- subject
- content
- address
- resend
- interval time to live

詳細については、『Mobile Link サーバ起動同期ユーザーズ・ ガイド』>「request_cursor プロパティ」を参照してください。

[request_delete] SQL 文はクリーンアップ処理を指定します。
 この文は、パラメータとして要求 ID のみを取ります。パラメータのプレースホルダは、疑問符 (?) です。

別のクリーンアップ実行プロセスを提供しない限り、このイベントの SQL 文を定義してください。

詳細については、『Mobile Link サーバ起動同期ユーザーズ・ ガイド』>「request_delete プロパティ」を参照してください。

[shutdown_query] begin_pollの直後に SQL 文が実行されます。
 結果には、yes(または1)かno(または0)の値のみが含まれています。Notifier を停止するには、yes または1を指定します。

詳細については、『Mobile Link サーバ起動同期ユーザーズ・ ガイド』> 「shutdown_query プロパティ」を参照してくださ い。

[この SQL 文を実行] 指定された Notifier イベントが発生したときに 実行する SQL 文を入力します。 参照

◆ 『Mobile Link サーバ起動同期ユーザーズ・ガイド』> 「Mobile Link 通知プロパティ」

[サービス] プロパティ・シート

[サービス]プロパティ・シートでは、選択されたサービスに関する 情報を参照できます。

[サービス]プロパティ・シートには、[一般]、[設定]、[アカウント]、[依存性]の4つのタブがあります。

[サービス] プロパティ・シート:[一般]タブ

[サービス]プロパティ・シートの[一般]タブには、次の項目があります。

[名前] 選択されているサービスの名前が表示されます。

[タイプ] 選択されているオブジェクトのタイプが表示されます。 『SQL Anywhere Studio の紹介』>「サービス」は、一連のオプション を使用してデータベース・サーバやその他のアプリケーションを実行 します。

[サービス・タイプ] サービスのタイプが表示されます。たとえば、 Mobile Link 同期サービス、ネットワーク・データベース・サーバ・ サービス、またはその他のタイプのサービスが表示されます。

[ステータス] 選択されているサービスの状態が開始、停止、または 一時停止のいずれであるかが表示されます。

サービス状態の詳細については、『Mobile Link 管理ガイド』>「サービスの追加、修正、削除」を参照してください。

[起動タイプ] 選択したサービスについて以下の起動タイプのいずれ かを選択してください。起動タイプは、次回 Windows を起動すると きに適用されます。

• [自動] このオプションを選択すると、オペレーティング・シ ステムの起動時にサービスが自動的に起動します。 [手動] サービスを手動で起動するときは、このオプションを 選択します。サービスを手動で起動する場合は、操作を行う ユーザが Administrator アクセス権を持っている必要があります。

Administrator アクセス権については、Windows のマニュアルを 参照してください。

- [無効] サービスを無効にして起動しないようにするときは、
 このオプションを選択します。
 - ◆ 『ASA データベース管理ガイド』>「サービスの管理」
 - ◆ 『ASA データベース管理ガイド』> 「Windows サービスの概 要」

|サービス|プロパティ・シート:|設定|タブ

Mobile Link の[サービス]プロパティ・シートの[設定]タブには、 次の項目があります。

[ファイル名] 実行ファイルのパスを入力します。たとえば、 f:**¥**Sybase**¥**ASA90**¥**win32**¥**dbmlsrv9.exeのように入力します。

[パラメータ] 実行ファイルの追加のパラメータ(ファイル名とオプ ションを含む)をテキスト・ボックスに入力します。実行ファイルで 使用するのと同じオプションをサービスに対して使用できます。

たとえば、冗長ロギングと3つのワーカ・スレッドを使用する Mobile Link 同期サービスを起動するときは、次のように入力します。

-c "dsn=ASA 9.0 Sample;uid=DBA;pwd=SQL" -vc -wu 3

参照

参照

◆ 『ASA データベース管理ガイド』>「サービス作成ユーティリ ティ」

[サービス]プロパティ・シート:[アカウント]タブ

Mobile Link の[サービス]プロパティ・シートの[アカウント]タブ には、次の項目があります。 [**ローカル・システム・アカウント**] このオプションを選択すると、 システムのローカル・アカウントでサービスが実行されます。

 [デスクトップとの対話をサービスに許可] デスクトップのア イコンをクリックしてサーバ・ウィンドウを表示する場合は、 このオプションを選択します。このオプションを使用できるの は、[ローカル・システム・アカウント]を選択した場合だけで す。

[その他のアカウント] このオプションを選択すると、ローカル・ア カウント以外のアカウントでサービスが実行されます。ユーザ ID は ドロップダウン・リストから選択します。

- [パスワード] サービスの実行元アカウントに対するパスワードを入力します。[その他のアカウント]を選択した場合は選択したユーザ ID に対して適切なパスワードを指定してください。また、[パスワードの確認]テキスト・ボックスでパスワードを確認してください。
- [パスワードの確認] パスワードを再入力して正しく入力した ことを確認します。

参照

◆ 『ASA データベース管理ガイド』>「サービス作成ユーティリ ティ」

[サービス] プロパティ・シート:[依存性]タブ

Mobile Link の [サービス] プロパティ・シートの [依存性] タブには、 次の項目があります。

[このサービスは、次の起動順序グループに属します。] 選択されて いるサービスが属しているサービス・グループを指定します。システ ムに存在するすべてのサービス・グループを表示するには、[変更] をクリックします。[ルック・アップ・グループ]ダイアログが表示 され、選択したサービスのサービス・グループを指定できます。

[変更] [ルック・アップ・グループ]ダイアログが表示され、選択 したサービスが属しているサービス・グループを指定します。 [サービス]リスト 選択したサービスの前に起動する必要がある サービスとサービス・グループすべてがリストされます。このリスト には、サービスまたはサービス・グループのタイプも表示されます。

- [サービスの追加] [サービスを依存性に追加]ダイアログが表示され、すべてのサービスを表示したり、[サービス]プロパティ・シートの[依存性]タブの[サービス]リストに追加するサービスを選択したりできます。
- [サービス・グループの追加] [サービス・グループの依存の追加]ダイアログが表示され、[サービス]プロパティ・シートの [依存性]タブの[サービス]リストに追加するサービス・グルー プを選択します。
- [削除] [サービス]リストから選択したサービスまたはサービス・グループを削除します。削除したグループまたはサービスは、選択したサービスよりも前に起動されることはなくなります。

◆ 『ASA データベース管理ガイド』> 「サービスの管理」

 ● 『ASA データベース管理ガイド』>「一度に複数のサービスを 実行する」

[SMTP ゲートウェイ] プロパティ・シート

参照

[SMTP ゲートウェイ] プロパティ・シートには、[一般]、[サーバ]、 [ヘッダ]、[配信]の4つのタブがあります。

[SMTP ゲートウェイ] プロパティ・シート:[一般]タブ

プロパティは起動時に読み込まれます。プロパティを変更した場合、 Mobile Link 同期サーバを停止して再起動しないと、その変更が有効 になりません。

[SMTP ゲートウェイ] プロパティ・シートの[一般] タブには、次の 項目があります。

[名前] ゲートウェイの名前が表示されます。このフィールドでゲー トウェイの名前を変更できます。 [タイプ] オブジェクトのタイプが表示されます。

[**このゲートウェイを有効にする**] このゲートウェイを使用する場合 に、このオプションを選択します。

詳細については、『Mobile Link サーバ起動同期ユーザーズ・ガイド』> 「enable プロパティ」を参照してください。

[説明] この SMTP ゲートウェイの説明を入力します。

◆ 『Mobile Link サーバ起動同期ユーザーズ・ガイド』>「SMTP ゲートウェイ・プロパティ」

[SMTP ゲートウェイ] プロパティ・シート : [サーバ] タブ

プロパティは起動時に読み込まれます。プロパティを変更した場合、 Mobile Link 同期サーバを停止して再起動しないと、その変更が有効 になりません。

[SMTP ゲートウェイ] プロパティ・シートの[サーバ] タブには、次の項目があります。

[**ホスト**] これは、メッセージを Listener に送信するための SMTP サーバの IP アドレスです。デフォルトは mail です。

[認証] 必要に応じて、SMTP サービスのユーザ名とパスワードを入 力できます。

- [サーバに認証が必要です]SMTP サービスのユーザ名とパス ワードを入力する必要がある場合に、このオプションを選択 します。このオプションを選択すると、以下のフィールドが 有効になります。
 - [ユーザ] SMTP サービスのユーザ名を入力します。 SMTP サービスには、ユーザ名を必要としないものもあ ります。

詳細については、『Mobile Link サーバ起動同期ユーザー ズ・ガイド』>「user プロパティ」を参照してください。

• [パスワード] SMTP サービスのパスワードを入力しま す。

詳細については、『Mobile Link サーバ起動同期ユーザー ズ・ガイド』>「password プロパティ」を参照してください。

◆ 『Mobile Link サーバ起動同期ユーザーズ・ガイド』> 「SMTP ゲートウェイ・プロパティ」

[SMTP ゲートウェイ] プロパティ・シート: [ヘッダ] タブ

参照

プロパティは起動時に読み込まれます。プロパティを変更した場合、 Mobile Link 同期サーバを停止して再起動しないと、その変更が有効 になりません。

[SMTP ゲートウェイ] プロパティ・シートの[ヘッダ] タブには、次 の項目があります。

[開始] 電子メール (SMTP 要求)の送信側のアドレスを入力します。

詳細については、『Mobile Link サーバ起動同期ユーザーズ・ガイド』> 「sender プロパティ」を参照してください。

[SMTP ゲートウェイ] プロパティ・シート: [配信] タブ

[SMTP ゲートウェイ] プロパティ・シートの[配信] タブには、次の 項目があります。

[**クライアント・バージョン**] このゲートウェイを使用するクライア ントのバージョンに関する情報を入力できます。

- [このゲートウェイは 9.0.1 以上のクライアントのみサポート] すべての Listener が SQL Anywhere Studio バージョン 9.0.1 以 降のクライアントである場合に、このオプションを選択しま す。これはデフォルト設定です。
 - [メッセージ配信の確認]メッセージの配信を確認する場合に、このオプションを選択します。この設定が影響するのは、このゲートウェイ経由で直接送信する場合だけです。このオプションはデフォルトでオフになっています。

詳細については、『Mobile Link サーバ起動同期ユーザー ズ・ガイド』> 「confirm_delivery プロパティ」を参照して ください。

• [このゲートウェイは 9.0.0 クライアントのみサポート] すべ ての Listener が SQL Anywhere Studio バージョン 9.0.0 クライ アントである場合に、このオプションを選択します。

Listeners のバージョンの詳細については、『Mobile Link サー バ起動同期ユーザーズ・ガイド』>「listeners_are_900 プロパ ティ」を参照してください。

[確認のタイムアウト] 確認のタイムアウト時間を入力してください。確認のタイムアウトのデフォルトは10分です。

詳細については、『Mobile Link サーバ起動同期ユーザーズ・ガイド』> 「confirm_timeout プロパティ」を参照してください。

- [次の後にタイムアウトを実行]ドロップダウン・リストから 確認のタイムアウト間隔を選択します。
- [次のタイムアウトを使用] 確認のタイムアウト間隔を指定し ます。

参照

◆ 『Mobile Link サーバ起動同期ユーザーズ・ガイド』>「SMTP ゲートウェイ・プロパティ」

[UDP ゲートウェイ] プロパティ・シート

[UDP ゲートウェイ] プロパティ・シートには、[一般]、[ポート]、 [配信]の3つのタブがあります。

[UDP ゲートウェイ] プロパティ・シート:[一般]タブ

プロパティは起動時に読み込まれます。プロパティを変更した場合、 Mobile Link 同期サーバを停止して再起動しないと、その変更が有効 になりません。

[UDP ゲートウェイ] プロパティ・シートの [一般] タブには、次の項 目があります。 [名前] ゲートウェイの名前が表示されます。このフィールドでゲー トウェイの名前を変更できます。

[タイプ] オブジェクトのタイプが表示されます。

[このゲートウェイを有効にする] このゲートウェイを使用する場合 に、このオプションを選択します。

詳細については、『Mobile Link サーバ起動同期ユーザーズ・ガイド』>「enable プロパティ」を参照してください。

[説明] この UDP ゲートウェイの説明を入力します。

[UDP ゲートウェイ] プロパティ・シート: [ポート] タブ

プロパティは起動時に読み込まれます。プロパティを変更した場合、 Mobile Link 同期サーバを停止して再起動しないと、その変更が有効 になりません。

[UDP ゲートウェイ] プロパティ・シートの[ポート] タブには、次の 項目があります。

[**宛先ポート**] ゲートウェイが UDP パケットを送信するリモート・ デバイス上のポートを指定できます。

- [デフォルト・ポート (5001)を使用]提供された UDP Listener
 のデフォルトのリスニング・ポート (5001)を使用する場合
 に、このオプションを選択します。
- [次のポートを使用] ゲートウェイが UDP パケットを送信するリモート・デバイス上のポートを指定します。

詳細については、『Mobile Link サーバ起動同期ユーザーズ・ガイド』> 「listener port プロパティ」を参照してください。

[元のポート] UDP パケットの送信に使用するポートを指定します。 ファイアウォールによって送信トラフィックが制限されている場合、 これを設定しなければならない可能性があります。

[システムが割り当てるポートを使用]空いているポートをオペレーティング・システムに割り当てさせる場合に、このオプションを選択します。

• [次のポートを使用] UDP パケットの送信に使用するポート を指定する場合に、このオプションを選択します。

詳細については、『Mobile Link サーバ起動同期ユーザーズ・ガイド』> 「sender port プロパティ」を参照してください。

[ネットワーク・アドレス] オプションで、送信者の IP アドレスを 指定できます。

- [デフォルトのネットワーク・アドレスを使用] デフォルトの ネットワーク・アドレス localhost を使用する場合に、このオ プションを選択します。
- [次のアドレスを使用]送信者の IP アドレスを指定する場合
 に、このオプションを選択します。アドレスを指定する必要があるのは、複数のホームを持つホストが存在する場合です。

詳細については、『Mobile Link サーバ起動同期ユーザーズ・ガイド』> 「sender プロパティ」を参照してください。

[UDP ゲートウェイ] プロパティ・シート:[配信]タブ

プロパティは起動時に読み込まれます。プロパティを変更した場合、 Mobile Link 同期サーバを停止して再起動しないと、その変更が有効 になりません。

[SMTP ゲートウェイ] プロパティ・シートの[配信] タブには、次の 項目があります。

[**クライアント・バージョン**] このゲートウェイを使用するクライア ントのバージョンに関する情報を入力できます。

 [このゲートウェイは9.0.1以上のクライアントのみサポート] すべての Listener が SQL Anywhere Studio バージョン 9.0.1 以 降のクライアントである場合に、このオプションを選択しま す。これはデフォルト設定です。 [メッセージ配信の確認]メッセージの配信を確認する場合に、このオプションを選択します。この設定が影響するのは、このゲートウェイ経由で直接送信する場合だけです。このオプションはデフォルトでオフになっています。

詳細については、『Mobile Link サーバ起動同期ユーザー ズ・ガイド』>「confirm_delivery プロパティ」を参照して ください。

• [このゲートウェイは 9.0.0 クライアントのみサポート] すべ ての Listener が SQL Anywhere Studio バージョン 9.0.0 クライ アントである場合に、このオプションを選択します。

Listeners のバージョンの詳細については、『Mobile Link サー バ起動同期ユーザーズ・ガイド』>「listeners_are_900 プロパ ティ」を参照してください。

[確認のタイムアウト] 確認のタイムアウト時間を入力してください。確認のタイムアウトのデフォルトは10分です。

詳細については、『Mobile Link サーバ起動同期ユーザーズ・ガイド』> 「confirm_timeout プロパティ」を参照してください。

- [次の後にタイムアウトを実行]ドロップダウン・リストから 確認のタイムアウト間隔を選択します。
- [次のタイムアウトを使用]確認のタイムアウト間隔を指定し ます。

[ユーザ]プロパティ・シート

[ユーザ]プロパティ・シートでは、選択されたユーザに関する情報 を参照できます。

[ユーザ]プロパティ・シートには[一般]タブだけがあります。

[ユーザ]プロパティ・シート:[一般]タブ

[ユーザ]プロパティ・シートの[一般]タブには、次の項目があります。

[名前] 選択されている Mobile Link ユーザの名前が表示されます。

[**タイプ**] 選択されているオブジェクトのタイプが表示されます。

[ユーザ ID] 選択されている Mobile Link ユーザをユニークに識別する整数が表示されます。

[パスワード] 選択されている Mobile Link ユーザにパスワードがあ るかどうかが表示されます。

選択した Mobile Link ユーザにパスワードがない場合には、隣接する フィールドに [(なし)] が表示されます。選択した Mobile Link ユーザ にパスワードがある場合には、実際のパスワードの代わりにアスタリ スクが表示されます。

[変更] [ユーザの認証] ダイアログが表示されます。このダイアロ グでは、Mobile Link ユーザの名前とパスワードを変更できます。

参照

- ◆ 『Mobile Link クライアント』> 「Mobile Link ユーザの認証」
- ◆「[ユーザの認証]ダイアログ」256ページ

|バージョン|プロパティ・シート

[バージョン]プロパティ・シートでは、選択されたスクリプト・ バージョンに関する情報を参照できます。スクリプト・バージョンを 使用すると、スクリプトを異なる環境で実行されるスクリプト・セッ トに編成することができます。バージョンを指定することによって、 アップロード・ストリームの処理やダウンロード・ストリームの準備 に使用する同期スクリプト・セットを Mobile Link クライアントで選 択できます。

[バージョン]プロパティ・シートには[一般]タブだけがあります。

|バージョン|プロパティ・シート:|一般|タブ

[バージョン]プロパティ・シートの[一般]タブには、次の項目があります。

[名前] 選択されているスクリプトバージョンの名前が表示されま す。スクリプト・バージョン名は、文字列です。テキスト・ボックス でバージョン名を編集できます。

[タイプ] 選択されているオブジェクトのタイプが表示されます。この場合のオブジェクト・タイプはバージョンです。

[**バージョンID**] 選択されているバージョンをユニークに識別する整 数が表示されます。

[説明] バージョンの説明を入力します。たとえば、システムにおけるそのバージョンの目的を、この領域に記述できます。

参照

◆ 『Mobile Link 管理ガイド』> 「スクリプト・バージョン」

Mobile Link のダイアログ・ボックス

Mobile Link で設定可能な項目の多くがダイアログ・ボックスに表示 されます。ダイアログ・ボックスは、Sybase Central の[ファイル]メ ニューを使用して表示できます。

[ファイル]メニューには、Sybase Central のメイン・ウィンドウ内に 表示されるオブジェクトに関するコマンドがあります。表示されるメ ニュー項目は、選択されているオブジェクトによって変わります。た とえば、テーブルを選択すると、[ファイル]メニューにはテーブル に関するコマンドやオプションのメニュー項目が表示されます。同じ ように、ユーザを選択すると、[ファイル]メニューにはユーザに関 するオプションが表示されます。これらのメニュー項目はすべて、オ ブジェクトを右クリックすると表示されるポップアップ・メニューか らもアクセスできます。

[共有バージョン]ダイアログ

[共有バージョン]ダイアログでは、特定のバージョンを1つ以上の Mobile Link イベントに関連付けることができます。

[共有バージョン]ダイアログには、次の項目があります。

[**バージョン**] この下にある [イベント]の発生時に実行するスクリ プトを示すバージョンを選択します。1つのバージョンを複数のイベ ントに関連付けることができます。

[イベント] スクリプトの実行を引き起こすイベントの名前が表示されます。

[スクリプトのテスト]ダイアログ

スクリプトを記述してイベントに関連付けることで、イベント発生時 に Mobile Link 同期サーバが関連スクリプト(存在する場合)を実行で きるようにします。[スクリプトのテスト]ダイアログでは、同期ス クリプトをテストできます。 [スクリプトのテスト]ダイアログ・ボックスには、次の項目があり ます。

[バージョン] テストする同期スクリプトのセットを識別するバー ジョンを選択します。

[ユーザ] Mobile Link 同期サーバ・ユーザのユーザ名を入力します。 [ユーザ]を指定しないと、同期スクリプトのテストには[<デフォルトのユーザ>]が使用されます。

[スクリプトのテスト]ウィンドウ [バージョン]と[ユーザ]の指 定が完了したら、[テスト]をクリックすることで同期スクリプトを テストできます。そのテスト結果はこのウィンドウに表示されます。 ウィンドウには、実行されたスクリプトのリストと実行順序も表示さ れます。テスト中に構文エラーやデータ型エラーが検出された場合 は、そのエラーもこのウィンドウに表示されます。

[テスト] [テスト]をクリックすると、バージョンで識別した同期 スクリプトの構文エラーをテストできます。結果は[スクリプトのテ スト]ウィンドウに表示されます。

[オプション] [スクリプトのテスト・オプション]ダイアログが表示されます。このダイアログでは、テストする同期スクリプトで同期 されるテーブルの順序を指定できます。

参照

◆「[スクリプトのテスト・オプション]ダイアログ」255 ページ

[スクリプトのテスト・オプション]ダイアログ

[スクリプトのテスト・オプション]ダイアログでは、同期スクリプ トをテストするときのオプションを設定できます。

[スクリプトのテスト・オプション]ダイアログには、次の項目があ ります。

[同期テーブル] 統合データベース内の同期できるすべてのテーブル がリストされます。このリストのテーブルを選択して[追加]をク リックすると、[同期テーブル順序]リストにそのテーブルが追加さ れます。[Shift] キーを押したままでクリックすると複数のテーブルを 選択できます。 [同期テーブル順序] このリストのテーブルの順序は、[スクリプト のテスト]ダイアログで同期スクリプトをテストするときにテーブル が同期される順序です。このリストからテーブルを削除する場合は、 テーブルを選択して[削除]をクリックします。[Shift]キーを押した ままでクリックすると複数のテーブルを選択できます。

[追加] [同期テーブル]リストのテーブルを[同期テーブル順序]リ ストに追加します。

[削除] [同期テーブル順序]リストからテーブルを削除します。

デフォルト [同期テーブル]リストのすべてのテーブルを[同期テーブル順序]リストに追加し、ml_table テーブルのローの順序に基づいてテーブルを並べます。

参照

◆「「スクリプトのテスト」ダイアログ」254ページ

|ユーザの認証|ダイアログ

[ユーザの認証]ダイアログでは、Mobile Link ユーザの名前とパス ワードを変更できます。

[ユーザの認証]ダイアログには、次の項目があります。

[**ユーザ名**] 選択されているユーザの名前が表示されます。隣接する フィールドでユーザ名を編集できます。

[パスワードなし] 選択したユーザのパスワードが不要な場合は、このオプションを選択します。

[パスワード] 選択したユーザのパスワードを入力します。[パス ワードの確認]フィールドでパスワードを確認してください。

[パスワードの確認] ユーザのパスワードを再入力して正しく入力したことを確認します。

- ◆ 『Mobile Link 管理ガイド』>「authenticate user 接続イベント」
- ◆ 『Mobile Link クライアント』> 「Mobile Link ユーザの認証」

Mobile Link のウィザード

ウィザードを使用すると、段階を踏んで Mobile Link の多くの一般的 な管理タスクを実行できます。これらのタスクの多くはストアド・プ ロシージャを使用して実行することもできます。

Mobile Link ストアド・プロシージャの詳細については、『Mobile Link 管理ガイド』>「ストアド・プロシージャ」を参照してください。

[Carrier マッピングの追加] ウィザード

[Carrier マッピングの追加] ウィザードを使用すると、段階を踏んで 新しい Carrier を追加できます。Carrier を設定することで、使用する 無線通信事業者に関する情報を格納します。Carrier 情報は、追跡され たリスニング情報に基づいて SMS 電子メール・アドレスを作成する ときに使用されます。新しい Carrier はデフォルトで有効になります。

プロパティ・シートを使用して新しい Carrier を設定するには、Sybase Central で目的の Carrier を右クリックし、ポップアップ・メニューから[プロパティ]を選択します。

また、ml_add_property ストアド・プロシージャを使用して Carrier を 追加することも可能です。

[Carrier マッピングの追加] ウィザードには、次の項目があります。

[新しい Carrier の名前を指定] 新しい Carrier の名前を入力します。

[新しい Carrier の説明を入力] オプションで、新しい Carrier の説明 を入力できます。

- ◆ 『Mobile Link サーバ起動同期ユーザーズ・ガイド』> 「ゲート ウェイと Carrier の設定」
- ◆ 『Mobile Link サーバ起動同期ユーザーズ・ガイド』> 「Carrier プロパティ」
- ◆ 『Mobile Link 管理ガイド』> 「ml_add_property」

[接続スクリプトを追加]ウィザードと[テーブル・スクリプトを追加] ウィザード

- [接続スクリプトを 追加]ウィザードに ついて に に に に に た アクションを制御します。また、アップロード処理やダウン ロード処理の開始と終了などといった、同期レベルのイベントでのア クションを許可します。接続レベルのスクリプトは、特定のイベント で特定のアクションを実行する必要がある場合にのみ作成します。
- [テーブル・スクリプトを追加]ウィザードを使用すると、段階を踏 プトを追加]ウィ ザードについて ドするローの選択など、特定のテーブルの同期に関する特定のイベン トでのアクションを実行できます。

[接続スクリプトを追加]ウィザードと[テーブル・スクリプトを追加]ウィザードには、次の項目があります。

[スクリプトのバージョンを指定] ドロップダウン・リストからテー ブル・スクリプトまたは接続スクリプトのバージョンを選択します。

[新しいスクリプトのイベントを指定] ドロップダウン・リストから、このスクリプトを実行するイベントを選択します。

[スクリプトの言語を指定] スクリプトの言語を選択します。SQL、 .NET、Java のいずれかを選択できます。

[新しいイベントのスクリプトをすぐに編集] このオプションを選択 すると、[完了]をクリックしたときにウィンドウにスクリプトが表 示され、編集できます。

- ◆ 『Mobile Link 管理ガイド』> 「スクリプトの種類」
- ◆ 『Mobile Link 管理ガイド』> 「Java による同期スクリプトの作 成」
- ◆ 『Mobile Link 管理ガイド』> 「.NET での同期スクリプトの作 成」
- ◆ 『Mobile Link 管理ガイド』> 「接続スクリプト」
- ◆ 『Mobile Link 管理ガイド』> 「ml_add_connection_script」
- ◆ 『Mobile Link 管理ガイド』> 「テーブル・スクリプト」
- ◆ 『Mobile Link 管理ガイド』> 「ml_add_table_script」

[ゲートウェイの追加]ウィザード

[ゲートウェイの追加]ウィザードを使用すると、段階を踏んで新し いゲートウェイを追加できます。ゲートウェイは、メッセージを送信 するためのメカニズムです。UDP ゲートウェイと SMTP ゲートウェ イを定義できます。さらに、使用すべきゲートウェイの自動決定機能 を備えた Device Tracker ゲートウェイを使用することもできます。

プロパティ・シートを使用して新しいゲートウェイを設定するには、 目的のゲートウェイを右クリックし、ポップアップ・メニューから [プロパティ]を選択します。

また、ml_add_property ストアド・プロシージャを使用してゲートウェ イを追加することも可能です。

[ゲートウェイの追加]ウィザードには、次の項目があります。

[新しいゲートウェイの名前を指定]新しいゲートウェイの名前を入力します。

[新しいゲートウェイのタイプを指定] 新しいゲートウェイのタイプ として、次のいずれかを選択します。

[SMTP] SMTP ゲートウェイは、電子メール・メッセージの送信に使用できます。また、無線通信事業者が提供する電子メールから SMS メッセージへの変換サービスを通じて、SMSメッセージを SMS リスナに送信することも可能です。

SMTP ゲートウェイの詳細については、『Mobile Link サーバ起 動同期ユーザーズ・ガイド』>「SMTP ゲートウェイ・プロパ ティ」を参照してください。

• [UDP] UDP は、開発に使用したり、無線 LAN 上のアプリ ケーションに使用したりすると便利です。

詳細については、『Mobile Link サーバ起動同期ユーザーズ・ ガイド』>「UDP ゲートウェイ・プロパティ」を参照してく ださい。

 [DeviceTracker] デバイス追跡を使用すれば、Mobile Link ユー ザ名を指定するだけでリモート・データベースのアドレッシ ングを実行できます。デバイス追跡が有効になっている場合、 Mobile Link はユーザへのアクセス方法を追跡します。Device Tracker ゲートウェイは、下位のゲートウェイにメッセージを 自動転送します。Device Tracker ゲートウェイには、最大で1 つの SMS と1 つの UDP を、下位ゲートウェイとして登録で きます。

詳細については、『Mobile Link サーバ起動同期ユーザーズ・ ガイド』>「デバイス・トラッキング」を参照してください。

[新しいゲートウェイの説明を入力] オプションで、新しいゲート ウェイの説明を入力できます。

- ◆ 『Mobile Link サーバ起動同期ユーザーズ・ガイド』> 「ゲート ウェイと Carrier」
- ◆ 『Mobile Link 管理ガイド』> 「ml_add_property」

[Notifier の追加] ウィザード

[Notifier の追加] ウィザードを使用すると、段階を踏んで新しい Notifier を追加できます。Notifier は統合データベースをポーリング し、検索するよう設定された変更を検出します。

プロパティ・シートを使用して新しい Notifier を設定するには、目的 の Notifier を右クリックし、ポップアップ・メニューから[プロパ ティ]を選択します。

また、ml_add_property ストアド・プロシージャを使用して Notifier を 追加することも可能です。

[Notifier の追加] ウィザードには、次の項目があります。

[新しい Notifier の名前を指定] 新しい Notifier の名前を入力します。

[新しい Notifier の説明を入力] オプションで、新しい Notifier の説 明を入力できます。

- ◆ 『Mobile Link サーバ起動同期ユーザーズ・ガイド』> 「Notifier」
- ◆ 『Mobile Link サーバ起動同期ユーザーズ・ガイド』>「Notifier の設定」

参照

◆ 『Mobile Link 管理ガイド』> 「ml_add_property」

[サービスの追加] ウィザード

[サービスの追加]ウィザードを使用すると、段階を踏んで Mobile Link サービスを作成できます。Mobile Link 同期サーバは、常時利用 できるように設定できます。[サービスの追加]ウィザードを使って Windows のサービスを設定すると、ユーザがコンピュータからログオ フした後も Mobile Link 同期サーバが実行し続けるようにできます。

[サービスの追加]ウィザードには、[名前と起動の選択]、[パス名の 選択]、[パラメータの指定]、[アカウントの選択]、[オプションの 選択]、[新しいサービスの作成準備完了]の6ページがあります。

参照

◆ 『Mobile Link 管理ガイド』> 「現在のセッション以外での Mobile Link の実行」

[名前と起動の選択]ページ

[サービスの追加]ウィザードの[名前と起動の選択]ページには、次の項目があります。

[新しいサービスの名前を指定]新しいサービスの名前を入力します。

[起動オプションを選択] 新しいサービスの起動オプションには次の いずれか1つを選択できます。起動オプションは、次回 Windows を 起動するときに適用されます。

- [自動] このオプションを選択すると、オペレーティング・シ ステムの起動時にサービスが自動的に起動します。
- [手動] サービスを手動で起動するときは、このオプションを 選択します。サービスを手動で起動する場合は、操作を行う ユーザが Administrator アクセス権を持っている必要があります。

Administrator アクセス権については、Windows のマニュアルを 参照してください。 • [無効] サービスを無効にして起動しないようにするときは、 このオプションを選択します。

参照

◆ 『Mobile Link 管理ガイド』>「現在のセッション以外での Mobile Link の実行」

[パス名の選択]ページ

[サービスの追加]ウィザードの[パス名の選択]ページには、次の項 目があります。

[新しいサービスのための実行ファイルを指定] たとえば、 f:¥Sybase¥ASA90¥win32¥dbmlsrv9.exe のような実行ファイルのパスを 入力します。[デフォルト]をクリックすると、Mobile Link が実行 ファイルを検索します。

デフォルト Mobile Link に Adaptive Server Anywhere インストール・ ディレクトリで Mobile Link サーバ実行ファイルを検索させる場合は、 [デフォルト]をクリックします。

参照

 ● 『Mobile Link 管理ガイド』>「現在のセッション以外での
 Mobile Link の実行」

[パラメータの指定]ページ

[サービスの追加]ウィザードの[パラメータの指定]ページには、次の項目があります。

[このサービスに使用するパラメータを指定] 実行ファイルの追加の パラメータ(ファイル名とオプション)をテキスト・ボックスに入力 します。実行ファイルで使用するのと同じオプションをサービスに対 して使用できます。

たとえば、冗長ロギングと3つのワーカ・スレッドを使用する Mobile Link 同期サービスを作成するときは、次のように入力します。

-c "dsn=ASA 9.0 Sample;uid=DBA;pwd=SQL"
-vc
-wu 3

オプションのリストについては、『Mobile Link 管理ガイド』> 「dbmlsrv9 オプション」を参照してください。

[パス] 実行ファイルのパスをここで編集します。

● 『Mobile Link 管理ガイド』>「現在のセッション以外での Mobile Link の実行」

[アカウントの選択]ページ

[サービスの追加]ウィザードの[アカウントの選択]ページには、次の項目があります。

[**ローカル・システム・アカウント**] このオプションを選択すると、 システムのローカル・アカウントでサービスが実行されます。

[その他のアカウント] このオプションを選択すると、ローカル・ア カウント以外のアカウントでサービスが実行されます。ユーザ ID は ドロップダウン・リストから選択します。

- [パスワード] [その他のアカウント]を選択した場合は選択したユーザ ID に対して適切なパスワードを指定してください。
 [パスワードの確認]テキスト・ボックスでパスワードを確認してください。
- [確認] パスワードを再入力して正しく入力したことを確認し ます。

参照

参照

 ● 『Mobile Link 管理ガイド』>「現在のセッション以外での Mobile Link の実行」

[オプションの選択]ページ

[サービスの追加]ウィザードの[オプションの選択]ページには、次の項目があります。

[デスクトップとの対話をサービスに許可] デスクトップのアイコン をクリックしてサーバ・ウィンドウを表示する場合は、このオプショ ンを選択します。このオプションを使用できるのは、[サービスの追 加]ウィザードの[アカウントの選択]ページで[ローカル・システ ム・アカウント]を選択した場合のみです。

[作成したらサービスを起動] ウィザードを閉じた後で新しいサービスを起動するときは、このオプションを選択します。このオプション を使用できるのは、[サービスの追加]ウィザードの[名前と起動の 選択]ページで[自動]または[手動]を選択した場合のみです。

参照

● 『Mobile Link 管理ガイド』> 「現在のセッション以外での Mobile Link の実行」

[新しいサービスの作成準備完了]ページ

[サービスの追加]ウィザードの[新しいサービスの作成準備完了] ページには、次の項目があります。

[名前] 新しいサービスの名前が表示されます。

[パス] 実行ファイルのパスが表示されます。

[**パラメータ**] サービスの接続パラメータが表示されます。

[起動] サービスの起動設定([自動]、[手動]、[無効])が表示されます。

[アカウント] サービスが実行されるアカウントの名前が表示されます。

[対話] サービスがデスクトップと対話するかどうかが表示されます。

[**すぐに起動**] ウィザードを閉じた後でサービスを起動するかどうか が表示されます。

◆ 『Mobile Link 管理ガイド』> 「現在のセッション以外での Mobile Link の実行」

[同期テーブルの追加]ウィザード

[同期テーブルの追加]ウィザードでは、同期テーブルのリストに テーブルを追加できます。

[同期テーブルの追加]ウィザードには、次の項目があります。

[リモート・テーブル名の指定] 同期するテーブルがすでにリモー ト・データベースにある場合、このオプションを選択します。同期 テーブルのリストに追加するリモート・テーブルの名前を隣接するテ キスト・ボックスに入力します。リモート・テーブルと統合テーブル が同じ名前を使用する必要はありません。

[統合データベースにリモート・テーブルと同名のテーブルが存在] 同期するリモート・テーブルと同じ名前のテーブルがすでに統合デー タベースにある場合、このオプションを選択します。このオプション を選択すると、以下のオプションが両方とも有効になります。

- [同じ名前を持つ統合データベース・テーブルの所有者を選択] リモート・テーブルと同じ名前の統合データベース・テーブルの所有者をドロップダウン・リストから選択します。統合テーブルの所有者は必ず選択してください。
- [統合データベース・テーブルを選択] リストから統合テーブ ル名を選択します。

[ユーザの追加]ウィザード

[ユーザの追加]ウィザードには、次の項目があります。

[新しいユーザの名前の入力] 新しい Mobile Link ユーザの名前をテ キスト・ボックスに入力します。

[パスワードなし] 新しい Mobile Link ユーザのパスワードが不要な 場合は、このオプションを選択します。

[パスワード] 新しい Mobile Link ユーザのパスワードが必要な場合 は、このオプションを選択します。テキスト・ボックスに新しい Mobile Link ユーザのパスワードを入力します。次のテキスト・ボッ クスでパスワードを確認してください。 [パスワードの確認] パスワードを確認するために再入力します。同 じパスワードを正確に入力してください。

参照

◆ 『Mobile Link クライアント』> 「Mobile Link ユーザの認証」

[バージョンを追加]ウィザード

[バージョンを追加]ウィザードでは、新しいスクリプト・バージョ ンを追加できます。スクリプト・バージョンを使用すると、スクリプ トを異なる環境で実行されるスクリプト・セットに編成することがで きます。バージョンを指定することによって、アップロード・スト リームの処理やダウンロード・ストリームの準備に使用する同期スク リプト・セットを Mobile Link クライアントで選択できます。

[バージョンを追加]ウィザードには、次の項目があります。

[新しいバージョンの名前を指定] バージョンの名前をテキスト・ ボックスに入力します。ユニークなバージョン名を入力してください。異なるバージョンには同じ名前を使用できません。

[新しいバージョンの説明を入力] バージョンの説明を入力します。

参照

◆ 『Mobile Link 管理ガイド』> 「スクリプト・バージョン」

[通知設定のエクスポート]ウィザード

[通知設定のエクスポート]ウィザードを使用すると、段階を踏んで、 Sybase Central 内の設定を特定の Notifier プロパティ・ファイルにエク スポートできます。

[通知設定のエクスポート]ウィザードには、[ファイル]、[オブジェ クト]、[設定]の3つのページがあります。

[通知設定のエクスポート]ウィザード:[ファイル]ページ

[通知設定のエクスポート]ウィザードの[ファイル]ページには、次の項目があります。

[次のファイルを作成] Notifier、ゲートウェイ、Carrier の各プロパ ティを格納する Notifier プロパティ・ファイルの名前を入力します。 [参照]をクリックすると、Notifier プロパティを保存する既存のファ イルを検索できます。

Notifier プロパティ・ファイルはテキスト・ファイルです。これには 任意の名前を付けることができます。

◆ 『Mobile Link サーバ起動同期ユーザーズ・ガイド』>「Notifier のプロパティ・ファイル」

[通知設定のエクスポート]ウィザード:[オブジェクト]ページ

参照

[通知設定のエクスポート]ウィザードの[オブジェクト]ページに は、次の項目があります。

[エクスポートする Carrier、ゲートウェイ、および Notifier を選択] このリストには、ユーザ定義および事前定義(デフォルト) の Carrier、ゲートウェイ、Notifier がすべて表示されます。Notifier プ ロパティ・ファイルにエクスポートするオブジェクトを選択します。

- [すべて選択]このボタンをクリックすると、リスト内のすべての Carrier、ゲートウェイ、Notifier が選択され、それらがNotifier プロパティ・ファイルに追加されます。
- [すべてをクリア]このボタンをクリックすると、リスト内で 選択されているすべての Carrier、ゲートウェイ、Notifier がク リアされます。

[通知設定のエクスポート]ウィザード:[設定]ページ

[通知設定のエクスポート]ウィザードの[設定]ページには、次の項 目があります。

[エクスポートするグローバル通知設定を選択] エクスポートする設 定を選択します。

使用できる設定の詳細については、『Mobile Link 管理ガイド』>「リ ダイレクタのプロパティの設定(すべてのバージョン共通)」を参照し てください。

- [**すべて選択**] このボタンをクリックすると、リスト内のすべてのグローバル通知設定が選択されます。
- [すべてをクリア]このボタンをクリックすると、グローバル 通知設定リスト内で選択されているすべての項目がクリアさ れます。

[通知設定のインポート]ウィザード

[通知設定のインポート]ウィザードを使用すると、段階を踏んで、 Notifier プロパティ・ファイルから設定をインポートできます。

[通知設定のインポート]ウィザードには、[ファイル]、[オブジェクト]、[設定]の3つのページがあります。

[通知設定のインポート]ウィザード:[ファイル]ページ

[通知設定のインポート]ウィザードの[ファイル]ページには、次の 項目があります。

[次のファイルをインポート] インポートする Notifier プロパティ・ ファイルの名前を入力します。また、[参照]をクリックしてマシン 上のファイルを検索することも可能です。

参照

◆ 『Mobile Link サーバ起動同期ユーザーズ・ガイド』>「Notifier のプロパティ・ファイル」

[通知設定のインポート]ウィザード:[オブジェクト]ページ

[通知設定のインポート]ウィザードの[オブジェクト]ページには、 次の項目があります。

[インポートする Carrier、ゲートウェイ、および Notifier を選択] インポートする Carrier、ゲートウェイ、および Notifier を選択しま す。このリストには、Notifier プロパティ・ファイル内に定義されて いるすべての Carrier、ゲートウェイ、Notifier が表示されます。

[通知設定のインポート]ウィザード:[設定]ページ

[通知設定のインポート]ウィザードの[設定]ページには、次の項目 があります。

[インポートするグローバル通知設定を選択] インポートする設定を 選択します。

使用できる設定の詳細については、『Mobile Link 管理ガイド』>「リ ダイレクタのプロパティの設定(すべてのバージョン共通)」を参照し てください。

- [**すべて選択**] このボタンをクリックすると、リスト内のすべてのグローバル通知設定が選択されます。
- [すべてをクリア]このボタンをクリックすると、グローバル 通知設定リスト内で選択されているすべての項目がクリアさ れます。
第6章 Mobile Link モニタのヘルプ

この章の内容 この章では、Mobile Link モニタで表示されるすべてのダイアログ・ ボックスとプロパティ・シートについて説明します。

[Mobile Link サーバへの接続] ダイアログ

このダイアログでは、稼動中の Mobile Link 同期サーバに接続できま す。ほとんどのパラメータが同じであるという点で、モニタ接続は Mobile Link 同期サーバへの同期接続と同様です。Mobile Link 同期 サーバの設定に合うパラメータを使用してください。すべての Mobile Link モニタ・セッションに対して、スクリプト・バージョンが for_MLMonitor_only に設定されます。

ヒント

Mobile Link モニタの起動時に同期が行われる場合、モニタは、ワー カ・スレッドが解放されるまで起動できません。そのため、同期は、 モニタを起動してから開始してください。モニタが起動した後は、 Mobile Link ワーカ・スレッドを使用しません。

[Mobile Link サーバへの接続]ダイアログには、次の項目があります。

[ユーザ] 接続の Mobile Link ユーザの名前を入力します。-zu+を指定して Mobile Link 同期サーバを起動した場合は、ここで指定する ユーザ ID が何であっても構いません。

[パスワード] 接続時のパスワードを入力します。指定した Mobile Link ユーザに対する正しいパスワードを入力してください。Mobile Link ユーザにパスワードがない場合は、このフィールドを空白のまま にします。

[ホスト] Mobile Link 同期サーバを実行するマシンのネットワーク 名または IP アドレス。デフォルトでは、モニタが稼働しているコン ピュータです。同期サーバがモニタと同じマシンで稼働している場合 は、localhost を使用できます。

[ネットワーク・プロトコル] 接続に使用する通信ストリームとポートを選択します。これらの値は、Mobile Link 同期サーバが同期要求 に使用しているのと同じプロトコルとポートに設定してください。

[TCP/IP] このオプションを選択すると、TCP/IP 経由で接続します。

- 【ポート】 Mobile Link 同期サーバは特定のポートを介して 通信します。デフォルトの TCP/IP ポート番号は、2439 で す。デフォルト以外の値を選択する場合、指定したポート で受信を行うように Mobile Link 同期サーバを設定してく ださい。
- [HTTP] このオプションを選択すると、HTTP 経由で接続しま す。デフォルトでは、バージョン 1.1 が使用されます。
 - [ポート] Mobile Link 同期サーバは特定のポートを介して 通信します。デフォルトの HTTP ポート番号は、80 です。 デフォルト以外の値を選択する場合、指定したポートで受 信を行うように Mobile Link 同期サーバを設定してくださ い。
- [HTTPS] このオプションを選択すると、HTTPS 経由で接続します。HTTPS 通信ストリームは Certicom RSA セキュリティを使用します。

注意

HTTPS_FIPS を実行している Mobile Link 同期サーバに Mobile Link モニタを接続することはできません。

HTTPS を使用するには、Mobile Link モニタが稼働しているコン ピュータに Mobile Link クライアント側データ・ストリーム暗号 化をインストールする必要があります。Mobile Link モニタはす べての証明書を信用するため、HTTPS を使用する場合は、[追 加のネットワーク・パラメータ]フィールドに証明書関連パラ メータを指定しないでください。

別途ライセンスを取得できるオプションが必要

トランスポート層のセキュリティには、別途ライセンスの SQL Anywhere Studio セキュリティ・オプションを入手する必要があ ります。このセキュリティ・オプションは輸出規制の対象とな ります。 このコンポーネントを注文するには、『SQL Anywhere Studio の 紹介』>「別途ライセンスが入手可能なコンポーネント」を参照 してください。

セキュリティの詳細については、『Mobile Link 管理ガイド』> 「Mobile Link トランスポート・レイヤ・セキュリティ」を参照し てください。

 [ポート] Mobile Link 同期サーバは特定のポートを介して 通信します。デフォルトの HTTPS ポート番号は、443 で す。デフォルト以外の値を選択する場合、指定したポート で受信を行うように Mobile Link 同期サーバを設定してく ださい。

[追加のネットワーク・パラメータ] このフィールドにはオプション のネットワーク・パラメータを指定します。指定できる値は、接続ス トリームのタイプによって異なります。

次の表は、指定できるパラメータのリストです。特に明記されていな いかぎり、これらのパラメータはすべての接続ストリーム (TCP/IP、 HTTP、HTTPS) でサポートされます。

パラメータ	説明
buffer_size=number	HTTP と HTTPS のみ。内容が固定長であるメッ セージの本文の最大サイズ(バイト)。オプショ ンを変更すると、送信内容に割り付けられるメ モリ容量が増減します。デフォルトは 65535 で す。ただし、Ultra Light と Pocket PC の場合、デ フォルトは 1024 です。
client_port=nnnnn client_port=nnnnn- mmmmm	通信に使用するクライアント・ポートの範囲。 値を1つだけ指定すると、範囲の上限値は初期 値より100大きくなり、ポート数の合計は101 になります。 このオプションは、ファイアウォール内のクラ イアントがファイアウォール外の Mobile Link 同 期サーバと通信する場合に役立ちます。

パラメータ	説明
persistent={ 0 1 }	HTTP と HTTPS のみ。1 (TRUE) に指定すると、 クライアントは同期ですべての HTTPS 要求に同 じ TCP/IP 接続を使用しようとします。0 (FALSE) に設定すると、中間エージェントとの 互換性が高くなります。デフォルトは0です。 ただし、Palm デバイスのデフォルトは1です。 <i>注意</i> : Palm デバイス以外では、Mobile Link に直 接接続する場合だけ persistent を1に設定してく ださい。プロキシまたはリダイレクタなどの中 間エージェントを通じて接続する場合は、持続 的な接続を使用すると問題が生じることがあり ます。
proxy_host =proxy_hostn ame	HTTP と HTTPS のみ。プロキシ・サーバのホス ト名。
proxy_port = proxy_portnumber	HTTP と HTTPS のみ。プロキシ・サーバのポー ト番号。デフォルト値は 80 です。
url_suffix=suffix	HTTP と HTTPS のみ。各 HTTP 要求の 1 行目の URL に追加するサフィックス。プロキシ・サー バまたは Mobile Link リダイレクタを介して同期 を行う場合、サフィックスは Mobile Link 同期 サーバを検索するために必要となります。デ フォルト値は、MobiLink です。
version= versionnumber	HTTP と HTTPS のみ。使用する HTTP のバー ジョンを指定する文字列。1.0 または 1.1 を選択 できます。デフォルト値は 1.1 です。

これらのネットワーク・パラメータの詳細については、『Mobile Link クライアント』>「Ultra Light 同期クライアントのネットワーク・プ ロトコルのオプション」を参照してください。

参照

◆ 『Mobile Link 管理ガイド』> 「Mobile Link モニタの起動」

[ウォッチの編集]ダイアログ

このダイアログには、次の項目があります。

[**名前**] ウォッチの名前。事前に定義されたウォッチの名前 ([アク ティブ]、[完了]、[失敗]) は変更できません。

[条件] モニタが追跡する同期を識別するためのプロパティ、比較演 算子、値を指定します。条件はいくつでも指定できます。プロパ ティ、演算子、値を選択した後で、[追加]をクリックしてウォッチ に条件を追加します。

[条件]リストに表示される値は編集できません。ウォッチ条件を変 更するには、[条件]リストから条件を選択し、[削除]をクリックし ます。次に、必要な設定を指定した新しい条件を追加します。

 [プロパティ] モニタで追跡するプロパティをドロップダウン・ リストから選択します。

Mobile Link モニタで使用できるプロパティの完全なリストについては、『Mobile Link 管理ガイド』>「Mobile Link の統計のプロパティ」を参照してください。

- [**演算子**] 比較演算子を選択します。使用可能な演算子のリス トは、選択するプロパティによって異なります。
- **[値]** プロパティと比較される値を入力します。

[同期表示] これらのオプションでは、[チャート]ウィンドウ枠と [概要]ウィンドウ枠でウォッチを識別するためのパターンと色を指定 します。

- [チャート・パターン] [チャート] ウィンドウ枠のウォッチの パターンを選択します。
- [概要の色] [概要]ウィンドウ枠のウォッチの色を選択します。
 - ◆ 『Mobile Link 管理ガイド』> 「統計のカスタマイズ」

参照

[移動]ダイアログ

このダイアログには、次の項目があります。

[開始の日付と時刻] [移動]ダイアログでは、指定した日付と時刻 をモニタの[チャート]ウィンドウ枠に表示するようにできます。表 示する開始日と時刻を入力します。この設定を変更する場合は、年、 月、日付を指定します。

[チャートの範囲] [チャート]ウィンドウ枠に表示する期間を指定 します。ドロップダウン・リストからいずれかのオプションを選択し て、チャート範囲をミリ秒、秒、分、時間、または日の単位で表示で きます。チャート範囲によって、データの細分性が決定されます。時 間の長さが短いほど、より詳細に表示されます。

参照

◆ 『Mobile Link 管理ガイド』>「[チャート]ウィンドウ枠」

[新規ウォッチ]ダイアログ

このダイアログには、次の項目があります。

[名前] ウォッチの名前を入力します。

[条件] モニタが追跡する同期を識別するためのプロパティ、比較演 算子、値を指定します。条件はいくつでも指定できます。プロパ ティ、演算子、値を選択した後で、[追加]をクリックして新規 ウォッチに条件を追加します。

[条件]リストに表示される値は編集できません。ウォッチ条件を変 更するには、[条件]リストから条件を選択し、[削除]をクリックし ます。次に、必要な設定を指定した新しい条件を追加します。

• **プロパティ** モニタで追跡するプロパティを選択します。

使用できるプロパティの完全なリストについては、『Mobile Link 管理ガイド』>「Mobile Link の統計のプロパティ」を参照してく ださい。

- [**演算子**] 比較演算子を選択します。使用可能な演算子のリストは、選択するプロパティによって異なります。
- [値] 指定のプロパティの値を入力します。

[同期表示] これらのオプションで、[チャート]ウィンドウ枠と [概要]ウィンドウ枠でウォッチを識別するためのパターンと色を選択 します。

- [チャート・パターン] [チャート] ウィンドウ枠のウォッチの パターンを選択します。
- [概要の色] [概要]ウィンドウ枠のウォッチの色を選択します。

◆ 『Mobile Link 管理ガイド』> 「統計のカスタマイズ」

参照

[データベースへのエクスポート]ダイアログ

[データベースへのエクスポート]ダイアログでは、Mobile Link がサ ポートする任意の統合データベース、Excel スプレッドシートのいず れかに、Mobile Link モニタのデータを保存できます。モニタのデー タをエクスポートするときは、Mobile Link 同期サーバへの接続を切 断する必要があります。

注意

は失敗します。

カラムのいくつかは予約語のため、データ・ソースは引用符付き識別 子が有効になっている必要があります。Mobile Link モニタは、 Adaptive Server Anywhere、Adaptive Server Enterprise、Microsoft SQL Server の各データベースに対する引用符付き識別子を、自動的に有効 にします。引用符付き識別子が有効になっていないと、エクスポート

引用符付きの識別子の詳細については、『ASA SQL ユーザーズ・ガイ ド』>「文字列と引用符」と『ASA データベース管理ガイド』> 「QUOTED_IDENTIFIER オプション [互換性]」を参照してください。

[データベースへのエクスポート]ダイアログには、次の項目があり ます。

[マスタ・テーブル] モニタ・データの格納用として作成されるマス タ・テーブルの名前を入力します。テーブル名は 128 文字以下でなけ ればなりません。そのテーブルが存在しない場合は、モニタによって 作成されます。Excel に出力する場合、テーブル名は作成されるワー クシートの名前を表します。

このテーブルには、ローが同期別に格納されます。各ローには、モニ タの[詳細テーブル]ウィンドウ枠に表示可能なすべての情報と、エ クスポートの実行時刻が格納された export_time カラムが含まれます。 そのプライマリ・キーは、export_time カラムと sync カラムで構成さ れます。このテーブルのデフォルト名は mlm by sync です。

[詳細テーブル] モニタ・データの格納用として作成される詳細テー ブルの名前を入力します。テーブル名は 128 文字以下でなければなり ません。このテーブルのデフォルト名は mlm_by_table です。その テーブルが存在しない場合は、モニタによって作成されます。Excel に出力する場合、テーブル名は作成されるワークシートの名前を表します。

このテーブルには、ローが同期別テーブル別に格納されます。各ロー には、モニタの[同期]プロパティ・シートに表示されるアップロー ド統計、ダウンロード統計、同期統計に対するカラムのほか、エクス ポートの実行時刻が格納された export_time カラムが含まれます。詳 細テーブルには、マスタ・テーブルの export_time カラムと sync カラ ムに対する外部キーが含まれます。詳細テーブルのプライマリ・キー は、カラム export time、sync、table name で構成されます。

[既存データの上書き] 既存テーブルのデータを上書きする場合に、 このオプションを選択します。データを上書きしない場合は、新しい データが既存のデータに追加されます。

参照

- ◆ 『Mobile Link 管理ガイド』> 「モニタのデータの保存」
- ◆「「同期」プロパティ・シート」288ページ

[オプション]ダイアログ

[オプション]ダイアログには、[一般]、[テーブル]、[チャート・レイアウト]、[チャートの色]、[概要]の5つのタブがあります。

モニタのデフォルト設定をリストアするには、ファイル mlMonitorSettings を削除します。このファイルは、ユーザ・プロファ イル・ディレクトリにあります。

[オプション]ダイアログ:[一般]タブ

[オプション]ダイアログの[一般]タブには、次の項目があります。

[開始時に接続するためのプロンプトを表示] このオプションでは、 Mobile Link モニタの起動時に [Mobile Link サーバへの接続] ダイアロ グを表示するかどうかを指定します。このオプションはデフォルトで 選択されています。このため、コマンド・ライン・オプションを指定 せずにモニタを起動すると、[Mobile Link サーバへの接続] ダイアロ グが表示されます。コマンド・ライン・オプションを指定せずにモニ タを起動したときに [Mobile Link サーバへの接続] ダイアログが表示 されないようにするには、このオプションの横にあるチェックボック スをオフにします。

[最大同期数] 現在のセッションで保持される同期の最大数です。デ フォルトの最大同期数は100000です。[古い同期を新しい同 期で置換]オプションを選択すると、制限に達した場合に最も古い同 期を新しい同期に置き換えることができます。

[古い同期を新しい同期で置換] このオプションは、モニタが現在の セッションの最大同期カウントに達した場合にセッションの最も古い 同期と最も新しい同期のどちらを新しい同期で置換するかを制御しま す。このオプションはデフォルトで選択され、セッションの最も古い 同期が新しい同期で置換されます。

[Mobile Link サーバに接続したときに自動的に保存する] モニタが Mobile Link 同期サーバに接続するときにモニタのセッションを自動 的に保存するには、このオプションを選択します。このオプションの 設定が有効になるのは、次回、Mobile Link モニタが同期サーバに接続 したときです。現在の接続に対する設定は変更されません。モニタ・ セッションのデータはデフォルトで、バイナリ・ファイル (.mlm) とし て保存されます。このオプションを選択すると、[出力ファイル] フィールドと [次の間隔で保存]フィールドが有効になります。この オプションが特定の接続に対して選択されている場合、モニタは、 Mobile Link 同期サーバへの接続時にセッション情報の保存を開始し、 切断時に情報の保存を停止します。モニタが Mobile Link 同期サーバ に接続するたびに、出力ファイルに含まれるデータが新しいデータで 上書きされます。

 [出力ファイル] バイナリ・ファイル (拡張子.mlm)の名前を入 力します。このファイルには、現在のセッションが自動的に保 存されます。[参照]ボタンをクリックしてファイルの場所を探 すこともできます。

Microsoft Excel などの別のツールでデータを表示する場合は、 [ファイル]-[名前を付けて保存]を選択して、カンマ区切り ファイル (.csv) にデータを保存します。

ファイル名に拡張子を付ける場合は、.*mlm* または.*csv* としてく ださい。Mobile Link がサポートしているファイル形式は、この 2 種類だけです。

• [次の間隔で保存] 上記で指定したファイルにデータを保存す る頻度を指定します。デフォルトでは 120 秒ごとに出力ファイ ルが保存されます。

注意 モニタのデフォルト設定をリストアするには、ファイル mlMonitorSettings を削除します。このファイルはユーザ・プロファイ ル・ディレクトリにあります。

[オプション]ダイアログ:[テーブル]タブ

このタブでは、[詳細テーブル]ウィンドウ枠に表示されるカラムを 設定できます。このタブの設定は、Mobile Link モニタの複数のセッ ションにまたがって保持されます。

[オプション]ダイアログの[テーブル]タブには、次の項目がありま す。 [非表示のカラム] [詳細テーブル]ウィンドウ枠に表示可能なカラ ムのうち、現在表示されていないものがすべてリストされます。[詳 細テーブル]ウィンドウ枠に特定のカラム(複数可)を表示するには、 [非表示のカラム]リストから目的のカラムを選択し、右矢印をクリッ クします。選択したカラムが[可視カラム]リストに表示されます。

[可視カラム] [詳細テーブル]ウィンドウ枠に現在表示されている すべてのカラムがリストされます。特定のカラムが[詳細テーブル] ウィンドウ枠に表示されないようにするには、[可視カラム]リスト でそのカラムを選択して左矢印をクリックし、削除します。[可視カ ラム]リストに追加されるカラムは、リストの末尾に追加されます。

[可視カラム]リスト内でのカラムの順番によって、[詳細テーブル] ウィンドウ枠内でのカラムの表示順が決まります。特定のカラムをリ スト内の上方へ移動するには、そのカラムを選択してから上矢印をク リックします。特定のカラムをリスト内の下方へ移動するには、その カラムを選択してから下矢印をクリックします。

ヒント

[詳細テーブル]ウィンドウ枠で特定のカラム見出しをドラッグする ことでも、カラムの順番を変更できます。

[リセット] [リセット]をクリックすると、[詳細テーブル]ウィン ドウ枠に表示されるカラムのリストが、デフォルトの設定に戻りま す。

参照

◆ 『Mobile Link 管理ガイド』>「「詳細テーブル」ウィンドウ枠」

|オプション|ダイアログ:|チャート・レイアウト|タブ

このタブでは、[チャート]ウィンドウ枠の外観と動作を設定します。

[オプション]ダイアログの[チャート・レイアウト]タブには、次の 項目があります。 [同期バーの最小の高さ] 同期バーの表示高さの最小値を指定しま す。[同期バー間の高さのギャップ]オプションとともに、このオプ ションは[チャート]ウィンドウ枠の垂直スクロール・バーのしきい 値を設定します。

[チャート]ウィンドウ枠の同期バーの高さのデフォルトの最小値は、 5ピクセルです。

[同期バー間の高さのギャップ] [チャート]ウィンドウ枠の同期 バー間に表示される相対的な縦の間隔を指定します。

[チャート]ウィンドウ枠の同期バー間の間隔のデフォルトのサイズ は 150% です。

[横方向のチャート目盛りの表示] 同期時間を示すチャート・ルーラ を表示する場合は、このオプションを選択します。このオプションは デフォルトで選択されています。

[縦方向のチャート目盛りの表示] データをワーカ・スレッドまたは 同期ユーザでグループ化して示すチャート・ルーラを表示する場合 は、このオプションを選択します。このオプションはデフォルトで選 択されています。[ビュー]メニューで、ワーカ・スレッドまたは同 期ユーザのどちらでデータをグループ化するかを選択できます。

[接続時は、自動的にチャートをスクロール] Mobile Link 同期サー バへの接続時にチャートを自動的にスクロールする場合は、このオプ ションを選択します。このオプションはデフォルトで選択されていま す。

[チャート]ウィンドウ枠に完全な日付と時刻を表示するには、カー ソルをルーラの上に置きます。

注意 モニタのデフォルト設定をリストアするには、ファイル mlMonitorSettings を削除します。このファイルはユーザ・プロファイ ル・ディレクトリにあります。

[オプション]ダイアログ:[チャートの色]タブ

このタブでは、[チャート]ウィンドウ枠で使用する色を指定します。

[チャート]ウィンドウ枠のデフォルトの色スキームでは、アップ ロードに緑、ダウンロードに赤、開始フェーズと終了フェーズに青を 使用します。暗い影は、フェーズ内の以前の部分を示します。

[オプション]ダイアログの[チャートの色]タブには、次の項目があ ります。

[アップロードの検証] デフォルトでは、アップロード検証フェーズ は[金]です。

[**アップロードのプリロード**] デフォルトでは、アップロードのプリ ロード・フェーズは[濃い緑]です。

[同期の開始] デフォルトでは、同期開始フェーズは[オーシャン・ ブルー]です。

[アップロード] デフォルトでは、アップロード・フェーズは[ライム・グリーン]です。

[**ダウンロードの準備**] デフォルトでは、ダウンロードの準備フェーズは[濃い赤]です。

[ダウンロード] デフォルトでは、ダウンロード・フェーズは[コー ラル]です。

[同期の終了] デフォルトでは、同期終了フェーズは[明るい紫青] です。

[選択された同期アウトライン] デフォルトでは、選択した同期のア ウトラインは[黒]です。

[同期アウトライン] デフォルトでは、同期のアウトラインは[グ レー]です。

[チャートのバックグラウンド] デフォルトでは、[チャート]ウィ ンドウ枠の背景は[白]です。

注意 モニタのデフォルト設定をリストアするには、ファイル mlMonitorSettingsを削除します。このファイルはユーザ・プロファイ ル・ディレクトリにあります。

[オプション]ダイアログ:[概要]タブ

[オプション]ダイアログの[概要]タブには、次の項目があります。

[概要のウィンドウをメイン・ウィンドウにアタッチしたま

まにする] [概要]ウィンドウ枠を[チャート]ウィンドウ枠から切 り離す場合は、このチェックボックスをオフにします。

[同期バー間の高さのギャップ] [概要]ウィンドウ枠の同期バー間 に表示される縦の間隔の相対サイズを指定します。デフォルトのサイ ズは 25% です。

[組み込みウォッチの色] ドロップダウン・ボックスを使用して、事前に定義されたウォッチのコンポーネントの識別に使用する色を選択 します。

- [アクティブな同期] アクティブな同期を識別するための色を 選択します。デフォルトでは、アクティブな同期は[明るいグ レー]です。アクティブな同期の色は、[ウォッチの編集]ダイ アログでも設定できます。
- [完了した同期] 完了した同期を識別するための色を選択します。デフォルトでは、完了した同期は[明るいグレー]です。完了した同期の色は、[ウォッチの編集]ダイアログでも設定できます。
- [失敗した同期] 失敗した同期を識別するための色を選択します。デフォルトでは、失敗した同期は[赤]です。失敗した同期の色は、[ウォッチの編集]ダイアログでも設定できます。

[**チャート領域のアウトライン**] [チャート]ウィンドウ枠に表示す る同期の選択に使用するアウトラインの色を選択します。デフォルト では、チャートのアウトラインは[黒]です。

[概要のバックグラウンド] [概要]ウィンドウ枠の背景色を選択し ます。デフォルトでは、背景は[白]です。

注意 モニタのデフォルト設定をリストアするには、ファイル mlMonitorSettingsを削除します。このファイルはユーザ・プロファイ ル・ディレクトリにあります。

[セッション] プロパティ・シート

[セッション]プロパティ・シートには[一般]タブだけがあります。

[セッション]プロパティ・シート:[一般]タブ

[セッション]プロパティ・シートの[一般]タブには、次の項目があ ります。

[名前] セッションの保存先ファイルの名前。セッションをファイル に保存するときに名前を付けます(この操作は、[オプション]ダイ アログの[一般]タブで行います)。セッションがファイルに保存さ れていない場合は、セッションの名前が表示されません。

「ワーカの数] Mobile Link ワーカ・スレッドの数。

[同期の数] セッションの同期の合計数。

[置換された同期] 最大同期数が原因で置き換えられた同期の数。最 大同期数は、[オプション]ダイアログの[一般]タブで変更できま す。

[モニタ・セッションの開始時刻] セッションが開始した日付と時刻。.csv ファイルを開いた場合、これは最初の同期の開始時刻です。

[モニタ・セッションの終了時刻] セッションが終了した日付と時刻。.csv ファイルを開いた場合、これは最後の同期の終了時刻です。

[モニタ・セッションの期間] セッションの合計長。.csv ファイルを 開いた場合、これは最初の同期の開始から最後の同期までの時間で す。

[同期] プロパティ・シート

[同期]プロパティ・シートには、[一般]、[アップロード]、[ダウンロード]、[同期]の4つのタブがあります。

[同期] プロパティ・シート:[一般]タブ

[同期]プロパティ・シートの[一般]タブには、次の項目がありま す。

[全体的な同期統計情報] これらの統計は、選択した同期に関する一 般情報を提供します。

- [同期] Mobile Link モニタがセッション内の各同期に対して割 り当てるユニークな数値。
- [ワーカ・スレッド] 同期に使用する Mobile Link ワーカ・ス レッド。形式は n. m で、n はストリーム番号、m はスレッド番 号です。
- **[ユーザ]** Mobile Link クライアントの名前。
- [**バージョン**] 同期バージョンの名前。
- [起動時刻] 同期開始の日付/時刻 (ISO-8601 拡張フォーマット)。フォーマットは、YYYY-MM-DD hh:mm:ss.sss、または YYYY-MM-DD hh:mm:ss, sss のいずれかです。どちらになるかは、ロケール設定によって決まります。

この時刻は、クライアントが同期を要求した時刻よりも後になる可能性があります。

- [終了時刻] 同期終了の日付/時刻 (ISO-8601 拡張フォーマット)。フォーマットは、YYYY-MM-DD hh:mm:ss.sss、または YYYY-MM-DD hh:mm:ss, sss のいずれかです。どちらになるかは、ロケール設定によって決まります。
- [**アクティブ**] 同期が進行中の場合は yes、進行中でない場合は no です。

• [**完了**] 同期が正常に完了した場合は yes、正常に完了しなかった場合は no です。

[同期フェーズ統計情報] これらの統計は、同期の各フェーズに関す る情報を提供します。

- [アップロードの検証] 同期プロトコルを検証し、同期クライ アントを認証するために必要な時間。
- [アップロードのプリロード] クライアントから Mobile Link 同 期サーバにアップロード・データを転送するために必要な時間。
- [同期の開始] begin_synchronization イベントに必要な時間。
- [アップロード] アップロードしたデータを統合データベース に適用するために必要な時間。
- [ダウンロードの準備] prepare_for_download イベントに必要な 時間。
- [ダウンロード] 統合データベースからデータをフェッチし、 リモート・データベースにダウンロードするために必要な時間。
- [同期の終了] end synchronization イベントに必要な時間。
 - ◆ 『Mobile Link 管理ガイド』>「Mobile Link の統計のプロパ ティ」

[同期] プロパティ・シート: [アップロード] タブ

参照

[同期]プロパティ・シートの[アップロード]タブには、次の項目が あります。

[統計情報の対象] 同期されたすべてのテーブルまたは個々のテーブ ルに関するアップロード統計の表示を選択できます。.csv ファイルを 開いている場合は、個々のテーブルの統計を表示できません。

[警告の数] アップロードに対して発生した警告の総数。

[**エラーの数**] アップロードに対して発生したエラーの総数。

[**挿入された行**] 同期クライアントからアップロードされたロー挿入 の数。

[**削除された行**] 同期クライアントからアップロードされたロー削除 の数。

[**更新された行**] 同期クライアントからアップロードされたロー更新 の数。

[競合した挿入] 競合が検出されたアップロード済み挿入の数。

[競合した削除] 競合が検出されたアップロード済み削除の数。

[競合した更新] 競合が検出されたアップロード済み更新の数。

[無視された挿入] 無視されたアップロード済み挿入の数。

[無視された削除] 無視されたアップロード済み削除の数。

[無視された更新] 無視されたアップロード済み更新の数。

[合計バイト数] 同期クライアントからアップロードされた総バイト 数。

[**デッドロック**] アップロード中に検出された統合データベース内の デッドロック数。

[合計ロ一数] 同期クライアントからアップロードされたローの総 数。

参照

◆ 『Mobile Link 管理ガイド』> 「Mobile Link の統計のプロパ ティ」

[同期]プロパティ・シート:[ダウンロード]タブ

[同期]プロパティ・シートの[ダウンロード]タブには、次の項目が あります。

[統計情報の対象] 同期されたすべてのテーブルまたは個々のテーブ ルに関するダウンロード統計の表示を選択できます。.csv ファイルを 開いている場合は、個々のテーブルの統計を表示できません。 **|警告の数|** ダウンロード中に発生した警告の数。

[エラーの数] ダウンロード中に発生したエラーの数。

[フェッチされたロー] Mobile Link 同期サーバによって (download_cursor スクリプトを使用して) 統合データベースからフェッ チされたローの数。

[**削除対象のロー**] Mobile Link 同期サーバによって (download_delete_cursor スクリプトを使用して)統合データベースから フェッチされたロー削除の数。

[フィルタされたロー] クライアントがアップロードしたローと一致 するため、Mobile Link クライアントにダウンロードされなかった フェッチ済みローの数。

[合計バイト数] 同期クライアントにダウンロードされたバイト数。

[合計ロー数] 同期クライアントにダウンロードされたローの総数。

参照

◆ 『Mobile Link 管理ガイド』>「Mobile Link の統計のプロパ ティ」

[同期]プロパティ・シート:[同期]タブ

[同期]プロパティ・シートの[同期]タブには、次の項目があります。

[統計情報の対象] 同期されたすべてのテーブルまたは個々のテーブ ルに関する同期統計の表示を選択できます。.csvファイルを開いてい る場合は、個々のテーブルの統計を表示できません。

[警告の数] 同期に対して発生した警告の総数。

[**エラーの数**] 同期に対して発生したエラーの総数。

[デッドロック] 同期に対して発生したデッドロックの総数。

[**テーブルの数**] 同期に関係したクライアント・テーブルの数。

[接続リトライ] Mobile Link 同期サーバが統合データベースへの接 続をリトライした回数。 参照

◆ 『Mobile Link 管理ガイド』> 「Mobile Link の統計のプロパ ティ」

[ウォッチ・マネージャ]ダイアログ

ウォッチ・マネージャでは、警告を受信した同期や長時間を要する同 期など、指定した基準を満たす同期を視覚的に区別できます。

このダイアログには、次の項目があります。

[利用できるウォッチ] このウィンドウ枠には、使用可能なすべての ウォッチがリストされます。[アクティブ]、[完了]、[失敗]の3つ の事前に定義されたウォッチがあります。新規ウォッチを作成する と、このウォッチ・リストに追加されます。

- [新規] [新規ウォッチ]ダイアログを開き、新規ウォッチを作 成できます。
- [編集] [ウォッチの編集]ダイアログを開き、ウォッチ条件の 追加または削除、選択したウォッチの同期画面の設定ができま す。[利用できるウォッチ]リストにある任意のウォッチを編集 できます。事前に定義されたウォッチ([アクティブ]、[完了]、 [失敗])の場合は、チャート・パターンと全体色だけを変更でき ます。
- [**削除**] 選択したウォッチを[利用できるウォッチ]ウィンドウ 枠から削除します。

[現在のウォッチ] アクティブなウォッチを優先順位に基づいてリストします。これらのウォッチを編集して、表示方法を変更できます。 また、[現在のウォッチ]ウィンドウ枠から削除すると、これらの ウォッチを非アクティブにできます。

[現在のウォッチ]ウィンドウ枠でのウォッチの順序は重要です。リ ストの上にあるウォッチから先に処理されます。[上へ移動]ボタン と[下へ移動]ボタンを使用して、[現在のウォッチ]ウィンドウ枠で のウォッチの順序を編成できます。

- [**上へ移動**] [現在のウォッチ]ウィンドウ枠のリストで、選択 したウォッチを1つ上の位置に移動します。
- [下へ移動] [現在のウォッチ]ウィンドウ枠のリストで、選択 したウォッチを1つ下の位置に移動します。

[**追加**] [利用できるウォッチ]ウィンドウ枠で選択したウォッチを [現在のウォッチ]のリストに追加します。

[**削除**] 選択したウォッチを[現在のウォッチ]のリストから削除します。

[**すべて追加**] 使用可能なすべてのウォッチを[現在のウォッチ] ウィンドウ枠に追加します。

[**すべて削除**] [現在のウォッチ]ウィンドウ枠からすべてのウォッ チを削除します。

参照

◆ 『Mobile Link 管理ガイド』> 「統計のカスタマイズ」

第7章 クエリ・エディタのヘルプ

この章の内容 この項では、SQL クエリの構築と編集のツールであるクエリ・エディ タについて説明します。

クエリ・エディタの概要

クエリ・エディタは、Adaptive Server Anywhere の SELECT 文の構築 を支援するツールです。クエリ・エディタで SQL クエリを作成した り、それらの SQL クエリをインポートして編集したりできます。ク エリが完成したら、[OK] をクリックし、クエリを Interactive SQL に エクスポートして処理します。

クエリ・エディタには SQL クエリのコンポーネントを設定するため の一連のタブがありますが、そのほとんどはオプションです。タブは SQL クエリが通常構築される順序で表示されています。

- 「[テーブル]タブ」299ページ クエリでテーブルを指定するには、このタブを使用します。
- 「[ジョイン]タブ」302ページ テーブルのデータを結合するためのジョイン方式を指定するには、このタブを使用します。クエリに複数のテーブルを含める場合は、それらのテーブルのデータを結合するためのジョイン方式を指定してください。[テーブル]タブに追加したテーブルにジョイン方式を指定しない場合、クエリ・エディタから1つの方式が提案されます。テーブルの間に外部キー関係がある場合は、その関係に基づくジョイン条件が生成されます。それ以外の場合は直積が提案されます。クエリをインポートするとき、クエリ・エディタはユーザが指定したジョイン方式をそのまま受け入れます(Adaptive Server Anywhere の場合とは異なり、指定のない JOINが、デフォルトで KEY JOIN になることはありません)。
- 「[カラム]タブ」305ページ 結果セットのカラムを指定するには、このタブを使用します。カラムを指定しないと、すべてのカラムが表示されます。
- 「[INTO] タブ」307 ページ 結果をプロシージャのパラメータとして戻すには、このタブを使用します。
- 「[WHERE] タブ」308 ページ 結果セットのローを制限する条件 を指定するには、このタブを使用します。
- 「[GROUP BY] タブ」309ページ 結果セットのローをグループ 化するには、このタブを使用します。

- 「[HAVING] タブ」311 ページ グループの値に基づいて結果セットのローを制限するには、このタブを使用します。
- 「[ORDER BY] タブ」312 ページ ローをソートするには、この タブを使用します。

この他のクエリ・エディタの機能は次のとおりです。

- 「式エディタ」314ページ 検索条件の構築や、計算カラムの定 義には、式エディタを使用します。
- [抽出テーブルまたはサブクエリ]メインのクエリ・エディタとほとんど同じこのダイアログを使用して、抽出テーブルまたはサブクエリを作成します。

クエリ・エディタの各コンポーネントには、コンテキスト別のオンラ イン・ヘルプがあります。これには、タブの使用方法の説明や、関連 する概念や使用方法を示す Adaptive Server Anywhere マニュアルへの リンクが含まれています。

クエリ・エディタを開くには、Interactive SQLを開いて、データベー 使用 スに接続し、[ツール] - [クエリの編集]を選択します。SQL コード を Interactive SQL で選択していた場合は、選択したコードがクエリ・ エディタに自動的にインポートされます。

クエリ・エディタでクエリの作成が終わったら、[OK] をクリックして、クエリを Interactive SQL の [SQL 文] ウィンドウ枠に書き込みます。

クエリ・エディタでクエリを作成するときは SQL コードを使用する 必要はありません。ただし、次の方法ではクエリ・エディタで SQL を使用できます。

- Interactive SQL の [SQL 文] ウィンドウ枠でクエリを作成して、 コードを強調表示してからクエリ・エディタを開くと、クエリ・ エディタにクエリをインポートできます。
- クエリ・エディタを使用しているときはいつでも、ダイアログの下部の [SQL] をクリックすると、構築しているクエリの SQL コードを確認できます。ここでコードを直接編集でき、クエリ・ エディタのユーザ・インタフェースのフィールドが自動的に更 新されます。この SQL は、ユーザが通常作成する SQL とは少し

異なります。この SQL は、すべてのテーブルには所有者名のプレフィクスが付き、すべての文字列は引用符で囲まれるなど、完全なフォーマットで指定されています。このような特別なフォーマットは通常は必要ありませんが、これによってあらゆる状況において SQL の動作が保証されます。

 クエリ・エディタは、Adaptive Server Anywhere の SELECT 文を構築 します。ビューを作成するようには設計されていませんが、 Interactive SQL でビューを作成してからクエリ・エディタで参照する ことはできます。また、SELECT 文以外の、UPDATE 文などの SQL 文の作成にも対応していません。作成されるのは単独の SELECT 文で あり、複数の SELECT 文の UNION 演算や INTERSECT 演算は構築さ れません。さらに、クエリ・エディタでは Transact-SQL 構文はサポー トされません。

その他の情報 データ選択の概要については、『SQL Anywhere Studio の紹介』> 「データベース・テーブルからのデータの選択」を参照してください。

- 参照マニュアルについては、『ASA SQL リファレンス・マニュア ル』>「SELECT 文」を参照してください。
- データ選択の詳細については、『ASA SQL ユーザーズ・ガイド』
 >「クエリ:テーブルからのデータの選択」を参照してください。

[テーブル]タブ

[テーブル]タブを使用して、クエリに含めるテーブル、抽出テーブル、ビューを選択します。抽出テーブルは[抽出テーブルの作成]ボタンを使用して作成できます。クエリ・エディタではビューは作成できませんが、Interactive SQL で作成したビューをクエリ・エディタで参照することはできます。

データが必要なテーブルおよびジョインに使用するテーブルを指定します。クエリに複数のテーブルまたはビューを含める場合は、[ジョ イン]タブを使用してテーブルをジョインする方法を指定してください。

警告:

クエリに複数のテーブルを含めるときに、大規模なテーブルの場合 は、テーブルを追加するたびに[ジョイン]タブでジョイン方式を定 義してください。クエリ・エディタはデフォルトで直積を使用するこ とがあり、ユーザの操作に対応してクエリを処理するため、ジョイン 方式を変更しないと、処理速度が非常に遅くなる可能性があります。

ダイアログの項目 [テーブル・パターン] [テーブルの一致] ボックスでテーブルを制 限するには、テーブルの名前または名前の一部を入力します。パター ンにはワイルドカード文字を使用できます。たとえば、SYS という文 字で始まるテーブルのみを取得するには、SYS% と入力します。

テーブル・パターンでのワイルドカード文字の使用方法の詳細については、『ASA SQL リファレンス・マニュアル』> 「LIKE 条件」を参照 してください。

[所有者のパターン] [テーブルの一致] ボックスでテーブルを制限 するには、所有者の名前または名前の一部を入力します。パターンに はワイルドカード文字を使用できます。たとえば、SYS という文字で 始まるテーブルのみを取得するには、「SYS%」と入力します。

所有者パターンでのワイルドカード文字の使用方法の詳細について は、『ASA SQL リファレンス・マニュアル』>「LIKE 条件」を参照し てください。 [テーブルのタイプ] [テーブルの一致]ボックスでテーブルを制限 するには、ドロップダウン・リストでテーブルのタイプを選択しま す。たとえば、システム・テーブルのみを表示するように選択できま す。

[**テーブルの一致**] 上の条件と一致するデータベース内のすべての テーブルがリストされます。デフォルトはすべてのテーブルです。

[選択したテーブル] テーブルをクエリに追加するには、[テーブル の一致]ボックスでテーブルを選択して右矢印をクリックします。選 択したテーブルが[選択したテーブル]ボックスに表示されます。ク エリに対して抽出テーブルを作成するには、中央のアイコン(2つの 矢印の間)をクリックします。複数のテーブルを追加する場合は、[ジョイン]タブを使用してジョイン方式を指定してください。[選択 したテーブル]ボックスでテーブルを選択してクエリに追加すると き、デフォルトではテーブルは直積でジョインされます。

[結果] ダイアログの下部の[結果]をクリックすると、クエリの結果が表示されます。クエリにエラーがあった場合には、エラー・メッセージが表示されます。

[SQL] ダイアログの下部の [SQL] をクリックすると、クエリの SQL コードが表示されます。この SQL は、ユーザが通常作成する SQL と は少し異なります。この SQL は、すべてのテーブルには所有者名の プレフィクスが付き、すべての文字列は引用符で囲まれるなど、完全 なフォーマットで指定されています。このような特別なフォーマット は通常は必要ありませんが、これによってあらゆる状況において SQL の動作が保証されます。

ビューと抽出テーブ テーブルと同じくビューや抽出テーブルをクエリに追加できます。 **ルについて**

ビューは、データベースにオブジェクトとして格納されている SELECT 文です。ビューはクエリ・エディタでは作成できませんが、 Interactive SQL で作成して、テーブルとしてクエリ・エディタに入力 することはできます。

抽出テーブルはクエリ・エディタで作成できます。抽出テーブルを使用すると、FROM 句にクエリをネストできます。抽出テーブルを使用 すると、ビューを作成せずに、グループのグループ化を実行したり、 グループとのジョインを組み立てたりできます。

- **その他の情報** ・ クエリ・エディタの詳細については、「クエリ・エディタの概要」296ページを参照してください。
 - テーブル指定の概要については、『ASA SQL ユーザーズ・ガイド』>「FROM 句: テーブルの指定」を参照してください。
 - テーブル指定の参照情報については、『ASA SQL リファレンス・ マニュアル』>「FROM 句」を参照してください。
 - 抽出テーブルの参照情報については、『ASA SQL リファレンス・ マニュアル』>「FROM 句」を参照してください。
 - サブクエリの概要については、『SQL Anywhere Studio の紹介』> 「サブクエリを使用したデータの選択」を参照してください。
 - サブクエリの詳細については、『ASA SQL リファレンス・マニュ アル』>「探索条件内のサブクエリ」を参照してください。

[ジョイン]タブ

クエリに複数のテーブルがある場合は、このタブを使用します。

クエリに複数のテーブルを含める場合は、何らかの方法でテーブルを ジョインしてください。このタブを使用するとジョインを定義できま す。

デフォルトのジョイ [テーブル]タブでテーブルを指定すると、クエリ・エディタは、デフォルトのジョイン条件を生成しようとします。これには2つの理由があります。1つめの理由は、ユーザがクエリを作成したとおりにクエリ・エディタがクエリを処理するためです。デフォルトのジョインがなければ、テーブルから直積が作成され、処理速度が遅くなることがあります。2つめの理由は、クエリ・エディタからユーザの操作に応じたジョイン方式が提案されるためです。

クエリ・エディタの[テーブル]タブでテーブルを追加すると、クエ リ・エディタは、テーブル間に外部キー関係が作成されたかどうかを 調べます。外部キーが1つある場合は、これを使用して ON 条件が生 成されます。複数の外部キー関係がある場合は、最初に検出されたも のが使用されます。外部キーがない場合は、ON 句は生成されずに、 テーブルが直積になります。

[クエリ・エディタ]ダイアログの下部にある [SQL] タブをクリック すると、いつでもクエリを確認できます。[SQL] タブでジョイン方式 を直接編集したり、[ジョイン]タブのユーザ・インタフェースを使 用してジョイン方式を変更したりできます。

キー・ジョイン、ON 条件、直積の詳細については、『ASA SQL ユー ザーズ・ガイド』>「ジョイン:複数テーブルからのデータ検索」を 参照してください。

ヒント:

[ジョイン]タブのすべてのフィールドはサイズを変更できます。クエ リ・エディタも周囲をドラッグしてサイズを拡大できます。場合に よっては、テーブル名を読み取るためにフィールドやダイアログのサ イズを変更する必要があります。 **ダイアログの項目** [左側テーブル式] ドロップダウン・リストからテーブルを選択しま す。使用できるのは、[テーブル]タブで入力したテーブルだけです。 外部ジョインでは、テーブルを左右のどちらに配置するかが重要で す。

> [ジョイン・タイプ] ドロップダウン・リストからジョイン・タイプ を選択します。

ジョイン・タイプの詳細については、『ASA SQL ユーザーズ・ガイ ド』>「ジョインしたテーブル」を参照してください。

[右側テーブル式] ドロップダウン・リストからテーブルを選択しま す。使用できるのは、[テーブル]タブで入力したテーブルだけです。 外部ジョインでは、テーブルを左右のどちらに配置するかが重要で す。

[条件] 必要であればダブルクリックして ON 条件を作成します。ク エリ・エディタによってキーワード ON が挿入されます。キー・ジョ インとナチュラル・ジョインでは、ON 条件が Adaptive Server Anywhere によって生成されます。

ON 条件の詳細については、『ASA SQL ユーザーズ・ガイド』>「明示 的なジョイン条件 (ON 句)」を参照してください。

[追加]/[削除] 行の追加または削除に使用します。行を選択する には、その行の左側にあるグレーの円をクリックします。

空白の行は削除してください。この処理はクエリのテーブルには影響 ありません。テーブルの追加または削除には、[テーブル]タブを使 用してください。

[結果] このウィンドウ枠には、クエリの結果、またはクエリにエ ラーがあった場合にはエラー・メッセージが表示されます。

[SQL] ダイアログの下部の [SQL] をクリックすると、クエリの SQL コードが表示されます。

[ジョイン]タブの 使用 検知 復数のテーブルをクエリに追加するとき、クエリ・エディタはデフォ ルトのジョイン方式を作成しようとします。テーブル間に外部キー関 係がない場合は、デフォルトは直積になります。ほとんどの場合、直 積は望ましいとはいえません。 ジョイン方式を追加または編集するには、テーブル、ジョイン・タイ プ、もう1つのテーブルをすべてドロップダウン・リストから選択し ます。または、[SQL] タブをクリックしてコードを直接編集します。

トラブルシューティ ング ジョインが正しくないことを示すエラー・メッセージを受け取った ら、ウィンドウの下部の [SQL] タブをクリックして SQL コードを調 べます。特に、[ジョイン] タブで行の追加や削除を行った場合は、 空の引用符や余分なカンマがコードに残っていることがあります。た とえば、次のクエリではエラー・メッセージが生成されます。この場 合には、sales_order の後ろにある中身が空の引用符を削除する必要が あります。

> FROM ("DBA"."customer" JOIN "DBA"."sales_order")"" JOIN "DBA"."sales_order_items"

- **その他の情報** ・ クエリ・エディタの詳細については、「クエリ・エディタの概 要」296ページを参照してください。
 - ジョインの概要については、『SQL Anywhere Studio の紹介』> 「複数のテーブルからのデータの選択」を参照してください。
 - ジョインの詳細については、『ASA SQL ユーザーズ・ガイド』> 「ジョイン:複数テーブルからのデータ検索」を参照してください。

[カラム]タブ

このタブを使用して、結果セットに表示されるカラムを制限します。 カラム、カラム・エイリアス、計算カラム、またはサブクエリを指定 できます。サブクエリは式エディタを使用して指定します。

ダイアログの項目 [使用可能なカラム] このボックスには、クエリに対して選択したす べてのテーブルと各テーブルのすべてのカラムがリストされます。

> [選択したカラム] デフォルトではすべてのカラムがクエリに対して 選択されます。カラムを削除するには、[選択したカラム]ボックス でそのカラムを選択して左矢印をクリックします。カラムを結果セッ トに表示するには、カラムまたは一連のカラムを[使用可能な カラム]ボックスで選択して右矢印をクリックします。[選択したカ ラム]ボックスでカラムをスクロール表示するには、上矢印と下矢印 を使用します。

> 同じカラムを2回以上選択すると、エイリアスが適用されます。エイ リアス名は編集できます。

[**DISTINCT**] 結果セットのローが重複しないようにする場合は、 [**DISTINCT**]を選択します。

注意:多くの場合、DISTINCT ([個別])を指定すると、文の実行に時間が非常に長くかかります。したがって、DISTINCT ([個別])を使用するのは、必要な場合だけにしてください。また、DISTINCTではNULLが重複として処理されるため、DISTINCTを選択すると、結果に返されるNULLは1つのみになります。

[**ローの制限**] 結果セットの最初のローのみ、または指定した数の ローのみを取り出すときに選択します。選択内容に関係なく、クエ リ・エディタに表示されるローの最大数は 25 です。

[結果] ダイアログの下部の[結果]をクリックすると、クエリの結果が表示されます。クエリにエラーがあった場合には、エラー・メッ セージが表示されます。

[SQL] ダイアログの下部の [SQL] をクリックすると、クエリの SQL コードが表示されます。

- サブクエリの追加
 クエリ・エディタでサブクエリを追加するには、カラムのリストの間にある[計算カラムの追加]ボタンをクリックします。式エディタが表示されます。式エディタで、[NOT]ボタンの横にある
 [サブクエリ]ボタンをクリックします。
- **その他の情報** ・ クエリ・エディタの詳細については、「クエリ・エディタの概要」296ページを参照してください。
 - カラムの概要については、『SQL Anywhere Studio の紹介』>
 「レッスン5:カラムのプロパティ設計」を参照してください。
 - カラム選択の詳細については、『ASA SQL ユーザーズ・ガイド』
 >「SELECT リスト:カラムの指定」を参照してください。
 - サブクエリ作成の詳細については、「式エディタ」314ページを参照してください。
[INTO] タブ

プロシージャのパラメータとして結果を戻す場合は、このタブを使用 します。

ダイアログの項目 [INTO 変数のインクルード] [INTO 変数]列で変数名を編集する場合は、このオプションを選択します。

[**選択したカラム**] このボックスには、クエリに対して選択したすべてのカラムがリストされます。

[INTO 変数] 各 select リスト項目の値を受け取るための変数のリストです。このフィールドに変数名を直接入力できます。

[結果] ダイアログの下部の[結果]をクリックすると、クエリの結果が表示されます。クエリにエラーがあった場合には、エラー・メッ セージが表示されます。

[SQL] ダイアログの下部の [SQL] をクリックすると、クエリの SQL コードが表示されます。

- **INTO について INTO** が使用されるのはプロシージャとトリガのみです。これは結果 セットの宛先を指定します。カラムごとに1つの変数を指定してくだ さい。
- **その他の情報** ・ クエリ・エディタの詳細については、「クエリ・エディタの概 要」296ページを参照してください。
 - INTOの詳細については、『ASA SQL ユーザーズ・ガイド』>「結果をプロシージャのパラメータとして返す」を参照してください。

[WHERE] タブ

このタブを使用して、結果セットのローを制限します。

ダイアログの項目 [基準] [基準] ウィンドウ枠を使用して WHERE 条件を入力します。 このウィンドウ枠に直接入力するか、式エディタを使用します。既存 の式を編集する場合は、その式を強調表示してから式エディタを開い てください。強調表示をしないと、式エディタで作成する式は既存の 式の後に追加されます。

> [式エディタ] [基準] ウィンドウ枠の右下にある [計算式] アイコン をクリックし、式エディタを開いて WHERE 条件を構築します。

> [結果] ダイアログの下部の[結果]をクリックすると、クエリの結 果が表示されます。クエリにエラーがあった場合には、エラー・メッ セージが表示されます。

> [SQL] ダイアログの下部の [SQL] をクリックすると、クエリの SQL コードが表示されます。

その他の情報

- クエリ・エディタの詳細については、「クエリ・エディタの概要」296ページを参照してください。
- 検索条件の概要については、『SQL Anywhere Studio の紹介』> 「テーブルからのローの選択」を参照してください。
- 検索条件の詳細については、『ASA SQL リファレンス・マニュア ル』>「探索条件」を参照してください。

[GROUP BY] タブ

結果セットのローをグループ化する場合は、このタブを使用します。

ダイアログの項目 [使用可能なカラム] このボックスには、クエリに対して選択したす べてのテーブルと各テーブルのすべてのカラムがリストされます。

> [GROUP BY カラム] カラムをグループ化するには、[使用可能なカ ラム]ボックスで1つのカラムまたは一連のカラムを選択して、右矢 印をクリックします。カラムを削除するには、[GROUP BY カラム] ボックスでそのカラムを選択して左矢印をクリックします。[GROUP BY カラム]ボックスでカラムをスクロール表示するには、上矢印と 下矢印を使用します。

[**式エディタ**] 右矢印と左矢印の間の[計算式]アイコンをクリック し、式エディタを開いて GROUP BY 条件を構築します。

[CUBE] ボタン CUBE 演算クエリを作成するには、このボタンをク リックします。CUBE を使用すると、GROUP BY 句を含むクエリの結 果セットに小計ローが追加され、指定された変数の可能なすべての組 み合わせがクエリに提供されます。

[ROLLUP] ボタン ROLLUP 演算クエリを作成するには、このボタン をクリックします。ROLLUP は、GROUP BY 句を持つクエリの結果 セットに小計ローを追加します。

[セット]ボタン 連結された GROUPING SETS 演算クエリを作成す るには、このボタンをクリックします。ROLLUP、CUBE と同じく、 この演算を使用すると、GROUP BY 句を含むクエリの結果セットに、 小計ローが追加されます。

[GROUPING SETS] チェックボックス GROUPING SETS をクエリに 追加するには、このチェックボックスをオンにします。

[結果] ダイアログの下部の[結果]タブをクリックすると、クエリの結果が表示されます。クエリにエラーがあった場合には、エラー・メッセージが表示されます。

[SQL] ダイアログの下部の [SQL] タブをクリックすると、クエリの SQL コードが表示されます。 GROUP BY 条件に カラム、エイリアス名、または関数によってグループ分けできます。 クエリの結果には、指定したカラム、エイリアス、または関数の中の 個別の値の各セットに対し1つのローが入ります。NULLを含むロー はすべて1つのセットとして処理されます。テーブル・リストのロー の各グループに対する結果にはローが1つずつ含まれるため、結果 ローはグループとして頻繁に参照されます。集合関数をこれらのグ ループに適用して、意味のある結果を取得することができます。

> GROUP BY を使用するときは、[カラム]タブ、[HAVING]タブ、 [ORDER BY] タブでは、[GROUP BY] タブで指定されていない識別子 を参照しないでください。[カラム]タブと [HAVING] タブに集合関 数が含まれる場合は例外です。

その他の情報 ・ クエリ・エディタの詳細については、「クエリ・エディタの概要」296ページを参照してください。

- GROUP BY の概要については、『SQL Anywhere Studio の紹介』> 「グループ分けされたデータに対する集合関数の適用」を参照し てください。
- GROUP BY の詳細については、『ASA SQL ユーザーズ・ガイド』
 >「GROUP BY 句:クエリ結果のグループへの編成」を参照してください。
- ROLLUPの詳細については、『ASA SQL ユーザーズ・ガイド』> 「ROLLUPの使用」を参照してください。
- CUBEの詳細については、『ASA SQL ユーザーズ・ガイド』> 「CUBEの使用」を参照してください。
- GROUPING SETS の詳細については、『ASA SQL ユーザーズ・ガ イド』>「GROUPING SETS の使用」を参照してください。

[HAVING] タブ

グループの値に基づいて結果セットのローを制限するには、このタブ を使用します。

ダイアログの項目 [基準] [基準] ウィンドウ枠を使用して HAVING 条件を入力します。 このウィンドウ枠に直接入力するか、式エディタを使用します。既存 の式を編集する場合は、その式を強調表示してから式エディタを開い てください。強調表示しないと、式エディタで作成する式が既存の式 の後に追加されます。

> [式エディタ][基準]ウィンドウ枠の右下にある[計算式]アイコン をクリックし、式エディタを開いて HAVING 条件を構築します。

> [結果] ダイアログの下部の[結果]をクリックすると、クエリの結 果が表示されます。クエリにエラーがあった場合には、エラー・メッ セージが表示されます。

> [SQL] ダイアログの下部の [SQL] をクリックすると、クエリの SQL コードが表示されます。

HAVING 条件につ HAVING 条件を使用できるのは、文に GROUP BY 句があるか、[カラ いて ム]タブで選択されたカラムが集合関数のみである場合です。 HAVING 句の中で参照されるカラム名は、GROUP BY 句の中に入れ るか、または HAVING 句の中の集合関数に対するパラメータとして 使用する必要があります。

- **その他の情報** ・ クエリ・エディタの詳細については、「クエリ・エディタの概 要」296ページを参照してください。
 - HAVING の概要については、『SQL Anywhere Studio の紹介』> 「グループ分けされたデータに対する集合関数の適用」を参照し てください。
 - HAVINGの詳細については、『ASA SQL ユーザーズ・ガイド』> 「HAVING 句:データ・グループの選択」を参照してください。

[ORDER BY] タブ

このタブを使用して、結果セットのローをソートします。

ダイアログの項目 [使用可能なカラム] このボックスには、クエリに対して選択したす べてのテーブルと各テーブルのすべてのカラムがリストされます。[カラム]タブで定義した計算カラムもすべてリストされます。

> [ORDER BY カラム] このボックスには、ソート基準として選択し たカラムが保存されます。あるカラムをソートするには、[使用可能 なカラム]ボックスで1つのカラムまたは一連のカラムを選択して、 右矢印をクリックします。カラムを削除するには、[ORDER BY カラ ム]ボックスでそのカラムを選択して左矢印をクリックします。カラ ムの評価順序を指定するには上矢印と下矢印を使用します。カラムの エイリアスによってもソートできます。

> [**式エディタ**] 右矢印と左矢印の間の[計算式]アイコンをクリック し、式エディタを開いて ORDER BY 条件を構築します。

> [結果] ダイアログの下部の[結果]をクリックすると、クエリの結果が表示されます。クエリにエラーがあった場合には、エラー・メッセージが表示されます。

[SQL] ダイアログの下部の [SQL] をクリックすると、クエリの SQL コードが表示されます。

 ORDER BY 条件に
 ORDER BY リストの各項目には、昇順の場合(デフォルト)は上矢

 ついて
 印、降順の場合は下矢印のラベルを付けることができます。昇順から

 降順に並べ替えるには、矢印をダブルクリックします。または、矢印

 を選択して F2 キーを押します。

特定の順序でローが返されるようにする唯一の方法は ORDER BY を 使用することです。ORDER BY 句がない場合は、Adaptive Server Anywhere が最も効率のよい順序でローを返します。つまり、ローに 最後にアクセスした日付やその他の要因によって、結果セットでの表 示順序が異なることがあります。

その他の情報 ・ クエリ・エディタの詳細については、「クエリ・エディタの概要」296ページを参照してください。

- ORDER BY の概要については、『SQL Anywhere Studio の紹介』> 「クエリ結果の順序付け」を参照してください。
- ORDER BY の詳細については、『ASA SQL ユーザーズ・ガイド』
 >「ORDER BY 句: クエリ結果のソート」と『ASA SQL ユー ザーズ・ガイド』>「クエリ結果のソート」を参照してください。

式エディタ

式エディタによって、検索条件、計算カラム、サブクエリを作成でき ます。既存の式を編集する場合は、その式を強調表示してから式エ ディタを開いてください。強調表示をしないと、[OK]をクリックし たときに式エディタで作成した式は既存の式の後ろに追加されます。

ダイアログの項目 [式] ここで式を構築します。

[カラム] このボックスには、クエリのカラムがリストされます。式 にカラムを挿入するには、ここでダブルクリックするか、[式]ボッ クスにカラムを直接入力します。

[**関数**] 関数は、データベースの情報を返すために使用される定義済みの式です。関数を式に挿入するには、ドロップダウン・リストから 式を選択します。

関数の詳細については、『ASA SQL リファレンス・マニュアル』> 「SQL 関数」を参照してください。

[**ストアド・プロシージャ**] このボックスには、使用できるストア ド・プロシージャがリストされます。

[数字キーパッド] 数字キーパッドは、ダイアログの左下の部分にあ ります。クリックした数字が式に挿入されます。キーボードから数字 を入力することもできます。

[比較演算子] = などの算術記号は、ダイアログの下部中央に表示されます。記号をクリックすると式に挿入されます。ここに表示されるのは一部の一般的な演算子だけですが、その他の演算子はキーボードから入力できます。

比較演算子の詳細については、『ASA SQL リファレンス・マニュア ル』>「比較演算子」を参照してください。

[**論理演算子**] AND などの論理演算子は、ダイアログの右下の部分 に表示されます。演算子をクリックすると式に挿入されます。これら は一般的に使用される論理演算子のサブセットです。キーボードから 入力すればあらゆる論理演算子を使用できます。

論理演算子の詳細については、『ASA SQL リファレンス・マニュア ル』> 「論理演算子」を参照してください。 [サブクエリの作成]ボタン サブクエリのボタンは、論理演算子と 同じ場所にあります。このボタンをクリックすると、サブクエリを作 成できるダイアログが表示されます。

- サブクエリの追加
 サブクエリを作成するには、式エディタを開き、[サブクエリ]ボタン([NOT] ボタンの横)をクリックします。これで[サブクエリ]ダイアログが開きます。このダイアログは、タイトル・バーの[サブクエリ]の表示をのぞいて、メインのクエリ・エディタと同じです。サブクエリの作成と同じです。
- **サブクエリの編集** クエリ・エディタでサブクエリを編集するには、[基準]ボックスの サブクエリを強調表示して、[式エディタ]ボタンをクリックします。 式エディタでコードを強調表示して、[サブクエリ]ボタンをクリッ クします。
- **その他の情報** ・ クエリ・エディタの詳細については、「クエリ・エディタの概要」296ページを参照してください。
 - 検索条件の概要については、『SQL Anywhere Studio の紹介』> 「テーブルからのローの選択」を参照してください。
 - 検索条件の詳細については、『ASA SQL リファレンス・マニュア ル』>「探索条件」を参照してください。
 - サブクエリの概要については、『SQL Anywhere Studio の紹介』> 「サブクエリを使用したデータの選択」を参照してください。
 - サブクエリの詳細については、『ASA SQL リファレンス・マニュ アル』>「探索条件内のサブクエリ」を参照してください。

[結果] ウィンドウ枠

このウィンドウ枠には、結果セットまたはエラー・メッセージが表示 されます。デフォルトでは、結果セットの最初の25のローだけが表 示されます。結果セット全体を表示するには、[OK] をクリックして クエリを Interactive SQL にエクスポートします。

- **その他の情報** ・ クエリ・エディタの詳細については、「クエリ・エディタの概 要」296ページを参照してください。
 - エラー・メッセージの完全なリストについては、『ASA エラー・ メッセージ』>「ASA エラー・メッセージ」を参照してください。

[SQL] ウィンドウ枠

このウィンドウ枠には、開発中の SQL コードが表示されます。ここ でコードを直接編集でき、クエリ・エディタのユーザ・インタフェー スのフィールドが自動的に更新されます。

この SQL は、ユーザが通常作成する SQL とは少し異なります。この SQL は、すべてのテーブルには所有者名のプレフィクスが付き、すべ ての文字列は引用符で囲まれるなど、完全なフォーマットで指定され ています。このような特別なフォーマットは通常は必要ありません が、これによってあらゆる状況において SQL の動作が保証されます。

その他の情報 ・ クエリ・エディタの詳細については、「クエリ・エディタの概要」296ページを参照してください。

第8章

Adaptive Server Anywhere コンソール・ユー ティリティのヘルプ

この章の内容

この章は、Adaptive Server Anywhere コンソール (dbconsole)・ユーティ リティのヘルプです。

Adaptive Server Anywhere コンソール・ユーティリ ティの使用法

Adaptive Server Anywhere コンソール・ユーティリティは、データベー ス・サーバの接続の管理機能と監視機能を提供します。Adaptive Server Anywhere コンソール・ユーティリティは、すべてのオペレー ティング・システムで使用できます。

Adaptive Server Anywhere コンソール・ユーティリティの詳細について は、『ASA データベース管理ガイド』>「Adaptive Server Anywhere コ ンソール・ユーティリティ」を参照してください。

[オプション]ダイアログ

Adaptive Server Anywhere コンソール・ユーティリティを設定するには [オプション]ダイアログを使用します。

Adaptive Server Anywhere コンソール・ユーティリティの [オプション]ダイアログには、[コンソール]、[接続ビューワ]、[メッ セージ・ビューワ]、[プロパティ・ビューワ]、[更新のチェック]の 5 つのタブがあります。

[コンソール]のオプション

Adaptive Server Anywhere コンソール・ユーティリティでは、次のオプ ションを設定できます。

[新しい接続を禁止] このオプションを選択すると、他のユーザが データベースに接続できなくなります。このオプションは、保守作業 を行う場合に便利です。

[要求のロギングを可能にする] このオプションを選択すると、サー バが処理する要求がログ・ファイルに記録されます。このオプション は、主としてトラブルシューティングに使用されます。

詳細については、『ASA データベース管理ガイド』>「-zr サーバ・オ プション」を参照してください。

[最終文を記憶] データベース・サーバに、サーバ上の各データベース接続に関して最後に作成された SQL 文を取得するように指示します。ストアド・プロシージャ・コールの場合、プロシージャ内の文ではなく、最も外側のプロシージャ・コールのみが表示されます。

詳細については、『ASA データベース管理ガイド』>「-zl サーバ・オ プション」を参照してください。

[アイドル・クライアントのシャットダウン時間] このオプションを 選択すると、隣接するフィールドに指定された時間内に要求を送信し なかった接続が切断されます。この値のデフォルト値は 120 秒です。

[終了時間] データベース・サーバを停止する時刻を入力できます。 次に示す現在の時刻と同じフォーマットを使用します。 YYYY-MM-DD HH:NN:SS.SS

[現在の時刻] 現在の時刻が表示されます。

[メッセージをファイルヘログ] このオプションを選択すると、以下 のフィールドで指定したファイルにサーバ・メッセージが記録されま す。[参照]をクリックすると、サーバのメッセージを記録するファ イルを検索できます。

◆ 『ASA SQL リファレンス・マニュアル』>「sa_server_option シ ステム・プロシージャ」

◆ 『ASA データベース管理ガイド』>「サーバ・レベルのプロパ ティ」

[接続ビューワ]

参照

接続ビューワについて、以下のオプションを設定できます。

[表示する接続プロパティの選択] すべての接続プロパティの名前と 説明が表示されます。プロパティ名の横にあるチェックボックスをオ ンにして、表示する接続プロパティを選択します。

このリストの接続プロパティの詳細については、『ASA データベース 管理ガイド』>「接続レベルのプロパティ」を参照してください。

[レートの再表示] 選択したプロパティの値を再表示する頻度(秒) を入力します。デフォルトでは、4秒ごとに値が再表示されます。

[メッセージ・ビューワ]

以下のオプションを使用すると、Adaptive Server Anywhere コンソー ル・ユーティリティの[メッセージ]ウィンドウ枠や Sybase Central の [設計の詳細]ウィンドウ枠など、表示できるすべての場所でメッセー ジ・ビューワが設定されます。

メッセージ・ビューワについて、以下のオプションを設定できます。

[メッセージのみ] メッセージ・ビューワ内にメッセージだけを表示 させたい場合に選択します。 [時間およびメッセージ] メッセージ・ビューワ内に各メッセージの 日付と時刻を表示させたい場合に、このオプションを選択します。

[**レートの再表示**] 選択したプロパティの値を再表示する頻度(秒) を入力します。デフォルトでは、4秒ごとに値が再表示されます。

|プロパティ・ビューワ|

プロパティ・ビューワについて、以下のオプションを設定できます。

データベース・プロ データベース・プロパティについて、以下のオプションを設定できま **パティ** す。

> [表示するデータベース・プロパティの選択] すべてのデータベー ス・プロパティの名前と説明が表示されます。プロパティ名の横にあ るチェックボックスをオンにして、表示するデータベース・プロパ ティを選択します。

> データベース プロパティの詳細については、『ASA データベース管理 ガイド』>「データベース・レベルのプロパティ」を参照してください。

[レートの再表示] 選択したプロパティの値を再表示する頻度(秒) を入力します。デフォルトでは、4秒ごとに値が再表示されます。

サーバのプロパティ サーバのプロパティについて、以下のオプションを設定できます。

[表示するサーバ・プロパティの選択] すべてのデータベース・サー バ・プロパティの名前と説明が表示されます。プロパティ名の横にあ るチェックボックスをオンにして、表示するデータベース・サーバ・ プロパティを選択します。

サーバ プロパティの詳細については、『ASA データベース管理ガイ ド』>「サーバ・レベルのプロパティ」を参照してください。

[レートの再表示] 選択したプロパティの値を再表示する頻度(秒) を入力します。デフォルトでは、4秒ごとに値が再表示されます。

[更新のチェック](このオプションは日本語版では提供されてい ません)

Adaptive Server Anywhere コンソール・ユーティリティでソフトウェア の更新をチェックするかどうか、またその頻度を設定できます。更新 チェックは、アプリケーション起動時に実行されます。

任意のタイミングで更新をチェックできます。それには、 [スタート]メニューで[プログラム] – [SQL Anywhere 9] – [更新の チェック]を選択するか、Sybase Central、Interactive SQL、コンソー ル・ユーティリティの[ヘルプ]メニューを使用します。

Adaptive Server Anywhere コンソール・ユーティリティの [オプション]ダイアログの[更新のチェック]タブには、次の項目があ ります。

[更新をチェックする頻度を指定してください。] 次のいずれかのオ プションを選択して、Adaptive Server Anywhere コンソール・ユーティ リティで更新をチェックする頻度を指定します。デフォルトでは、[チェックしない]が選択されています。

- [アプリケーションの起動時]このオプションを選択すると、 Adaptive Server Anywhere コンソール・ユーティリティを起動 するたびに更新がチェックされます。
- [毎日]このオプションを選択すると、その日の最初に Adaptive Server Anywhere コンソール・ユーティリティを起動 したときに更新がチェックされます。
- [週1回]このオプションを選択すると、その週の最初に Adaptive Server Anywhere コンソール・ユーティリティを起動 したときに、SQL Anywhere Studio で更新がチェックされま す。
- [月1回]このオプションを選択すると、その月の最初に Adaptive Server Anywhere コンソール・ユーティリティを起動 したときに更新がチェックされます。
- [チェックしない] このオプションを選択すると、Adaptive Server Anywhere コンソール・ユーティリティで更新がチェッ クされません。これはデフォルト設定です。

[**チェックする項目を指定してください。**] 次のオプションを自由に 組み合わせて、Adaptive Server Anywhere コンソール・ユーティリティ でチェックする更新の種類を指定します。デフォルトでは、次のオプ ションはすべて選択されています。

 [Express Bug Fix] このオプションを選択すると、Adaptive Server Anywhere コンソール・ユーティリティで Express Bug Fix がチェックされます。

Express Bug Fix は、1つ以上のバグ・フィックスが含まれる、 ソフトウェアのサブセットです。これらのバグ・フィックス は、更新のリリース・ノートにリストされます。バグ・ フィックス更新を適用できるのは、同じバージョン番号を持 つインストール済みのソフトウェアに対してだけです。この ソフトウェアについては、ある程度のテストが行われている とはいえ、完全なテストが行われたわけではありません。自 分自身でソフトウェアの妥当性を確かめるまでは、アプリ ケーションとともにこれらのファイルを配布しないでくださ い。

 [メンテナンス・リリース] このオプションを選択すると、 Adaptive Server Anywhere コンソール・ユーティリティでソフ トウェアのメンテナンス・リリースがチェックされます。

メンテナンス・リリースは、同じメジャー・バージョン番号 を持つ旧バージョンのインストール済みソフトウェアをアッ プグレードするための完全なソフトウェア・セットです (バージョン番号のフォーマットは、メジャー.マイナー. パッチ.ビルドです)。バグ・フィックスとその他の変更に ついては、アップグレードのリリース・ノートにリストされ ます。

 [その他の情報]このオプションを選択すると、その他の情報 (新製品のリリースや予定されているイベントなど)がチェッ クされます。

^{第9章} SQL 言語のリンク

この章の内容 この章では、Adaptive Server Anywhere ユーザが使用できる SQL 文の リストを示します。また、Adaptive Server Anywhere でサポートしてい る SQL 言語要素、データ型、関数へのリンクも示します。

SQL 構文のヘルプ

次のリストは、Adaptive Server Anywhere ユーザが使用できる SQL 言 語要素、SQL 文、データ型、関数について説明している Adaptive Server Anywhere マニュアルへのリンクです。

『ASA SOL リファレンス・マニュアル』>「文字データ型」

『ASA SQL リファレンス・マニュアル』>「数値データ型」

『ASA SQL リファレンス・マニュアル』>「通貨データ型」

『ASA SQL リファレンス・マニュアル』> 「BIT データ型」

『ASA SQL リファレンス・マニュアル』>「日付と時刻データ型」

『ASA SQL リファレンス・マニュアル』>「バイナリ・データ型」

『ASA SQL リファレンス・マニュアル』>「ドメイン」

『ASA SQL リファレンス・マニュアル』>「データ型変換」

『ASA SQL リファレンス・マニュアル』> 「西暦 2000 年問題への対応」

『ASA SOL リファレンス・マニュアル』> 「関数のタイプ」

『ASA SQL リファレンス・マニュアル』>「アルファベット順の関数 リスト」

『ASA SQL リファレンス・マニュアル』>「キーワード」

『ASA SQL リファレンス・マニュアル』> 「識別子」

『ASA SQL リファレンス・マニュアル』>「文字列」

『ASA SQL リファレンス・マニュアル』>「演算子」

『ASA SQL リファレンス・マニュアル』>「式」

『ASA SQL リファレンス・マニュアル』>「探索条件」

『ASA SQL リファレンス・マニュアル』> 「特別値」 『ASA SOL リファレンス・マニュアル』>「変数」 『ASA SQL リファレンス・マニュアル』>「コメント」 『ASA SQL リファレンス・マニュアル』> 「NULL 値」 『ASA SOL リファレンス・マニュアル』>「SOL 文リファレンスの使 い方日 『ASA SOL リファレンス・マニュアル』>「ALLOCATE DESCRIPTOR 文 [ESQL]」 『ASA SOL リファレンス・マニュアル』> 「ALTER DATABASE 文」 『ASA SOL リファレンス・マニュアル』> 「ALTER DBSPACE 文」 『ASA SQL リファレンス・マニュアル』> 「ALTER DOMAIN 文」 『ASA SQL リファレンス・マニュアル』>「ALTER EVENT 文」 『ASA SOL リファレンス・マニュアル』> 「ALTER FUNCTION 文」 『ASA SQL リファレンス・マニュアル』>「ALTER INDEX 文」 『ASA SQL リファレンス・マニュアル』>「ALTER PROCEDURE 文」 『ASA SQL リファレンス・マニュアル』> 「ALTER PUBLICATION 文」 『ASA SQL リファレンス・マニュアル』> 「ALTER REMOTE MESSAGE TYPE 文 [SQL Remote]」 『ASA SQL リファレンス・マニュアル』>「ALTER SERVER 文」 『ASA SQL リファレンス・マニュアル』> 「ALTER SERVICE 文」 『ASA SQL リファレンス・マニュアル』>「ALTER SYNCHRONIZATION SUBSCRIPTION 文 [Mobile Link]」 SYNCHRONIZATION USER 文 [Mobile Link]」

『ASA SQL リファレンス・マニュアル』> 「ALTER TABLE 文」 『ASA SOL リファレンス・マニュアル』> 「ALTER TRIGGER 文」 『ASA SQL リファレンス・マニュアル』> 「ALTER VIEW 文」 『ASA SOL リファレンス・マニュアル』>「ALTER WRITEFILE 文(旧 式)」 『ASA SQL リファレンス・マニュアル』> 「BACKUP 文」 『ASA SOL リファレンス・マニュアル』> 「BEGIN 文」 『ASA SOL リファレンス・マニュアル』> 「BEGIN TRANSACTION 文日 『ASA SOL リファレンス・マニュアル』>「CALL 文」 『ASA SOL リファレンス・マニュアル』>「CASE 文」 『ASA SOL リファレンス・マニュアル』> 「CHECKPOINT 文」 『ASA SOL リファレンス・マニュアル』> 「CLEAR 文 [Interactive SOL]| 『ASA SOL リファレンス・マニュアル』>「CLOSE 文 [ESOL] [SP]」 『ASA SOL リファレンス・マニュアル』> 「COMMENT 文」 『ASA SQL リファレンス・マニュアル』>「COMMIT 文」 『ASA SOL リファレンス・マニュアル』>「CONFIGURE 文 [Interactive SOL]| 『ASA SQL リファレンス・マニュアル』> 「CONNECT 文 [ESQL] [Interactive SQL]] 『ASA SOL リファレンス・マニュアル』>「CREATE COMPRESSED DATABASE 文(旧式) 『ASA SOL リファレンス・マニュアル』> 「CREATE DATABASE 文」 『ASA SOL リファレンス・マニュアル』> 「CREATE DBSPACE 文」

『ASA SQL リファレンス・マニュアル』>「CREATE DECRYPTED FILE 文 | 『ASA SOL リファレンス・マニュアル』>「CREATE DOMAIN 文」 『ASA SQL リファレンス・マニュアル』>「CREATE ENCRYPTED FILE 文 | 『ASA SOL リファレンス・マニュアル』>「CREATE EVENT 文」 『ASA SQL リファレンス・マニュアル』>「CREATE EXISTING TABLE 文| 『ASA SOL リファレンス・マニュアル』> 「CREATE EXTERNLOGIN 文日 『ASA SQL リファレンス・マニュアル』> 「CREATE FUNCTION 文」 『ASA SQL リファレンス・マニュアル』>「CREATE INDEX 文」 『ASA SOL リファレンス・マニュアル』> 「CREATE MESSAGE 文 [T-SQL]] 『ASA SQL リファレンス・マニュアル』> 「CREATE PROCEDURE 文」 『ASA SOL リファレンス・マニュアル』> 「CREATE PROCEDURE 文 [T-SQL]] 『ASA SQL リファレンス・マニュアル』> 「CREATE PUBLICATION 文」 『ASA SQL リファレンス・マニュアル』> 「CREATE REMOTE MESSAGE TYPE 文 [SQL Remote]」 『ASA SQL リファレンス・マニュアル』>「CREATE SCHEMA 文」 『ASA SQL リファレンス・マニュアル』> 「CREATE SERVER 文」 『ASA SQL リファレンス・マニュアル』>「CREATE SERVICE 文」 『ASA SOL リファレンス・マニュアル』> 「CREATE STATISTICS 文」

『ASA SQL リファレンス・マニュアル』>「CREATE SUBSCRIPTION 文 [SQL Remote]」 『ASA SOL リファレンス・マニュアル』>「CREATE SYNCHRONIZATION SUBSCRIPTION 文 [Mobile Link]] 『ASA SOL リファレンス・マニュアル』> 「CREATE SYNCHRONIZATION USER 文 [Mobile Link]」 『ASA SOL リファレンス・マニュアル』>「CREATE TABLE 文」 『ASA SOL リファレンス・マニュアル』> 「CREATE TRIGGER 文」 『ASA SOL リファレンス・マニュアル』> 「CREATE TRIGGER 文 [SQL Remote]] 『ASA SOL リファレンス・マニュアル』>「CREATE TRIGGER 文 [T-SQL]] 『ASA SOL リファレンス・マニュアル』> 「CREATE VARIABLE 文」 『ASA SOL リファレンス・マニュアル』>「CREATE VIEW 文」 『ASA SQL リファレンス・マニュアル』>「CREATE WRITEFILE 文(旧式)| 『ASA SOL リファレンス・マニュアル』> 「DEALLOCATE 文」 『ASA SOL リファレンス・マニュアル』> 「DEALLOCATE DESCRIPTOR 文 [ESQL]」 『ASA SQL リファレンス・マニュアル』>「宣言セクション [ESQL]」 『ASA SOL リファレンス・マニュアル』> 「DECLARE 文」 『ASA SQL リファレンス・マニュアル』> 「DECLARE CURSOR 文 [ESQL] [SP] 『ASA SQL リファレンス・マニュアル』>「DECLARE CURSOR 文 [T-SQL]]

『ASA SQL リファレンス・マニュアル』> 「DECLARE LOCAL TEMPORARY TABLE 文」 『ASA SOL リファレンス・マニュアル』> 「DELETE 文」 『ASA SQL リファレンス・マニュアル』> 「DELETE (位置付け)文 [ESQL] [SP] 『ASA SQL リファレンス・マニュアル』> 「DESCRIBE 文 [ESQL]」 『ASA SQL リファレンス・マニュアル』> 「DISCONNECT 文 [ESQL] [Interactive SQL]] 『ASA SOL リファレンス・マニュアル』> 「DROP 文」 『ASA SQL リファレンス・マニュアル』> 「DROP DATABASE 文」 『ASA SQL リファレンス・マニュアル』> 「DROP CONNECTION 文」 『ASA SQL リファレンス・マニュアル』> 「DROP EXTERNLOGIN 文」 『ASA SQL リファレンス・マニュアル』> 「DROP PUBLICATION 文」 『ASA SOL リファレンス・マニュアル』> 「DROP REMOTE MESSAGE TYPE 文 [SQL Remote]」 『ASA SQL リファレンス・マニュアル』> 「DROP SERVER 文」 『ASA SQL リファレンス・マニュアル』> 「DROP SERVICE 文」 『ASA SOL リファレンス・マニュアル』> 「DROP STATEMENT 文 [ESQL]] 『ASA SQL リファレンス・マニュアル』> 「DROP STATISTICS 文」 『ASA SOL リファレンス・マニュアル』> 「DROP SUBSCRIPTION 文 [SQL Remote]]

『ASA SQL リファレンス・マニュアル』> 「DROP SYNCHRONIZATION SUBSCRIPTION 文 [Mobile Link]」

```
『ASA SOL リファレンス・マニュアル』> 「DROP
SYNCHRONIZATION USER 文 [Mobile Link]」
『ASA SOL リファレンス・マニュアル』> 「DROP VARIABLE 文」
『ASA SQL リファレンス・マニュアル』> 「EXCEPT 演算」
『ASA SQL リファレンス・マニュアル』> 「EXECUTE 文 [ESQL]」
『ASA SQL リファレンス・マニュアル』> 「EXECUTE 文 [T-SQL]」
『ASA SOL リファレンス・マニュアル』>「EXECUTE IMMEDIATE 文
[SP]]
『ASA SQL リファレンス・マニュアル』>「EXIT 文 [Interactive SQL]」
『ASA SQL リファレンス・マニュアル』> 「EXPLAIN 文 [ESQL]」
『ASA SQL リファレンス・マニュアル』> 「FETCH 文 [ESQL] [SP]」
『ASA SQL リファレンス・マニュアル』>「FOR 文」
『ASA SOL リファレンス・マニュアル』>「FORWARD TO 文」
『ASA SOL リファレンス・マニュアル』> 「FROM 句」
『ASA SOL リファレンス・マニュアル』>「GET DATA 文 [ESOL]」
『ASA SOL リファレンス・マニュアル』>「GET DESCRIPTOR 文
[ESQL]]
『ASA SOL リファレンス・マニュアル』>「GET OPTION 文 [ESOL]」
『ASA SQL リファレンス・マニュアル』>「GOTO 文 [T-SQL]」
『ASA SOL リファレンス・マニュアル』>「GRANT 文」
『ASA SOL リファレンス・マニュアル』>「GRANT CONSOLIDATE 文
[SQL Remote]]
『ASA SQL リファレンス・マニュアル』>「GRANT PUBLISH 文 [SQL
Remote]]
```

『ASA SQL リファレンス・マニュアル』>「GRANT REMOTE 文 [SQL Remote]」

『ASA SQL リファレンス・マニュアル』>「GRANT REMOTE DBA 文 [SQL Remote]」

『ASA SQL リファレンス・マニュアル』> 「GROUP BY 句」

『ASA SQL リファレンス・マニュアル』> 「HELP 文 [Interactive SQL]」

『ASA SQL リファレンス・マニュアル』>「IF 文」

『ASA SQL リファレンス・マニュアル』> 「IF 文 [T-SQL]」

『ASA SQL リファレンス・マニュアル』> 「INCLUDE 文 [ESQL]」

『ASA SQL リファレンス・マニュアル』>「INPUT 文 [Interactive SQL]」

『ASA SQL リファレンス・マニュアル』> 「INSERT 文」

『ASA SQL リファレンス・マニュアル』> 「INSTALL JAVA 文」

『ASA SQL リファレンス・マニュアル』> 「INTERSECT 演算」

『ASA SQL リファレンス・マニュアル』>「LEAVE 文」

『ASA SQL リファレンス・マニュアル』>「LOAD STATISTICS 文」

『ASA SQL リファレンス・マニュアル』>「LOAD TABLE 文」

『ASA SOL リファレンス・マニュアル』>「LOCK TABLE 文」

『ASA SQL リファレンス・マニュアル』>「LOOP 文」

『ASA SQL リファレンス・マニュアル』> 「MESSAGE 文」

『ASA SQL リファレンス・マニュアル』>「OPEN 文 [ESQL] [SP]」

『ASA SQL リファレンス・マニュアル』> 「OUTPUT 文 [Interactive SQL]」

『ASA SQL リファレンス・マニュアル』> 「PARAMETERS 文 [Interactive SQL]] 『ASA SQL リファレンス・マニュアル』> 「PASSTHROUGH 文 [SQL Remote]| 『ASA SOL リファレンス・マニュアル』> 「PREPARE 文 [ESOL]」 『ASA SOL リファレンス・マニュアル』> 「PREPARE TO COMMIT 文日 『ASA SQL リファレンス・マニュアル』> 「PRINT 文 [T-SQL]」 『ASA SQL リファレンス・マニュアル』> 「PUT 文 [ESQL]」 『ASA SQL リファレンス・マニュアル』> 「RAISERROR 文 [T-SQL]」 『ASA SQL リファレンス・マニュアル』>「READ 文 [Interactive SQL]」 『ASA SQL リファレンス・マニュアル』> 「READTEXT 文 [T-SQL]」 『ASA SOL リファレンス・マニュアル』> 「RELEASE SAVEPOINT 文」 『ASA SOL リファレンス・マニュアル』> 「REMOTE RESET 文 [SOL Remote]| 『ASA SOL リファレンス・マニュアル』> 「REMOVE JAVA 文」 『ASA SOL リファレンス・マニュアル』> 「REORGANIZE TABLE 文」 『ASA SOL リファレンス・マニュアル』> 「RESIGNAL 文」 『ASA SOL リファレンス・マニュアル』> 「RESTORE DATABASE 文」 『ASA SQL リファレンス・マニュアル』> 「RESUME 文」 『ASA SQL リファレンス・マニュアル』> 「RETURN 文」 『ASA SQL リファレンス・マニュアル』> 「REVOKE 文」 『ASA SQL リファレンス・マニュアル』> 「REVOKE CONSOLIDATE 文 [SQL Remote]」

『ASA SQL リファレンス・マニュアル』> 「REVOKE PUBLISH 文 [SQL Remote]] 『ASA SOL リファレンス・マニュアル』> 「REVOKE REMOTE 文 [SOL Remote] 『ASA SOL リファレンス・マニュアル』> 「REVOKE REMOTE DBA 文 [SQL Remote]」 『ASA SOL リファレンス・マニュアル』> 「ROLLBACK 文」 『ASA SOL リファレンス・マニュアル』>「ROLLBACK TO SAVEPOINT 文| 『ASA SOL リファレンス・マニュアル』> 「ROLLBACK TRANSACTION 文| 『ASA SOL リファレンス・マニュアル』> 「ROLLBACK TRIGGER 文」 『ASA SOL リファレンス・マニュアル』> 「SAVE TRANSACTION 文」 『ASA SOL リファレンス・マニュアル』> 「SAVEPOINT 文」 『ASA SOL リファレンス・マニュアル』>「SELECT 文」 『ASA SOL リファレンス・マニュアル』> 「SET 文」 『ASA SQL リファレンス・マニュアル』> 「SET 文 [T-SQL]」 『ASA SQL リファレンス・マニュアル』>「SET CONNECTION 文 [Interactive SQL] [ESQL] 『ASA SOL リファレンス・マニュアル』>「SET DESCRIPTOR 文 [ESQL]] 『ASA SQL リファレンス・マニュアル』> 「SET OPTION 文」 『ASA SOL リファレンス・マニュアル』>「SET OPTION 文 [Interactive SQL] 『ASA SQL リファレンス・マニュアル』>「SET REMOTE OPTION 文 [SQL Remote]]

『ASA SQL リファレンス・マニュアル』>「SETUSER 文」 『ASA SQL リファレンス・マニュアル』>「SIGNAL 文」 『ASA SQL リファレンス・マニュアル』>「START DATABASE 文 [Interactive SQL]」

『ASA SQL リファレンス・マニュアル』> 「SET SQLCA 文 [ESQL]」

『ASA SQL リファレンス・マニュアル』>「START ENGINE 文 [Interactive SQL]」

『ASA SQL リファレンス・マニュアル』>「START JAVA 文」

『ASA SQL リファレンス・マニュアル』>「START LOGGING 文 [Interactive SQL]」

『ASA SQL リファレンス・マニュアル』>「START SUBSCRIPTION 文 [SQL Remote]」

『ASA SQL リファレンス・マニュアル』>「START SYNCHRONIZATION DELETE 文 [Mobile Link]」

『ASA SQL リファレンス・マニュアル』>「STOP DATABASE 文」

『ASA SQL リファレンス・マニュアル』> 「STOP ENGINE 文」

『ASA SQL リファレンス・マニュアル』>「STOP JAVA 文」

『ASA SQL リファレンス・マニュアル』> 「STOP LOGGING 文 [Interactive SQL]」

『ASA SQL リファレンス・マニュアル』> 「STOP SUBSCRIPTION 文 [SQL Remote]」

『ASA SQL リファレンス・マニュアル』>「STOP SYNCHRONIZATION DELETE 文 [Mobile Link]」

『ASA SQL リファレンス・マニュアル』>「SYNCHRONIZE SUBSCRIPTION 文 [SQL Remote]」 『ASA SQL リファレンス・マニュアル』>「SYSTEM 文 [Interactive SQL]」

『ASA SQL リファレンス・マニュアル』> 「TRIGGER EVENT 文」

『ASA SQL リファレンス・マニュアル』>「TRUNCATE TABLE 文」

『ASA SQL リファレンス・マニュアル』> 「UNION 演算」

『ASA SQL リファレンス・マニュアル』>「UNLOAD 文」

『ASA SQL リファレンス・マニュアル』> 「UNLOAD TABLE 文」

『ASA SQL リファレンス・マニュアル』> 「UPDATE 文」

『ASA SQL リファレンス・マニュアル』>「UPDATE (位置付け)文 [ESQL] [SP]」

『ASA SQL リファレンス・マニュアル』>「UPDATE 文 [SQL Remote]」

『ASA SQL リファレンス・マニュアル』> 「VALIDATE CHECKSUM 文」

『ASA SQL リファレンス・マニュアル』> 「VALIDATE INDEX 文」

『ASA SOL リファレンス・マニュアル』> 「VALIDATE TABLE 文」

『ASA SQL リファレンス・マニュアル』> 「WAITFOR 文」

『ASA SQL リファレンス・マニュアル』> 「WHENEVER 文 [ESQL]」

『ASA SQL リファレンス・マニュアル』> 「WHILE 文 [T-SQL]」

『ASA SQL リファレンス・マニュアル』> 「WRITETEXT 文 [T-SQL]」

第10章

Ultra Light Schema Painter のヘルプ

この章の内容 この章では、Ultra Light Schema Painter からアクセス可能なすべてのダ イアログ・ボックスについて説明します。

[Ultra Light Schema Painter オプション] ダイアログ

このダイアログには、Ultra Light Schema Painter を実行するためのオプ ションが用意されています。

[Ultra Light Schema Painter オプション] ダイアログには、次の項目が あります。

[メッセージの表示] 表示させたい警告およびメッセージを選択しま す。

- [開いているスキーマ・ファイルが閉じる前に警告]使用しているスキーマ・ファイルを閉じるときに警告を発する場合は、このオプションを選択します。
- [**配置後の情報を表示**] 配置後のメッセージを表示する場合 は、このオプションを選択します。
- [インデックスされたカラムを編集しようとしたときに警告]
 すでにインデックスされたカラムを編集しようとしたときに
 警告を発する場合は、このオプションを選択します。
- [プライマリ・キーに追加されるカラムでの NULL の使用を変 更する前に警告] プライマリ・キーでの NULL の使用を許可 するカラムを追加するときに警告を発する場合は、このオプ ションを選択します。

[最新ファイルのオプション] 最近アクセスしたスキーマ・ファイル のリストを削除するには、[今すぐクリア]をクリックします。
[新しい Ultra Light スキーマ] ダイアログ

このダイアログには、新しい Ultra Light スキーマ・ファイルを作成す るためのオプションが用意されています。

[新しい Ultra Light スキーマ]ダイアログには、次の項目があります。

[新しい Ultra Light スキーマのファイル名] Ultra Light スキーマの名前を入力するか、[参照]をクリックして既存のスキーマを選択します。

既存のスキーマを参照する場合は、[保存]をクリックしてこれを開きます。

[新しい Ultra Light スキーマに使用する照合順] ドロップダウン・ リストから照合順を選択します。照合順は、文字セットとソート順を 組み合わせたものです。ほとんどのヨーロッパ言語など、ローマ字が ベースになった言語の場合は、デフォルトの照合順の「1252LATIN1・

Code Page 122, Windows Latin 1, Western」を使用できます。

[Ultra Light データベースで大文字と小文字を区別する] Ultra Light データベースで大文字と小文字を区別する場合は、このオプションを 選択します。

[PDB ファイルへのスキーマの保存] ダイアログ

このダイアログには、スキーマを Palm デバイスに配備するためのオ プションが用意されています。

[PDB ファイルへのスキーマの保存]ダイアログには、次の項目があ ります。

[Palm の作成者 ID] Palm の作成者 ID を入力します。

Palmの作成者 ID は、Palm によってユーザに割り当てられます。学習 のためにサンプル・アプリケーションを作成する場合は、Syb3 を作 成者 ID として使用できます。ただし、運用アプリケーションを作成 する場合は、独自の作成者 ID を使用してください。

[PDB のファイル名] Palm データベース・ファイルのファイル名ま たはパスを入力するか、[参照]をクリックしてファイル名とパスを 選択します。

[スキーマの展開]ダイアログ

このダイアログには、展開時にデータベースを修正するためのオプ ションが用意されています。

[スキーマの展開]ダイアログには、次の項目があります。

[このスキーマ内のテーブル] スキーマ内のテーブルをリストしま す。

現在のテーブル名は[新しい名前]カラムにリストされます。元の テーブル名は[元の名前]カラムにあります。テーブル名が複数回変 更されると、[元の名前]カラムには、作成時に元々テーブルに付け られた名前が記録されます。

テーブルの元の名前を編集するには、テーブルをクリックしてからその元の名前をクリックし、リストからテーブルを選択します。

[テーブルのカラム] 選択したテーブル内のすべてのカラムをリスト します。

現在のカラム名は[新しい名前]カラムにリストされます。元のカラ ム名は[元の名前]カラムにあります。カラム名が複数回変更される と、[元の名前]カラムには、作成時に元々カラムに付けられた名前 が記録されます。

カラムの元の名前を編集するには、カラムをクリックしてからその元 の名前をクリックし、リストからカラムを選択します。

[データベース・スキーマ]プロパティ・シート

[データベース・スキーマ]プロパティ・シートには、[一般]と[証 明]の2つのタブがあります。

[データベース・スキーマ]プロパティ・シート:[一般]タブ

[データベース・スキーマ]プロパティ・シートの[一般]タブには、 次の項目があります。

[名前] スキーマの名前。

[**タイプ**] ファイル・タイプ (通常は Ultra Light スキーマ)。

[場所] スキーマ・ファイルのパス。

[**照合順**] ファイルで使用される照合順。照合順は、文字セットと ソート順を組み合わせたものです。

[大文字と小文字を区別] データベースの大文字と小文字を区別する 場合は yes、区別しない場合は no。

[**データベースのプロパティ**] さまざまなデータベースのプロパティ やこれらが設定されている値をリストします。リストからデータベー スのプロパティを選択し、その値を編集します。

[編集] [編集]をクリックして、選択したデータベースのプロパティを編集します。

[**デフォルトに設定**] [デフォルトに設定]をクリックして、すべて のデータベースのプロパティをデフォルト値に設定します。

[データベース・スキーマ]プロパティ・シート:[証明]タブ

[データベース・スキーマ]プロパティ・シートの[証明]タブには、 次の項目があります。

[**信用されたルート証明書を設定**] [設定]をクリックして、Certicom 暗号化証明書を検索します。

- [信用されたルート証明書をクリア] [クリア]をクリックして、ス キーマに関連付けられている暗号化証明書を削除します。
- [信用されたルート証明書を保存/表示] スキーマに関連付けられている証明書を保存および表示します。

[データベース・プロパティ・エディタ]ダイアロ グ

このダイアログでは、データベースのプロパティの値を編集できます。

[データベース・プロパティ・エディタ]ダイアログには、次の項目 があります。

[データベースのオプションの新しい値を入力してください。] 選択 したデータベースのプロパティの新しい値を入力します。ほとんどの データベースのプロパティの値のフォーマットは個々に大きく異なり ます。データベースのプロパティのフォーマットが正しくない場合、 [データベース・スキーマ]プロパティ・シートに変更を適用しようと すると、エラーが発生します。

[新しいテーブル]ダイアログ

このダイアログには、Ultra Light データベースで新しいテーブルを作 成するためのオプションが用意されています。

[新しいテーブル]ダイアログには、次の項目があります。

[名前] テーブルの名前を入力します。

[**カラム**] 現在テーブルに含まれるすべてのカラムをリストします。 カラムを選択するには、テーブル内でその名前をクリックします。

[追加] [追加]をクリックして、テーブルに新しいカラムを追加します。

[編集][編集]をクリックして、選択したカラムを編集します。このボタンは、[カラム]テーブルからカラムが選択されている場合のみ使用できます。インデックスまたはプライマリ・キーに含まれているカラムは、最初にこれらをインデックスまたはプライマリ・キーから削除しないと編集できません。

[削除] [削除]をクリックして、選択したカラムを削除します。このボタンは、[カラム]テーブルからカラムが選択されている場合のみ使用できます。インデックスまたはプライマリ・キーに含まれているカラムは、最初にこれらをインデックスまたはプライマリ・キーから削除しないと削除できません。

[**すべて削除**] [すべて削除]をクリックして、テーブルからすべて のカラムを削除します。

[プライマリ・キー] [プライマリ・キー]をクリックして、テーブ ル内の1つまたは複数のカラムをプライマリ・キーとして指定する か、既存のプライマリ・キーを編集します。

[同期] テーブルの同期オプションを選択します。

- [変更したローのみ](デフォルト)最後の同期以降に変更さ れたローのみを同期します。
- **[すべてのロー**]テーブルのすべてのローを同期します。
- [同期しない] このテーブルは同期されません。

[新しいカラム] プロパティ・シート

[新しいカラム]プロパティ・シートには、[一般]と [インデックス]の2つのタブがあります。

[新しいカラム]プロパティ・シート:[一般]タブ

[新しいカラム]プロパティ・シートの[一般]タブには、次の項目が あります。

[名前] カラムの名前を入力します。

[タイプ] ドロップダウン・リストからデータ・タイプを選択しま す。

- [サイズ/精度]バイナリまたは char 型のカラムのサイズか、 数値型の精度を指定します。
- [**位取り**] 数値カラムの位取りの値を指定します。

[カラムで NULL 値を許可する] このオプションにチェックを付け、 NULL 値を許可します。NULL 値はプライマリ・キーでは許可されま せん。

[**カラムのデフォルト**] カラムのデフォルト値を設定します。

- [デフォルト] リストからカラムのデフォルト値を選択するか、[値を指定してください…]を選択し、固定値を設定します。
- [**値**]カラムの値を指定します。このオプションを使用できるのは、[値を指定してください...]がデフォルト値として選択されている場合のみです。
- [分割サイズ](オプション)分割サイズを指定します。分割 サイズを指定すると、グローバル・オートインクリメントで 使用できる最大値が制限されます。このオプションを使用で きるのは、[グローバル・オートインクリメント]がデフォル ト値として選択されている場合のみです。

[新しいカラム]プロパティ・シート:[インデックス]タブ

[新しいカラム]プロパティ・シートの[インデックス]タブには、次の項目があります。

インデックス 選択したカラムが含まれるインデックスをリストします。

[プライマリ・キーの設定]ダイアログ

このダイアログには、プライマリ・キーを作成および編集するための オプションが用意されています。

[プライマリ・キーの設定]ダイアログには、次の項目があります。

[インデックス情報] インデックスに関する情報を提供します。

- [インデックス名]インデックスの名前を入力します。プライマリ・キーのインデックスの場合、名前はプライマリに設定され、変更できません。
- [ユニーク・インデックス][ユニーク・インデックス]を選 択して、値がユニークであり、NULLではないことを確認し ます。プライマリ・キーのインデックスの場合、このオプ ションにはチェックが付いており、変更できません。
- [ユニーク・キー][ユニーク・キー]を選択して、値がユニークであることを確認します。これらの値は NULL でもかまいません。プライマリ・キーのインデックスの場合、このオプションにはチェックが付いており、変更できません。

[インデックス付けされたカラム] プライマリ・キー・インデックス のカラムを追加または削除できます。

- [テーブル内のカラム] プライマリ・キー・インデックスにないテーブル内のすべてのカラムをリストします。カラムをクリックして選択するか、[Ctrl] キーを押しながら一度に複数のカラムを選択します。
- [昇順]>>[昇順>>]をクリックして、[テーブル内のカラム] リストから選択した1つまたは複数のカラムを昇順でイン デックスに追加します。
- [降順]>>[降順>>]をクリックして、[テーブル内のカラム] リストから選択した1つまたは複数のカラムを降順でイン デックスに追加します。
- << [<<] をクリックして、[インデックス内のカラム]リスト から選択した1つまたは複数のカラムをインデックスから削 除します。

 [インデックス内のカラム] プライマリ・キー・インデックス 内のすべてのカラムをリストします。カラムをクリックして 選択するか、[Ctrl] キーを押しながら一度に複数のカラムを選 択します。

[証明書の保存]ダイアログ

このダイアログを使用して、スキーマに関連付けられている信用されたルート証明書を保存および表示します。

[証明書の保存]ダイアログには、次の項目があります。

[証明書のファイル名] ファイル名とパスを入力するか、[参照]を クリックしてファイル名を選択します。

[保存後に証明書を表示] このオプションを選択して、保存後に証明書を表示します。

[インデックスの設定]ダイアログ

このダイアログには、新しいインデックスを作成するためのオプションが用意されています。

[インデックスの設定]ダイアログには、次の項目があります。

[インデックス情報] インデックスに関する情報を提供します。

- [インデックス名]インデックスの名前を入力します。
- [ユニーク・インデックス][ユニーク・インデックス]を選 択して、値がユニークであり、NULLではないことを確認し ます。
- [ユニーク・キー][ユニーク・キー]を選択して、値がユ ニークであることを確認します。これらの値は NULL でもか まいません。

[インデックス付けされたカラム] インデックスのカラムを追加また は削除できます。

- [テーブル内のカラム] インデックスにないテーブル内のすべてのカラムをリストします。カラムをクリックして選択するか、[Ctrl] キーを押しながら一度に複数のカラムを選択します。
- [昇順]>>[昇順]>>]をクリックして、[テーブル内のカラム]
 リストから選択した1つまたは複数のカラムを昇順でイン
 デックスに追加します。
- [降順]>>[降順>>]をクリックして、[テーブル内のカラム]
 リストから選択した1つまたは複数のカラムを降順でイン
 デックスに追加します。
- <<[<<]をクリックして、[インデックス内のカラム]リスト から選択した1つまたは複数のカラムをインデックスから削 除します。
- [インデックス内のカラム] インデックス内のすべてのカラム をリストします。カラムをクリックして選択するか、[Ctrl] キーを押しながら一度に複数のカラムを選択します。

[インデックス] プロパティ・シート:[一般]タブ

[インデックス]プロパティ・シートの[一般]タブには、次の項目が あります。

[インデックス名] インデックスの名前。

[**テーブル**] インデックスが含まれるテーブルの名前。

[**ユニーク**] yes の場合、インデックスの値がユニークで、NULL で はないようにします。

[ユニーク・キー] yes の場合、インデックスの値はユニークですが、 NULL でもかまいません。

[このインデックスには次のカラムが含まれています。] インデック スに含まれるカラムとその方向をリストします。

|外部キーの作成|ダイアログ

このダイアログには、外部キーを作成するためのオプションが用意されています。

[外部キーの作成]ダイアログには、次の項目があります。

[外部キー名] 外部キーの名前を入力します。

[**プライマリ・テーブル**] データベースのテーブルのリストからプラ イマリ・テーブルを選択します。

[**有効なインデックス**] プライマリ・テーブルのインデックスのリス トからインデックスを選択します。

[コミット時にのみ値をチェック] このオプションを選択して、挿入時ではなくコミット時の値を確認します。

[**外部キーのカラムに NULL 値を許可**] 外部キーのカラムに NULL 値を許可します。

[マッピング] [マッピング]をクリックして、上記のテーブルから 選択したプライマリ・テーブル内のカラムを、後述のダイアログから 選択した現在のテーブル内のカラムにマッピングします。

[プライマリ・カラムのマッピング]ダイアログ

このダイアログには、プライマリ・テーブル内のカラムを現在のテー ブル内のカラムにマッピングするためのオプションが用意されていま す。

[プライマリ・カラムのマッピング]ダイアログには、次の項目があります。

[名前] プライマリ・カラムの名前。

[タイプ] プライマリ・カラムのデータ型。

[デフォルト] プライマリ・カラムのデフォルト値。

[方向] カラムを昇順でソートする場合は昇順を選択し、降順でソートする場合は降順を選択します。

[外部カラム] プライマリ・テーブルで選択したカラムをマッピング する現在のテーブル内のカラムをドロップダウン・リストから選択し ます。

[**プロパティ**] 選択した外部カラムのプロパティを表示します。

[外部キー] プロパティ・シート

[外部キー]プロパティ・シートにはタブが1つあり、そのタブには 次の項目があります。

[外部キー名] 外部キーの名前です。

[**テーブル**] 外部キーを持つテーブルです。

[参照先テーブル] 外部キーが参照するテーブルです。

[参照先インデックス] 外部キーが参照するインデックスです。

[コミット時にチェック] yes の場合、挿入時ではなくコミット時の 値を確認します。

[NULL **の使用**] yes の場合、外部キーのカラムに NULL 値を許可します。

[この外部キーには次のカラムが含まれています。] 外部キーのカラ ムと、プライマリ・テーブルでこれらのカラムがマッピングされるカ ラムをリストします。

[テーブル]プロパティ・シート

[テーブル]プロパティ・シートにはタブが1つあり、そのタブには 次の項目があります。

[テーブル] 参照元テーブルの名前。

[同期] 参照元テーブルの同期スキーム。[変更したローのみ]、[すべてのロー]、[同期しない]のいずれかです。

[**カラム**] 参照元テーブルのすべてのカラムのプライマリ・キーの名前、タイプ、内容をリストします。

[テーブル]プロパティ・シートには、[パブリケーション]ダイアロ グからアクセスします。

[パブリケーション]ダイアログ

このダイアログには、Ultra Light データベースで新しいパブリケー ションを作成するためのオプションが用意されています。パブリケー ションは、レプリケートするデータを記述するデータベース・オブ ジェクトです。

[パブリケーション]ダイアログには、次の項目があります。

[パブリケーション名] パブリケーションの名前を入力します。

[使用可能なテーブル] まだパブリケーションにないデータベース内 のテーブルをリストします。テーブルをクリックして選択するか、 [Ctrl] キーを押しながら一度に複数のテーブルを選択します。

>> [>>]をクリックして、[使用可能なテーブル]リストから選択さ れた1つまたは複数のテーブルをパブリケーションに追加します。

<< [<<]をクリックして、[パブリケーション内のテーブル]で選択 された1つまたは複数のテーブルをパブリケーションから削除しま す。

[パブリケーション内のテーブル] パブリケーション内のすべての テーブルをリストします。テーブルをクリックして選択するか、 [Ctrl] キーを押しながら一度に複数のテーブルを選択します。

[Mobile Link 同期] プロパティ・シート

[Mobile Link 同期] プロパティ・シートには、次に示すように複数の タブがあります。

[Mobile Link 同期]フォルダからプロパティ・シートを開いた場合、 テーブル設定を個別に作成しないかぎり、タブの設定はテーブルすべ てに適用されるデフォルトになります。

個々のテーブルからプロパティ・シートを開いた場合、設定はその テーブルだけに適用され、デフォルト設定が上書きされます。

このプロパティ・シートの設定を使用して統合テーブルの定義と同期 スクリプトを生成するには、プロパティ・シートを閉じて、 [ツール]ー[統合テーブルとスクリプトの生成]を選択します。

[Mobile Link 同期] プロパティ・シート: [方向] タブ

[Mobile Link 同期] プロパティ・シートの[方向] タブには、次の項目 があります。

[テーブルの同期の方向] このテーブルに生成されるスクリプトが完 全な双方向同期か、ダウンロード専用か、アップロード専用かを選択 します。

- [完全な同期(アップロードとダウンロード)] アップロード すると統合データベースが変更され、ダウンロードすると Ultra Light データベースのこのテーブルが変更されます。
- [ダウンロードのみ(変更のアップロードはエラー)]この テーブルの変更は統合データベースにアップロードされませんが、統合データベースの変更はUltra Light データベースの このテーブルにダウンロードされます。
- [アップロードのみ(統合データベースでの変更を無視)] こ のテーブルの変更は統合データベースにアップロードされま すが、統合データベースの変更はこのテーブルにダウンロー ドされません。

同期の詳細は、このプロパティ・シートの他のタブを設定して制御します。

このプロパティ・ このプロパティ・シートと同期スクリプトの設定の詳細については、 シートについて 「[Mobile Link 同期]プロパティ・シート」362 ページを参照してくだ さい。

[Mobile Link 同期] プロパティ・シート: [ローのインクリメント] タブ

[Mobile Link 同期] プロパティ・シートの[ローのインクリメント]タ ブには、次の項目があります。

[**ダウンロード・インクリメント**] このテーブルにダウンロードする ローを選択する方法を指定します。

- [スナップショット] スナップショットのダウンロードでは、 変更があったかどうかにかかわらず、同期のたびに統合デー タベースのテーブルのすべてのローが Ultra Light データベー スにダウンロードされます。
- [タイムスタンプ] タイムスタンプベースのダウンロードでは、前回のダウンロード以降に変更されたローだけがダウンロードされます。

これを選択する場合は、タイムスタンプの値がどこかに格納 されている必要があります。これらの値の格納にシャドー・ テーブルを使用することもできます。シャドー・テーブルを 使うチェックボックスをオンにした場合は、サフィックスが _updated のテーブルが統合データベースに作成されて、プラ イマリ・キーの値と、ローが最後に更新された日時を示すタ イムスタンプが格納されます。

シャドー・テーブルを使用しない場合は、テーブルにカラム が追加され、ローが最後に更新された日時がタイムスタンプ として格納されます。

 [シーケンス番号]シーケンスベースのダウンロードでは、カ ラムと式を指定する必要があります。各ローについて、指定 したカラムの値と入力した式の値が比較されます。カラムの 値が式より大きいローだけがダウンロードされます。 [カスタム SQL 式]上級ユーザは、ローごとに評価されるカ スタム SQL 式を指定できます。式が true のローだけがダウン ロードされます。

これら同期方法の詳細については、『Mobile Link 管理ガイド』>「同期の方法」を参照してください。

このプロパティ・ このプロパティ・シートと同期スクリプトの設定の詳細については、 シートについて 「[Mobile Link 同期]プロパティ・シート」362 ページを参照してくだ さい。

[SQL 式] ダイアログ

[SQL 式]ダイアログには上級ユーザ向けの領域があり、同期の定義 に使用するカスタム SQL 式を入力できます。このダイアログは [Mobile Link 同期]プロパティ・シートの複数のタブから表示できま す。

カスタム・ダウンロードの場合は、式が true に評価されるローだけが 返されます。

シーケンス番号のダウンロードの場合は、指定したカラムがこの式と 等しいローだけがダウンロードされます。

[Mobile Link 同期] プロパティ・シート: [ローの分割] タブ

[Mobile Link 同期] プロパティ・シートの[ローの分割] タブには、次の項目があります。

[ダウンロード・ローの分割] リモートの各 Ultra Light データベース に表示するローを指定します。

- 「すべてのリモート・データベースで同じデータ」Ultra Light の各データベースのロー・セットが同じになります。
- [1つのデータベースのみでダウンロードされた各ロー]この オプションを選択すると、ml_userというカラムが統合データ ベース・テーブルに追加されます。このカラムの値が Mobile Linkのユーザ名と一致するローだけがダウンロードされま す。

- [既存の関係テーブルを使用してローを分割]このオプション を選択すると、指定したカラムとテーブルが Mobile Link の ユーザ名と一致するローだけがダウンロードされます。
- [カスタム式に基づいて分割] 上級ユーザは、ダウンロードさ れるローを指定するテーブルと SOL 式を指定できます。

テーブルの分割の詳細については、『Mobile Link 管理ガイド』>「リ モート・データベース間でローを分割する」を参照してください。

このプロパティ・ このプロパティ・シートと同期スクリプトの設定の詳細については、 シートについて 「[Mobile Link 同期]プロパティ・シート」362 ページを参照してくだ さい。

[Mobile Link 同期] プロパティ・シート: [削除されたロー] タブ

[Mobile Link 同期] プロパティ・シートの[削除されたロー] タブに は、次の項目があります。

[削除されたローの処理] 統合データベースから削除されたローを管 理するオプションは複数あります。

- [削除されたローをこのテーブルにダウンロードしない] この テーブルからローを削除する処理が Ultra Light データベース にダウンロードされません。
- [リモート・テーブルをトランケートして再ロード] Ultra Light データベースのテーブル全体が削除され、現在、統合 データベースにあるすべてのローが(ローの分割に従って) 再入力されます。
- [削除されたローをダウンロードして、リモートからはローを 削除]この選択には2つのオプションがあります。
 - Ultra Light データベースで削除するローのプライマリ・ キーの値を格納するシャドー・テーブルを作成します。
 - inActive というカラムを統合データベースのテーブルに 追加します。このカラムには、ローに非アクティブの マークを付ける値が格納されます。

このオプションの欠点は、統合データベースを使用してい る他のアプリケーションが、テーブルからのクエリでロー が非アクティブかどうかを必ずチェックしなければならな いことです。

このプロパティ・ このプロパティ・シートと同期スクリプトの設定の詳細については、 シートについて 「[Mobile Link 同期]プロパティ・シート」362 ページを参照してくだ さい。

[Mobile Link 同期] プロパティ・シート: [競合] タブ

[Mobile Link 同期] プロパティ・シートの[競合] タブには、次の項目 があります。

[アップロード競合の処理] 競合は、統合データベースにローをアッ プロードしているときに発生します。異なるリモート・データベース で2人のユーザが同じローを修正した場合、Mobile Link 同期サーバ に2つめのローが到着したときに競合が検出されます。競合が起こる 可能性がある場合は、適切な値を計算するプロセスか、少なくとも競 合をログに記録するプロセスを定義してください。競合の詳細につい ては、『Mobile Link 管理ガイド』>「競合の解決」を参照してくださ い。

- デフォルト: [競合を発生させない] Ultra Light データベースのデータがテーブルの更新に使用されます。
- [テーブルの値を更新]競合解決の一般的な選択肢がドロップ ダウン・リストに表示されます。適切な選択は、更新する情 報のビジネス・ルールによって異なります。
- **このプロパティ・** このプロパティ・シートと同期スクリプトの設定の詳細については、 シートについて 「[Mobile Link 同期]プロパティ・シート」362 ページを参照してくだ さい。

[Mobile Link 同期] プロパティ・シート: [解決] タブ

[Mobile Link 同期] プロパティ・シートの[解決] タブには、次の項目 があります。

[以下のときに競合を解決] 競合の解決は、直ちに実行するか、テー ブルの変更がすべて完了したときに実行できます。さらに、中間値の 保存にテンポラリ・テーブルを使用するかどうかも選択できます。

このプロパティ・ このプロパティ・シートと同期スクリプトの設定の詳細については、 シートについて 「[Mobile Link 同期]プロパティ・シート」362 ページを参照してくだ さい。

[統合データベースと Mobile Link スクリプト の生成] ダイアログ

このダイアログでは、Adaptive Server Anywhere 統合テーブルを定義す る一連のテーブル定義と同期スクリプトを生成できます。同期スクリ プトは、各テーブルの [Mobile Link 同期]プロパティ・シートの設定 とデフォルト設定によって決まります。

ここで指定する設定は、データベースとスクリプトを初めて生成して いるか、既存の統合データベースを変更しているかによっても異なり ます。

このダイアログには、次の項目があります。

[設定] 生成のグローバルな設定を定義する一般設定。

- [Mobile Link スクリプトのバージョン] 同期スクリプトのス クリプト・バージョンを定義します。生成されたスクリプト を Ultra Light アプリケーションで使用するには、同期時にこ のバージョン名を指定する必要があります。
- [同期するパブリケーション]パブリケーションは1つまたは 複数指定できます。
- [競合ステータス・メッセージを ASA ウィンドウに出力] こ のオプションは開発中に使用すると便利です。
- [定義前にテーブルまたはプロシージャを削除する呼び出しを 発行]生成された SQL スクリプトを、これらのテーブルとプ ロシージャの以前のバージョンをすでに含んだデータベース に実行して、新しい定義で上書きする場合は、このチェッ ク・ボックスをオンにします。

[**生成する SQL**] 生成するオブジェクトを選択します。たとえば、すでにテーブル定義を生成している場合は、再生成する必要はありません。

[生成する SQL ファイル] 生成する SQL ファイルの名前を指定しま す。生成したら、Interactive SQL から Adaptive Server Anywhere のデー タベースに SQL ファイルを実行して、統合データベースを作成また は変更できます。

[スクリプトと統合データベースのテーブル定義の プレビュー]ダイアログ

このダイアログは、テーブル定義、スクリプト、プロシージャを生成 する前に検査する場合に使用します。検査するオブジェクトをフィル タするには、[設定]オプションを使用します。

スクリプトとテーブルの定義は [Mobile Link 同期] プロパティ・シートから定義します。詳細については、「[Mobile Link 同期] プロパティ・シート」362 ページを参照してください。

[Mobile Link のテーブル設定] ダイアログ

このダイアログは、各テーブルのデフォルトの Mobile Link 同期プロ パティを上書きする場合に使用します。このダイアログには、次の項 目があります。

[使用可能なテーブル] デフォルトの Mobile Link 同期プロパティを 使用しているデータベースのテーブルをすべてリストします。テーブ ルをクリックして選択するか、[Ctrl] キーを押しながら一度に複数の テーブルを選択します。

>> [>>]をクリックして、[使用可能なテーブル]リストから選択した1つまたは複数のテーブルを、Mobile Link が設定されたテーブルのリストに追加します。

<< [<<] をクリックして、[パブリケーション]リストから選択した1 つまたは複数のテーブルを、Mobile Link が設定されたテーブルのリ ストに追加します。

[Mobile Link 設定のあるテーブル] 個々の設定が定義されているか、 これから設定するテーブルをすべてリストします。テーブルをクリッ クして選択するか、[Ctrl] キーを押しながら一度に複数のテーブルを 選択します。

[Ultra Light データベースの作成] ダイアログ

このダイアログは、現在編集中のスキーマ・ファイルから Ultra Light の空のデータベースを作成する場合に使用します。通常、Ultra Light データベース・ファイルの拡張子は .udb です。Ultra Light Interactive SQL や Ultra Light コマンド・ライン・ユーティリティなどのユーティ リティは Ultra Light データベース・ファイルに実行します。このダイ アログと Ultra Light ユーティリティを組み合わせると、データベース の設計とテストに役立ちます。

このダイアログには、次の項目があります。

[データベースの型] 次のいずれかを選択します。

- [UNICODE (WinCE とデスクトップ)] データベース内の文字 列が Unicode 文字列として格納されます。このオプションは Windows CE データベースに使用します。Windows データベー スにも使用できます。
- [マルチバイト文字データベース(デスクトップ)] データ ベース内の文字列は、ASCII ベースの文字セットを使用して 格納されます。全角文字を使用する言語の場合は、Shift-JIS などの複数バイトの文字セットとして格納されます。文字 セットは、Windows オペレーティング・システムの設定に よって決まります。Windows データベースにもこの設定を使 用できます。
- [PalmOS データベース] Palm OS デバイスにエクスポートで きる pdb ファイルとしてデータベースが作成されます。

[初期データベース ID] デフォルトのグローバル・オートインクリメ ントが設定されたプライマリ・キーを使用している場合は、初期デー タベース ID を入力する必要があります。これは、それらのカラムの 値の開始点となります。

グローバル・オートインクリメント・カラムの詳細については、 『Mobile Link 管理ガイド』>「グローバル・オートインクリメントを 使用したユニークなプライマリ・キーの管理」を参照してください。

[Ultra Light データベース・ファイル] 作成するデータベースのファ イル名を入力します。 参照

- ◆ 『Ultra Light データベース・ユーザーズ・ガイド』> 「Ultra Light Interactive SQL ユーティリティ」
- ◆ 『Ultra Light データベース・ユーザーズ・ガイド』> 「Ultra Light ユーティリティ・リファレンス」

第11章 Ultra Light Interactive SQL のへルプ

この章の内容 この章では、Ultra Light Interactive SQL からアクセスできる各ダイア ログ・ボックスについて説明します。

[接続]ダイアログ

[接続]ダイアログには、次の項目があります。

[ファイル名] Ultra Light のデータベース・ファイル。

CE とデスクトップで作成されたデータベースの場合は、.udb ファイルです。Palm Computing Platform で作成された Ultra Light データベースの場合は、.pdb ファイルです。

[ユーザ ID] Ultra Light のユーザ ID。

Ultra Light データベースでユーザ認証が有効になっていない場合は、 このフィールドが無視されるので、空白にできます。

[パスワード] Ultra Light ユーザ ID に対応したパスワード。

Ultra Light データベースでユーザ認証が有効になっていない場合は、 このフィールドが無視されるので、空白にできます。

[暗号化キー] データベース・ファイルが暗号化されている場合は、 ファイルの暗号化に使用したキーを入力します。

[追加] その他の接続パラメータ。接続パラメータの全リストについては、『Ultra Light データベース・ユーザーズ・ガイド』>「接続パラメータ」を参照してください。

- ◆ 『Ultra Light データベース・ユーザーズ・ガイド』> 「Ultra Light のユーザ認証」
- ◆ 『Ultra Light データベース・ユーザーズ・ガイド』>「接続パ ラメータ」『Ultra Light データベース・ユーザーズ・ガイド』> 「Ultra Light のユーザ認証」

参照

[古い Ultra Light データベースの検出]ダイアログ

このダイアログには、次の項目があります。

- [データベースを最新のフォーマットにアップグレードする] このオプションを選択すると、データベース・ファイルが現在 のソフトウェア・バージョンのネイティブ・フォーマットに アップグレードされます。このアップグレードによって、古い バージョンの Ultra Light のデータベースを使用できなくなりま す。これには、古いバージョンのソフトウェアで開発されたア プリケーションも含みます。
- [読み込み専用でデータベースを開く] このオプションを選択 すると、Ultra Light のデータベースが読み取り専用モードで開き ます。データベースに加えた変更は、それをコミットした場合 でも、Ultra Light Interactive SQL を閉じるとすべて破棄されま す。

[コマンド履歴]ダイアログ

[コマンド履歴]ダイアログには、次の項目があります。

[SQL文] 以前のセクションでこのユーティリティから実行された SQL 文のリスト。

[テーブル名のルックアップ]ダイアログ

[テーブル名のルックアップ]ダイアログには、次の項目があります。

[テーブル・リスト] データベース内のテーブルのリスト。テーブル 内のカラムをリストにするには、テーブルを選択して [カラムを表示]をクリックします。テーブルの名前をメイン・ウィン

ドウの SQL 枠に貼り付けるには、テーブルを選択して [OK] をクリックします。

[オプション]ダイアログ

[オプション]ダイアログには、次の項目があります。

[NULL 値の代替文字] 結果枠に表示されて、結果セットの NULL 値 を表す文字列。

[**データのフェッチ**] カラムの最大の長さ(バイト数)を指定して、 これより長い値を切り捨てるとパフォーマンスを向上できます。

[オートコミット] 文ごとに COMMIT 文を自動的に実行するか、ア プリケーションの終了時のみに実行するかを選択します。アプリケー ションの終了時のみにコミットする場合は、明示的な COMMIT 文を 入力するかアプリケーションを終了するまで、データベースに加えた 変更は永続的なものではありません。

[プランの表示] クエリ・プランをグラフィカルに表示するか、テキ スト形式で表示するかを選択します。

テキスト・バージョンは解釈しにくいことがありますが、他のアプリ ケーションに貼り付ける場合に便利です。グラフィカル・バージョン の方が解釈が簡単です。

クエリ・プランの詳細については、『Ultra Light データベース・ユー ザーズ・ガイド』>「クエリの最適化」を参照してください。
索引

Α

Adaptive Server Anywhere $\exists \mathcal{V} \mathcal{V} - \mathcal{V} \cdot \mathcal{I} - \mathcal{V}$ ティリティ [オプション]ダイアログ 321 Adaptive Server Anywhere Console utility [dbconsole] オプションの設定 321 Adaptive Server Anywhere $\exists \mathcal{V} \mathcal{V} - \mathcal{N} \exists \mathcal{L}$ ティリティ [dbconsole] [接続]ダイアログの説明 1 Adaptive Server Anywhere $\exists \mathcal{V} \mathcal{V} - \mathcal{N} \cdot \exists -$ ティリティ [dbconsole] 設定 321 ユーザ設定 321 Adaptive Server Anywhere $\exists \mathcal{V} \mathcal{V} - \mathcal{V} \cdot \mathcal{I} - \mathcal{V}$ ティリティのヘルプ 319 Adaptive Server Anywhere ダイアログ・ボッ クス 156 Adaptive Server Anywhere $\mathcal{O} \land \mathcal{V} \mathcal{T}$ 31 ASTOP 接続パラメータ ODBC データ・ソースの設定 23 AutoStop 接続パラメータ ODBC データ・ソースの設定 23

С

[Carrier] プロパティ・シート 説明 231 [Carrier マッピングの追加]ウィザード 説明 257 [Certicom 暗号化オプション]ダイアログ 説明 30 CREATE EVENT 文 [スケジュールの作成]ダイアログ 169 CREATE TRIGGER 文 [トリガ条件の作成]ダイアログ 170

D

dbconsole ユーティリティ [オプション]ダイアログ 321 [接続]ダイアログの説明 1 dbisqlg.exe 説明 211 DB 領域 プロパティ・シート 52 [DB 領域の事前割り付け]ダイアログ 説明 180 [DB領域] プロパティ・シート 52 Delphi ODBC データ・ソースの設定 17 [Device Tracker ゲートウェイ] プロパティ・ シート 説明 233

Interactive SQL [エクスポート]ダイアログ 226 [オプション]ダイアログ 209 高速ランチャの設定 211 [接続]ダイアログの説明 1 設定 209 設定オプション 209 InteractiveSQL ダイアログ・ボックス 206 [ツール]メニュー 206 Interactive SQL ユーザ設定 209 Interactive SQL のヘルプ 203

J

JAR ファイル プロパティ・シート 67 [JAR ファイルの更新]ダイアログ 説明 190 [JAR ファイル]プロパティ・シート 67 Java クラス プロパティ・シート 68 [Java クラスの更新]ダイアログ 説明 191 [Java クラス]プロパティ・シート 68 [Java ソース]ダイアログ 説明 200

Μ

Microsoft Access ODBC データ・ソースの設定 17 Microsoft Visual Basic ODBC データ・ソースの設定 17 [Mobile Link サーバへの接続] ダイアログ 説明 272 [Mobile Link 同期サイト] プロパティ・シー F 137 [Mobile Link 同期定義] プロパティ・シート 137 [Mobile Link 同期テンプレート] プロパ ティ・シート 137 [Mobile Link 同期] プロパティ・シート Ultra Light Schema Painter 362 [解決]タブ 366 [競合] タブ 366 [削除されたロー]タブ 365 [方向]タブ 362 [ローのインクリメント]タブ 363 [ローの分割]タブ 364 Mobile Link のウィザード [Carrier マッピングの追加] 257 [Notifier の追加] 260 [ゲートウェイの追加] 259 [サービスの追加] 261

[接続スクリプトを追加] 258 説明 257 [通知設定のインポート] 268 [通知設定のエクスポート] 266 [テーブル・スクリプトを追加] 258 [同期テーブルの追加] 265 [バージョンを追加] 266 [ユーザの追加] 265 Mobile Link のダイアログ・ボックス 254 Mobile Link のプロパティ・シート 231 Mobile Link のヘルプ 説明 229 Mobile Link モニタ [Mobile Link サーバへの接続] 272 Mobile Link モニタのダイアログ・ボックス 271 Mobile Link モニタのプロパティ・シート 271 Mobile Link ユーザ 認証ダイアログ 256 プロパティ・シート 70 [Mobile Link ユーザ] プロパティ・シート 70

Ν

[Notifier の追加] ウィザード
 説明 260
 [Notifier] プロパティ・シート
 説明 237

0

```
[ODBC 設定]ダイアログ
[DBMLSync]タブ 13
ODBC 設定ダイアログ
[Login]タブ 20
[ODBC 設定]ダイアログ
[ODBC] タブ 16
[詳細]タブ 29
説明 12
```

[ネットワーク]タブ 25 ODBC データ・ソース [ODBC 設定]ダイアログ 12

Ρ

[PDB ファイルへのスキーマの保存] ダイア ログ Ultra Light Schema Painter 344

S

scjview.exe 説明 211 [SMTP ゲートウェイ] プロパティ・シート 説明 245 SQL Anywhere Studio マニュアル viii SOL Remote サブスクリプション プロパティ・シート 118 [SOL Remote サブスクリプション] プロパ ティ・シート 118 SQL 言語のリンク 327 [SOL 式] ダイアログ Ultra Light Schema Painter 364 [SQL 文] ウィンドウ枠 外観の設定 219 Sybase Central 高速ランチャの設定 211 [接続]ダイアログの説明 1 ダイアログの説明 156 プロパティ・シートの説明 32

Т

Transact-SQL クエリ・エディタでサポートなし 298

U

[UDP ゲートウェイ]プロパティ・シート 説明 248
[Ultra Light Schema Painter オプション]ダイ アログ Ultra Light Schema Painter 342
[Ultra Light データベースの作成]ダイアログ Ultra Light プロジェクト] プロパティ・シート 144
[Ultra Light プロジェクト]プロパティ・シー ト 144
[Ultra Light 文]プロパティ・シート 145

V

Visual Basic ODBC データ・ソースの設定 17

W

Web サービス プロパティ・シート 151 [Web サービス] プロパティ・シート 151 [Windows CE の SQL Remote 用メッセージ・ タイプ] ダイアログ 説明 193

あ

アーティクル プロパティ・シート 32 [アーティクル]プロパティ・シート 32 アイコン マニュアルで使用 xiii アイドル・タイムアウト ODBC データ・ソースの設定 26 [新しい Ultra Light スキーマ]ダイアログ Ultra Light Schema Painter 343 [新しいカラム]プロパティ・シート

Ultra Light Schema Painter 350 [一般] タブ (Ultra Light) 350 $[\mathcal{A} \lor \mathcal{F} \lor \mathcal{A}] \mathcal{A} \lor \mathcal{F}$ (Ultra Light) 351 [新しいテーブル]ダイアログ Ultra Light Schema Painter 349 [新しいメンバシップ]ダイアログ 説明 177 [新しいメンバ]ダイアログ 説明 177 暗号化 ODBC データ・ソースの設定 27 暗号化キー ODBC データ・ソースの設定 23 暗号化パスワード ODBC データ・ソースの設定 20

い

一意性制約 プロパティ・シート 146 [一意性制約]プロパティ・シート 146 [一般]タブ Interactive SQL [オプション]ダイアログ 209 [移動]ダイアログ 説明 277 イベント プロパティ・シート 54 [イベントのトリガ]ダイアログ 説明 188 [イベント]プロパティ・シート 54 インデックス プロパティ・シート 64 インデックス・コンサルタント 説明 201 [インデックスの設定]ダイアログ Ultra Light Schema Painter 355 [インデックス]プロパティ・シート 64 Ultra Light Schema Painter 356 [インポート/エクスポート]タブ Interactive SQL [オプション]ダイアログ 214

う

```
ウィザード
 [Carrier マッピングの追加] 257
 Mobile Link 257
 [Notifier の追加 ]
            260
 エクスポート 226
 [ゲートウェイの追加]
               259
 [サービスの追加] 261
 [接続スクリプトを追加]
                 258
 [通知設定のインポート] 268
 [通知設定のエクスポート] 266
 [テーブル・スクリプトを追加]
                     258
 [同期テーブルの追加] 265
 [バージョンを追加] 266
 [ユーザの追加] 265
[ウォッチの追加]ダイアログ
 説明 198
[ウォッチの編集]ダイアログ
 説明 276
[ウォッチ・マネージャ]ダイアログ
 説明 293
```

え

[エクスポート]ウィザード 説明 226 [エディタ]タブ Interactive SQL[オプション]ダイアログ 219

お

オートコミット ODBC データ・ソースの設定 18 オプション Adaptive Server Anywhere コンソール [dbconsole] ユーティリティ 321 Interactive SQL 209 [オプション] ダイアログ Adaptive Server Anywhere コンソール [dbconsole]・ユーティリティの設定 321 Adaptive Server Anywhere プラグインの設定 177 Interactive SQL の設定 209 Mobile Link モニタの設定 281 Ultra Light Interactive SQL の説明 378 オプションの設定 Adaptive Server Anywhere コンソール [dbconsole] ユーティリティ 321

か

カーソル ODBC データ・ソースの動作の記述 18 カーソルの再記述 ODBC データ・ソース 18 開始行 ODBC データ・ソースの設定 22 外部キー プロパティ・シート 57 [外部キーの作成]ダイアログ Ultra Light Schema Painter 357 [外部キー]プロパティ・シート Ultra Light Schema Painter 359 説明 57 外部ログイン プロパティ・シート 56 [外部ログイン]プロパティ・シート 56 活性 ODBC データ・ソースの設定 26 カラム プロパティ・シート 36 [カラムのパーミッション]ダイアログ 説明 167 [カラム]プロパティ・シート 36

き

記述 カーソルの動作 18 規則 表記 xi [共有バージョン]ダイアログ
 説明 254
 共用体
 クエリ・エディタでサポートなし 298

<

クエリ・エディタ 295 [GROUP BY] タブ 309 [HAVING] タブ 311 [INTO] タブ 307 [ORDER BY] タブ 312 [SQL] ウィンドウ枠 317 Transact-SQL のサポートなし 298 [WHERE] タブ 308 概要 296 [カラム]タブ 305 共用体のサポートなし 298 [結果]ウィンドウ枠 316 式エディタ 314 [ジョイン]タブ 302 ジョインのトラブルシューティング 304 制限事項 298 [テーブル]タブ 299 [クエリ・エディタ]タブ Interactive SQL $[\pi T \psi = \nu] \forall T = \nu 222$ [クラスタード・インデックスの設定]ダイ アログ 説明 184 グループ プロパティ・シート 62 [グループのオプション]ダイアログ 説明 175 [グループ]プロパティ・シート 62 [グローバル通知]プロパティ・シート 説明 236

け

[ゲートウェイの追加]ウィザード 説明 259 結果 Interactive SQL からのエクスポート 226 [結果]タブ Interactive SQL [オプション]ダイアログ 212 検索 カラム 208 テーブル 208 プロシージャ 207 検査制約 プロパティ・シート 35 [検査制約]プロパティ・シート 35

J

[更新のチェック]タブ Interactive SQL [オプション]ダイアログ 223 コンソール [dbconsole] ユーティリティ [オプ ション]ダイアログ 324 高速ランチャ Interactive SQL 211 Sybase Central 211 ポート番号の設定 212 コード・エディタ 外観の設定 219 [コマンド履歴]ダイアログ Ultra Light Interactive SQL の説明 376 コンソール・ユーティリティ [dbconsole] [オプション]ダイアログ 321 オプションの設定 321 [接続]ダイアログの説明 1 設定 321 ユーザ設定 321

さ

サーバ プロパティ・シート 111 [サーバ]プロパティ・シート 111 サーバ名 ODBC データ・ソースの設定 22 サービス

プロパティ・シート (Adaptive Server Anywhere) 114 プロパティ・シート (Mobile Link) 242 [サービス・グループの依存の追加]ダイア ログ 説明 162 [サービス・グループの設定]ダイアログ 説明 186 [サービスの依存の追加]ダイアログ 説明 162 [サービスの追加]ウィザード 説明 261 [サービス]プロパティ・シート Adaptive Server Anywhere 114 Mobile Link 242 サイト プロパティ・シート 137 サポート ニュースグループ xvi

し

式エディタ クエリ・エディタ 314 システム・トリガ プロパティ・シート 131 [システム・トリガ]プロパティ・シート 131 [証明書の保存]ダイアログ Ultra Light Schema Painter 354 [所有者別にオブジェクトをフィルタ]ダイ アログ 説明 174 [新規ウォッチ]ダイアログ 説明 278

す

[スキーマの展開]ダイアログ Ultra Light Schema Painter 345 [スクリプトのテスト・オプション]ダイア ログ 説明 255 [スクリプトのテスト]ダイアログ 説明 254 [スケジュールの作成]ダイアログ 説明 169 [スケジュールの編集]ダイアログ 説明 172

せ

[セッション]プロパティ・シート 説明 287 接続されたユーザ プロパティ・シート 41 [接続されたユーザ]プロパティ・シート 41 [接続スクリプトを追加]ウィザード 説明 258 [接続]ダイアログ [ID] タブ 2 Ultra Light Interactive SQL の説明 374 [詳細]タブ 8 接続ダイアログ 説明 1 [接続]ダイアログ [データベース]タブ 5 接続ビューワ 設定 322 接続名 ODBC データ・ソースの設定 29 設定 Adaptive Server Anywhere $\exists \mathcal{V} \mathcal{V} - \mathcal{W}$ [dbconsole] ユーティリティ 321 Interactive SOL 209 設定オプション Interactive SQL 209 [設定の変更]ダイアログ 説明 163

そ

ソフトウェア 更新のチェック 223

た

ダイアログ・ボックス Adaptive Server Anywhere 156 Adaptive Server Anywhere $\exists \mathcal{V} \mathcal{V} - \mathcal{W}$ [dbconsole]・ユーティリティのオプション 321 Adaptive Server Anywhere プラグインのオプ ション 177 [Certicom 暗号化オプション] 30 [DB領域の事前割り付け] 180 InteractiveSOL 206 Interactive SQL [オプション] 209 [JAR ファイルの更新] 190 [Java クラスの更新] 191 [Java ソース] 200 Mobile Link 254 [Mobile Link サーバへの接続] 272 Mobile Link モニタ 271, 281 [ODBC 設定] ダイアログ 11 ダイアログ・ボックス Ultra Light Interactive SQL コマンド履歴 376 Ultra Light Interactive SQL 接続 374 Ultra Light Interactive SQL のオプション 378 Ultra Light Interactive SQL ルックアップ・テー ブル 377 [Windows CE の SQL Remote 用メッセージ・タ イプ1 193 [新しいメンバ] 177 [新しいメンバシップ] 177 [移動] 277 [イベントのトリガ] 188 [ウォッチの追加] 198 [ウォッチの編集] 276 [ウォッチ・マネージャ] 293 [カラムのパーミッション] 167 共有バージョン 254

[クラスタード・インデックスの設定] 184 [グループのオプション] 175 [サービス・グループの依存の追加] 162 [サービス・グループの設定] 186 [サービスの依存の追加] 162 [所有者別にオブジェクトをフィルタ] 174 [新規ウォッチ] 278 スクリプトのテスト 254 スクリプトのテスト・オプション 255 [スケジュールの作成] 169 [スケジュールの編集] 172 [接続]ダイアログ 1.11 設定の変更 163 説明 156 データのアンロード 189 [データベースのオプション] 171 [データベースの開始] 187 [データベースへのエクスポート] 279 [テーブル名のルックアップ] 208 デバッガ 198 [統合ユーザのオプション] 167 [統合ユーザの設定] 184 [トリガ条件の作成] 170 [トリガ条件の編集] 174 [パーミッション付与] 175 [パブリッシャのオプション] 180 [パブリッシャの設定] 186 [プライマリ・キーの設定] 185 [プラグインの環境設定] 156 [ブレークポイント] 198 ブレークポイントの編集または追加 199 [プロシージャ名のルックアップ] 207 [ユーザのオプション] 191 ユーザの認証 256 [ユーザを統合ユーザに変更] 164 [ユーザをリモート・ユーザに変更]ダイアロ グ 165 [リモート・ユーザのオプション] 182

っ

[通知設定のインポート]ウィザード
 説明 268
 [通知設定のエクスポート]ウィザード
 説明 266
 [ツール]メニュー
 InteractiveSQL 206

τ

定義 プロパティ・シート 137 データ・ソース [ODBC 設定]ダイアログ 12 データ・ソースの説明 ODBC データ・ソースの設定 16 データ・ソース名 ODBC データ・ソースの設定 16 [データのアンロード]ダイアログ 説明 189 データベース プロパティ・シート 46 [データベース・スキーマ]プロパティ・ シート Ultra Light Schema Painter 346 [一般]タブ (Ultra Light) 346 [証明]タブ (Ultra Light) 346 [データベースのオプション]ダイアログ 説明 171 [データベースの開始]ダイアログ 説明 187 データベース・ファイル ODBC データ・ソースの設定 23 データベース・プロパティ・エディタ Ultra Light Schema Painter 348 [データベース]プロパティ・シート 46 データベース・プロパティ・シート 説明(ML プラグイン) 233 [データベースへのエクスポート]ダイアロ グ 説明 279

データベース名 ODBC データ・ソースの設定 23 テーブル プロパティ・シート 132 [テーブル・スクリプトを追加]ウィザード 説明 258 [テーブル]プロパティ・シート 132 Ultra Light Schema Painter 360 [テーブル名のルックアップ]ダイアログ Ultra Light Interactive SQL の説明 377 説明 208 テクニカル・サポート ニュースグループ xvi デバッガのヘルプ 198 テンプレート プロパティ・シート 137

と

同期サイト プロパティ・シート 137 [同期サイト]プロパティ・シート 137 同期サブスクリプション プロパティ・シート 120 [同期サブスクリプション]プロパティ・ シート 120 同期定義 プロパティ・シート 137 [同期定義]プロパティ・シート 137 [同期テーブルの追加]ウィザード 説明 265 同期テンプレート プロパティ・シート 137 [同期テンプレート]プロパティ・シート 137 [同期]プロパティ・シート 説明 288 統計情報 プロパティ・シート 119 [統計情報]プロパティ・シート 119 統合化ログイン ODBC データ・ソースの設定 20

プロパティ・シート 67 [統合化ログイン]プロパティ・シート 67 統合ユーザ プロパティ・シート 42 [統合ユーザのオプション]ダイアログ 説明 167 「統合ユーザの設定」ダイアログ 説明 184 [統合ユーザ]プロパティ・シート 42 独立性レベル ODBC データ・ソースの設定 16 ドメイン プロパティ・シート 52 [ドメイン]プロパティ・シート 52 ドライバに起因するエラー ODBC データ・ソースの設定 18 トラブルシューティング クエリ・エディタの実行速度の遅れ 299 トリガ [トリガ条件の作成]ダイアログ 170 プロパティ・シート 143 トリガ条件 [トリガ条件の作成]ダイアログ 170 [トリガ条件の作成]ダイアログ 説明 170 [トリガ条件の編集]ダイアログ 説明 174 [トリガ]プロパティ・シート 143

に ニュースグループ

テクニカル・サポート xvi

ね

ネットワーク・プロトコル ODBC データ・ソースの設定 25

は

バージョン プロパティ・シート 252 [バージョン]プロパティ・シート 252 [バージョンを追加]ウィザード 説明 266 [パーミッション付与]ダイアログ 説明 175 パスワード ODBC データ・ソースの設定 20 バッファ・サイズ ODBC データ・ソースの設定 26 パブリケーション プロパティ・シート 87 [パブリケーション]ダイアログ Ultra Light Schema Painter 361 [パブリケーション]プロパティ・シート 87 パブリッシャ プロパティ・シート 101 [パブリッシャのオプション]ダイアログ 説明 180 [パブリッシャの設定]ダイアログ 説明 186 [パブリッシャ]プロパティ・シート 101

ひ

ビュー プロパティ・シート 150 [ビュー]プロパティ・シート 150 表記 規則 xi

ふ

ファンクション プロパティ・シート 60 [ファンクション]プロパティ・シート 60 フィードバック

提供 xvi マニュアル xvi フェッチ・オペレーション 警告の非表示 17 複数のレコード・フェッチ ODBC データ・ソースの設定 29 [プライマリ・カラムのマッピング]ダイア ログ Ultra Light Schema Painter 358 [プライマリ・キーの設定]ダイアログ Ultra Light Schema Painter 352 説明 185 [プラグインの環境設定]ダイアログ 説明 156 [プラン]タブ Interactive SQL [オプション]ダイアログ 217 [ブレークポイント]ダイアログ 説明 198 [ブレークポイントの編集]/[新しいブ レークポイント]ダイアログ 説明 199 プロキシ・テーブル プロパティ・シート 84 [プロキシ・テーブル]プロパティ・シート 84 プロシージャ Interactive SQL 内の検索 207 プロパティ・シート 82 [プロシージャ]プロパティ・シート 82 [プロシージャ名のルックアップ]ダイアロ グ 説明 207 プロジェクト プロパティ・シート 144 プロパティ・シート Adaptive Server Anywhere 32 Adaptive Server Anywhere サービス 114 Carrier 231 DB 領域 52 JARファイル 67 Java クラス 68 Mobile Link 231 Mobile Link サービス 242

Mobile Link 同期サイト 137 Mobile Link 同期定義 137 Mobile Link 同期テンプレート 137 Mobile Link モニタ 271 Mobile Link ユーザ 70 Notifier 237 SMTP ゲートウェイ 245 SOL Remote サブスクリプション 118 UDP ゲートウェイ 248 Ultra Light プロジェクト 144 Ultra Light 文 145 Web サービス 151 アーティクル 32 一意性制約 146 イベント 54 インデックス 64 外部キー 57 外部ログイン 56 概要 32 カラム 36 グループ 62 グローバル通知 236 **検査制約** 35 サーバ 111 サイト 137 システム・トリガ 131 [セッション] 287 接続されたユーザ 41 定義 137 データベース 46.233 テーブル 132 テンプレート 137 同期 288 同期サブスクリプション 120 統計情報 119 統合化ログイン 67 統合ユーザ 42 ドメイン 52 トリガ 143 バージョン 252 パブリケーション 87 パブリッシャ 101

ビュー 150 ファンクション 60 プロキシ・テーブル 84 プロシージャ 82 メッセージ・タイプ 69 ユーザ (Adaptive Server Anywhere) 147 ユーザ (Mobile Link) 251 リモート・サーバ 106 リモート・プロシージャ 104 リモート・ユーザ 107 プロパティ・ビューワ 設定 323 プロパティ・シート Device Tracker ゲートウェイ 233

ほ

ポート番号 高速ランチャ 212

ま

マニュアル SQL Anywhere Studio viii

め

メッセージ・タイプ プロパティ・シート 69 [メッセージ・タイプ]プロパティ・シート 69 [メッセージ]タブ Interactive SQL [オプション]ダイアログ 216 メッセージ・ビューワ 設定 322

Þ

ユーザ

プロパティ・シート (Adaptive Server Anywhere) 147 プロパティ・シート (Mobile Link) 251 ユーザ ID ODBC データ・ソースの設定 20 ユーザ・インタフェース ダイアログ・ボックス 156 プロパティ・シート 32 ユーザ設定 Adaptive Server Anywhere $\exists \gamma \gamma \neg \nu$ [dbconsole] ユーティリティ 321 Interactive SQL 209 [ユーザのオプション]ダイアログ 説明 191 [ユーザの追加]ウィザード 説明 265 [ユーザの認証]ダイアログ 説明 256 [ユーザ]プロパティ・シート Adaptive Server Anywhere 147 Mobile Link 251 [ユーザを統合ユーザに変更]ダイアログ 説明 164 [ユーザをリモート・ユーザに変更]ダイア ログ 説明 165

り